

市政に関する世論調査
結果報告書

— 第55回 令和4年度 —

宇都宮市

目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 3 -
4.	回収結果	- 4 -
5.	標本誤差	- 5 -
6.	調査報告書の見方	- 5 -
II	調査回答者の属性	- 7 -
III	調査結果のあらまし	- 11 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 11 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 11 -
3.	健康づくりについて	- 12 -
4.	「カスタマーハラスメント」の認知度について	- 12 -
5.	福祉活動への参加について	- 12 -
6.	生物多様性について	- 13 -
7.	宇都宮市の景観について	- 13 -
8.	うつのみや産の農産物について	- 13 -
9.	まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について	- 14 -
10.	救急車の利用について	- 14 -
11.	上下水道事業について	- 15 -
12.	まちづくり活動への意識について	- 15 -
13.	資源とごみの分別について	- 15 -
14.	住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について	- 16 -
15.	「大谷石文化」の日本遺産認定について	- 16 -
16.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 16 -
17.	いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について	- 17 -
18.	多文化共生の認知度について	- 17 -
19.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 17 -
20.	「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」について	- 18 -
21.	「もったいない運動」について	- 18 -
22.	男女共同参画について	- 19 -
23.	福祉のまちづくりについて	- 19 -
24.	防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 19 -
IV	第55回市政に関する世論調査の結果	- 21 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 21 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 30 -
3.	健康づくりについて	- 69 -

4.	「カスタマーハラスメント」の認知度について.....	- 75 -
5.	福祉活動への参加について.....	- 77 -
6.	生物多様性について.....	- 83 -
7.	宇都宮市の景観について.....	- 89 -
8.	うつのみや産の農産物について.....	- 102 -
9.	まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について.....	- 106 -
10.	救急車の利用について.....	- 122 -
11.	上下水道事業について.....	- 128 -
12.	まちづくり活動への意識について.....	- 132 -
13.	資源とごみの分別について.....	- 139 -
14.	住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について.....	- 152 -
15.	「大谷石文化」の日本遺産認定について.....	- 158 -
16.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について.....	- 162 -
17.	いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について.....	- 174 -
18.	多文化共生の認知度について.....	- 183 -
19.	結婚・出産・子育てに関する意識について.....	- 190 -
20.	「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」について.....	- 198 -
21.	「もったいない運動」について.....	- 206 -
22.	男女共同参画について.....	- 214 -
23.	福祉のまちづくりについて.....	- 230 -
24.	防犯・交通安全に関する意識・状況について.....	- 234 -
V	調査結果の考察.....	- 241 -
VI	宇都宮市の取組についての意識調査の結果.....	- 255 -
1.	あなたのことについて.....	- 255 -
2.	現在の宇都宮市について.....	- 259 -
3.	各施策についての重要度.....	- 265 -
4.	各施策についての満足度.....	- 276 -

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別，年齢，職業，家族構成，居住年数，居住地域，居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い，好きな理由，嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況，「広報うつのみや」の情報の入手方法，入手していない理由，「広報うつのみや」で読んでいる記事，「広報うつのみや」に関する感想，取り上げてほしい話題・情報，市のホームページを見るための主な手段，ホームページで知りたい情報はどこから探すか，ホームページで知りたい情報は探しやすいか，ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報，市政情報をどんな手段で知りたいか
健康づくり	健康面からの生活習慣，相談できるかかりつけの歯科医院，主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数
カスタマーハラスメント	「カスタマーハラスメント」の認知度
福祉活動への参加	参加してみたい福祉活動，地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うこと
生物多様性	自然環境について関心があるか，「生物多様性」の認知度，外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか，「宇都宮らしい景観」とは何か，良好な都市景観の形成に必要なこと，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象，ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点
うつのみや産の農産物	「うつのみや産」の農産物の購入意欲，宇都宮の農業を大切にしたいと思うか
まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上	「八幡山公園」の利用頻度，「八幡山公園」の利用目的，「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設，「宇都宮城址公園」の利用頻度，「宇都宮城址公園」の利用目的，「宇都宮城址公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設
救急車の利用	救急受診アプリケーション「Q助」の認知度，「救急電話相談（大人用#7111，子ども用#8000）」の認知度，救急電話相談の相談時間の認知度
上下水道事業	上下水道サービスの満足度，上下水道局の広報紙「私たちのくらしと水」を読む頻度
まちづくり活動への意識	まちづくり活動の参加状況，参加中または興味があるまちづくり活動，まちづくり活動に参加したいと思わない，または参加できない理由
資源とごみの分別	「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況，「プラスチック製容器包装」を分別しない理由，資源化できる紙の排出時の分別状況，資源化できる紙を分別しない理由，ごみと資源物の分別を推進するために必要なこと，ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組

住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況，設置している住宅用火災警報器の経過年数，住宅用火災警報器等の「点検」の有無
大谷石文化の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度，貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度，貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度，貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか，設置希望・既設置の理由，設置したくない理由
いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会	栃木県で国体が開催されることの認知度，国体開催情報の入手手段，とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向，国体を盛り上げるために重要だと思うこと
多文化共生の認知度	多文化共生の認知度，外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無，多文化共生の推進にあたり大切なこと
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか，結婚するつもりがあるか，結婚している場合，全部で何人のお子さんを持ちたいか，結婚を予定している場合，子どもは何人ほしいか
SDGs（エス・ディー・ジーズ）	SDGsについての認知度，SDGsにつながる行動の中で，日頃から取り組んでいるもの，SDGsのゴールの中で興味・関心のある分野
もったいない運動	「もったいない運動」の認知度，「もったいない運動」を知った経緯，日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間，社会的な活動の実施状況，配偶者からの暴力を受けた経験，LGBT（エルジービーティー）の認知度
福祉のまちづくり	保健福祉サービスに関する情報提供の満足度，福祉のまちづくりについての関心
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか，自転車保険の加入状況，自転車乗車用のヘルメットの所持及び着用状況

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 4 年 8 月 3 日～9 月 12 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,318	48.3%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	34	5	14.7%	4	11.8%	9	26.5%
	女性	42	8	19.0%	3	7.1%	11	26.2%
	計	76	13	17.1%	7	9.2%	20	26.3%
20歳代	男性	249	24	9.6%	41	16.5%	65	26.1%
	女性	209	43	20.6%	21	10.0%	64	30.6%
	計	458	67	14.6%	62	13.5%	129	28.4%
30歳代	男性	357	43	12.0%	75	21.0%	118	33.1%
	女性	303	84	27.7%	53	17.5%	137	45.2%
	計	660	127	19.2%	128	19.4%	255	38.6%
40歳代	男性	529	95	18.0%	103	19.5%	198	37.4%
	女性	463	139	30.0%	90	19.4%	229	49.5%
	計	992	234	23.8%	193	19.5%	427	43.0%
50歳代	男性	465	109	23.4%	72	15.5%	181	38.9%
	女性	426	180	42.3%	70	16.4%	250	58.7%
	計	891	289	32.4%	142	15.9%	431	48.4%
60歳代	男性	403	152	37.7%	47	11.7%	199	49.4%
	女性	404	241	59.7%	25	6.2%	266	65.8%
	計	807	393	48.7%	72	8.9%	465	57.6%
70歳以上	男性	374	197	52.7%	14	3.7%	211	56.4%
	女性	542	345	63.7%	6	1.1%	351	64.8%
	計	916	542	59.2%	20	2.2%	562	61.4%
年代不明	男性	-	0	-	0	-	0	-
	女性	-	2	-	0	-	2	-
	不明	-	21	-	0	-	21	-
	計	-	23	-	0	-	23	-
その他	その他	-	3	-	3	-	6	-
全体	男性	2,411	625	25.9%	356	14.8%	981	40.7%
	女性	2,389	1,042	43.6%	268	11.2%	1,310	54.8%
	その他	-	3	-	3	-	6	-
	不明	-	21	-	0	-	21	-
合計		4,800	1,691	35.2%	627	13.1%	2,318	48.3%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表される標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,318	±1.22%	±1.62%	±1.86%	±1.99%	±2.03%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.44%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,318で宇都宮市が「好き」との答えが45.8%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも45.8%±2.03%以内(43.77%~47.83%)である」と見ることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
- n値が少ない属性は、記述に含まれない場合がある。
- 世論調査の結果のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。

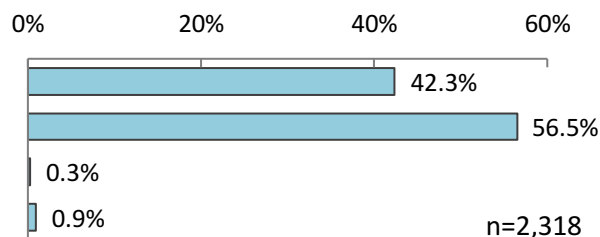
<MEMO>

Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

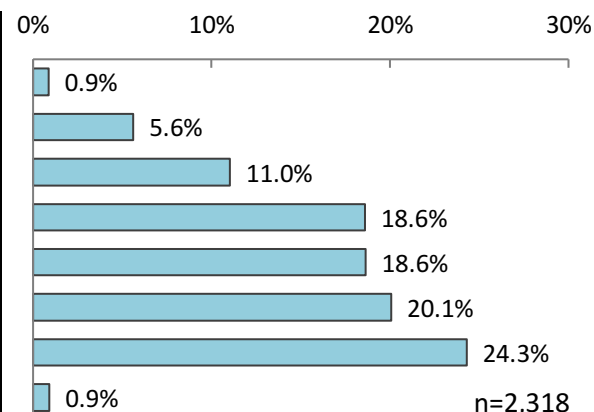
F 1 【性】 あなたの性別をお答えください。

	基 数	構成比
1 男	981	42.3%
2 女	1,310	56.5%
3 その他 (無回答)	6 21	0.3% 0.9%
合 計	2,318	100.0%



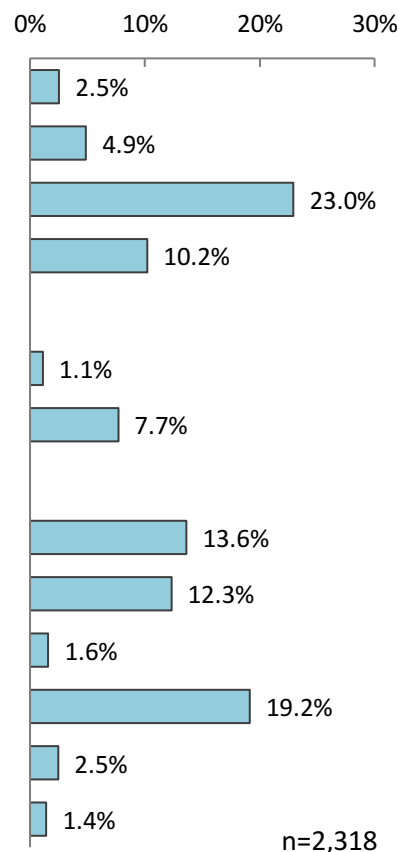
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。

	基 数	構成比
1 10歳代	20	0.9%
2 20歳代	130	5.6%
3 30歳代	256	11.0%
4 40歳代	431	18.6%
5 50歳代	432	18.6%
6 60歳代	465	20.1%
7 70歳以上	563	24.3%
(無回答)	21	0.9%
合 計	2,318	100.0%



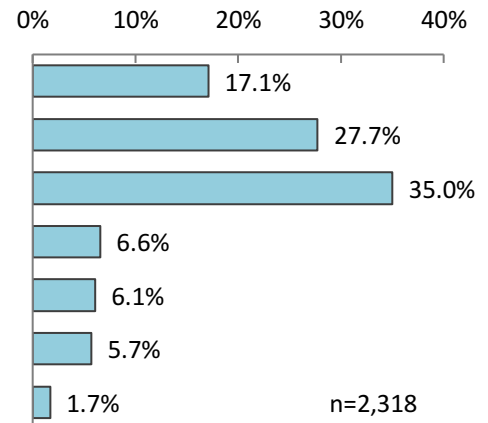
F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。

	基 数	構成比
1 専門職 (医師、弁護士、大学教授、僧侶など)	59	2.5%
2 管理職 (官公庁や事業所の重役、部課長など)	113	4.9%
3 事務・技術職 (一般事務員、公務員、技師、保育士、看護師など)	532	23.0%
4 販売・生産・労務職 (店員、工員、職人、運転手、作業員など)	237	10.2%
勤め人 (計)	941	40.6%
5 農林水産業従事者	26	1.1%
6 自営業・サービス業従事者	178	7.7%
自営業 (計)	204	8.8%
7 家事に専念している主婦、主夫	316	13.6%
8 パート従事者	286	12.3%
9 学生	37	1.6%
10 無職	444	19.2%
11 その他	57	2.5%
(無回答)	33	1.4%
合 計	2,318	100.0%



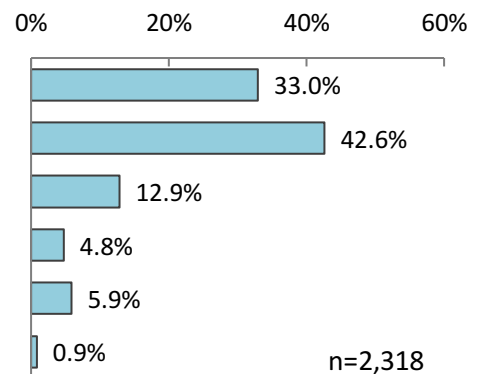
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。

	基 数	構成比
1 ひとり暮らし（単身世帯）	396	17.1%
2 夫婦のみ（一世代世帯）	643	27.7%
3 親と未婚の子ども（核家族）	812	35.0%
4 親と子ども夫婦（二世帯世帯）	153	6.6%
5 親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）	141	6.1%
6 その他	133	5.7%
（無回答）	40	1.7%
合 計	2,318	100.0%



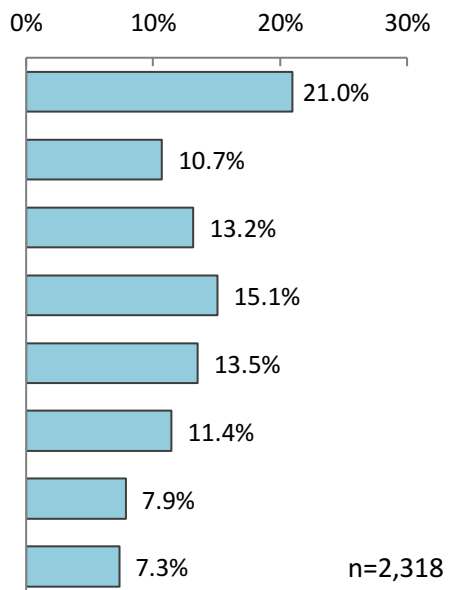
F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。

	基 数	構成比
1 出生時から	764	33.0%
2 20年以上	988	42.6%
3 10年以上～20年未満	298	12.9%
4 5年以上～10年未満	111	4.8%
5 5年未満	137	5.9%
（無回答）	20	0.9%
合 計	2,318	100.0%



F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。

	地域の説明	基 数	構成比
1 本庁（都心）	都心※1	486	21.0%
2 本庁（周辺）	周辺※2	248	10.7%
3 東部地域	平石地区, 清原地区, 瑞穂野地区	305	13.2%
4 西部地域	城山地区, 姿川地区	349	15.1%
5 南部地域	横川地区, 雀宮地区	313	13.5%
6 北部地域	豊郷地区, 国本地区, 富屋地区, 篠井地区	265	11.4%
7 上河内・河内地域	上河内地区, 河内地区	182	7.9%
（無回答）		170	7.3%
合 計		2,318	100.0%

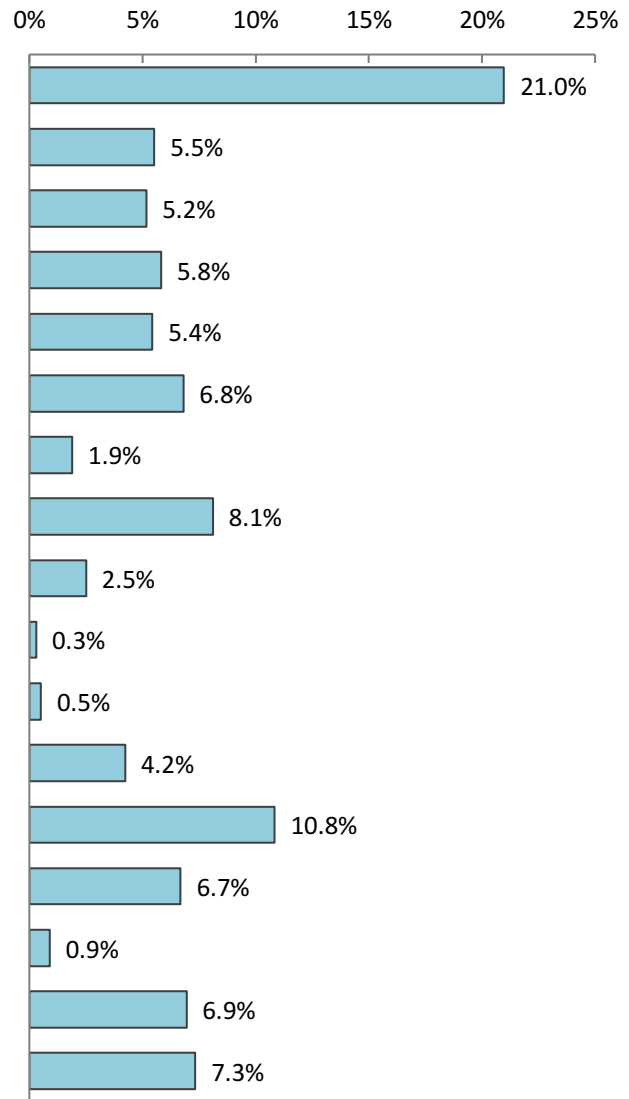


※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】

	基 数	構 成 比
1 本庁	486	21.0%
2 宝木	128	5.5%
3 陽南	120	5.2%
4 平石	135	5.8%
5 清原	126	5.4%
6 横川	158	6.8%
7 瑞穂野	44	1.9%
8 豊郷	188	8.1%
9 国本	58	2.5%
10 富屋	7	0.3%
11 篠井	12	0.5%
12 城山	98	4.2%
13 姿川	251	10.8%
14 雀宮	155	6.7%
15 上河内	21	0.9%
16 河内	161	6.9%
(無回答)	170	7.3%
合 計	2,318	100.0%



n=2,318

<MEMO>

Ⅲ 調査結果のあらまし

III 調査結果のあらまし

第 55 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が約5割で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が3割半ばで最も高く、次いで「街に活気がないところ」「交通渋滞の多さ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は、「広報うつのみや」が8割強で最も高く、次いで「インターネット（宇都宮市ホームページ）」「暮らしの便利帳」と続いている。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が約6割で最も高く、「手に入れていない」は約2割であった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約5割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が約7割で最も高く、次いで「各施設の催し物」「特集」「情報カレンダー」「政策特集（広報うつのみやプラス）」「LRT」と続いている。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

市政、スポーツ、飲食、文化財等の話題に関する情報を求める声があった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が約4割であった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「キーワード検索」が5割半ばであった。

(8) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい（計）】が7割弱であった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

医療情報、市民サークル活動、緊急情報の充実や情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が約6割であった。

3. 健康づくりについて

(1) 健康面からの生活習慣

健康面からの生活習慣については、「良いと思う」と「まあ良いと思う」を合わせた【良いと思う（計）】が5割強であった。

(2) 相談できるかかりつけの歯科医院

相談できるかかりつけの歯科医院については、「ある」が7割半ばであった。

(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数については、「ほぼ毎日」が5割半ばであった。

4. 「カスタマーハラスメント」の認知度について

(1) 「カスタマーハラスメント」の認知度

「カスタマーハラスメント」の認知度については、「言葉も内容も知っている」と「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた【知っている（計）】が約7割であった。

5. 福祉活動への参加について

(1) 参加してみたい福祉活動

参加してみたい福祉活動については、「参加してみようと思わない」「ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための『声かけ』」「ゴミ出しなどの日常生活のちょっとした手伝い」が2割半ば、次いで「子どもの通学時の『見守り活動』」が2割強と続いている。

(2) 地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うこと

地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うことについては、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」が約4割で最も高く、次いで「地域での福祉活動の重要性の周知」が3割強と続いている。

6. 生物多様性について

(1) 自然環境について関心があるか

自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が約8割であった。

(2) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が4割半ばであった。

(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が8割半ばであった。

7. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった（計）】が5割半ばであった。一方、「変わらない」は約3割であった。

(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割半ばで最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が3割弱と続いている。

(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」、「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」が2割半ばと続いている。

(4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強であった。

(5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が約5割で最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」が2割弱と続いている。

8. うつのみや産の農産物について

(1) 「うつのみや産」の農産物の購入意欲

「うつのみや産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ばであった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割強であった。

9. まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について

(1) 「八幡山公園」の利用頻度

八幡山公園の利用頻度については、「まったく利用しない」が約7割で最も高く、次いで「年に数回程度」が約3割と続いている。

(2) 「八幡山公園」の利用目的

八幡山公園へ出かける目的については、「花や緑、自然を楽しむ」が5割半ばで最も高く、次いで「子どもを遊ばせる」が約4割と続いている。

(3) 「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

八幡山公園の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が約4割で最も高く、次いで「バーベキュー、キャンプ等を行うアウトドアスペース」が2割半ばと続いている。

(4) 「宇都宮城址公園」の利用頻度

宇都宮城址公園の利用頻度については、「まったく利用しない」が7割強で最も高く、次いで「年に数回程度」が2割半ばと続いている。

(5) 「宇都宮城址公園」の利用目的

宇都宮城址公園へ出かける目的については、「散歩」が4割半ばで最も高く、次いで「集会やイベントへの参加」が4割弱と続いている。

(6) 「宇都宮城址公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

宇都宮城址公園の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が3割半ばで最も高く、次いで「今のままでよい」が2割強と続いている。

10. 救急車の利用について

(1) 救急受診アプリケーション「Q助」の認知度

救急受診アプリケーション「Q助」の認知度については、「知らない」が約9割であった。

(2) 「救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）」の認知度

救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）の認知度については、「知らない」が7割半ばであった。

(3) 救急電話相談の相談時間の認知度

救急電話相談の相談時間の認知度については、「知らない」が9割強であった。

1 1. 上下水道事業について

(1) 上下水道サービスの満足度

上下水道サービスの満足度については、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた【満足している(計)】が6割半ばであった。一方、「わからない」は2割弱であった。

(2) 上下水道局の広報紙「私たちの暮らしと水」を読む頻度

上下水道局の広報紙を読む頻度については、「いつも読んでいる」と「たまに読んでいる」を合わせた【読んでいる(計)】が約4割あった。一方「発行していることを知らない」が2割半ばであった。

1 2. まちづくり活動への意識について

(1) まちづくり活動の参加状況

まちづくり活動の参加状況については、「現在、参加している」が2割半ば、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」を合わせた【参加したい(計)】が約3割であった。

(2) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の環境や自然等を守るための活動」が2割半ばで最も高く、次いで「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が2割強で続いている。

(3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が約3割であった。

1 3. 資源とごみの分別について

(1) 「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況

「プラスチック製容器包装」の排出時の分別については、「分別している」が8割強で最も高く、次いで「時々分別している」が約1割と続いている。

(2) 「プラスチック製容器包装」を分別しない理由

「プラスチック製容器包装」を分別しない理由については、「手間がかかるため」が5割半ばで最も高く、次いで「分別する量が少ない」が約3割と続いている。

(3) 資源化できる紙の排出時の分別状況

資源化できる紙の排出時の分別状況については、「分別している」が7割半ばで最も高く、次いで「分別していない」が1割半ばと続いている。

(4) 資源化できる紙を分別しない理由

資源化できる紙を分別しない理由については、「手間がかかるため」と「分別する量が少ない」が約4割で最も高く、次いで「分別収集していることを知らなかった」が2割半ばと続いている。

(5) ごみと資源物の分別を推進するために必要なこと

ごみと資源物の分別を推進するために必要なことについては、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」が7割強で最も高く、次いで「分別する必要性や効果などの情報発信」が5割半ばと続いている。

(6) ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組

ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組については、「自治会の回覧板」が約5割で最も高く、次いで「学校・職場での教育」が4割強と続いている。

14. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している」が6割強で最も高く、次いで「どちらも設置していない」が2割強、「自動火災報知設備を設置している」が1割強であった。

(2) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「10年経過した」が約3割で最も高く、次いで「10年経過していない（設置から未経過）」が約2割、「10年経過していない（交換済みのため）」が2割弱であった。

(3) 住宅用火災警報器等の点検の有無

住宅用火災警報器等の「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が約4割で最も高く、次いで「定期的（半年に一度程度）に点検を行っている（業者による点検も含む）」「点検方法を知らない」が2割強であった。

15. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度については、「知らない」が6割弱であった。一方、「知っている」は4割強であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が7割弱であった。

16. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が3割半ばで最も高く、次いで「まったく知らない」が3割強であった。

(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が約7割であった。

(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度については、「知らない」が6割弱であった。

(4) 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか

雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が5割強で最も高く、次いで「設置したい」が2割強、「設置したくない」が2割弱と続いている。

(5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」「水の節約になるため」がいずれも5割半ば、次いで「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が5割弱と続いている。

(6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割半ばで最も高く、次いで「自己負担があるため」が2割半ばと続いている。

17. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が約9割であった。

(2) 国体開催情報の入手手段

国体開催情報の入手方法については、「広報紙」が5割強で最も高く、次いで「屋外広告物（看板・懸垂幕）」が約4割と続いている。

(3) とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向

とちぎ国体へボランティアとしての参加意向については、「あまりそう思わない」と「まったく思わない」を合わせた【思わない（計）】が8割弱であった。

(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報等を発信する市の魅力紹介」が5割半ばで最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が5割弱、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が約4割であった。

18. 多文化共生の認知度について

(1) 多文化共生の認知度

多文化共生の認知度については、「言葉も意味も知っている」が4割弱であった。

(2) 外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無

外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約3割であった。一方、「わからない」は2割強であった。

(3) 多文化共生の推進にあたり大切なこと

多文化共生の推進にあたり大切なことについては、「外国人住民の日本の生活ルール（ゴミ出し・交通ルール）の理解など」が5割半ばで最も高く、次いで「日本人住民の外国文化の理解（外国の文化や生活習慣を知るための講座など）」が約5割と続いている。

19. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が6割半ばで最も高く、次いで「結婚していない」が約2割、「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が1割強であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が約3割であったのに対し、「結婚するつもりはない」が6割半ばであった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が約6割であった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が4割強であった。

20. 「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」について

(1) SDGs についての認知度

SDGs の認知度については、「SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が約3割で最も高く、次いで「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が2割半ば、「SDGs についてまったく知らない (今回の調査で初めて認識)」が1割半ばと続いている。

(2) SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」が7割強で最も高く、次いで「水をだしっぱなしにしないようにしている」「電気を使わないときはこまめに消灯している」がいずれも7割弱と続いている。

(3) SDGs のゴールの中で興味・関心のある分野

SDGs のゴールの中で、興味・関心のある分野について、「すべての人に健康と福祉を」が約5割で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が4割強と続いている。

21. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が約3割であったのに対し、「知らない」が約5割であった。

(2) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」を知った経緯については、「もったいない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ」が7割強で最も高く、次いで「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」が7割弱と続いている。

(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動 (マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)」が7割弱で最も高く、次いで「節電・省エネルギー行動 (電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)」が6割半ばと続いている。

2.2. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が4割半ばであった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が、介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が最も高いものの1割弱に満たなかった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割強で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」「文化、スポーツなどのグループ活動」が約1割と続いている。

(3) 配偶者から暴力を受けた経験

配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」を除くと「経済的圧迫」「身体的暴行」「性的強要」のいずれも「まったくない」は8割弱であった。「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が最も高く1割弱であった。

(4) LGBT(エルジービーティー)の認知度

LGBT(エルジービーティー)の認知度については、「言葉も内容も知っている」が7割弱で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が3割弱、「まったく知らない」が1割弱に満たなかった。

2.3. 福祉のまちづくりについて

(1) 保健福祉サービスに関する情報提供の満足度

保健福祉サービスに関する情報提供の満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた【満足している(計)】が約6割であった。

(2) 福祉のまちづくりについての関心

福祉のまちづくりについて関心があるかは、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた【関心がある(計)】が約7割であった。

2.4. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割であった。

(2) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入の有無については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ばで最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約(個人賠償保険)など複合型の保険に加入している」が約3割と続いている。

(3) 自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用の有無については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が7割弱で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が2割強と続いている。

<MEMO>

IV 第 55 回市政に関する世論調査の結果

IV 第55回市政に関する世論調査の結果

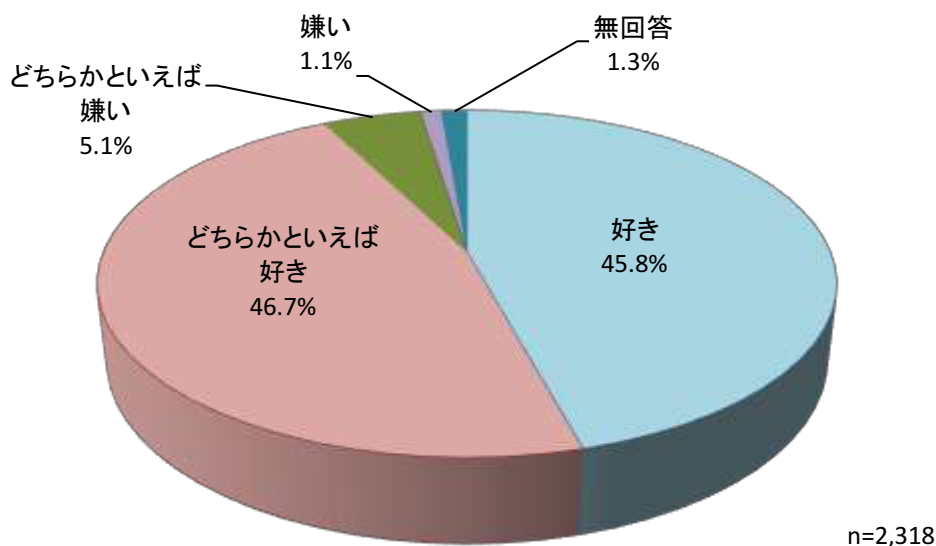
1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇ 「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き(計)】が9割強

問1	宇都宮市を好きですか。それとも嫌いですか。	(○は1つ)
		n=2,318
1	好き	45.8%
2	どちらかといえば好き	46.7%
3	どちらかといえば嫌い	5.1%
4	嫌い	1.1%
	(無回答)	1.3%

<図IV-1-1>全体



宇都宮市を好きか、嫌いか聞いたところ、「好き」が45.8%、「どちらかといえば好き」が46.7%で、これらを合わせた【好き(計)】は92.5%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」が5.1%、「嫌い」が1.1%で、これらを合わせた【嫌い(計)】は6.2%と1割弱であった。(図IV-1-1)

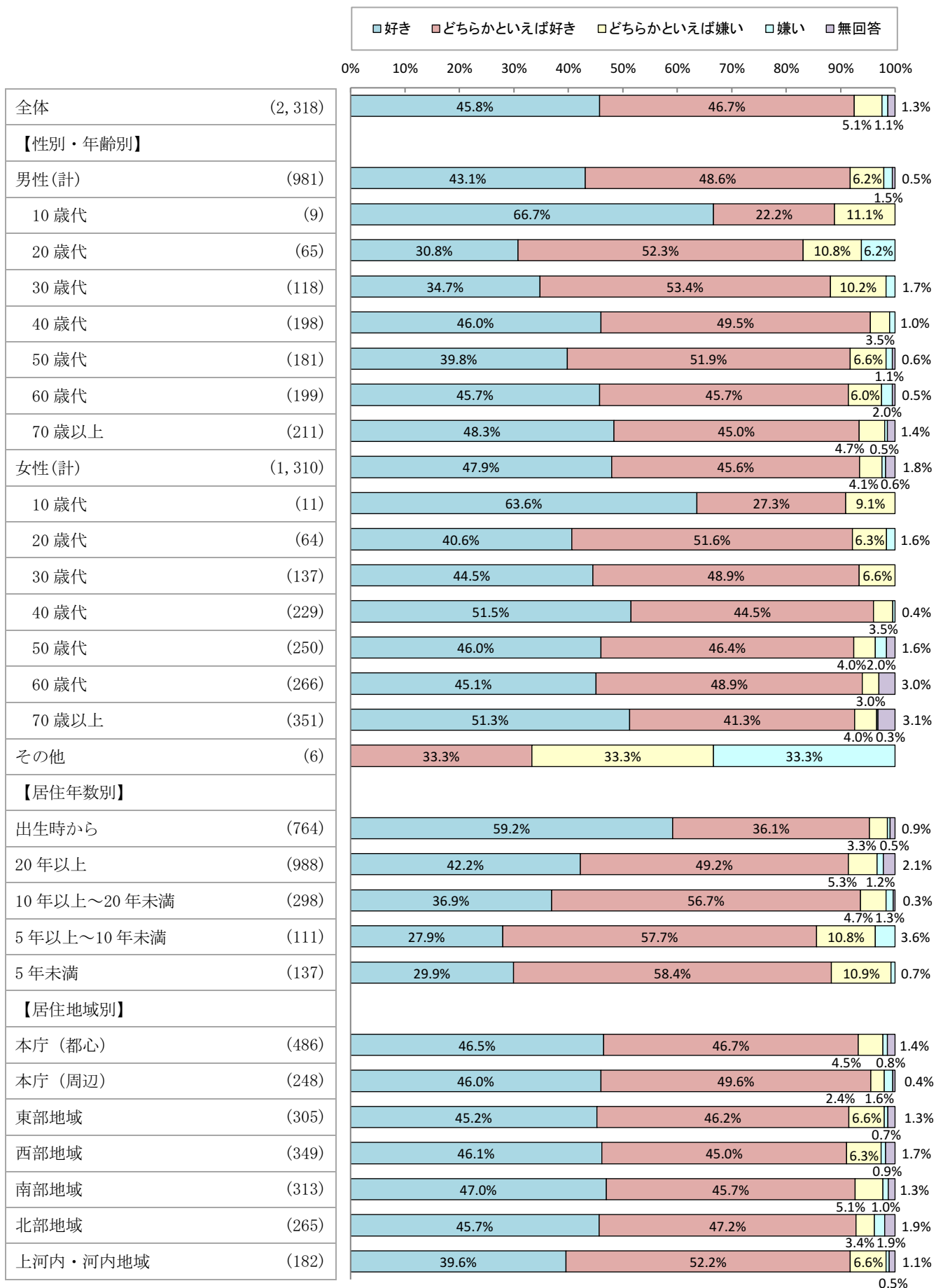
<参考>

性別・年齢別で見ると、【好き(計)】は<女性/40歳代>が96.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が95.5%であった。一方、【嫌い(計)】は<その他>を除くと<男性/20歳代>が17.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が11.9%であった。(図IV-1-2)

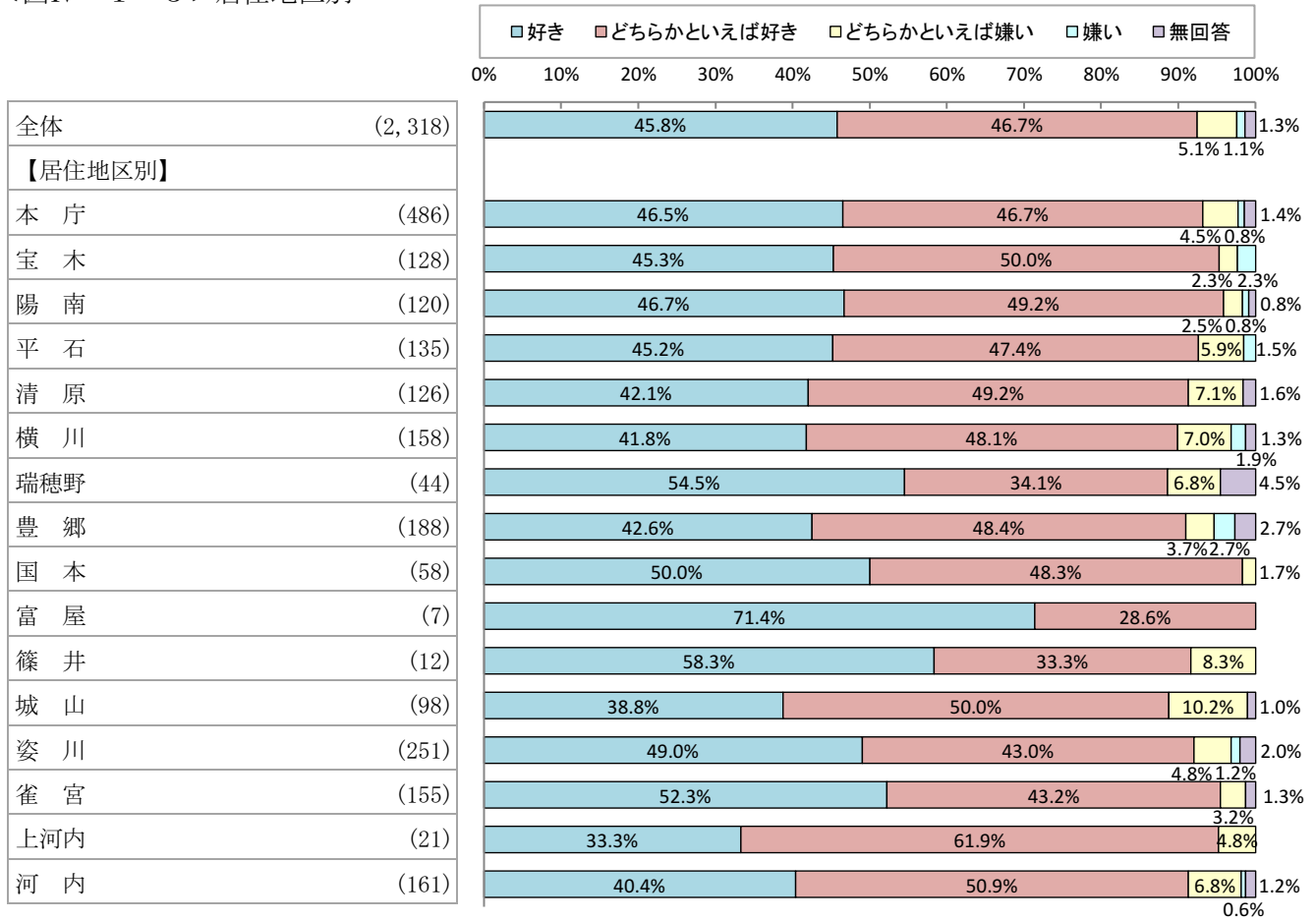
居住年数別で見ると、【好き(計)】は<出生時から>が95.3%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が93.6%であった。一方、【嫌い(計)】は<5年以上~10年未満>が14.4%で最も高く、次いで<5年未満>が11.6%であった。(図IV-1-2)

居住地域別で見ると、【好き(計)】は<本庁(周辺)>が95.6%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が93.2%であった。一方、【嫌い(計)】は<東部地域>が7.3%で最も高く、次いで<西部地域>が7.2%であった。(図IV-1-2)

<図IV-1-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



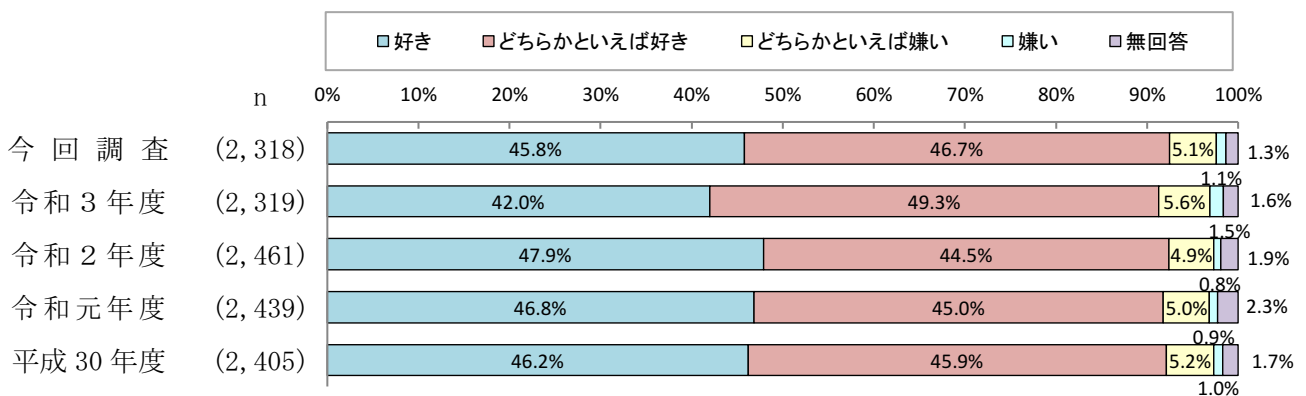
<図IV-1-3>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和4年度	45.8%	46.7%	5.1%	1.1%	1.3%
令和3年度	42.0%	49.3%	5.6%	1.5%	1.6%
令和2年度	47.9%	44.5%	4.9%	0.8%	1.9%
令和元年度	46.8%	45.0%	5.0%	0.9%	2.3%
平成30年度	46.2%	45.9%	5.2%	1.0%	1.7%

<図IV-1-4>経年比較



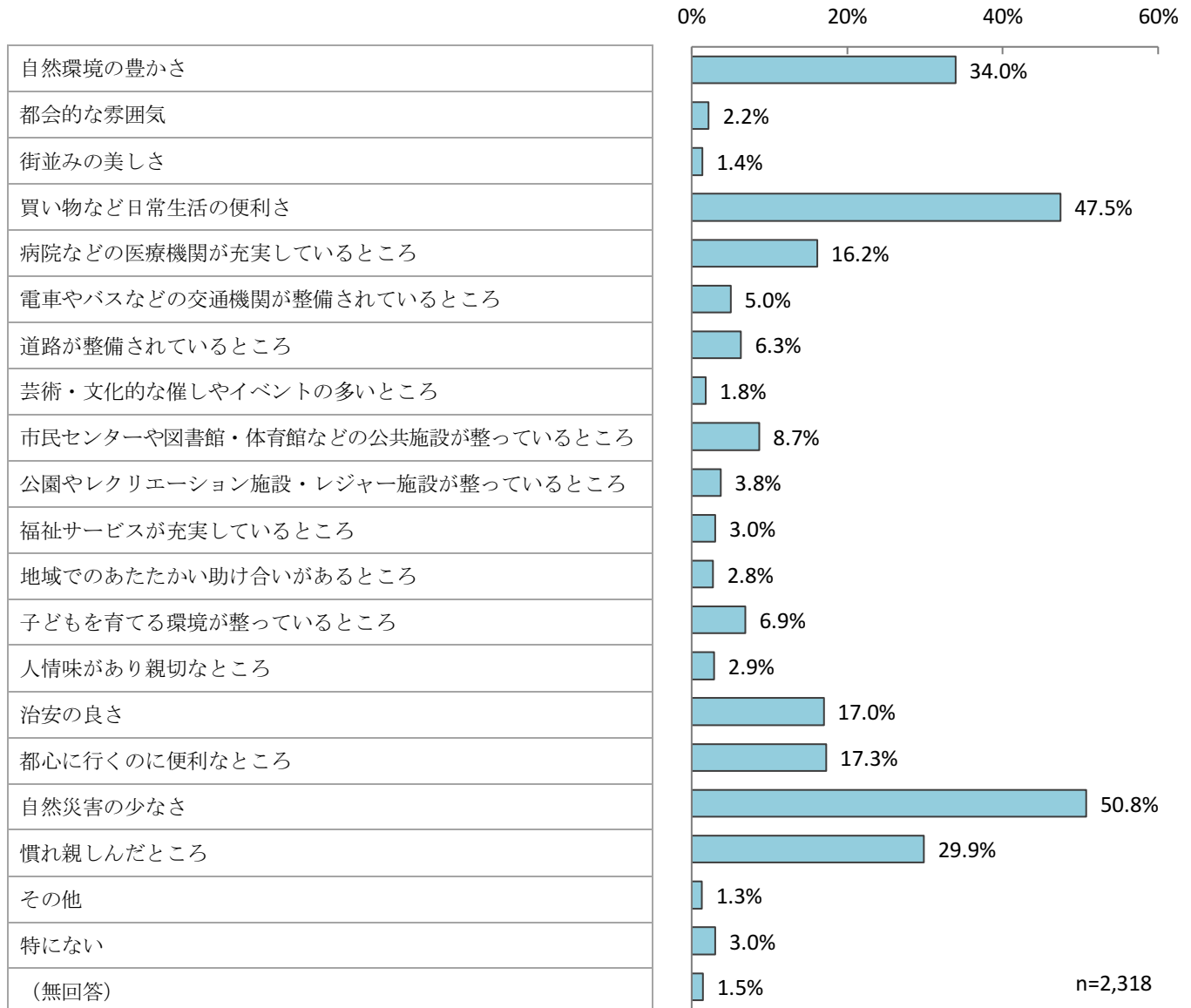
【好き(計)】及び【嫌い(計)】については、過去4年間と比較しても、特に大きな違いは見られない。

(2) 好きな理由

◇ 「自然災害の少なさ」が約5割

問2 宇都宮市の好きだと思うところをあげてください。		(〇は3つまで)
		n=2,318
1	自然環境の豊かさ	34.0%
2	都会的な雰囲気	2.2%
3	街並みの美しさ	1.4%
4	買い物など日常生活の便利さ	47.5%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	16.2%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	5.0%
7	道路が整備されているところ	6.3%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	1.8%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	8.7%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	3.8%
11	福祉サービスが充実しているところ	3.0%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	2.8%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	6.9%
14	人情味があり親切なところ	2.9%
15	治安の良さ	17.0%
16	都心に行くのに便利なところ	17.3%
17	自然災害の少なさ	50.8%
18	慣れ親しんだところ	29.9%
19	その他	1.3%
20	特にない	3.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-1-5>全体



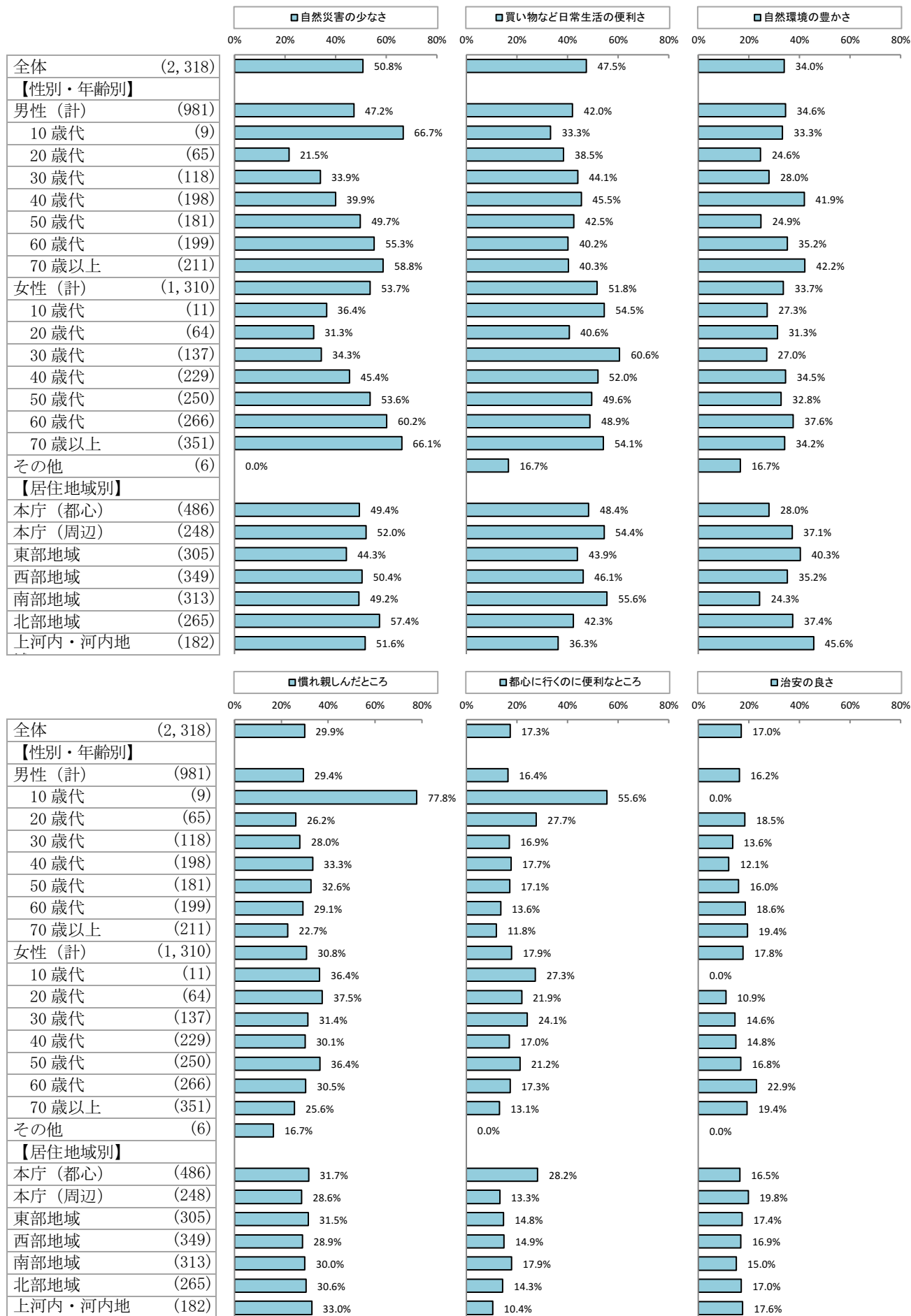
宇都宮市の好きだと思うところについては、1位が「自然災害の少なさ」で50.8%、2位「買い物など日常生活の便利さ」で47.5%、3位「自然環境の豊かさ」で34.0%、4位「慣れ親しんだところ」で29.9%、5位「都心に行くのに便利なおところ」で17.3%、6位「治安の良さ」で17.0%という順であった。(図IV-1-5)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「自然災害の少なさ」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が66.1%であった。「買い物など日常生活の便利さ」は<女性/30歳代>が60.6%で最も高かった。「自然環境の豊かさ」は<男性/70歳以上>が42.2%で最も高く、「慣れ親しんだところ」は<男性/10歳代>が77.8%、「都心に行くのに便利なおところ」は<男性/10歳代>が55.6%、「治安の良さ」は<女性/60歳代>が22.9%で最も高かった。(図IV-1-6)

居住地域別で見ると、「自然災害の少なさ」は、各地域で約4割から6割弱となっているが、<北部地域>が57.4%で最も高く、「買い物など日常生活の便利さ」は<南部地域>が55.6%、「自然環境の豊かさ」は<上河内・河内地域>が45.6%、「慣れ親しんだところ」は<上河内・河内地域>が33.0%、「都心に行くのに便利なおところ」は<本庁(都心)>が28.2%、「治安の良さ」は<本庁(周辺)>が19.8%で最も高かった。(図IV-1-6)

<図IV-1-6>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）

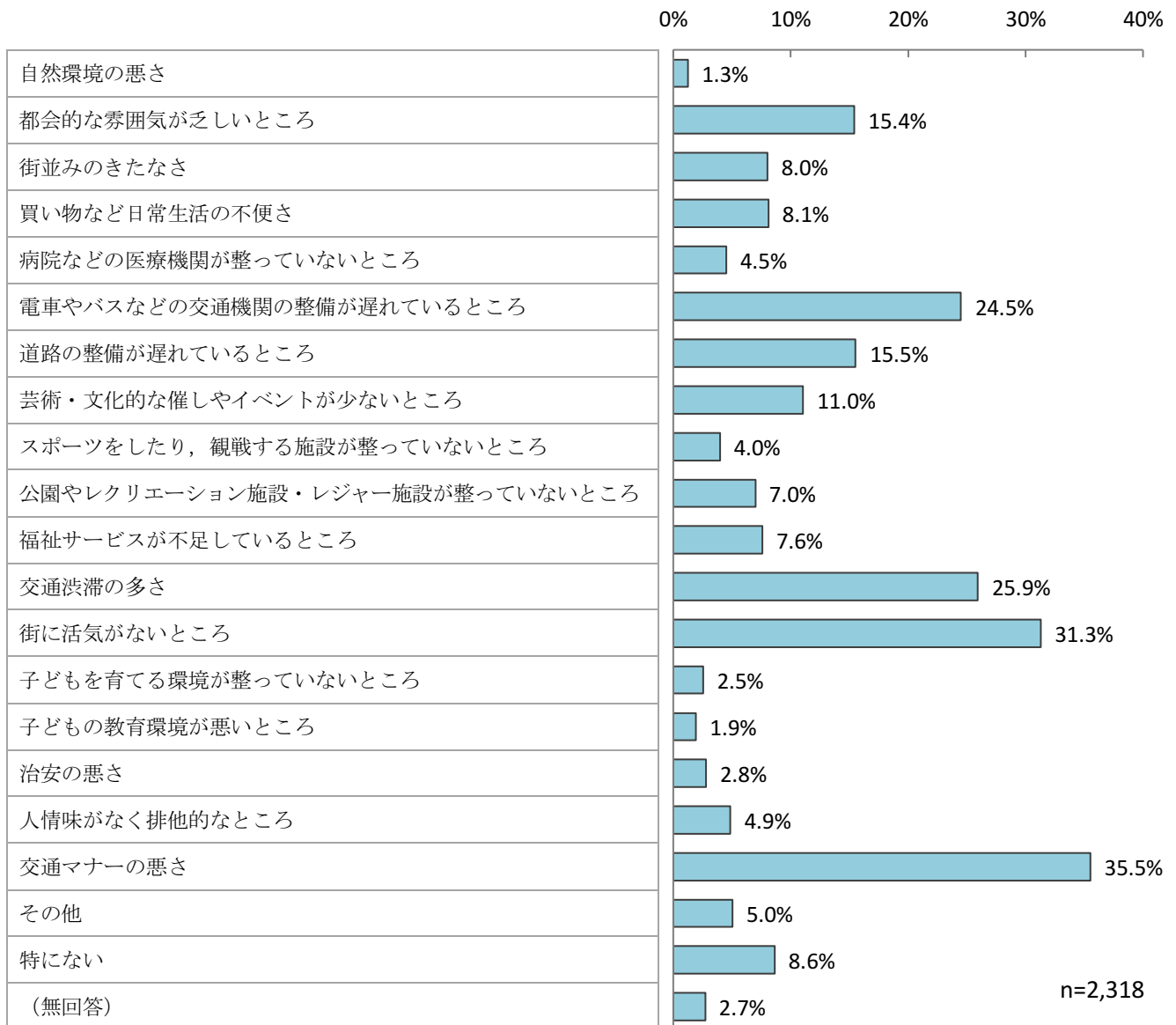


(3) 嫌いな理由

◇ 「交通マナーの悪さ」が3割半ば

問3 宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください。		(〇は3つまで)
		n=2,318
1	自然環境の悪さ	1.3%
2	都会的な雰囲気が乏しいところ	15.4%
3	街並みのきたなさ	8.0%
4	買い物など日常生活の不便さ	8.1%
5	病院などの医療機関が整っていないところ	4.5%
6	電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	24.5%
7	道路の整備が遅れているところ	15.5%
8	芸術・文化的な催しやイベントが少ないところ	11.0%
9	スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	4.0%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っていないところ	7.0%
11	福祉サービスが不足しているところ	7.6%
12	交通渋滞の多さ	25.9%
13	街に活気がないところ	31.3%
14	子どもを育てる環境が整っていないところ	2.5%
15	子どもの教育環境が悪いところ	1.9%
16	治安の悪さ	2.8%
17	人情味がなく排他的なところ	4.9%
18	交通マナーの悪さ	35.5%
19	その他	5.0%
20	特にない	8.6%
	(無回答)	2.7%

<図IV-1-7>全体



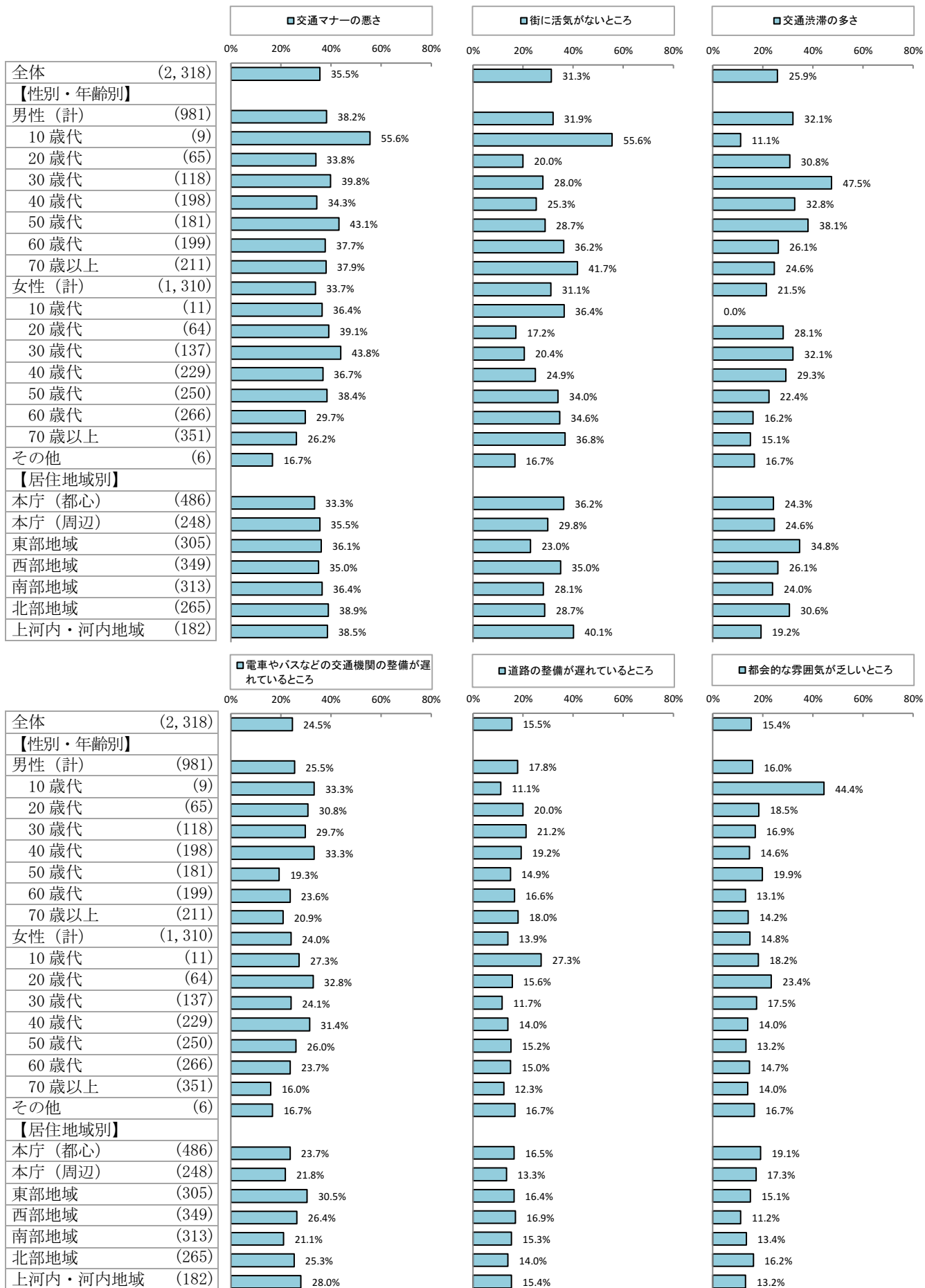
宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で35.5%、2位「街に活気がないところ」で31.3%、3位「交通渋滞の多さ」で25.9%、4位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」で24.5%、5位「道路の整備が遅れているところ」で15.5%、6位「都会的な雰囲気が乏しいところ」で15.4%という順であった。(図IV-1-7)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「交通マナーの悪さ」は<男性/10歳代>が55.6%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が43.8%であった。「街に活気がないところ」は<男性/10歳代>が55.6%で最も高く、「交通渋滞の多さ」は<男性/30歳代>が47.5%で最も高かった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<男性/10歳代>と<男性/40歳代>がいずれも33.3%、「道路の整備が遅れているところ」は<女性/10歳代>が27.3%、「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<男性/10歳代>が44.4%で最も高かった。(図IV-1-8)

居住地域別で見ると、「交通マナーの悪さ」は<北部地域>が38.9%で最も高かった。「街に活気がないところ」は<上河内・河内地域>が40.1%で最も高く、「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が34.8%、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<東部地域>が30.5%、「道路の整備が遅れているところ」は<西部地域>が16.9%、「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<本庁(都心)>が19.1%で最も高かった。(図IV-1-8)

<図IV-1-8>性別・年齢別/居住地域別（上位6項目）



2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

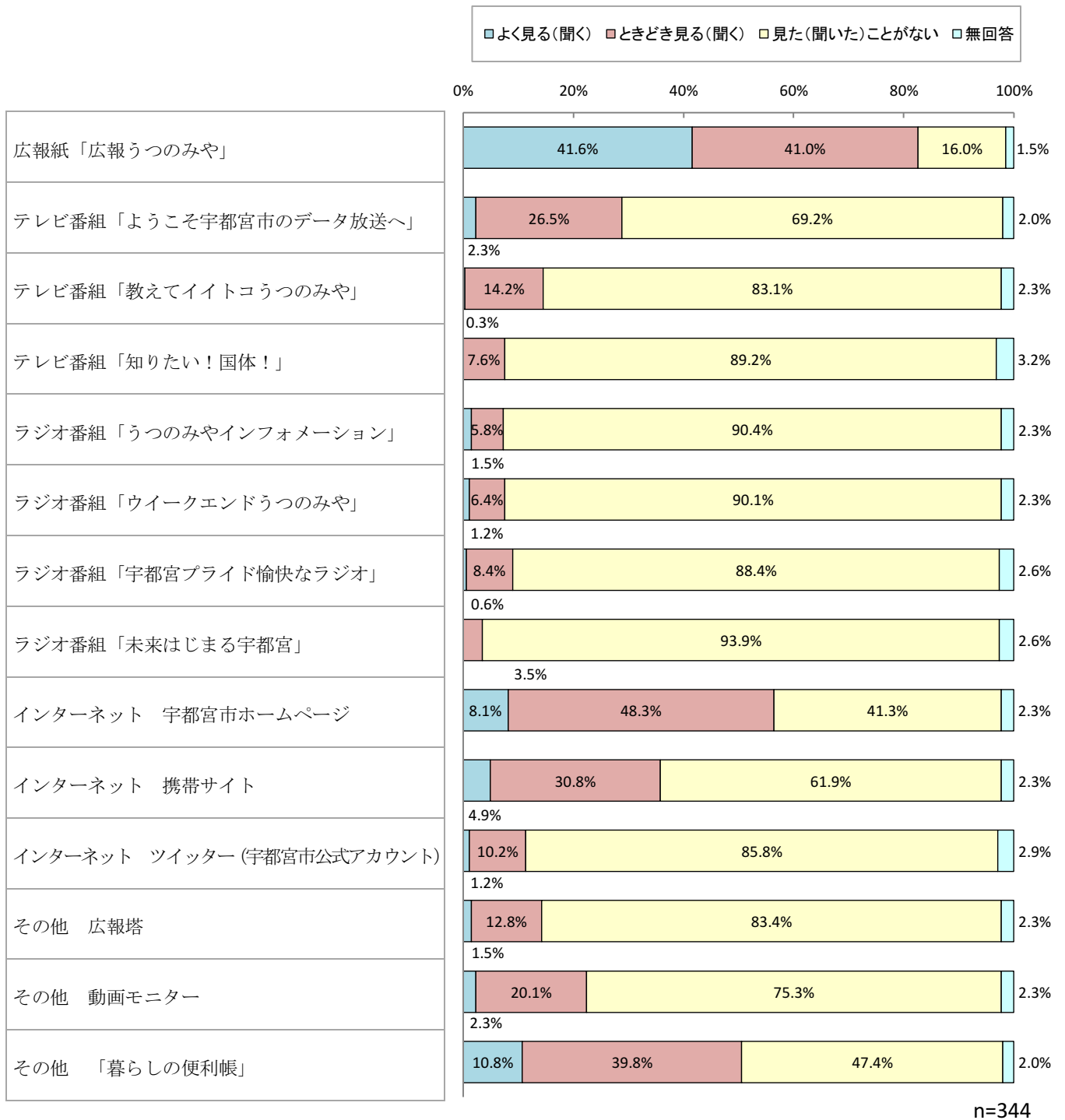
◇ 「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が8割強

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様に提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=344

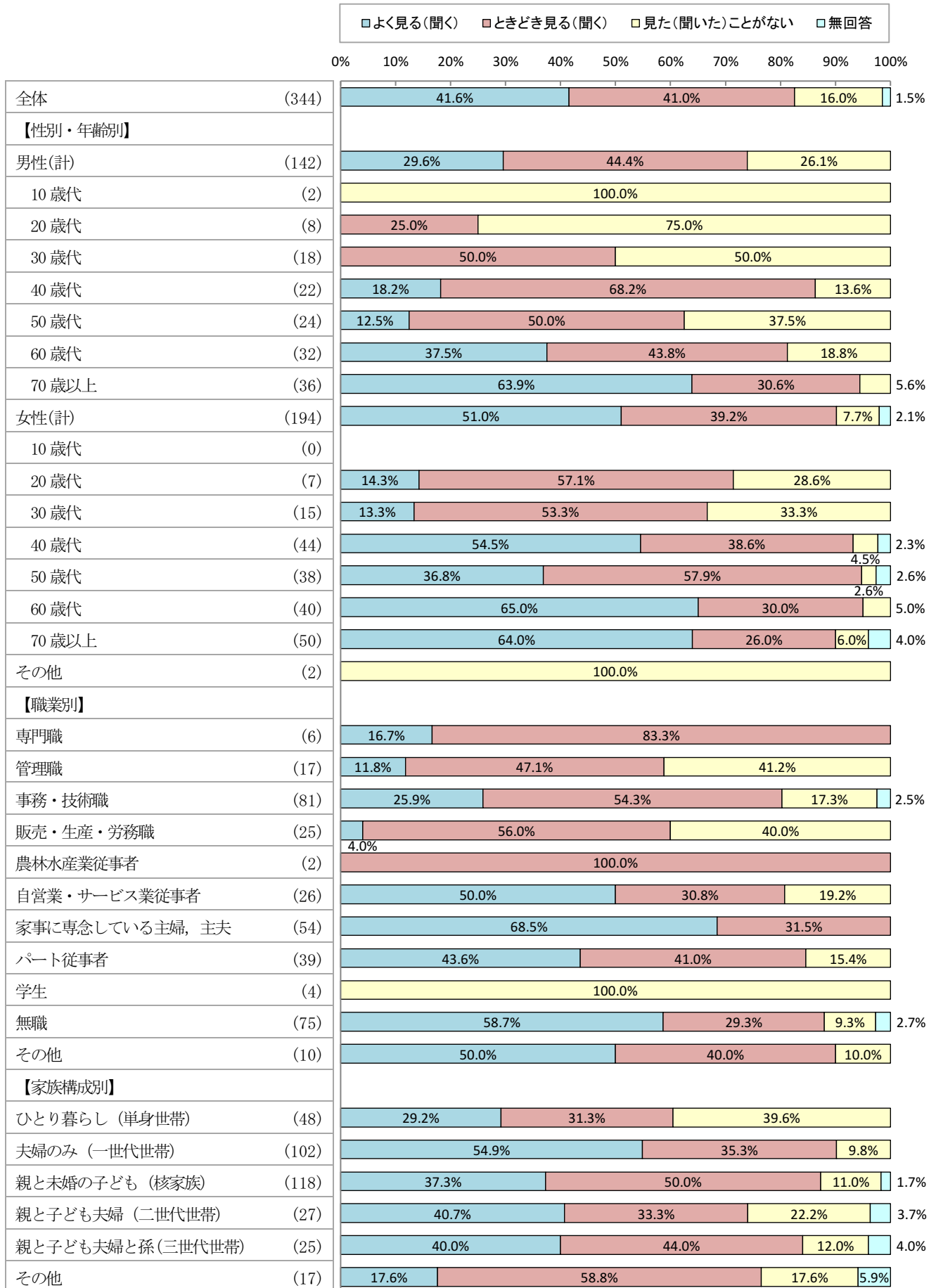
広報媒体		よく見る (聞く)	ときどき 見る (聞く)	見た (聞いた) ことがない	無回答	合計
広報紙	1 「広報うつのみや」 毎月1回、新聞折込での配布や電子書籍等	41.6%	41.0%	16.0%	1.5%	100.0%
テレビ 番組	2 「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 とちぎテレビ(データ放送):テレビ放映中は常時提供	2.3%	26.5%	69.2%	2.0%	100.0%
	3 「教えてイイトコうつのみや」 (とちぎテレビ:毎月第4金曜日 午後7時15分~)	0.3%	14.2%	83.1%	2.3%	100.0%
	4 「知りたい!国体!」 (宇都宮ケーブルテレビ:毎月第4月曜日から7日間,1日7回)	0.0%	7.6%	89.2%	3.2%	100.0%
ラジオ 番組	5 「うつのみやインフォメーション」 (栃木放送:毎週月曜日 午前10時15分~)	1.5%	5.8%	90.4%	2.3%	100.0%
	6 「ウイークエンドうつのみや」 (栃木放送:毎週金曜日 午後0時35分~)	1.2%	6.4%	90.1%	2.3%	100.0%
	7 「宇都宮プライド愉快的なラジオ」 (エフエム栃木:毎週金曜日 正午~)	0.6%	8.4%	88.4%	2.6%	100.0%
	8 「未来はじまる宇都宮」 (コミュニティFM:毎週水曜日 午前11時~)	0.0%	3.5%	93.9%	2.6%	100.0%
インター ネット	9 宇都宮市ホームページ	8.1%	48.3%	41.3%	2.3%	100.0%
	10 携帯サイト	4.9%	30.8%	61.9%	2.3%	100.0%
	11 ツイッター(宇都宮市公式アカウント)	1.2%	10.2%	85.8%	2.9%	100.0%
その他	12 広報塔 JR宇都宮駅西口、鹿沼インター通り(鹿沼インター東)、 平成通り(中央卸売市場前)に設置	1.5%	12.8%	83.4%	2.3%	100.0%
	13 動画モニター 市民課や地区市民センターの窓口・主要道路沿い・大通り バス停などに設置	2.3%	20.1%	75.3%	2.3%	100.0%
	14 「暮らしの便利帳」 2年に1度発行し、行政情報や地域情報などを掲載	10.8%	39.8%	47.4%	2.0%	100.0%

<図IV-2-1>全体

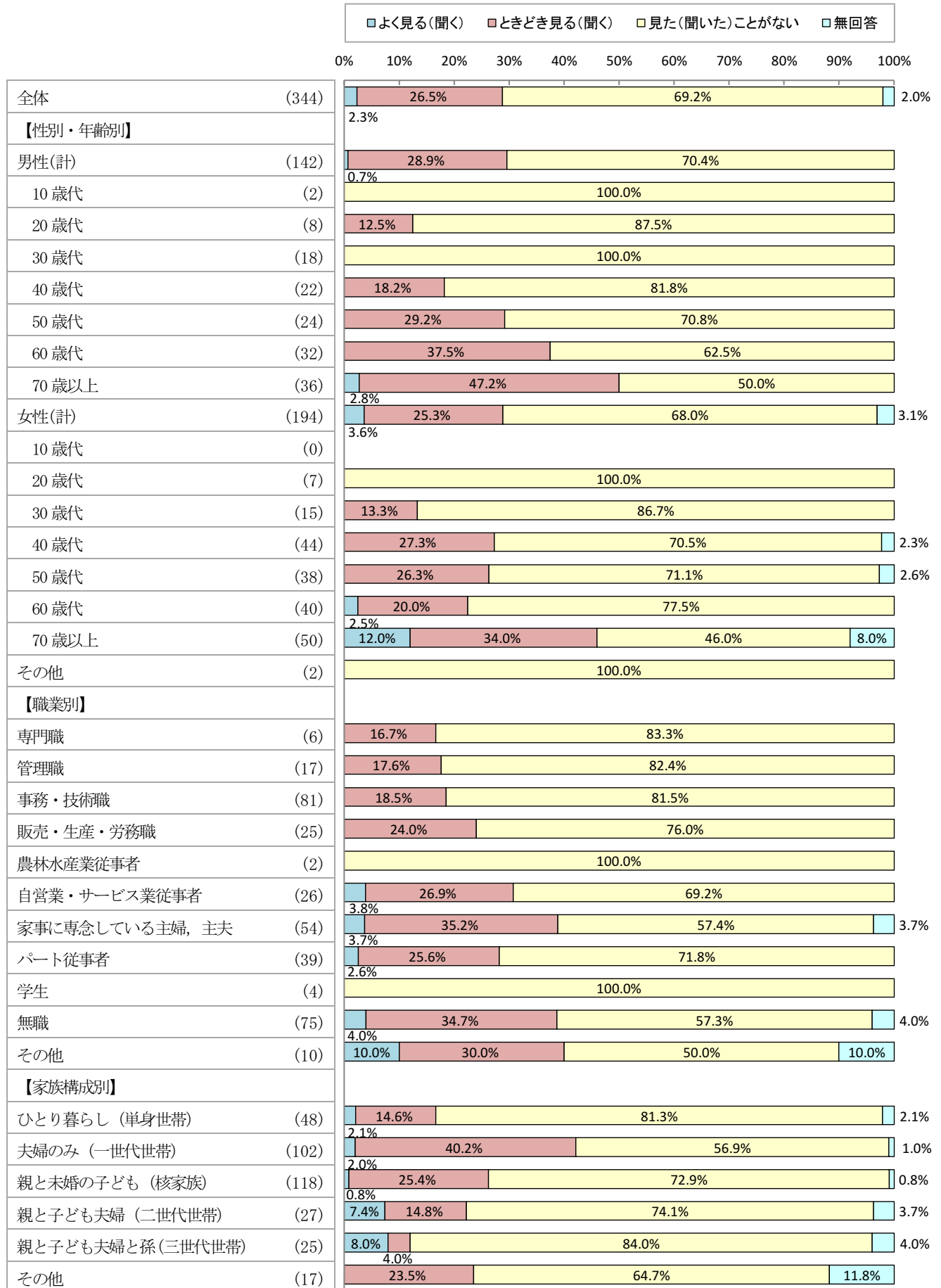


「広報うつのみや」以外の13種類の広報媒体についての、それぞれの視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の2つを合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は、「広報うつのみや」が82.6%で最も高く、次いで「インターネット(宇都宮市ホームページ)」が56.4%、「暮らしの便利帳」が50.6%と続いている。(図IV-2-1)

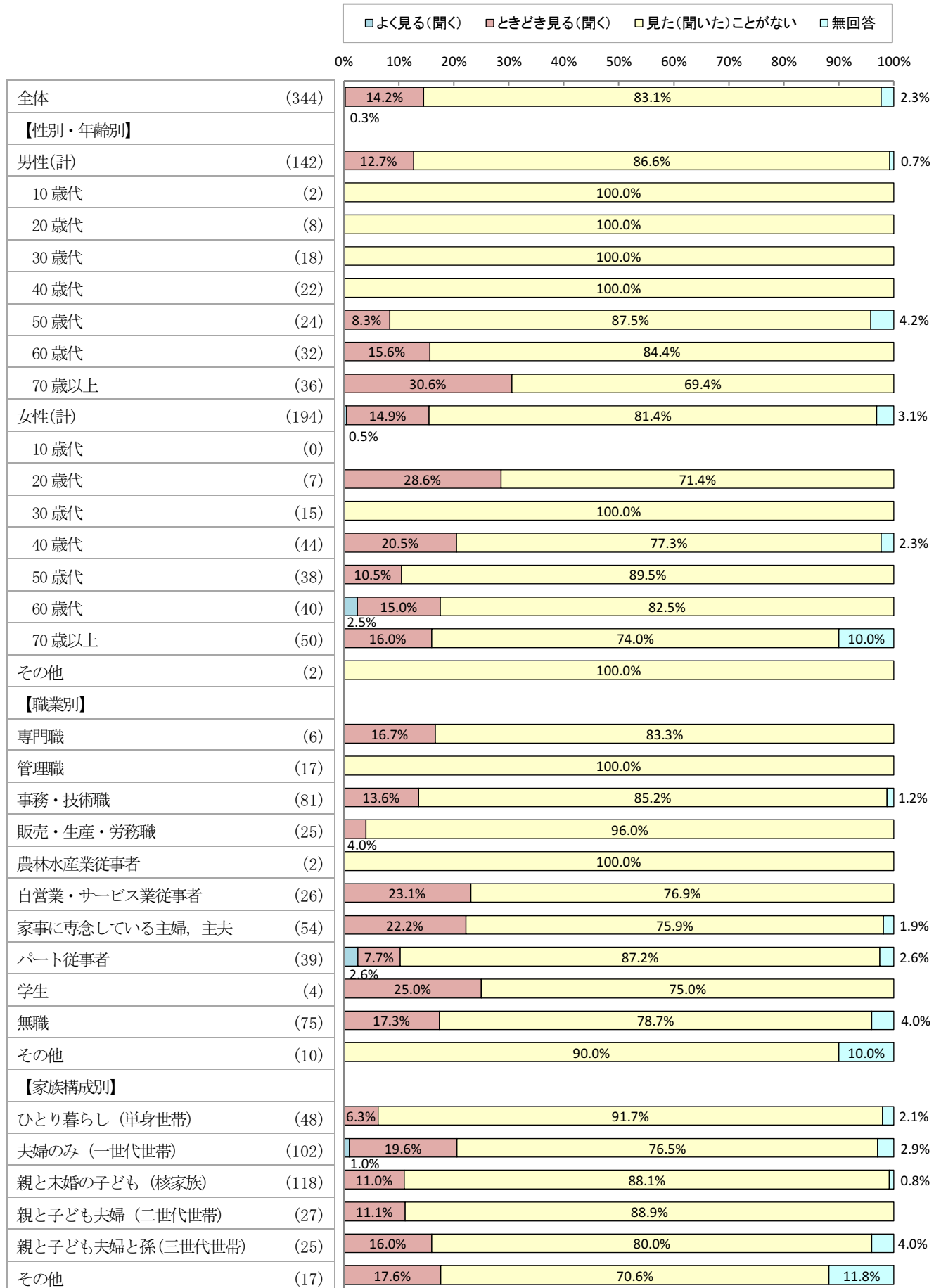
<図IV-2-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報紙「広報うつのみや」



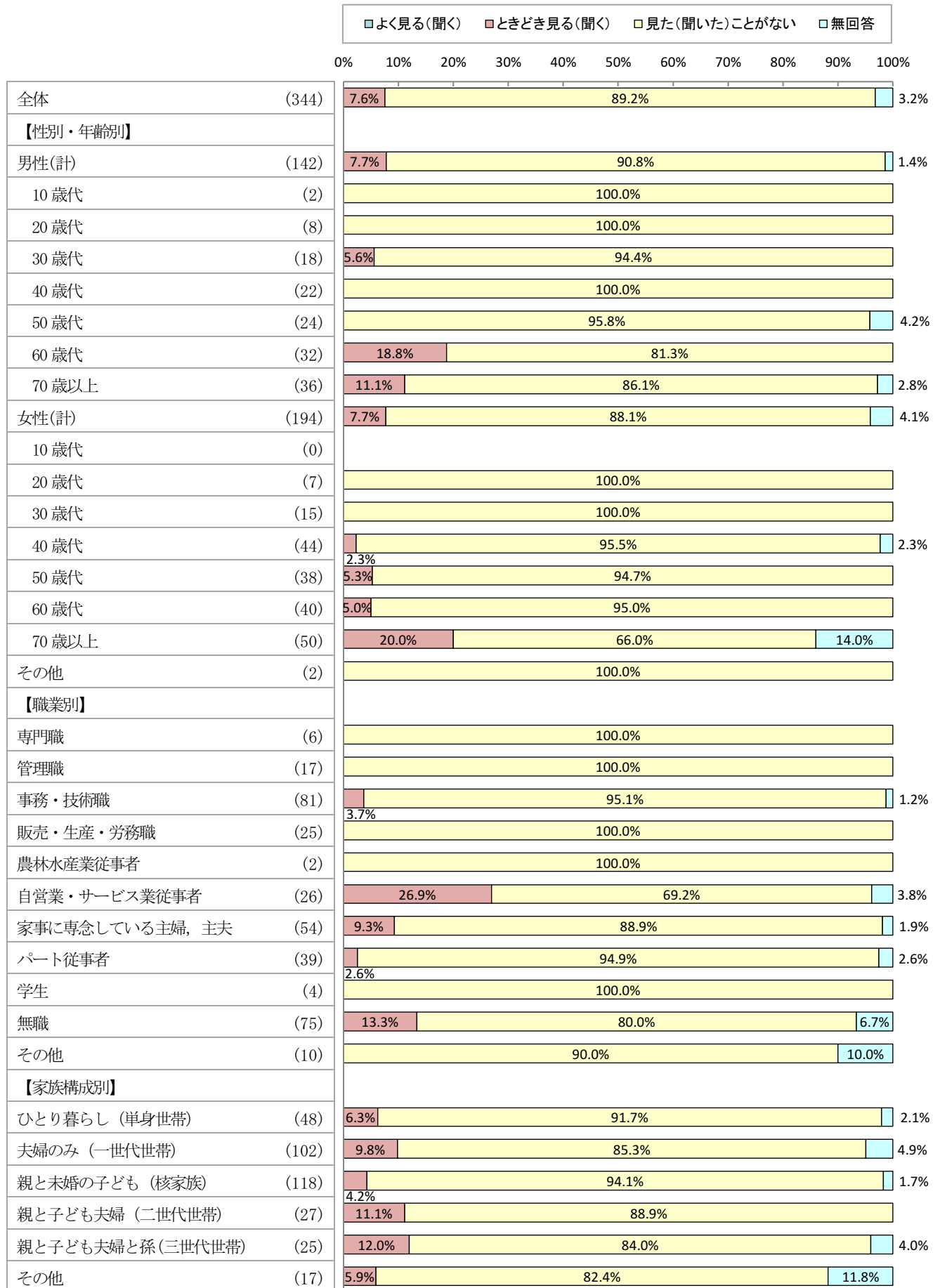
<図IV-2-3>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」



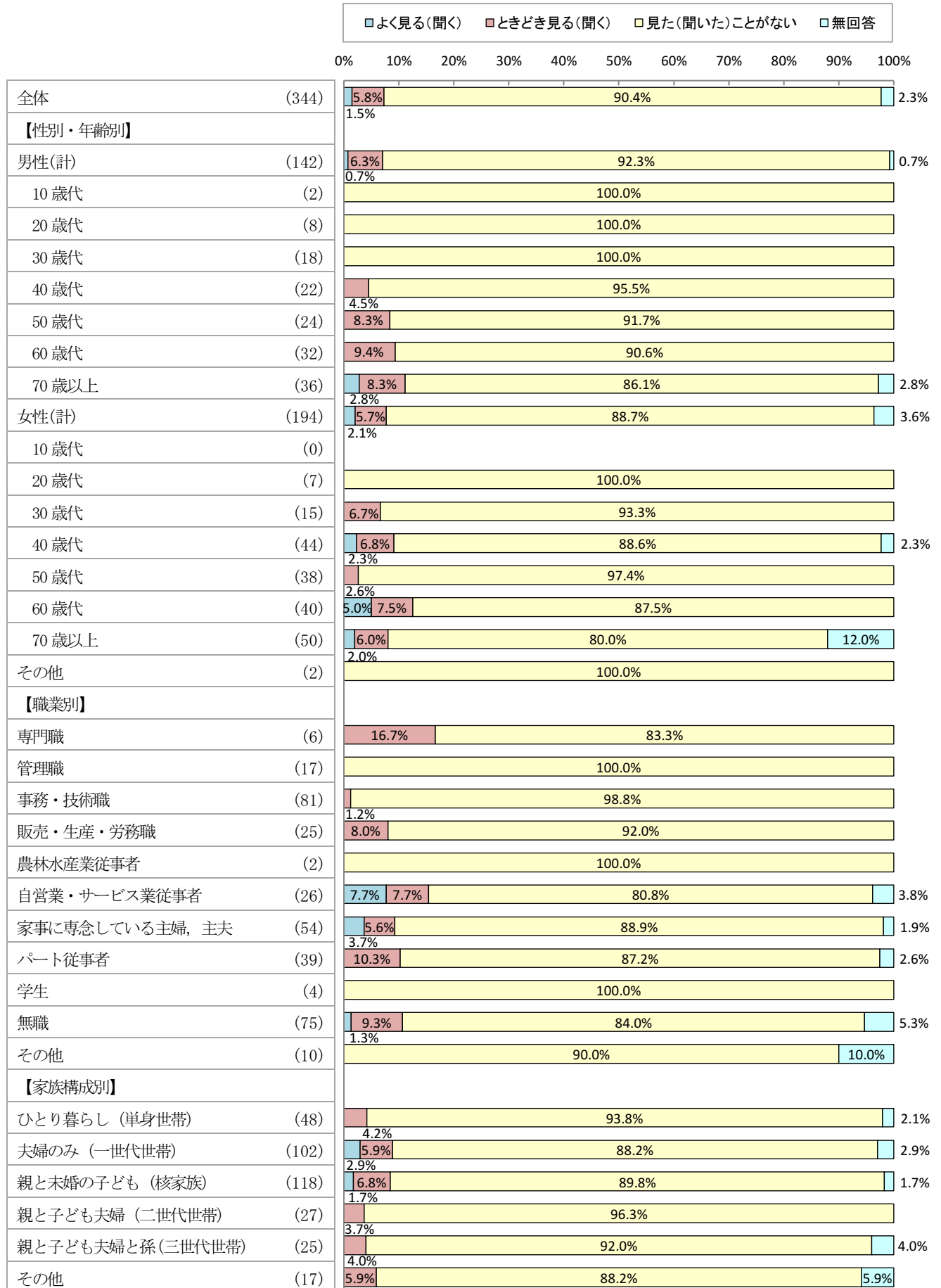
<図IV-2-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「教えてイイトコうつのみや」



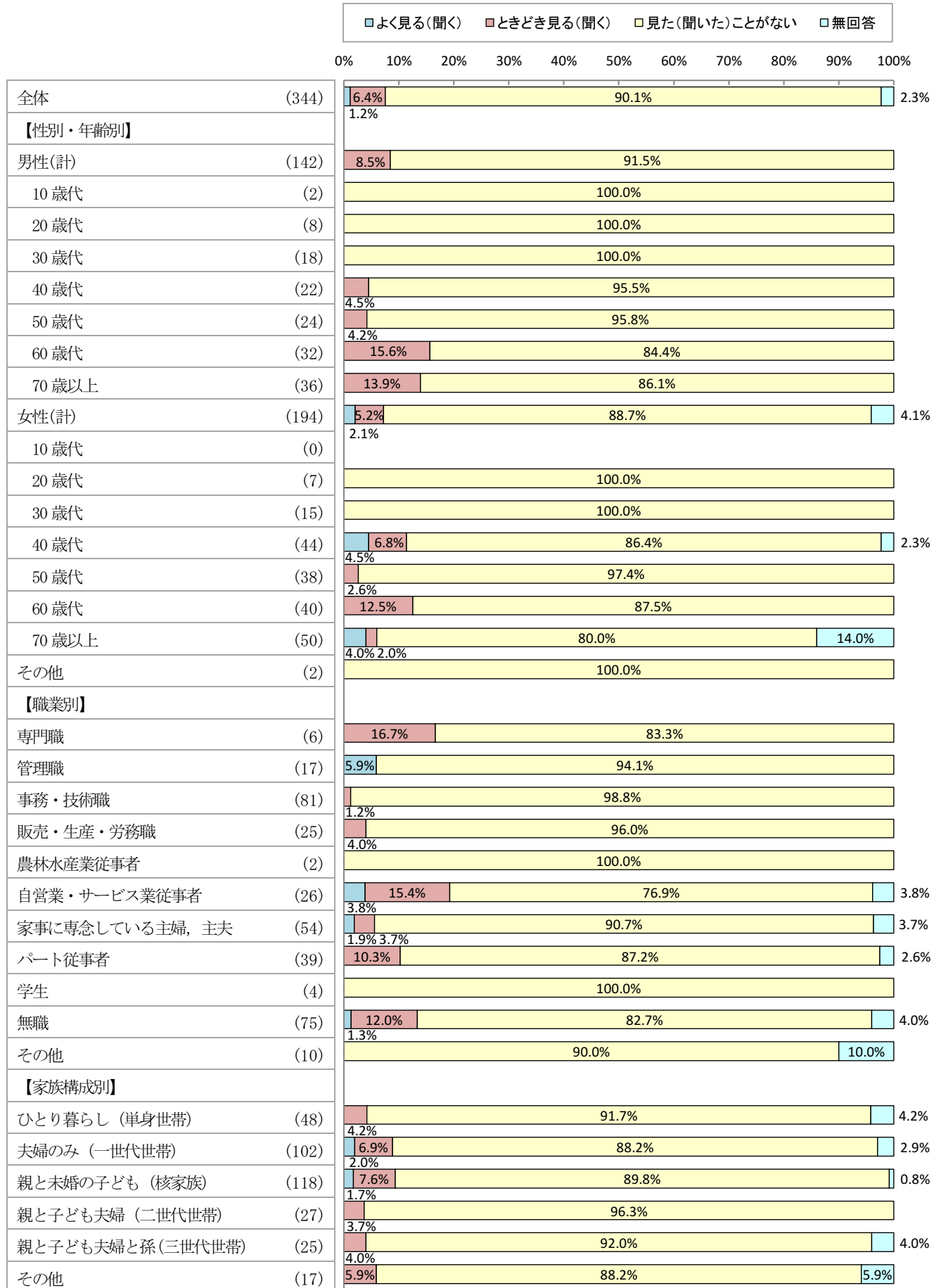
<図IV-2-5>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「知りたい！国体！」



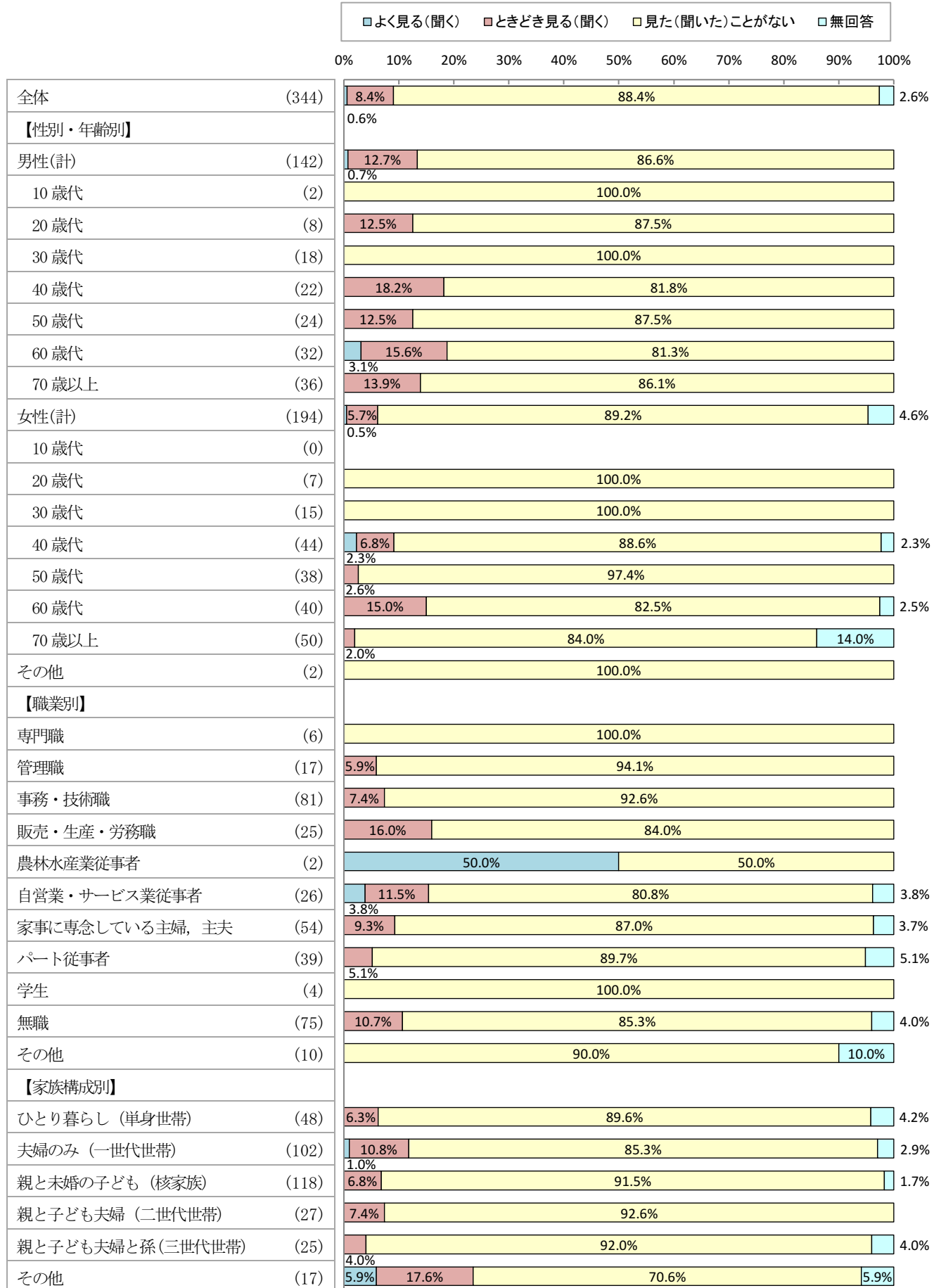
<図IV-2-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「うつのみやインフォメーション」」



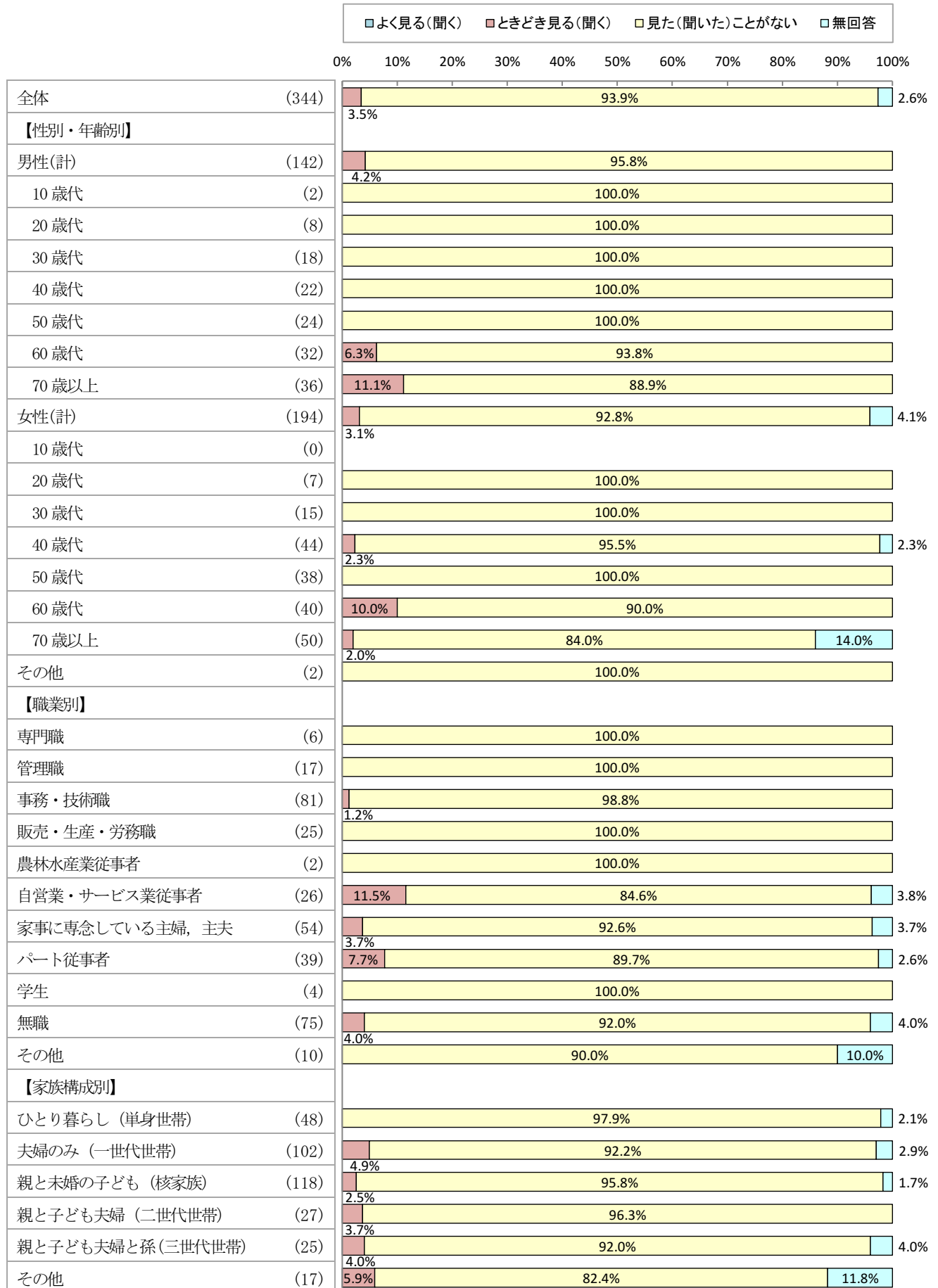
<図IV-2-7>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「ウイークエンドうつつのみや」



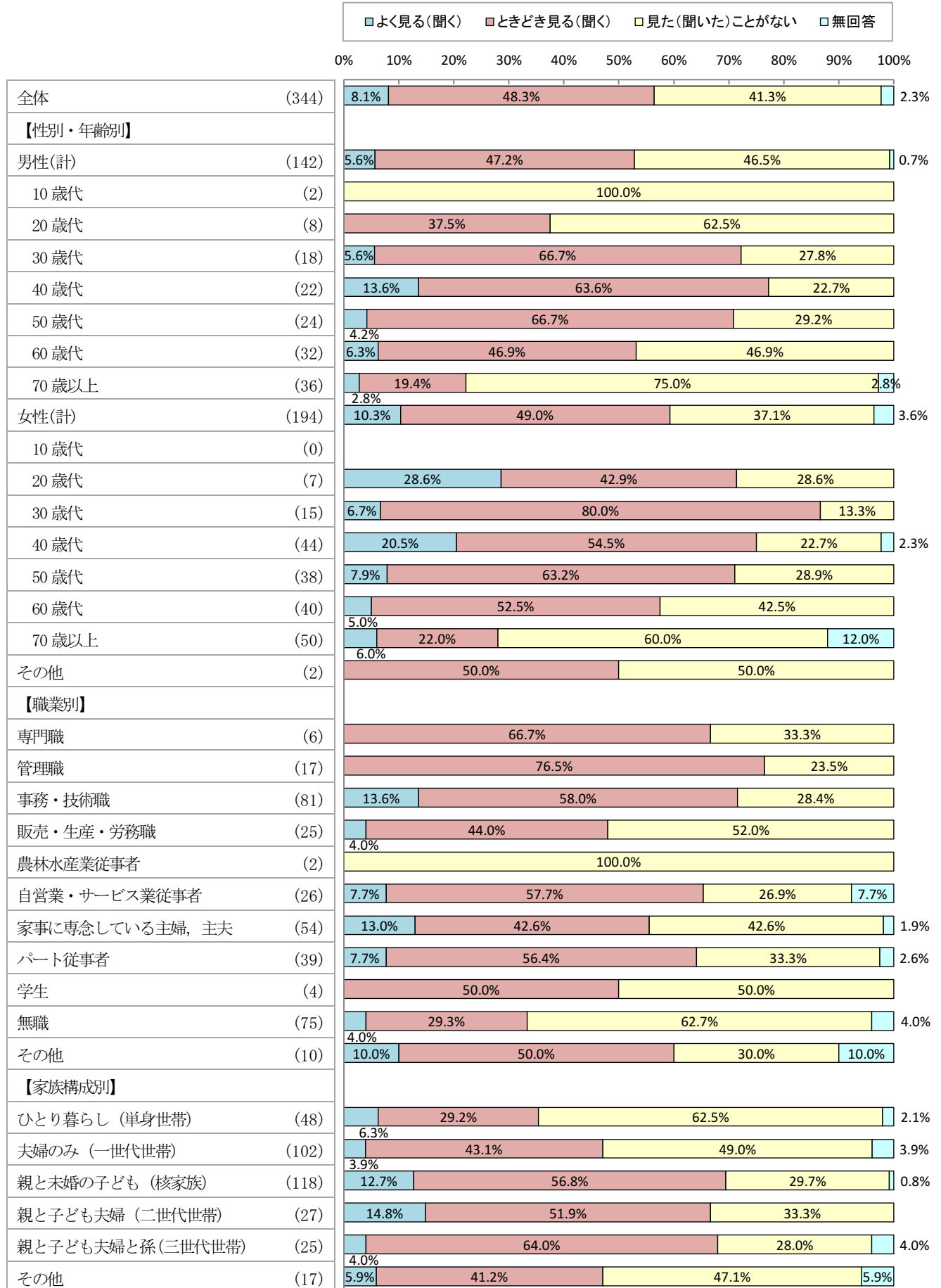
<図IV-2-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「宇都宮プライド愉快なラジオ」



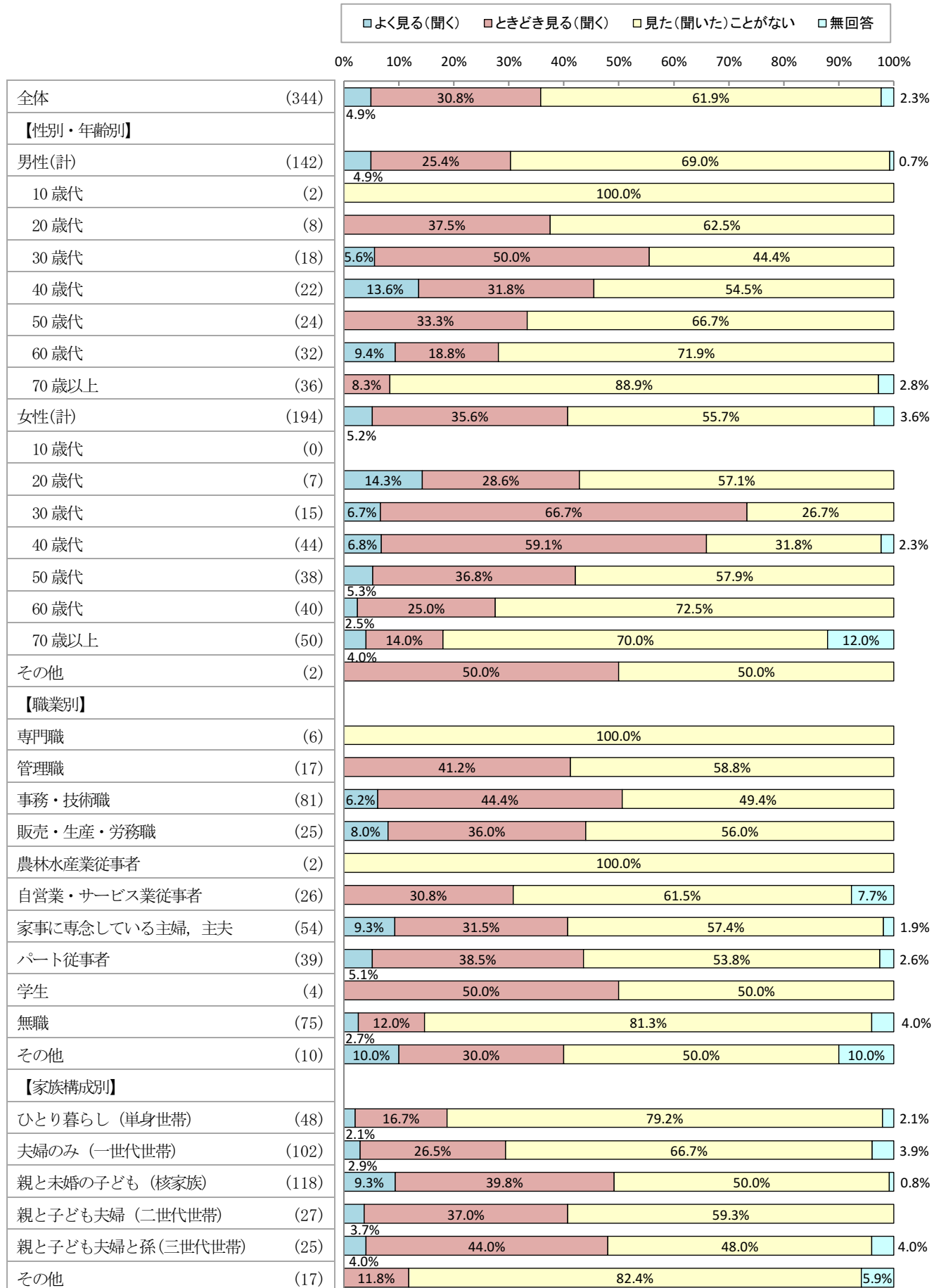
<図IV-2-9>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「未来はじまる宇都宮」



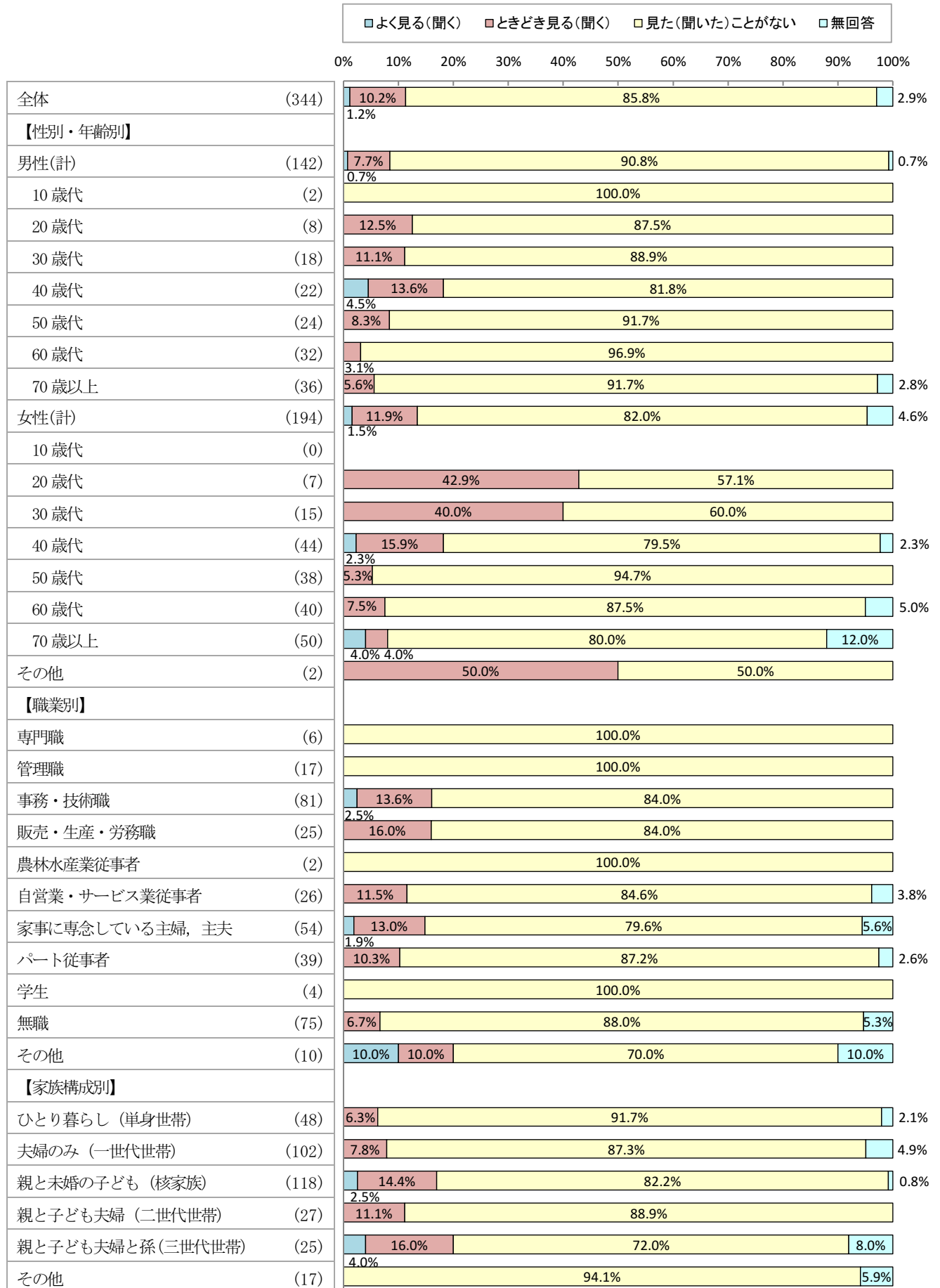
<図IV-2-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「宇都宮市ホームページ」」



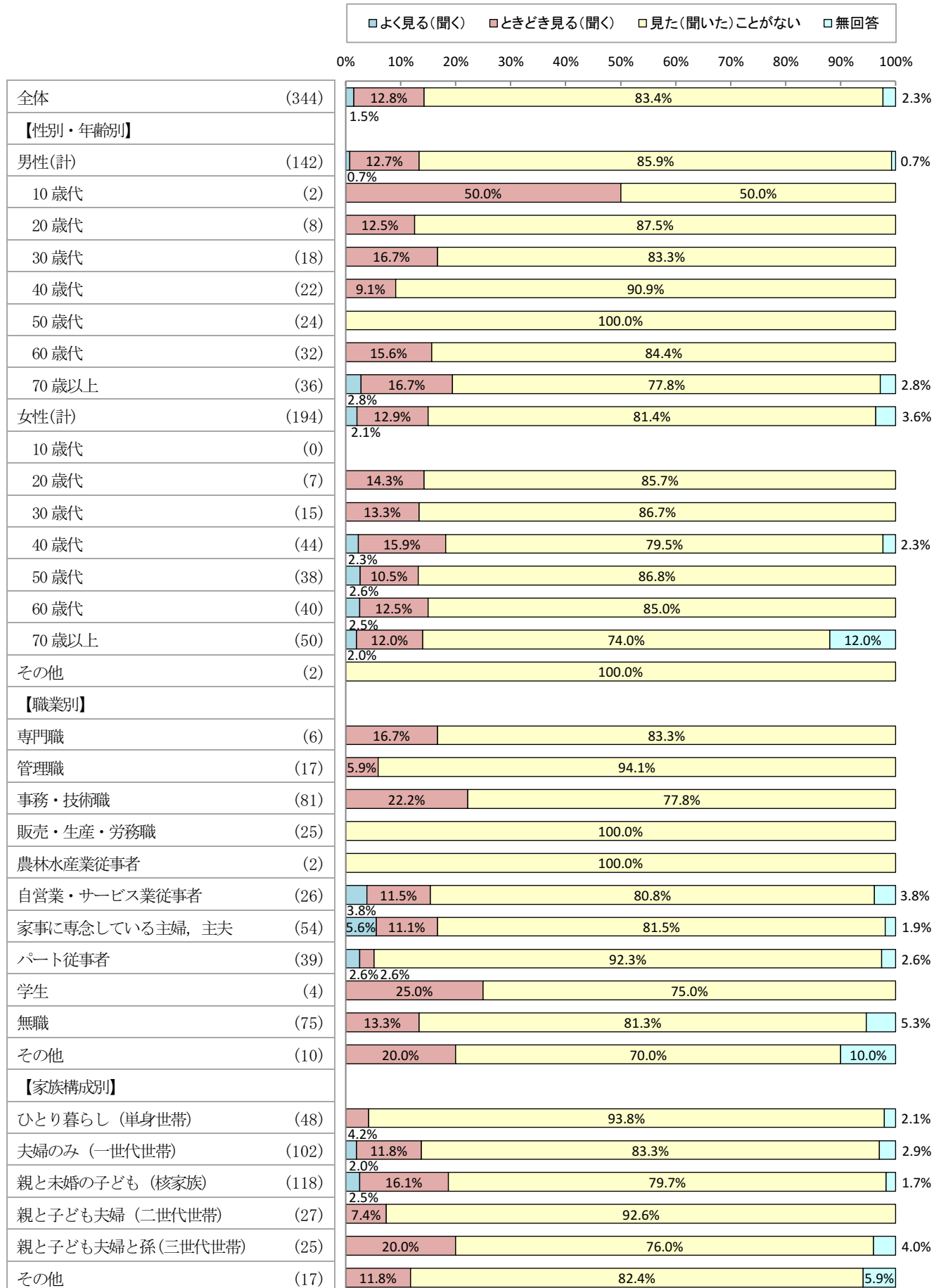
<図IV-2-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「携帯サイト」」



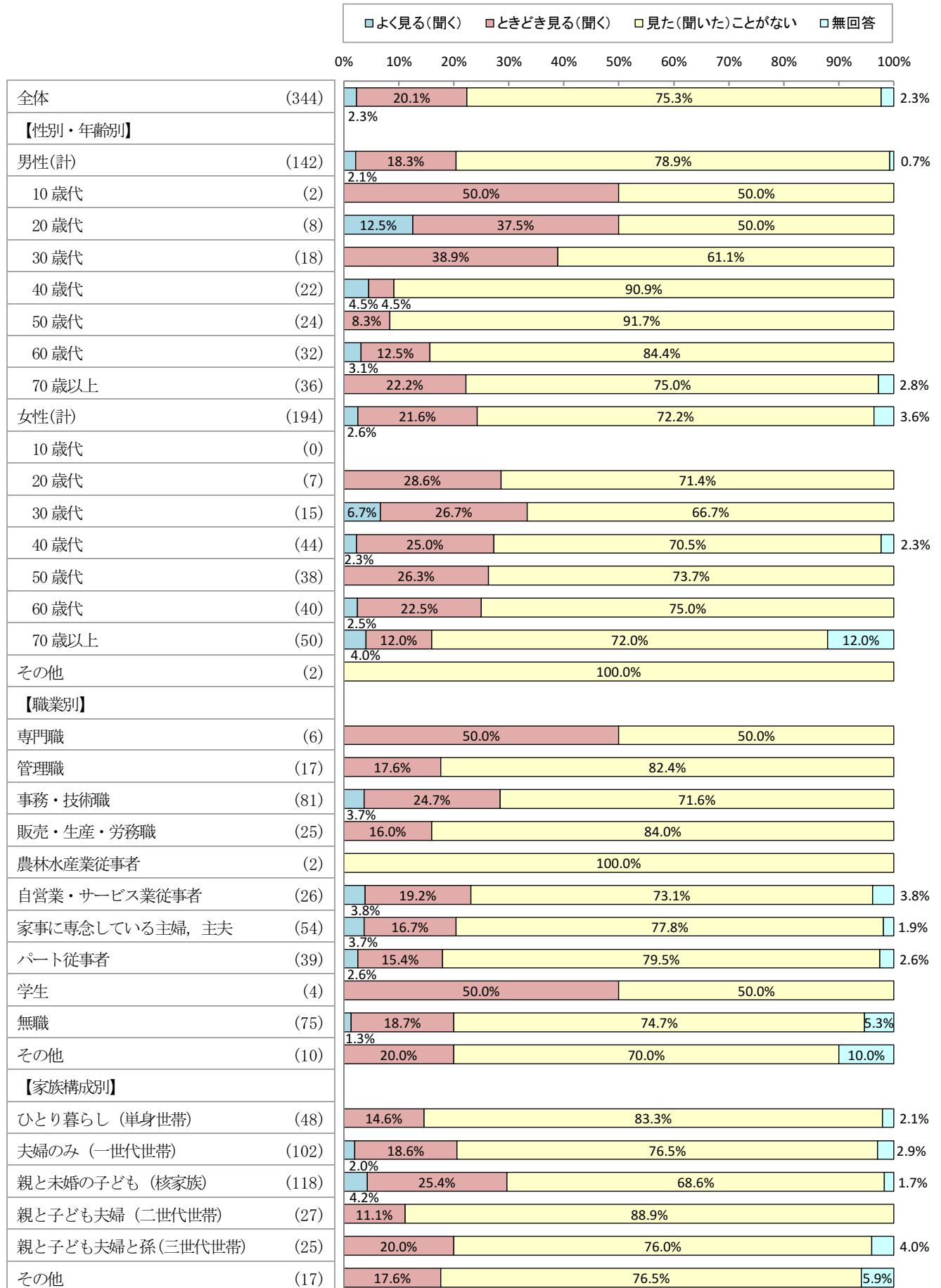
<図IV-2-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「ツイッター（宇都宮市公式アカウント）」」



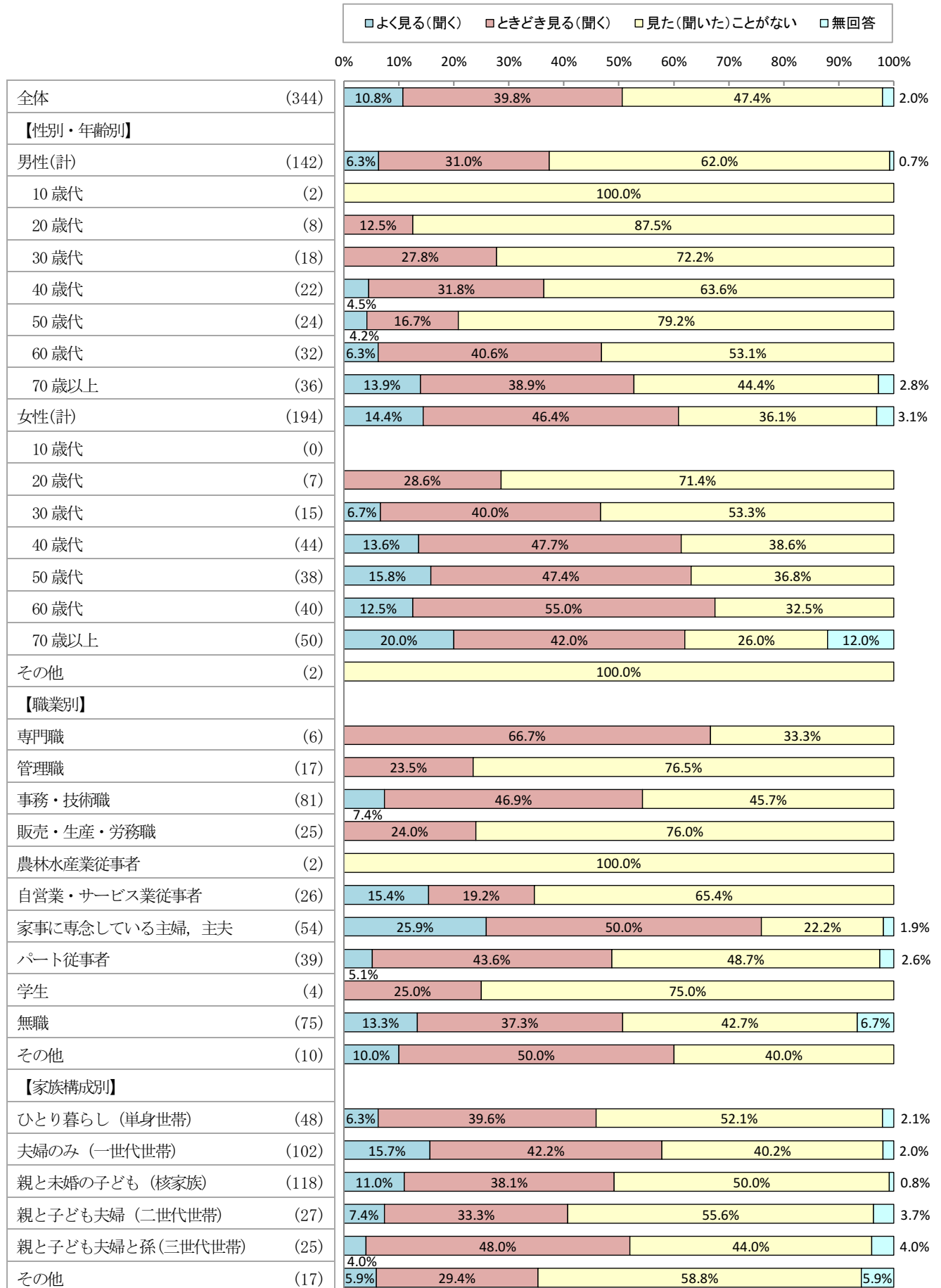
<図IV-2-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「広報塔」」



<図IV-2-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「動画モニター」」



<図IV-2-15>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「暮らしの便利帳」」

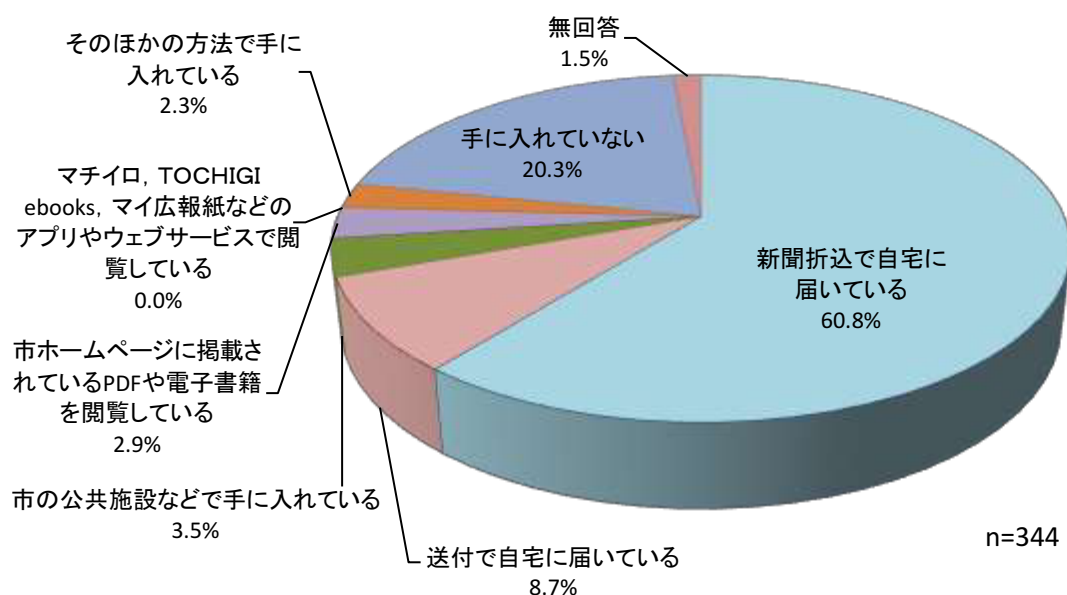


(2)「広報うつのみや」の入手方法

◇「新聞折込で自宅に届いている」が約6割

問5	あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」の情報を手に入れていますか。	(○は1つ)
		n=344
1	新聞折込で自宅に届いている	60.8%
2	送付で自宅に届いている	8.7%
3	市の公共施設などで手に入れている	3.5%
4	市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している	2.9%
5	マチイロ, TOCHIGI ebooks, マイ広報紙などのアプリやウェブサービスで閲覧している	0.0%
6	そのほかの方法で手に入れている	2.3%
7	手に入っていない	20.3%
	(無回答)	1.5%

<図IV-2-16>全体



「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が60.8%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は20.3%であった。(図IV-2-16)

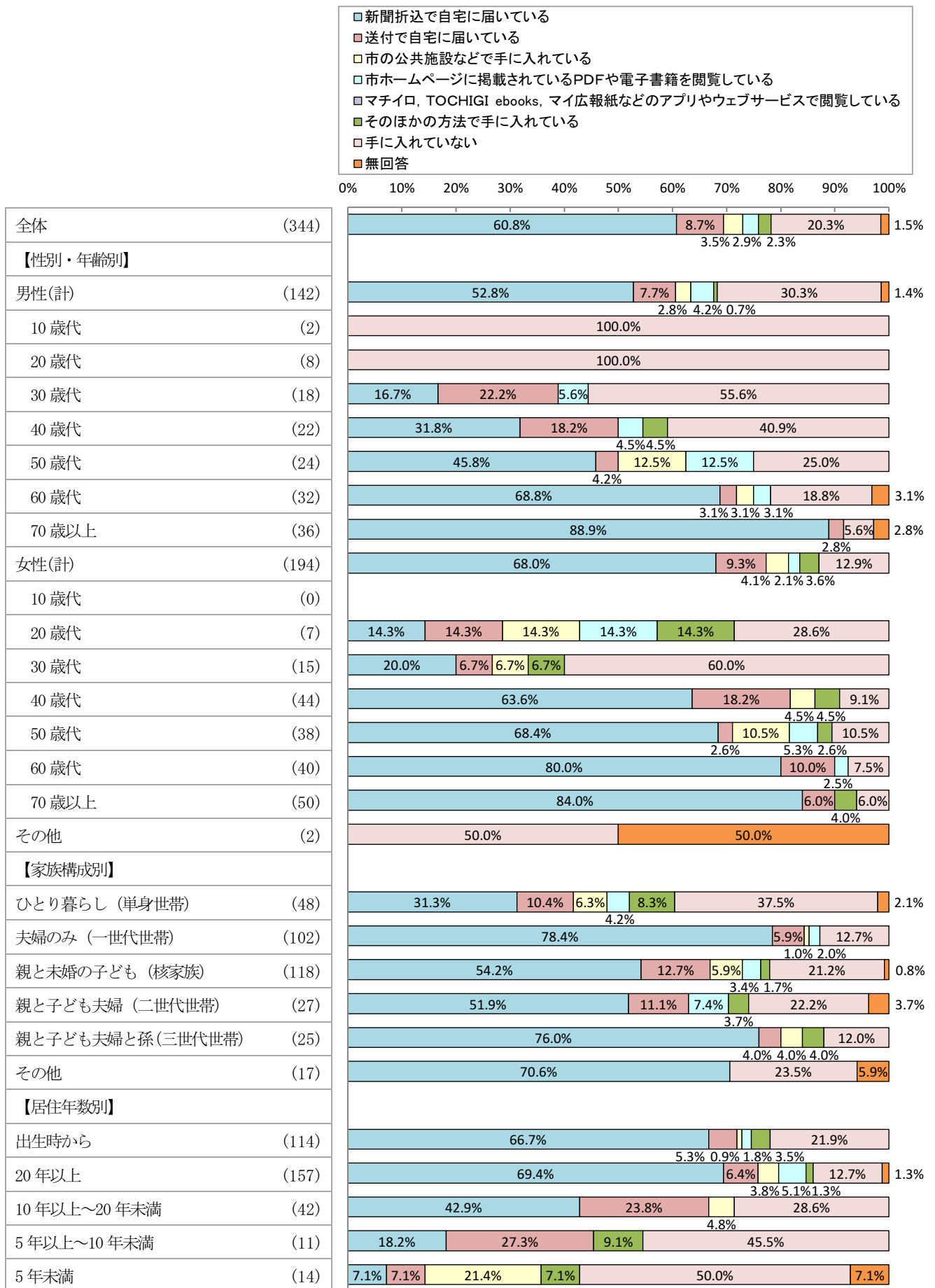
<参考>

性別・年齢別で見ると、「新聞折込で自宅に届いている」は<男性/70歳以上>が88.9%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が84.0%と続いている。一方、「手に入っていない」は<男性/10歳代>と<男性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が60.0%と続いている。(図IV-2-17)

家族構成別で見ると、「新聞折込で自宅に届いている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が78.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が76.0%であった。一方、「手に入っていない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が37.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が22.2%と続いている。(図IV-2-17)

居住年数別で見ると、「新聞折込で自宅に届いている」は<20年以上>が69.4%で最も高く、次いで<出生時から>が66.7%であった。一方、「手に入っていない」は<5年未満>が50.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が45.5%であった。(図IV-2-17)

<図IV-2-17>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

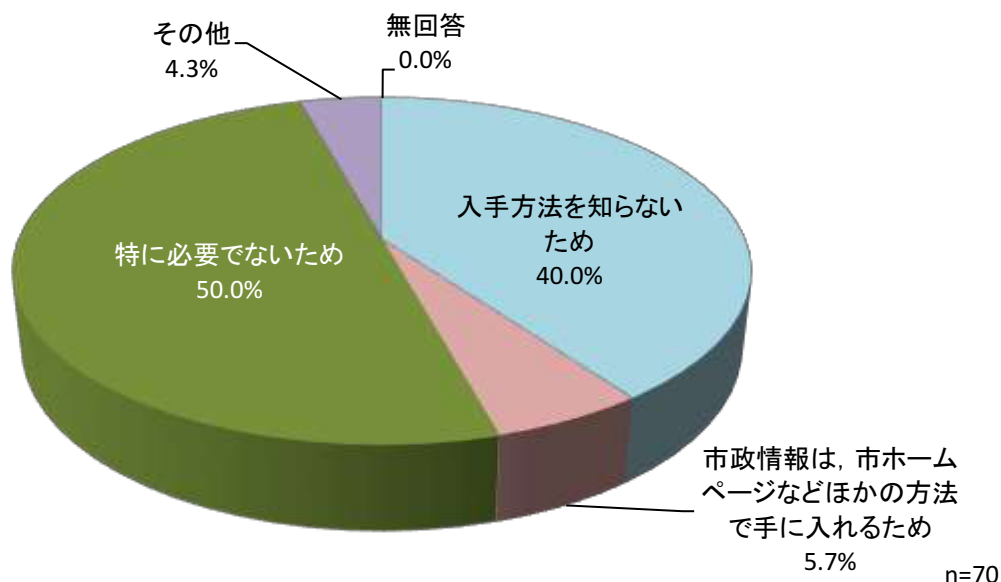


(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

◇ 「特に必要でないため」が約5割

問6	問5で、「7 手に入っていない」に○をつけた方にお聞きします。「広報うつのみや」の情報を入手していない理由を教えてください。(○は1つ)	n=70
1	入手方法を知らないため	40.0%
2	市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため	5.7%
3	特に必要でないため	50.0%
4	その他 (無回答)	4.3% 0.0%

<図IV-2-18>全体



「広報うつのみや」を入手していない理由については、「特に必要でないため」が 50.0%で最も高かった。一方、「入手方法を知らないため」が 40.0%と続いている。(図IV-2-18)

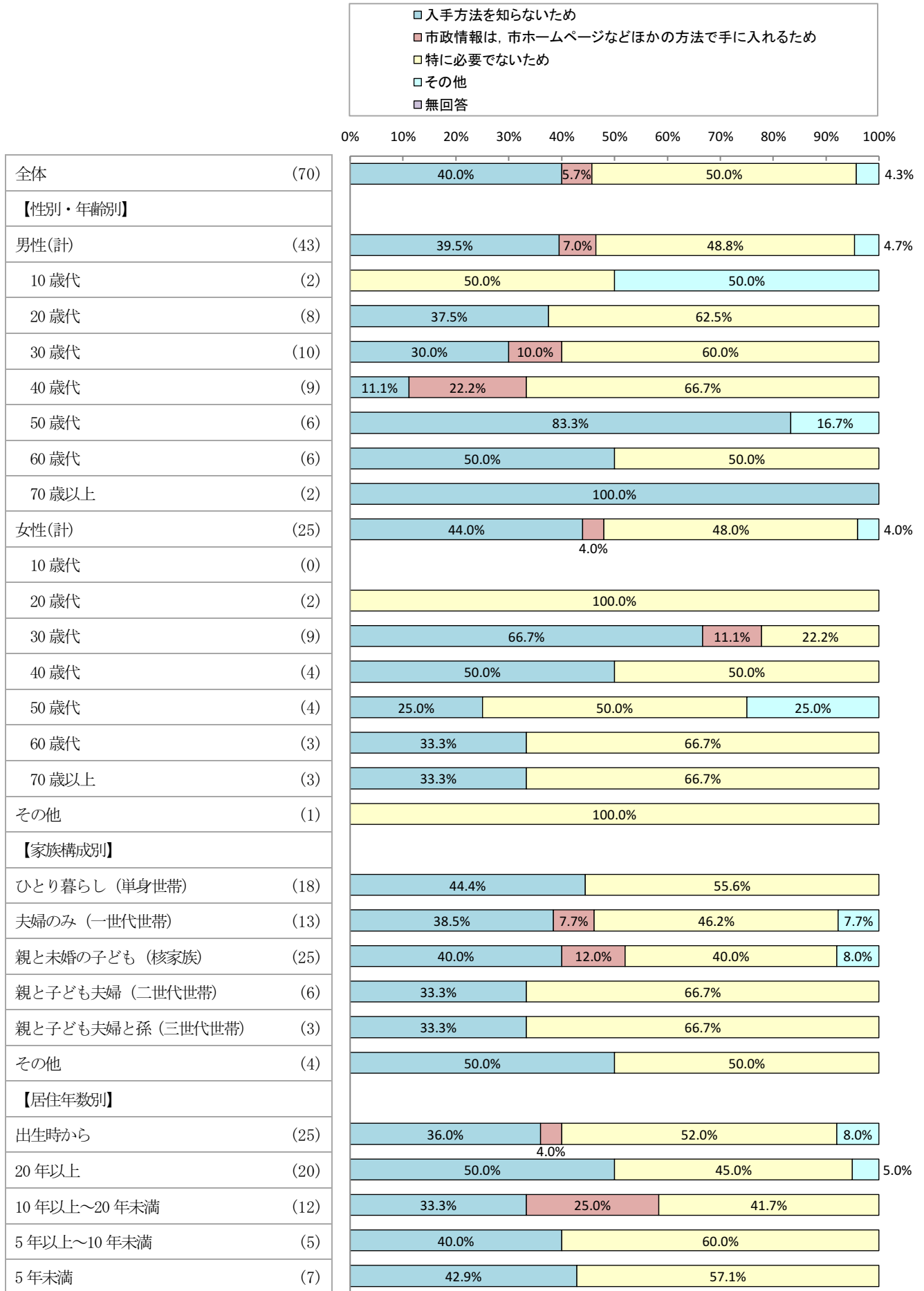
<参考>

性別・年齢別で見ると、「入手方法を知らないため」は<男性/70歳以上>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が 83.3%であった。一方、「特に必要でないため」は<その他>を除くと<女性/20歳代>が 100.0%で最も高かった。(図IV-2-19)

家族構成別で見ると、「入手方法を知らないため」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が 44.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 40.0%であった。(図IV-2-19)

居住年数別で見ると、「入手方法を知らないため」は<20年以上>が 50.0%で最も高く、次いで<5年未満>が 42.9%であった。(図IV-2-19)

<図IV-2-19>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(4)「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

◇「市政情報」が約7割

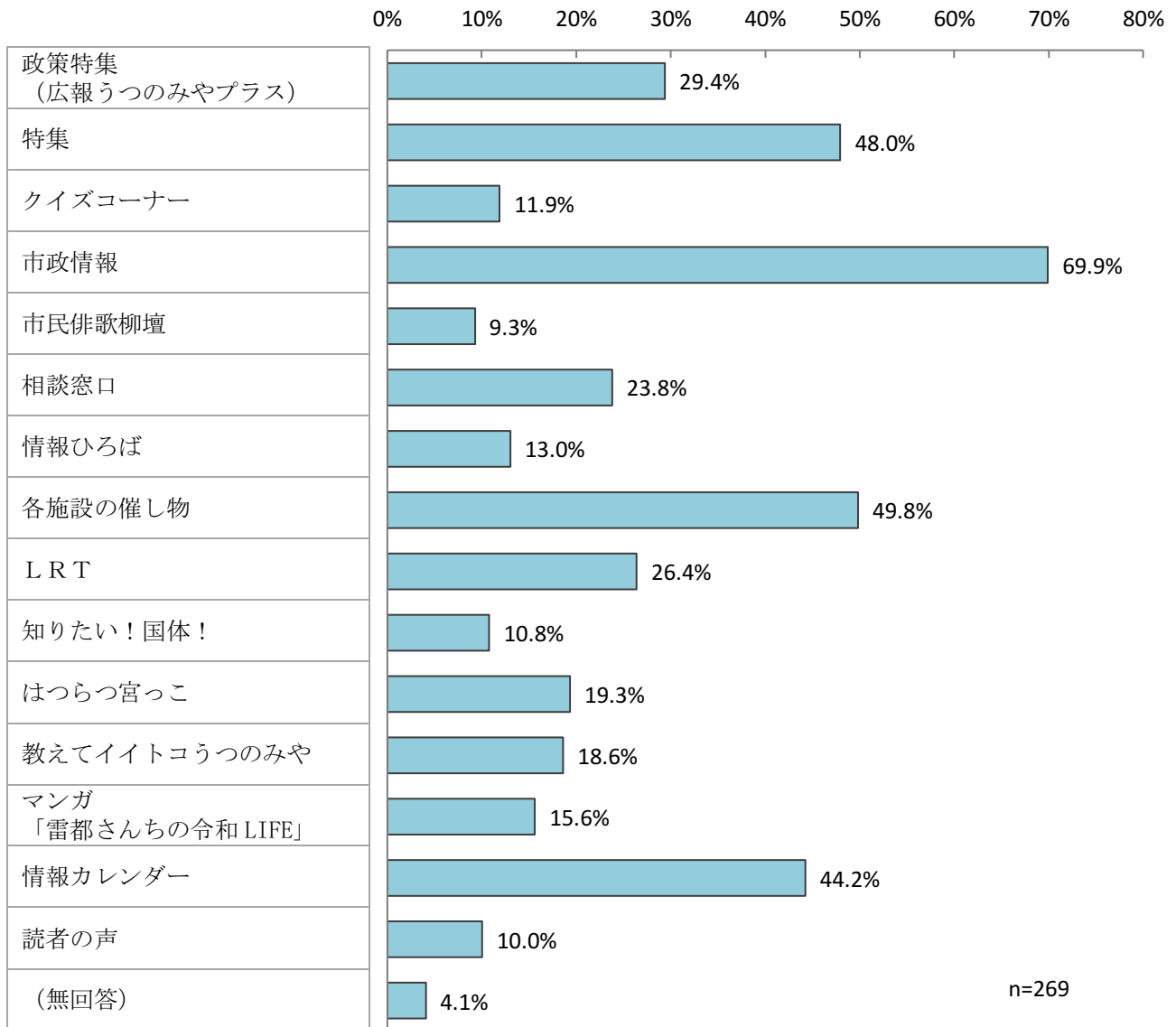
問7 問5で1～6に○をつけた方にお聞きします。

「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。
(○はいくつでも)

n=269

項目	ページ等	内容	
1 政策特集 (広報うつのみやプラス)	巻頭カラー	年に4回ほど掲載。 市の課題を問題提起し、市民の意見を掲載	29.4%
2 特集	巻頭カラー	毎月掲載。 市の重点事業や旬な話題など	48.0%
3 クイズコーナー	目次	宇都宮にまつわる知識等をクイズ形式で紹介	11.9%
4 市政情報	—	健康・子ども・住まい・暮らし・税・文化・スポーツ・施設の教室・講座など	69.9%
5 市民俳歌柳壇	—	市民から投稿された俳句・短歌・川柳を紹介	9.3%
6 相談窓口	—	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性など	23.8%
7 情報ひろば	—		13.0%
8 各施設の催し物	巻末カラー	宇都宮美術館、ろまんちっく村、図書館など	49.8%
9 L R T	巻末カラー	L R T事業について掲載	26.4%
10 知りたい！国体！	巻末カラー	宇都宮ケーブルテレビ連動企画。「いちご一会とちぎ国体」見どころ・魅力を紹介	10.8%
11 はつらつ宮っこ	巻末カラー	輝いている市民を紹介	19.3%
12 教えてイイトコうつのみや	巻末カラー	とちぎテレビ連動企画。リポーター井上マーさんが街を歩き宇都宮のイイトコを紹介	18.6%
13 マンガ 「雷都さんちの令和LIFE」	巻末カラー	マンガを通じて、耳寄り情報などを紹介	15.6%
14 情報カレンダー	—	市のイベントカレンダー	44.2%
15 読者の声	巻末カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見紹介	10.0%
(無回答)			4.1%

<図IV-2-20>全体



問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人(269人)に、どのような記事を主に読んでいるかについて聞いたところ、1位が「市政情報」で69.9%、2位「各施設の催し物」で49.8%、3位「特集」で48.0%、4位「情報カレンダー」で44.2%、5位「政策特集(広報うつのみやプラス)」で29.4%、6位「LRT」で26.4%という順であった。(図IV-2-20)

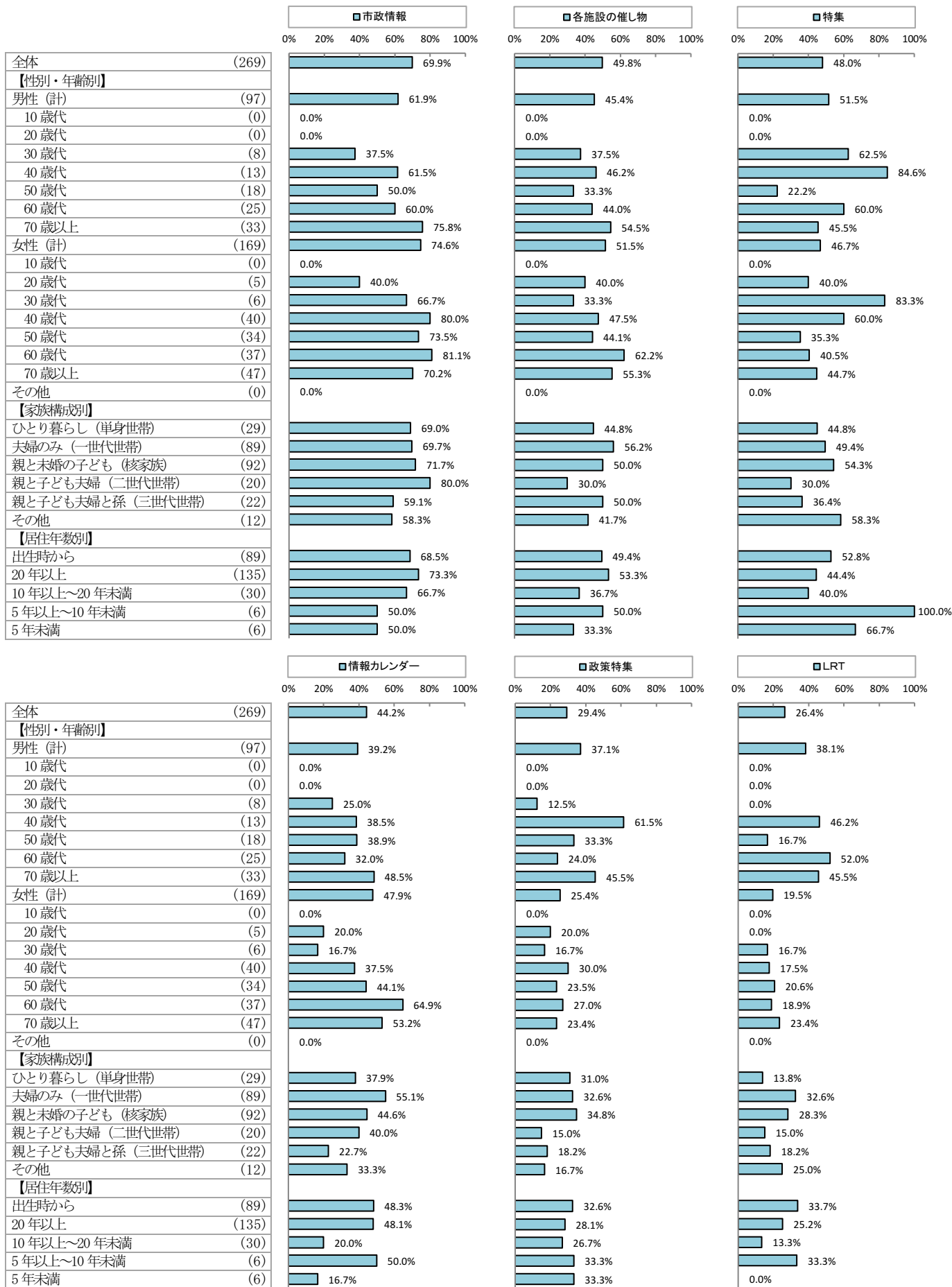
<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「市政情報」は<女性/60歳代>が81.1%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が80.0%であった。「各施設の催し物」は<女性/60歳代>が62.2%、「特集」は<男性/40歳代>が84.6%、「情報カレンダー」は<女性/60歳代>が64.9%で最も高かった。(図IV-2-21)

家族構成別で見ると、「市政情報」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が80.0%で最も高く、「各施設の催し物」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が56.2%、「特集」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が54.3%であった。(図IV-2-21)

居住年数別で見ると、「市政情報」は<20年以上>が73.3%で最も高く、「各施設の催し物」は<20年以上>が53.3%、「特集」は<5年以上~10年未満>が100.0%であった。(図IV-2-21)

<図IV-2-21>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位6項目）



(5) 広報うつのみやに関する感想, 取り上げてほしい話題・情報

問8 広報うつのみやに関する感想, 取り上げて欲しい話題や情報などをお書きください。

広報紙やホームページで充実してほしい記事や情報, 改善してほしい点などについては, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 広報うつのみやを宇都宮市の施設, 図書館や文化会館などに目立つように設置して, ホームページなどでアピールしてほしい。
- ◆ 市の都合の良い内容だけで, 反対意見の有る事項に全く対応が無い。市政の報告に欠けスポーツイベント記事が多すぎる。
- ◆ 広報を気軽によみたいが, どうしたら手に入るかがわからない。毎月自宅に届くようにしてくれたらうれしい。
- ◆ 市内各地区の歴史や旧跡, 町名の由来などが知りたい。
- ◆ ページ数を少なくし, 簡単なものにしてほしい。細かい情報はいらぬ。
- ◆ LRT 採算性及び赤字対策 今後の人口減及び少子化による次世代への負債多いに懸念。
- ◆ 市の顔である市長の顔が見えない。どんな仕事をしているのか? 公約に対しどんな進捗なのか? 次の市長選に対しても情報を載せるべきでは?
- ◆ 飲食店紹介 うつのみやで活躍する文化人やうつのみや出身の有名人の紹介。
- ◆ 季節の果物の物価と道の駅での販売イベントの一覧。
- ◆ 宇都宮市のかくれた情報や穴場, 魅力などを教えてほしい 知られていない歴史なども。
- ◆ 高齢者の方々が振込サギに会わない秘訣とか? 見破る手法等…大切かと考えます。
- ◆ 宇都宮市の歴史 (成り立ちなど), これからどのようなまちづくり (ビジョン) を宇都宮市としてしていくのかを簡単にわかりやすく説明した資料。
- ◆ 市内の名所や有名店を紹介してほしい。
- ◆ 地域単位で行っているイベントにフォーカスを当てた, コラムみたいな取材記事が欲しいですね。
- ◆ 若者からお年寄りまで参加している小さなコミュニティの成功しているイベントなどは, 他のコミュニティにも地域活性の参考になるのではと思います。
- ◆ ムーブネクストの取組。
- ◆ 宇都宮の文化財記事をシリーズで掲載しては。
- ◆ 料理
- ◆ 福祉サービス情報
- ◆ ニャンニャ係長が好きです。

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 「うつのみや」の表紙が可愛らしく良かった。

【その他】

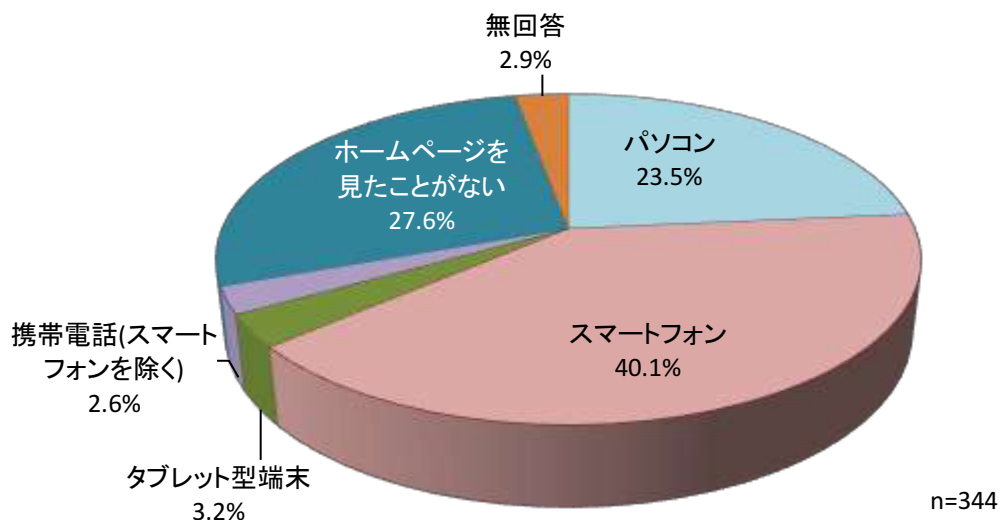
- ◆ 東図書館で映画を見えています。
- ◆ 広報うつのみやはほとんど読んでいます。
- ◆ いろいろな方面の情報が載せられており, 大変助かっています。今後もよろしく願いいたします。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

◇ 「スマートフォン」が約4割

問9 市ではホームページを開設しています。ホームページを見るための主な手段は何ですか。		(○は1つ)
		n=344
1	パソコン	23.5%
2	スマートフォン	40.1%
3	タブレット型端末	3.2%
4	携帯電話(スマートフォンを除く)	2.6%
5	ホームページを見たことが無い (無回答)	27.6% 2.9%

<図IV-2-22>全体



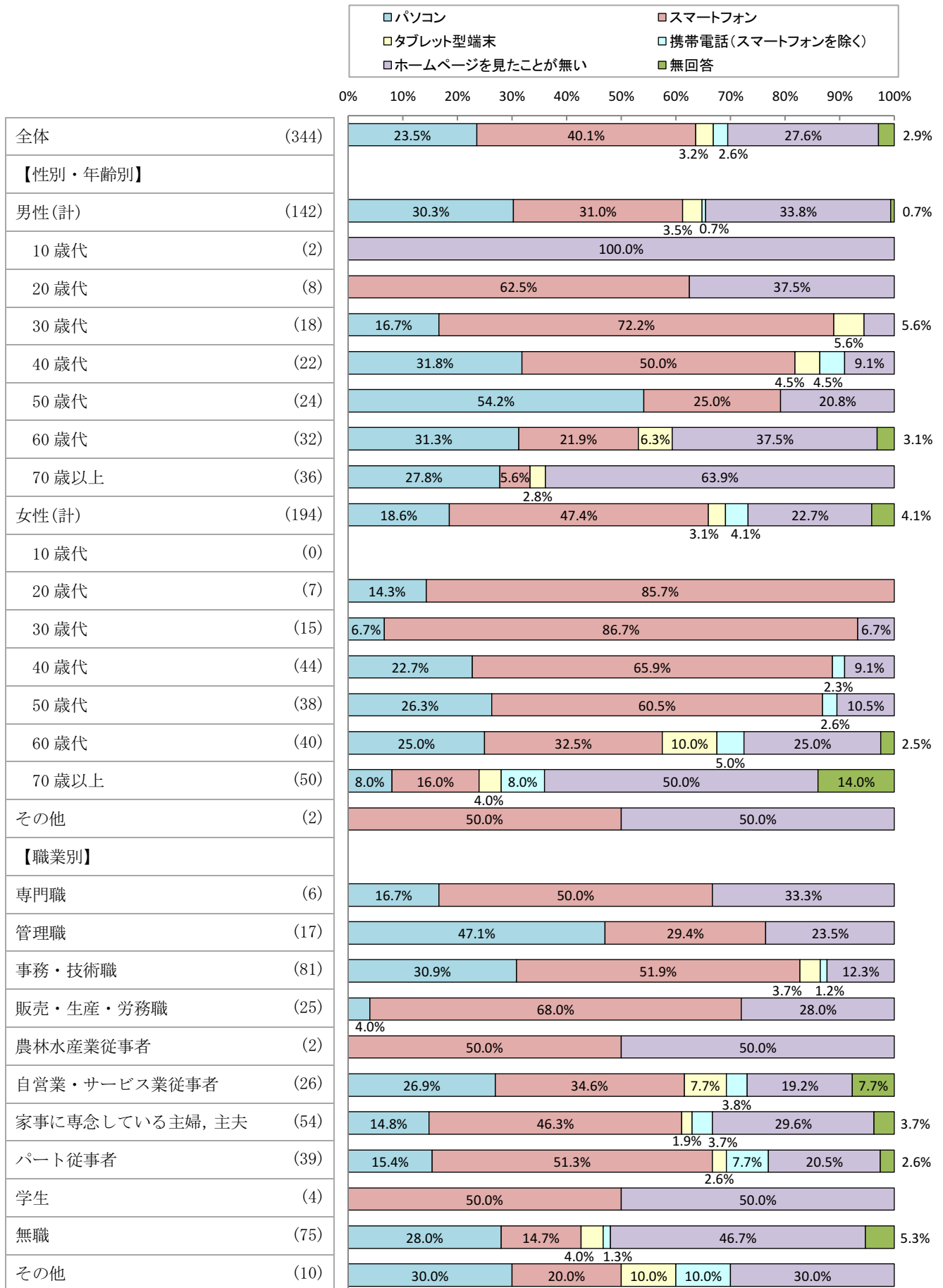
市のホームページを見るための主な手段については、「スマートフォン」が40.1%で最も高く、次いで「ホームページを見たことがない」が27.6%、「パソコン」が23.5%と続いている。(図IV-2-22)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「スマートフォン」は<女性/30歳代>が86.7%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が85.7%であった。「パソコン」は<男性/50歳代>が54.2%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が31.8%であった。(図IV-2-23)

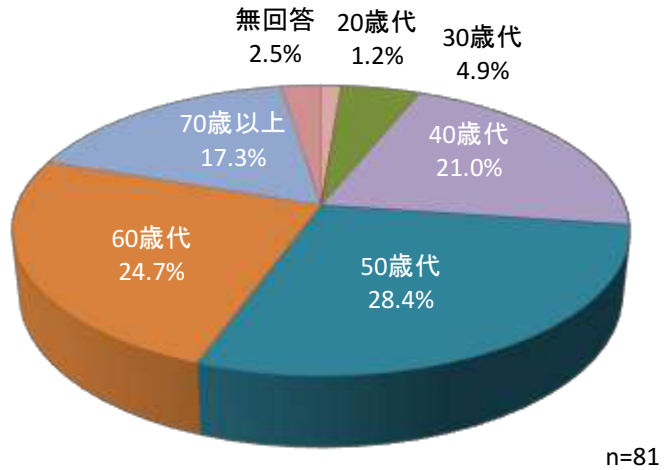
職業別で見ると、「スマートフォン」は<販売・生産・労務職>が68.0%で最も高かった。「パソコン」は<管理職>が47.1%で最も高かった。(図IV-2-23)

<図IV-2-23>性別・年齢別/職業別



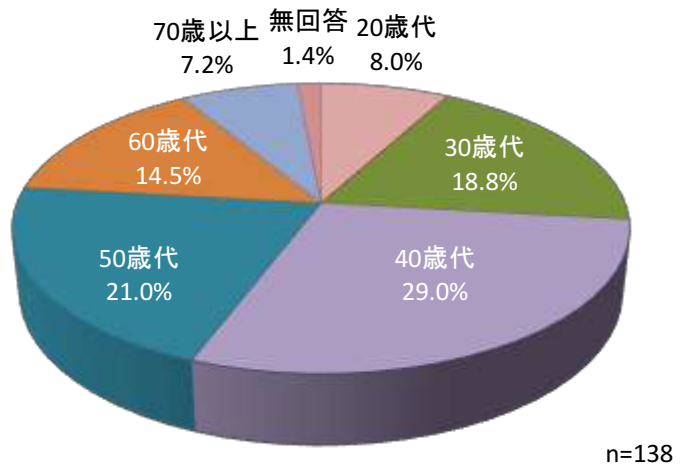
<図Ⅳ-2-24> 【パソコン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	1.2%
30歳代	4.9%
40歳代	21.0%
50歳代	28.4%
60歳代	24.7%
70歳以上	17.3%
無回答	2.5%



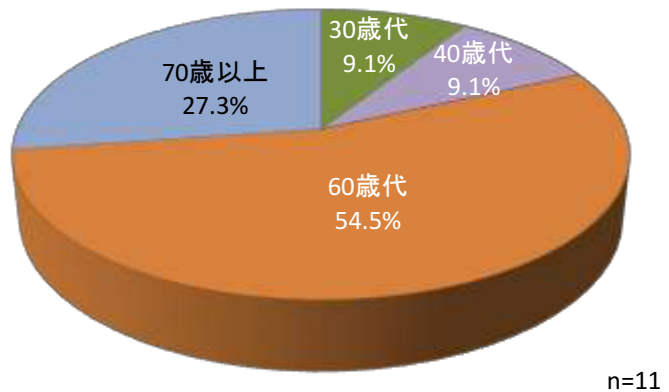
<図Ⅳ-2-25> 【スマートフォン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	8.0%
30歳代	18.8%
40歳代	29.0%
50歳代	21.0%
60歳代	14.5%
70歳以上	7.2%
無回答	1.4%



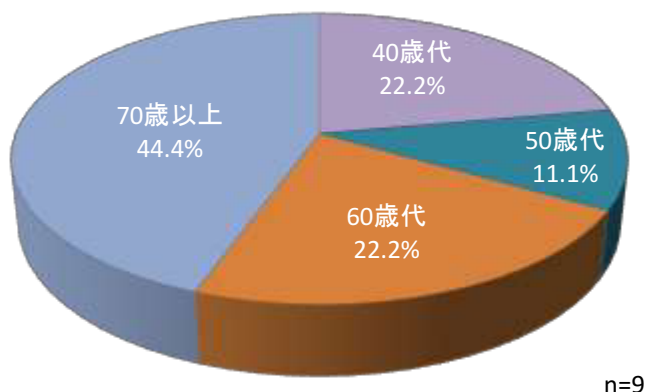
<図Ⅳ-2-26> 【タブレット型端末】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	9.1%
40歳代	9.1%
50歳代	0.0%
60歳代	54.5%
70歳以上	27.3%
無回答	0.0%



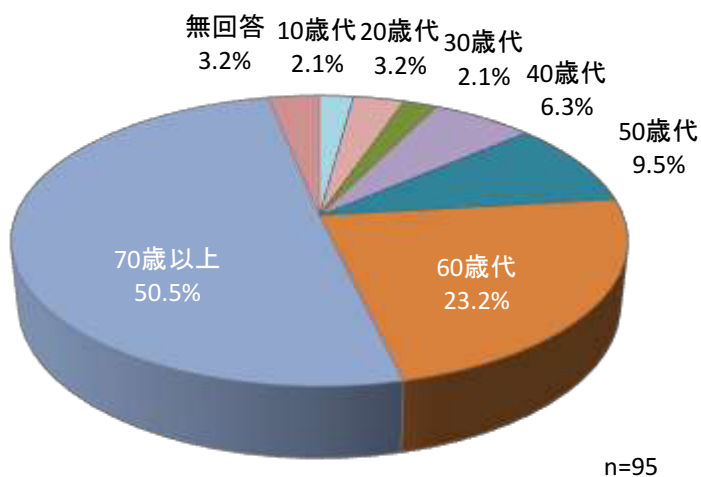
<図Ⅳ-2-27> 【携帯電話（スマートフォンを除く）】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	22.2%
50歳代	11.1%
60歳代	22.2%
70歳以上	44.4%
無回答	0.0%



<図Ⅳ-2-28> 【ホームページを見たことがない】年齢別

【年齢別】	
10歳代	2.1%
20歳代	3.2%
30歳代	2.1%
40歳代	6.3%
50歳代	9.5%
60歳代	23.2%
70歳以上	50.5%
無回答	3.2%

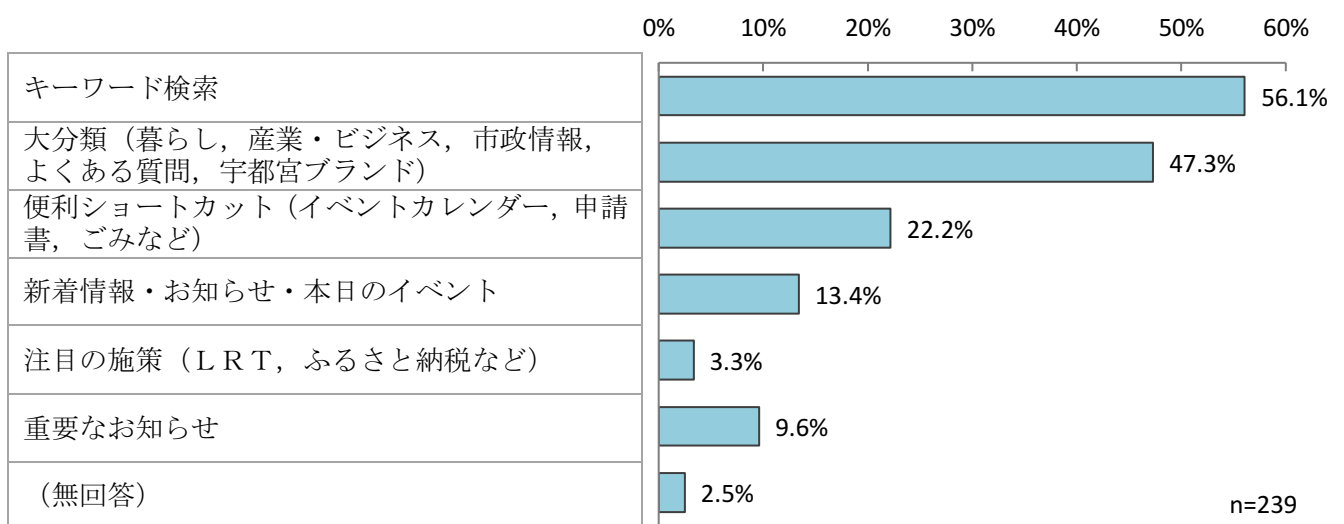


(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

◇ 「キーワード検索」が5割半ば

問10	問9で1～4に○をつけた方にお聞きます。ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探しますか。	(○は3つまで)	n=239
1	キーワード検索		56.1%
2	大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)		47.3%
3	便利ショートカット (イベントカレンダー, 申請書, ごみなど)		22.2%
4	新着情報・お知らせ・本日のイベント		13.4%
5	注目の施策 (LRT, ふるさと納税など)		3.3%
6	重要なお知らせ		9.6%
	(無回答)		2.5%

<図IV-2-29>全体



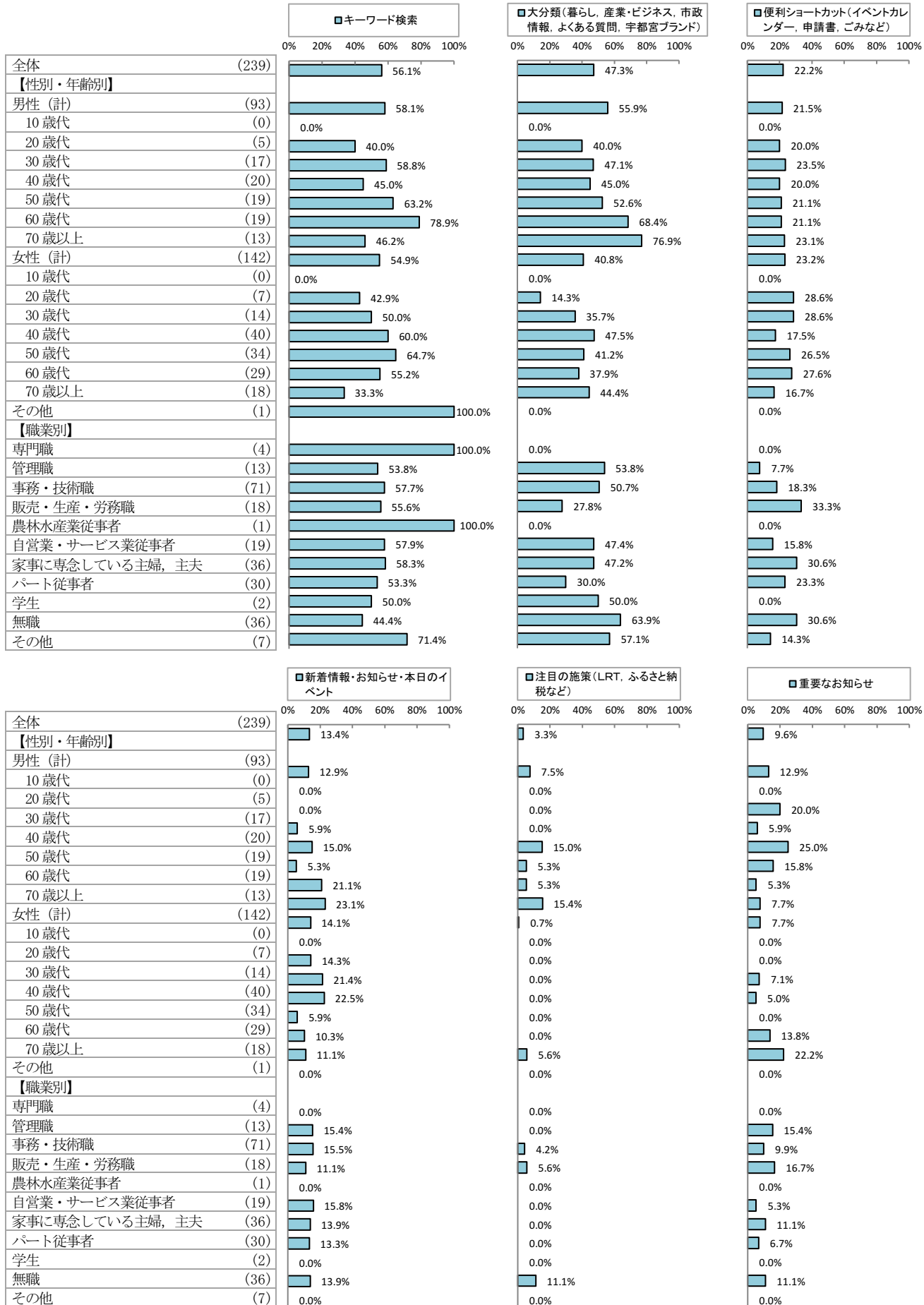
ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「キーワード検索」が56.1%で最も高く、次いで「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」が47.3%と続いている。(図IV-2-29)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「キーワード検索」は<その他>を除くと、<男性/60歳代>が78.9%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が64.7%であった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」は<男性/70歳以上>が76.9%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が68.4%であった。(図IV-2-30)

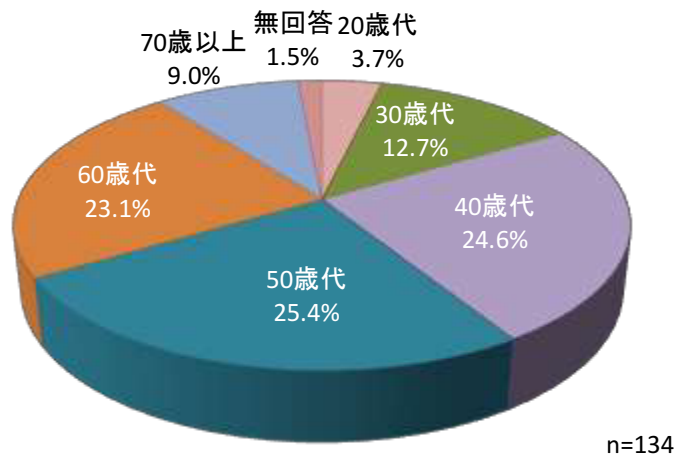
職業別で見ると、「キーワード検索」は<専門職>と<農林水産業従事者>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと、<家事に専念している主婦, 主夫>が58.3%であった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」は<無職>が63.9%で最も高く、次いで<その他>を除くと、<管理職>が53.8%であった。(図IV-2-30)

<図IV-2-30>性別・年齢別／職業別



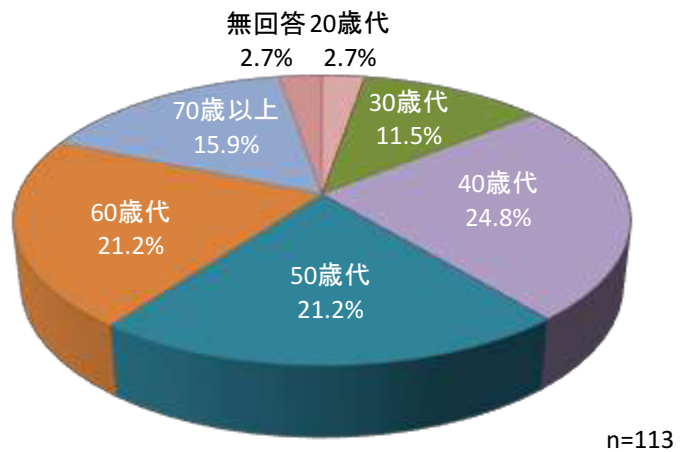
<図Ⅳ-2-31> 【キーワード検索】 年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	3.7%
30歳代	12.7%
40歳代	24.6%
50歳代	25.4%
60歳代	23.1%
70歳以上	9.0%
無回答	1.5%



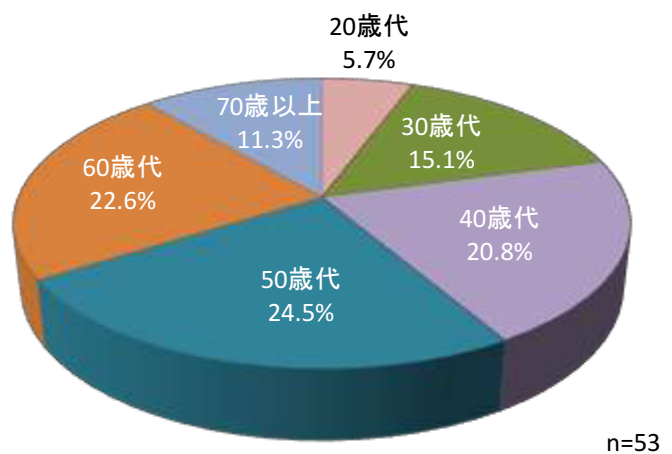
<図Ⅳ-2-32> 【大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）】 年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	2.7%
30歳代	11.5%
40歳代	24.8%
50歳代	21.2%
60歳代	21.2%
70歳以上	15.9%
無回答	2.7%



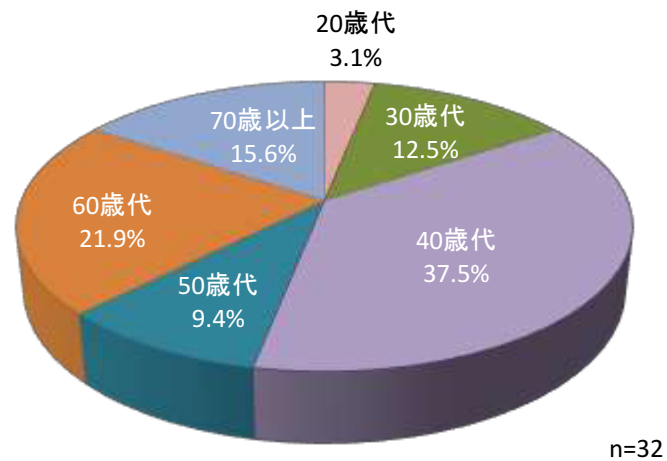
<図Ⅳ-2-33> 【便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書、ごみなど）】 年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	5.7%
30歳代	15.1%
40歳代	20.8%
50歳代	24.5%
60歳代	22.6%
70歳以上	11.3%
無回答	0.0%



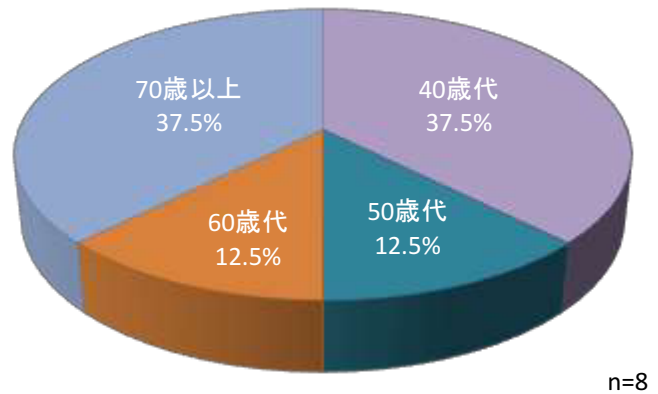
<図IV-2-34> 【新着情報・お知らせ・本日のイベント】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	3.1%
30歳代	12.5%
40歳代	37.5%
50歳代	9.4%
60歳代	21.9%
70歳以上	15.6%
無回答	0.0%



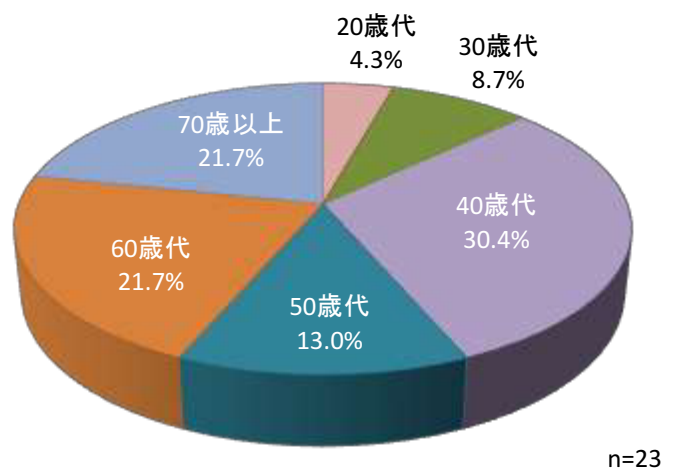
<図IV-2-35> 【注目の施策（LRT，ふるさと納税など）】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	37.5%
50歳代	12.5%
60歳代	12.5%
70歳以上	37.5%
無回答	0.0%



<図IV-2-36> 【重要なお知らせ】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	4.3%
30歳代	8.7%
40歳代	30.4%
50歳代	13.0%
60歳代	21.7%
70歳以上	21.7%
無回答	0.0%

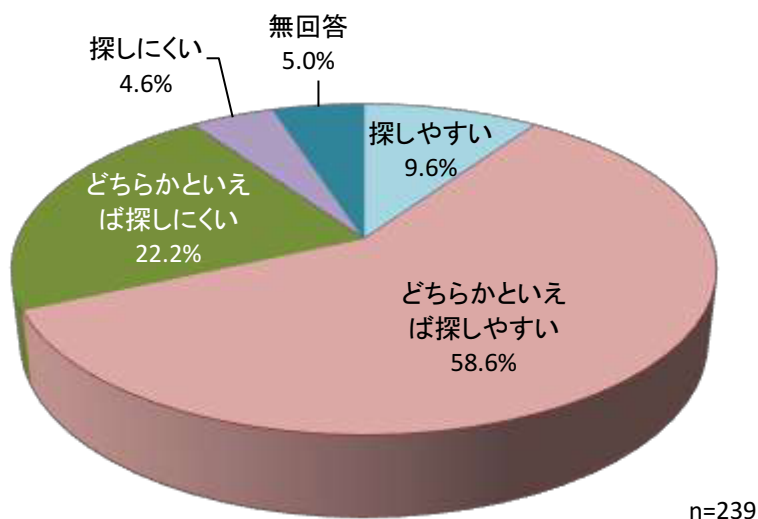


(8) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

◇ 「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が7割弱

問11	問9で1～4に○をつけた方にお聞きます。ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいですか。(○は1つ)	n=239
1	探しやすい	9.6%
2	どちらかといえば探しやすい	58.6%
3	どちらかといえば探しにくい	22.2%
4	探しにくい	4.6%
	(無回答)	5.0%

<図IV-2-37>全体



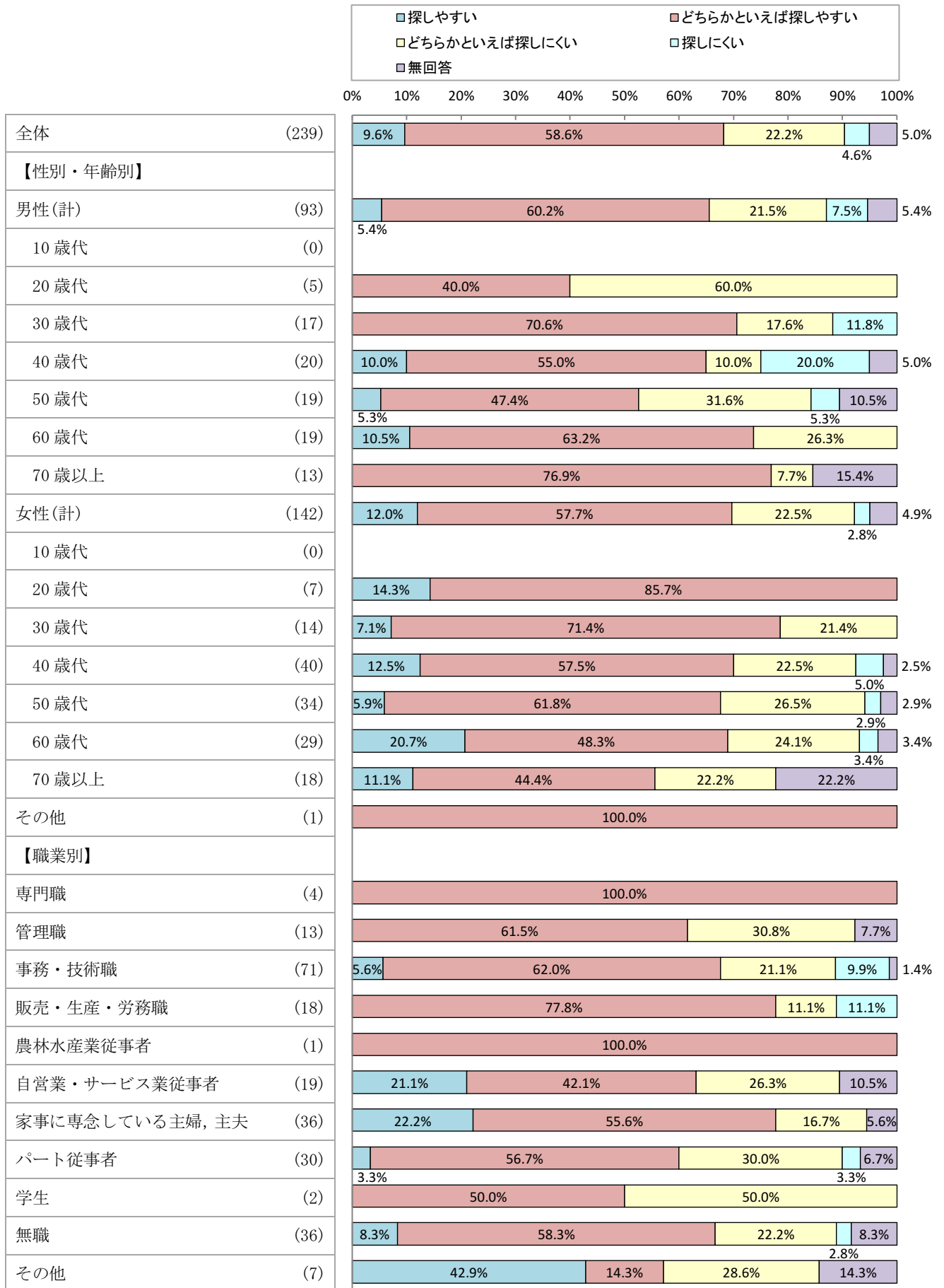
ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」が9.6%、「どちらかといえば探しやすい」が58.6%で、これらを合わせた【探しやすい(計)】は68.2%であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」22.2%、「探しにくい」4.6%で、これらを合わせた【探しにくい(計)】は26.8%であった。(図IV-2-37)

<参考>

性別・年齢別で見ると、【探しやすい(計)】は<その他>を除くと<女性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が78.5%であった。一方、【探しにくい(計)】は<男性/20歳代>が60.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が36.9%であった。(図IV-2-38)

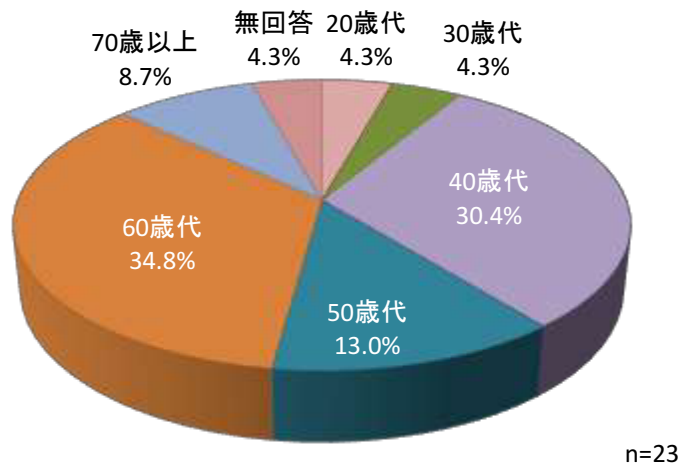
職業別で見ると、【探しやすい(計)】は<専門職>と<農林水産業従事者>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>と<家事に専念している主婦、主夫>がいずれも77.8%であった。【探しにくい(計)】は<学生>が50.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が33.3%であった。(図IV-2-38)

<図IV-2-38>性別・年齢別/職業別



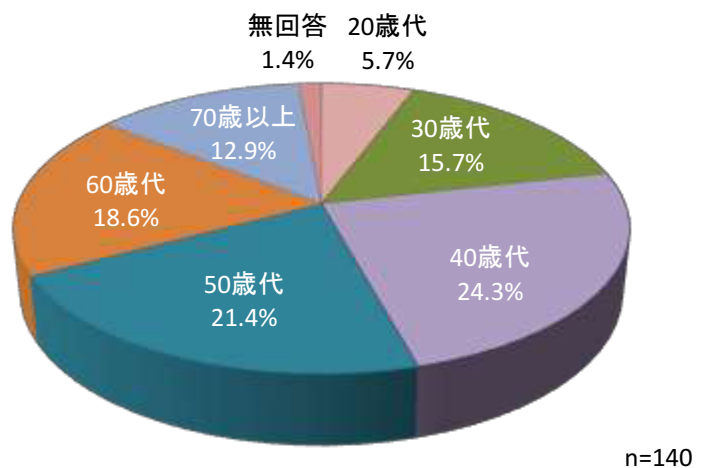
<図Ⅳ-2-39> 【探しやすい】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	4.3%
30歳代	4.3%
40歳代	30.4%
50歳代	13.0%
60歳代	34.8%
70歳以上	8.7%
無回答	4.3%



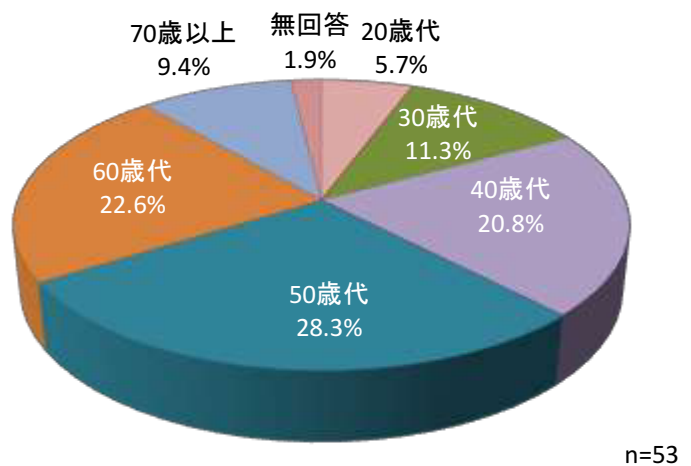
<図Ⅳ-2-40> 【どちらかといえば探しやすい】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	5.7%
30歳代	15.7%
40歳代	24.3%
50歳代	21.4%
60歳代	18.6%
70歳以上	12.9%
無回答	1.4%



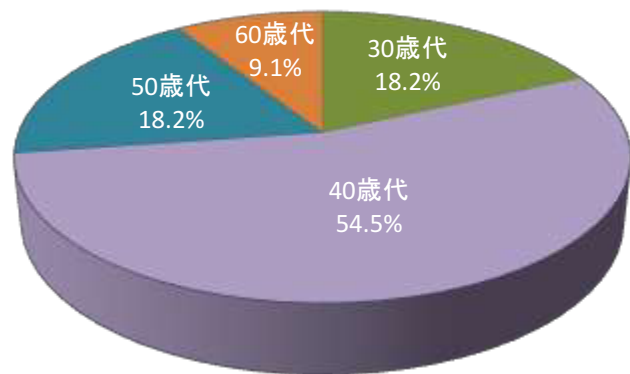
<図Ⅳ-2-41> 【どちらかといえば探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	5.7%
30歳代	11.3%
40歳代	20.8%
50歳代	28.3%
60歳代	22.6%
70歳以上	9.4%
無回答	1.9%



<図Ⅳ－２－４２> 【探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	0.0%
30 歳代	18.2%
40 歳代	54.5%
50 歳代	18.2%
60 歳代	9.1%
70 歳以上	0.0%
無回答	0.0%



n=11

(9) ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報

問12 ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などをお書きください。

ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などについては, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 議会の委員会議事録が3ヶ月後になっていて利用して陳情や議員への要請が出来ない。3ヶ月も掛かるのであればDVD公開にして書面を廃止したら良いのでは。3ヶ月も掛かって議事録と言うのは民間では有り得ない常識です。
- ◆ 申請書類等, ダウンロードすることがあるのですが, 最新でない事がある。情報は常に最新にしてほしい。
- ◆ コロナワクチン情報等をお願いします。(助成も含めて)
- ◆ 情報を探す際, サイト構成がリンクを複数回辿るような深いツリー型の階層になっていることがあり, 少々手間に感じることもある。
- ◆ 医療情報, 発熱外来, 救急外来情報。
- ◆ 電子申請の拡充をしていただきたいと思います。
- ◆ 中高年の習い事を教えて頂きたい。
- ◆ 市民サークル活動の状況。

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 必要な情報を得るために色々なページを行ったり来たりしなくてはならないことがある。分かりやすくなれば良いと思う。
- ◆ 私のやり方が悪いのか今のところあまりホームページを利用することはありません。利用してまで知りたいと思うことが少ないのかどうか分かりませんが。
- ◆ いつも見やすく満足している。情報がのるのが早くてよい。
- ◆ シンプルなものにしてほしい。観光情報を派手にのせてほしい。
- ◆ 分からない事象の表現ができず検索ができないのでツリー方式の一覧表かQ&A的な項目がほしい。例(見た事はあるが聞いた事はあるが…名前が分からない物)を検索する方法とか?
- ◆ 宇都宮市のwebサイトは, あれもこれもと情報てんこ盛りの古いタイプのデザインですね。自分の知っている中では「山梨市」, 近隣では「野木町」のサイトがデザイン的にも整理されて見やすいと思いました。
- ◆ サイト内検索窓をトップページの上部に大きく・・・(と, 同時に検索スキルを持たない人への配慮もお願いします)
- ◆ トップページの見やすい場所に緊急情報欄を常に表示して欲しい。
- ◆ 今後, より見やすく, 使いやすいwebサイトなるよう期待しています。
- ◆ ダウンロードできるデータを, 一覧にしてほしい。
- ◆ タグ付の充実。
- ◆ HP内の検索はTOPページからは分かりにくく, Google検索等のリンクから目的のページを探すことが多い。TOPページから再度探そうとしたときに見つからない。リンクの階層が深い, 種別の分類がわかりにくい。

【その他】

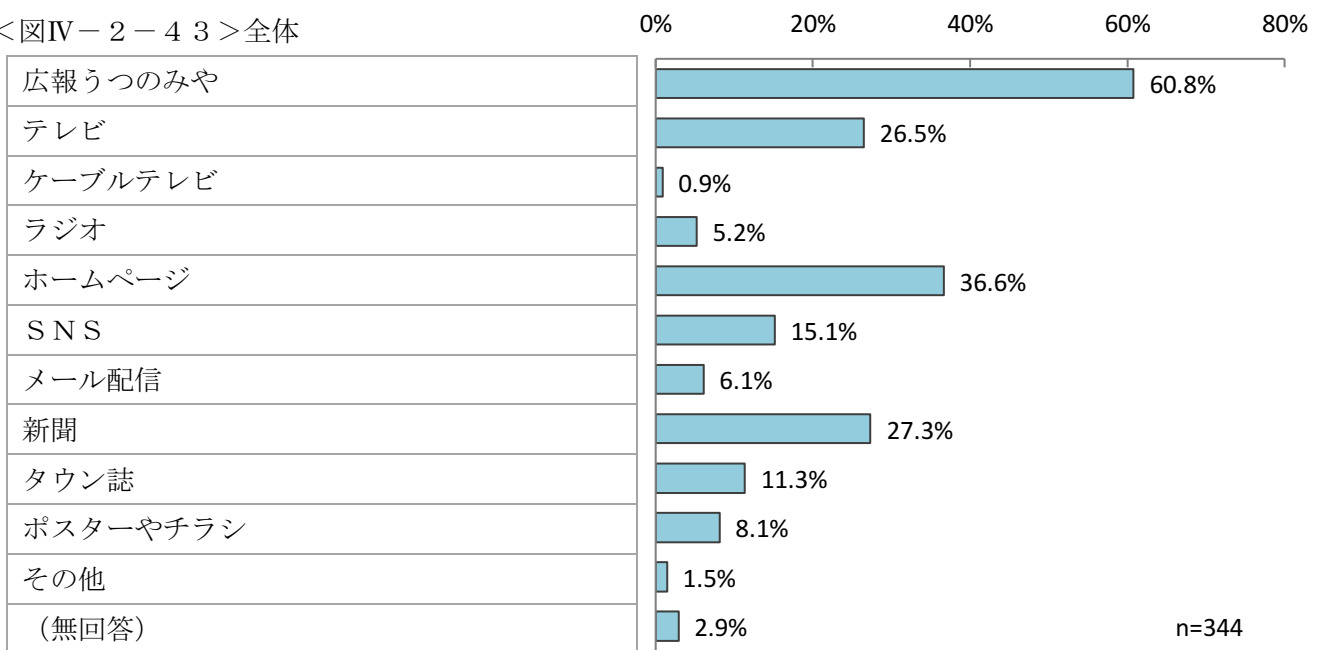
- ◆ パソコンを持っていないのでわかりません。
- ◆ 図書館での催し物をもっと多くして欲しい。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

◇ 「広報うつのみや」が約6割

問13	今後、市政情報をどんな手段で知りたいですか。	(〇は3つまで)
		n=344
1	広報うつのみや	60.8%
2	テレビ	26.5%
3	ケーブルテレビ	0.9%
4	ラジオ	5.2%
5	ホームページ	36.6%
6	SNS	15.1%
7	メール配信	6.1%
8	新聞	27.3%
9	タウン誌	11.3%
10	ポスターやチラシ	8.1%
11	その他	1.5%
	(無回答)	2.9%

<図IV-2-43>全体



今後、市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が60.8%で最も高く、次いで「ホームページ」が36.6%と続いている。(図IV-2-43)

その他の意見としては、「自治会回覧」「You Tube」「LINE」「アプリ」があった。

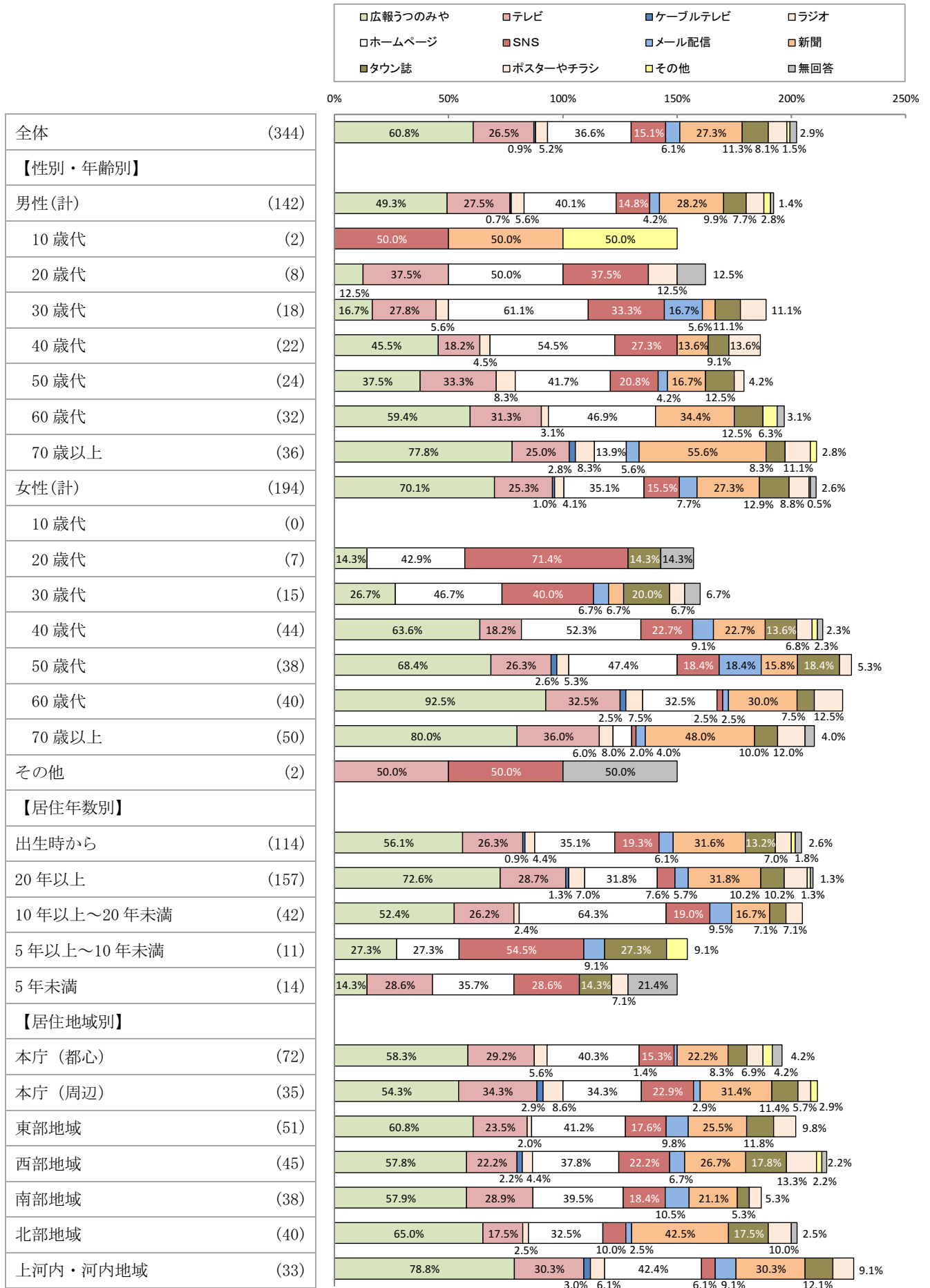
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報うつのみや」は<女性/60歳代>が92.5%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が80.0%であった。「ホームページ」は<男性/30歳代>が61.1%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が54.5%であった。(図IV-2-44)

居住年数別で見ると、「広報うつのみや」は<20年以上>が72.6%で最も高く、次いで<出生時から>が56.1%であった。「ホームページ」は<10年以上~20年未満>が64.3%で最も高く、次いで<5年未満>が35.7%であった。(図IV-2-44)

居住地域別で見ると、「広報うつのみや」は<上河内・河内地域>が78.8%で最も高く、次いで<北部地域>が65.0%であった。「ホームページ」は<上河内・河内地域>が42.4%で最も高く、次いで<東部地域>が41.2%であった。(図IV-2-44)

<図Ⅳ－２－４４>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



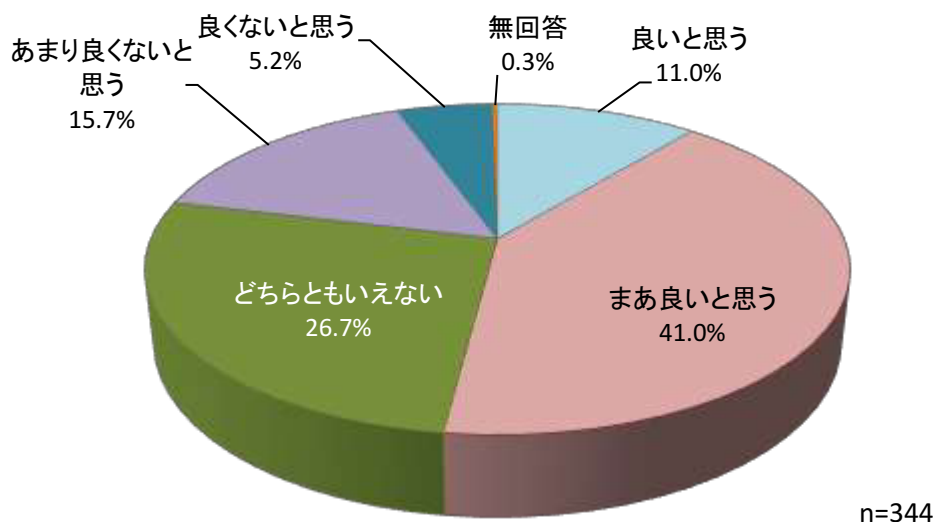
3. 健康づくりについて

(1) 健康面からの生活習慣

◇ 「良いと思う」と「まあ良いと思う」を合わせた【良いと思う（計）】が5割強

問14	健康の面から見て、自分の生活習慣をどう思いますか。	(○は1つ)
		n=344
1	良いと思う	11.0%
2	まあ良いと思う	41.0%
3	どちらともいえない	26.7%
4	あまり良くないと思う	15.7%
5	良くないと思う	5.2%
	(無回答)	0.3%

<図IV-3-1>全体



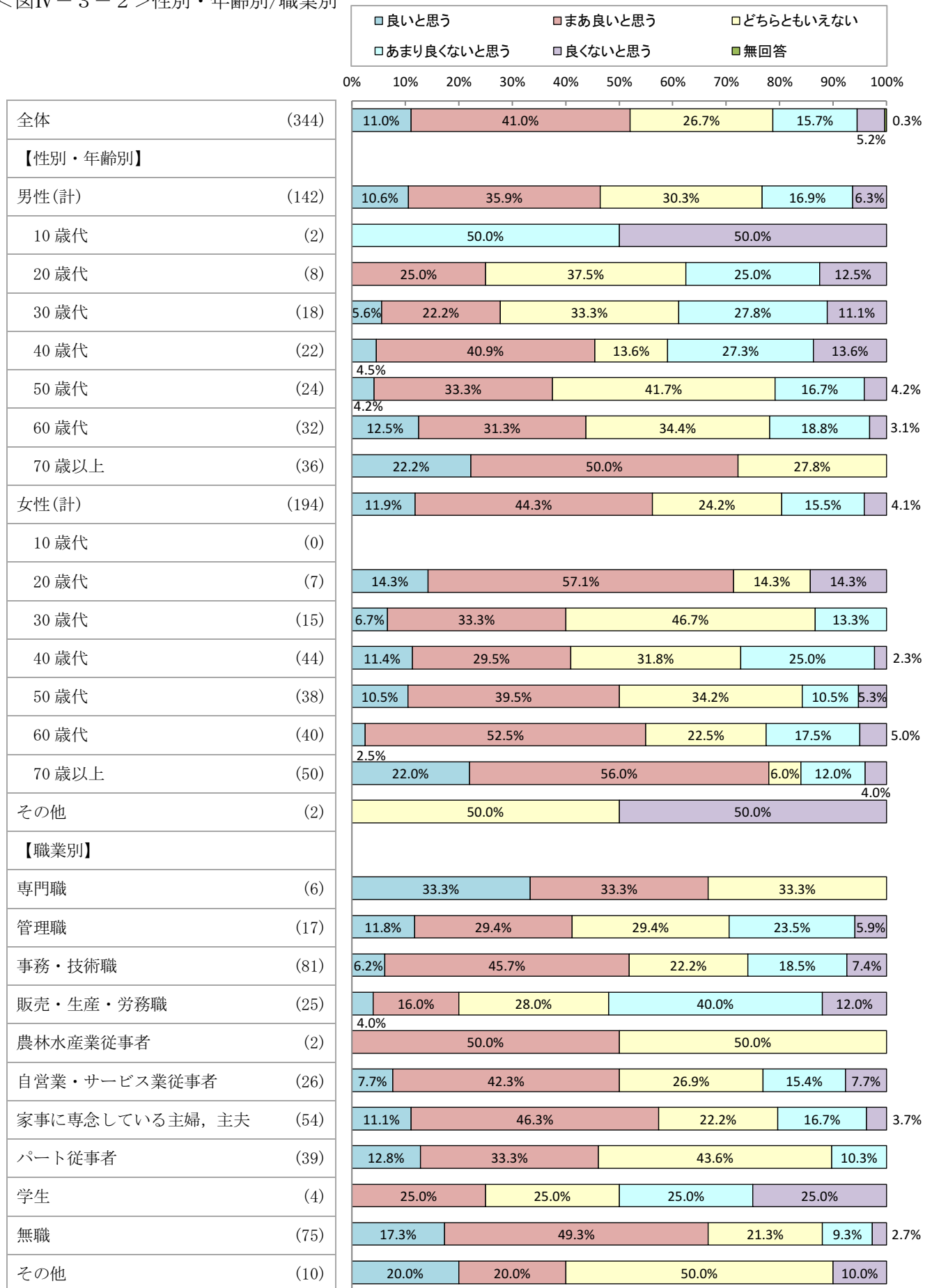
健康面からの生活習慣については、「良いと思う」が 11.0%、「まあ良いと思う」が 41.0%で、これらを合わせた【良いと思う（計）】は 52.0%であった。一方、「あまり良くないと思う」15.7%、「良くないと思う」5.2%で、これらを合わせた【良くないと思う（計）】は 20.9%であった。（図IV-3-1）

<参考>

性別・年齢別で見ると、【良いと思う（計）】は<女性/70歳以上>が 78.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 72.2%であった。一方、【良くないと思う（計）】は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<男性/40歳代>が 40.9%であった。（図IV-3-2）

職業別で見ると、【良いと思う（計）】は<専門職>と<無職>がいずれも 66.6%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が 57.4%であった。一方、【良くないと思う（計）】は<販売・生産・労務職>が 52.0%で最も高く、次いで<学生>が 50.0%であった。（図IV-3-2）

<図Ⅳ－3－2>性別・年齢別/職業別

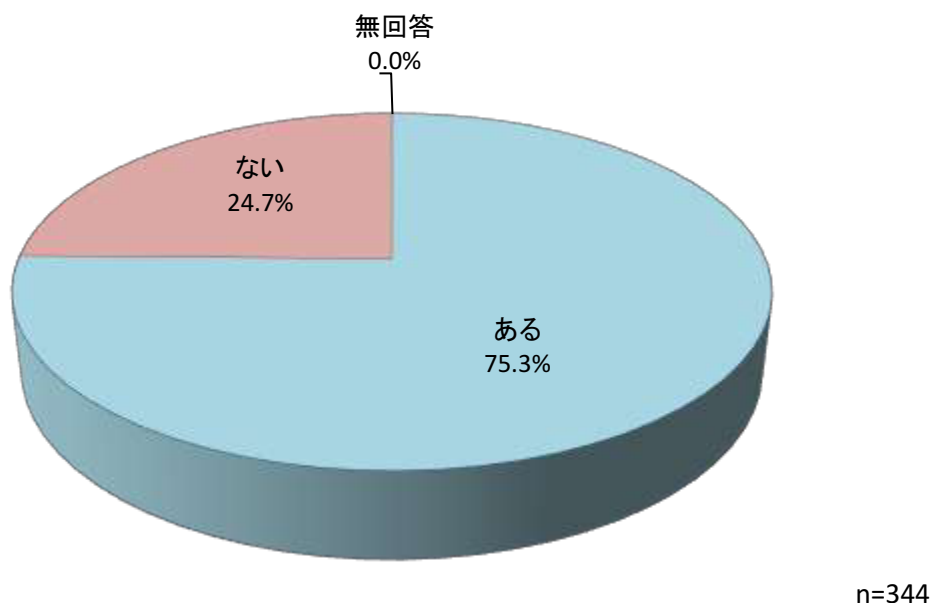


(2) 相談できるかかりつけの歯科医院

◇ 「ある」が7割半ば

問15	歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はありますか。	(○は1つ)	n=344
1	ある		75.3%
2	ない		24.7%
	(無回答)		0.0%

<図IV-3-3>全体



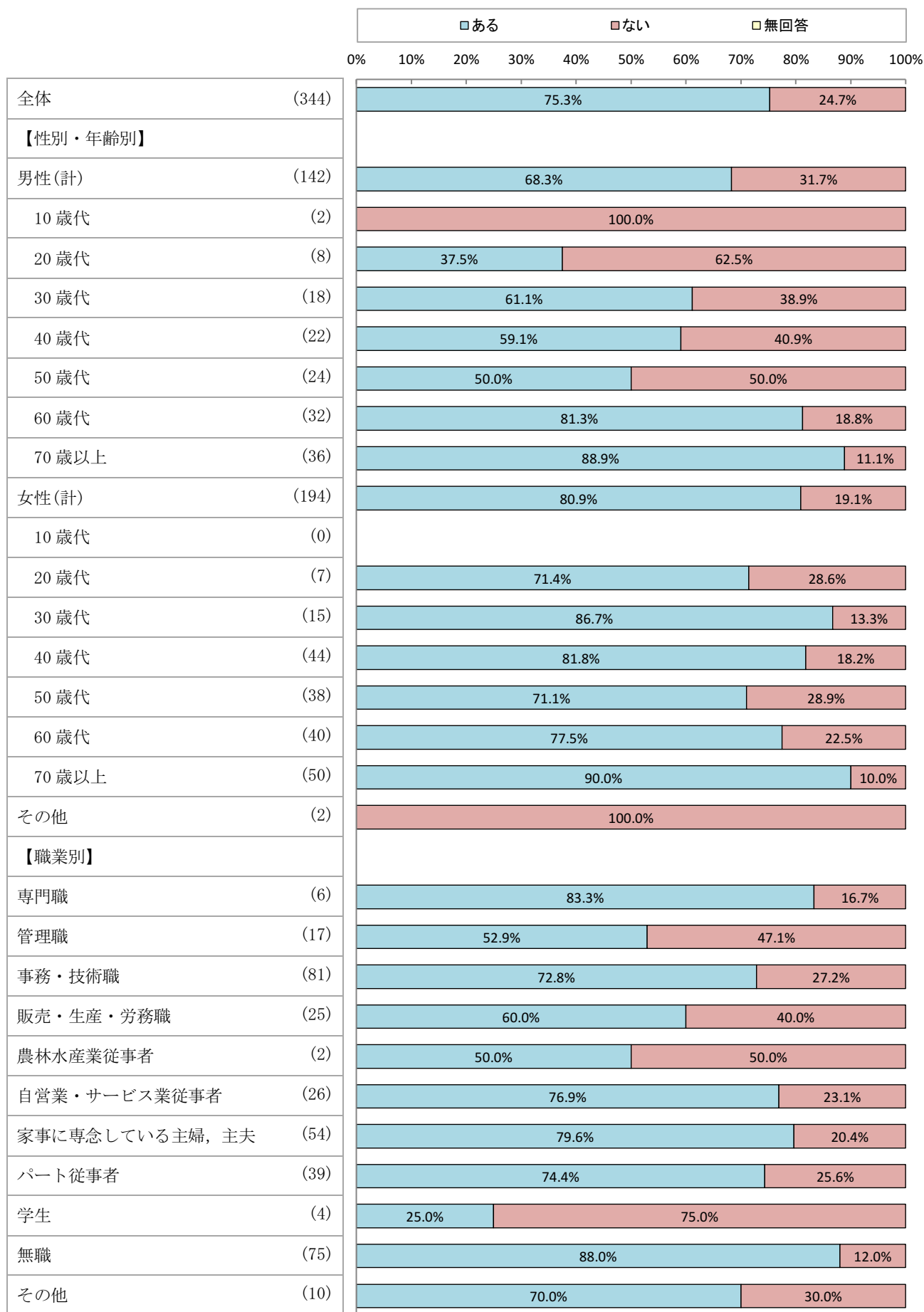
相談できるかかりつけの歯科医院については、「ある」が75.3%、一方、「ない」が24.7%であった。(図IV-3-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「ある」は<女性/70歳以上>が90.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が88.9%であった。一方、「ない」は<その他>を除くと、<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が62.5%と続いている。(図IV-3-4)

職業別で見ると、「ある」は<無職>が88.0%で最も高く、次いで<専門職>が83.3%であった。一方、「ない」は<学生>が75.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が50.0%であった。(図IV-3-4)

<図IV-3-4>性別・年齢別/職業別

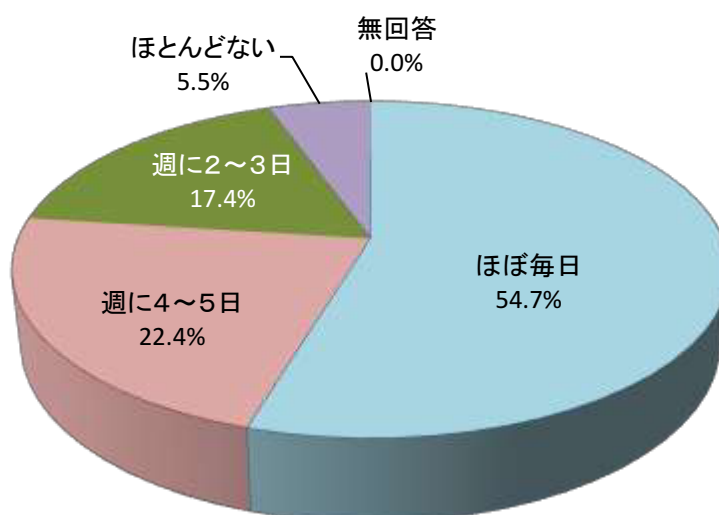


(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

◇ 「ほぼ毎日」が5割半ば

問16	主食・主菜・副菜(※)をそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。 ※主食とは、ごはん・パン・めん類などの穀物でエネルギー源となるもの。主菜とは、肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理など。副菜とは、野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理など。	(○は1つ)
		n=344
1	ほぼ毎日	54.7%
2	週に4～5日	22.4%
3	週に2～3日	17.4%
4	ほとんどない	5.5%
	(無回答)	0.0%

<図IV-3-5>全体



n=344

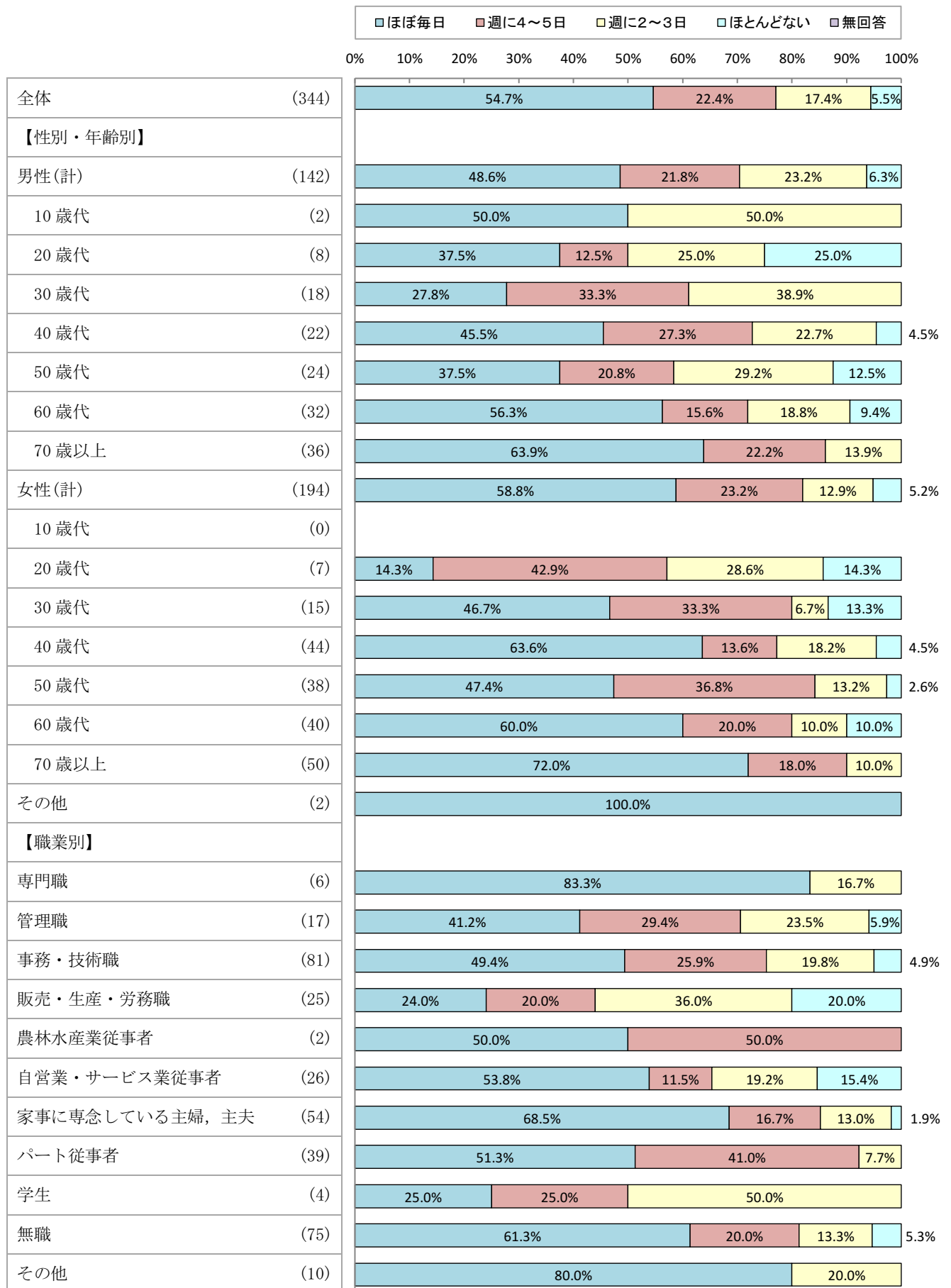
主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数については、「ほぼ毎日」が54.7%で最も高く、次いで「週に4～5日」が22.4%、「週に2～3日」が17.4%と続いている。(図IV-3-5)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「ほぼ毎日」は<その他>を除くと<女性/70歳以上>が72.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が63.9%と続いている。一方、「ほとんどない」は<男性/20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が14.3%と続いている。(図IV-3-6)

職業別で見ると、「ほぼ毎日」は<専門職>が83.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと<家事に専念している主婦、主夫>が68.5%であった。一方、「ほとんどない」は<販売・生産・労務職>が20.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が15.4%であった。(図IV-3-6)

<図IV-3-6>性別・年齢別/職業別



4. 「カスタマーハラスメント」の認知度について

(1) 「カスタマーハラスメント」の認知度

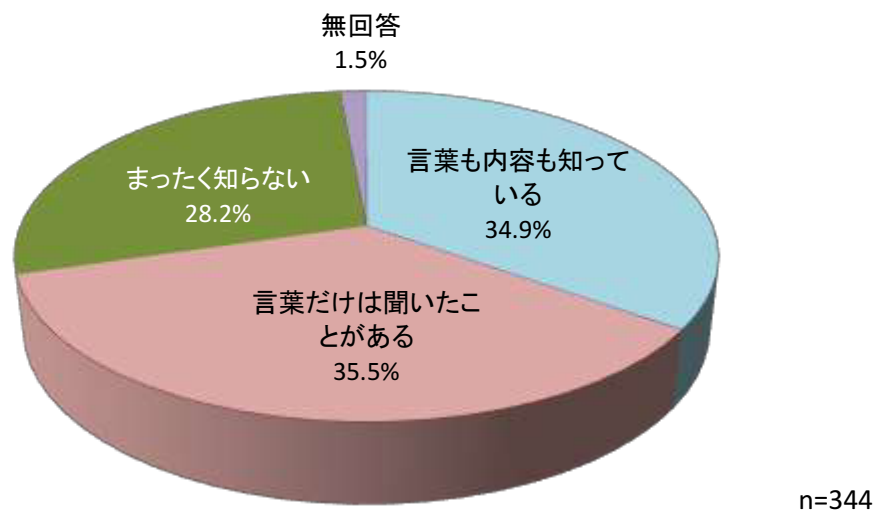
◇ 「言葉も内容も知っている」と「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた【知っている（計）】が約7割

問17 カスタマーハラスメント（※）について知っていますか。

※カスタマーハラスメントとは、顧客等による過大な要求や、不当な言いがかりなど、主張内容等に問題があるものや、主張する内容には正当性があるが、暴力や暴言など、主張方法に問題があるものが考えられます。暴力行為を始め、中には犯罪行為に当たる可能性のあるものも含まれます。 (○は1つ)

	n=344
1 言葉も内容も知っている	34.9%
2 言葉だけは聞いたことがある	35.5%
3 まったく知らない	28.2%
(無回答)	1.5%

<図IV-4-1>全体



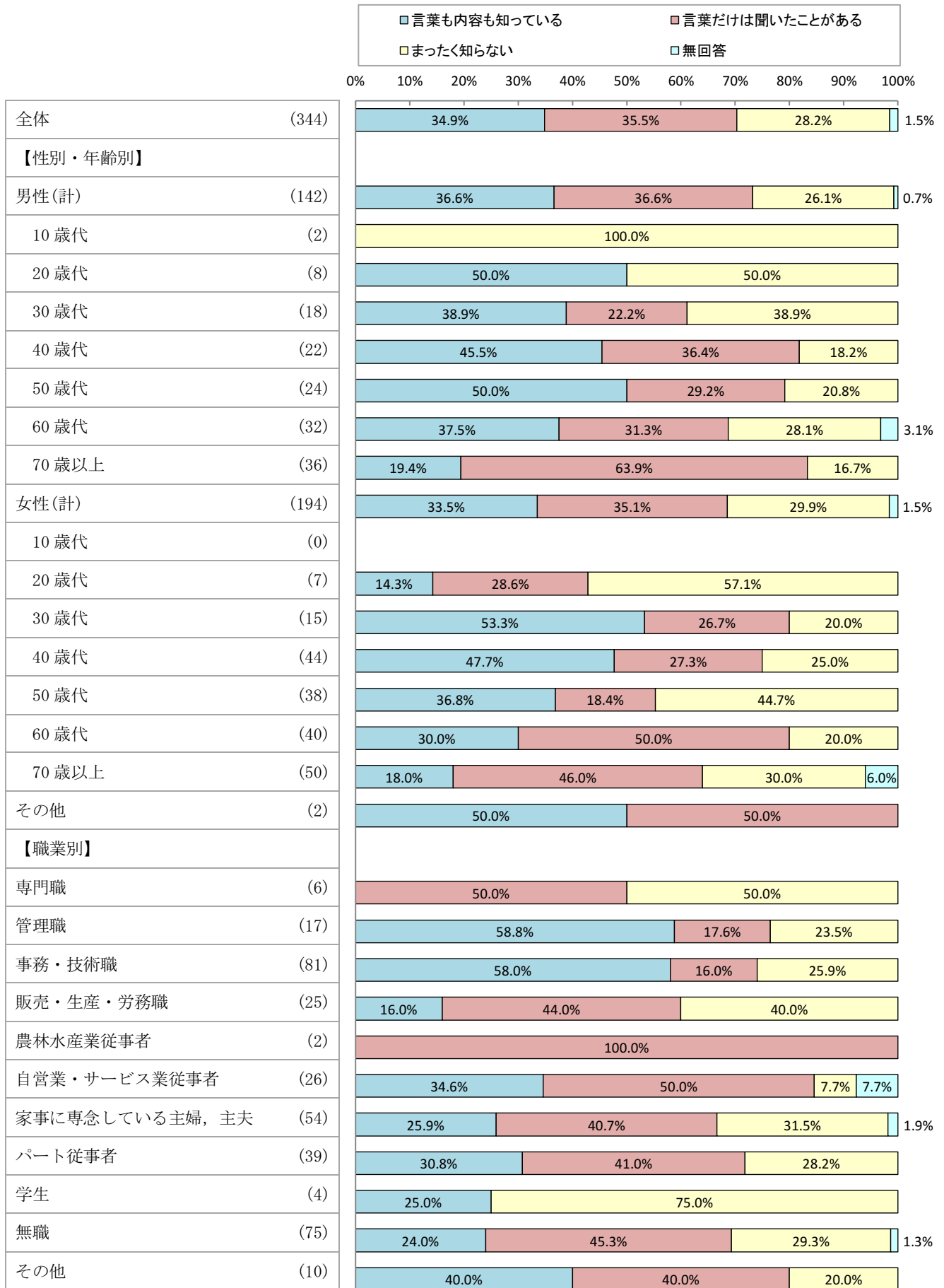
カスタマーハラスメントの認知度については、「言葉だけは聞いたことがある」が35.5%で最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」が34.9%、「まったく知らない」が28.2%であった。(図IV-4-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<女性/30歳代>が53.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと、<男性/20歳代>と<男性/50歳代>がいずれも50.0%であった。一方、「まったく知らない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が57.1%であった。(図IV-4-2)

職業別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<管理職>が58.8%で最も高く、次いで<事務・技術職>が58.0%であった。一方、「まったく知らない」は<学生>が75.0%で最も高く、次いで<専門職>が50.0%であった。(図IV-4-2)

<図IV-4-2>性別・年齢別/職業別



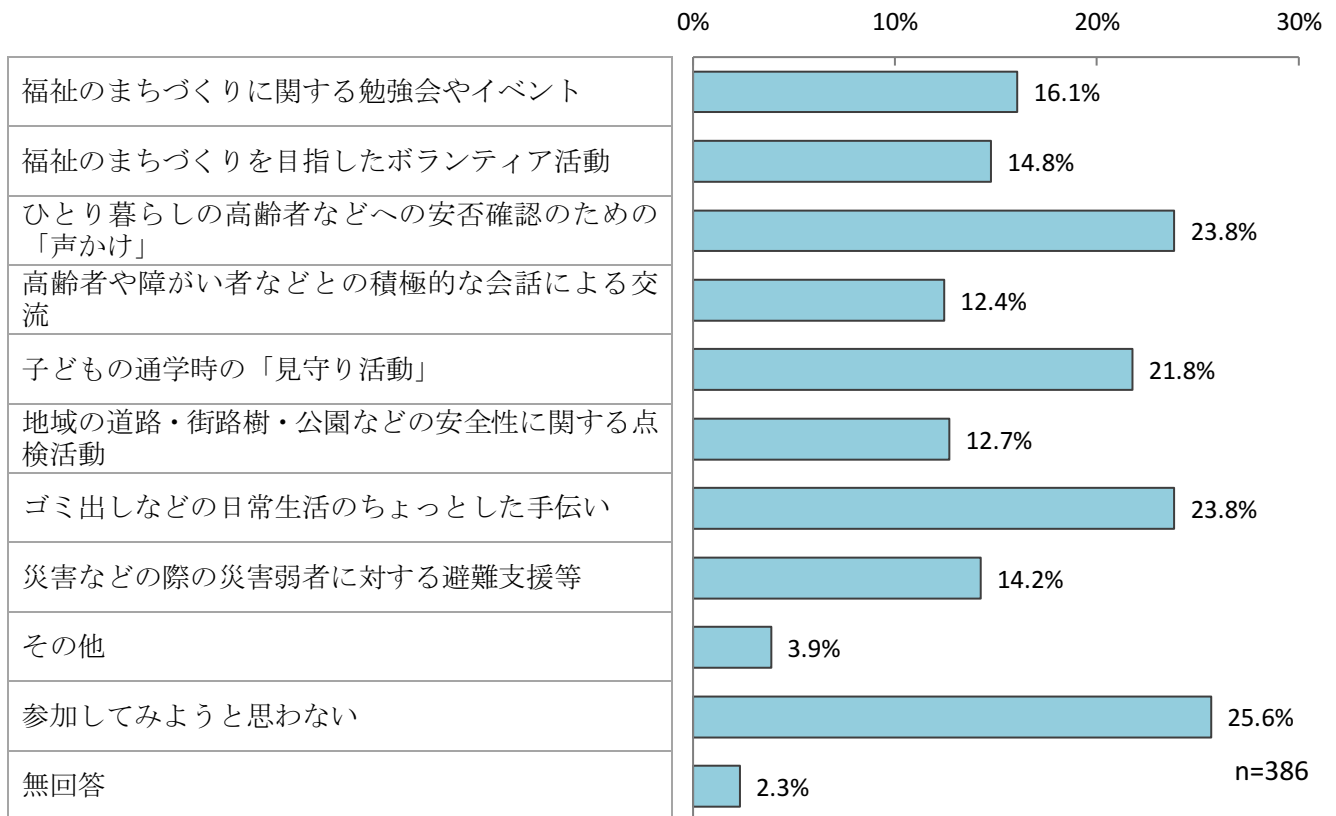
5. 福祉活動への参加について

(1) 参加してみたい福祉活動

◇ 「参加してみようと思わない」が2割半ば

問18	どのような福祉活動に参加してみようと思いますか。	(○はいくつでも)
		n=386
1	福祉のまちづくりに関する勉強会やイベント	16.1%
2	福祉のまちづくりを目指したボランティア活動	14.8%
3	ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための「声かけ」	23.8%
4	高齢者や障がい者などとの積極的な会話による交流	12.4%
5	子どもの通学時の「見守り活動」	21.8%
6	地域の道路・街路樹・公園などの安全性に関する点検活動	12.7%
7	ゴミ出しなどの日常生活のちょっとした手伝い	23.8%
8	災害などの際の災害弱者に対する避難支援等	14.2%
9	その他	3.9%
10	参加してみようと思わない	25.6%
	(無回答)	2.3%

<図IV-5-1>全体



参加してみたい福祉活動については、「参加してみようと思わない」が25.6%で最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための『声かけ』」、「ゴミ出しなどの日常生活のちょっとした手伝い」がいずれも23.8%と続いている。(図IV-5-1)

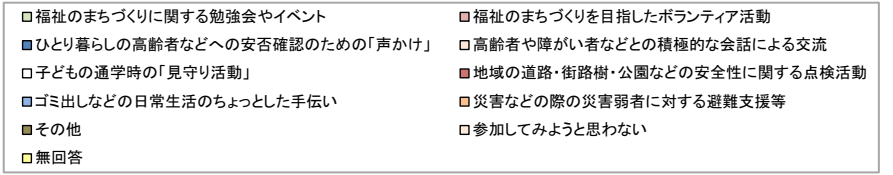
<参考>

性別・年齢別で見ると、「参加してみようと思わない」は、<その他>を除くと<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が39.5%であった。(図IV-5-2)

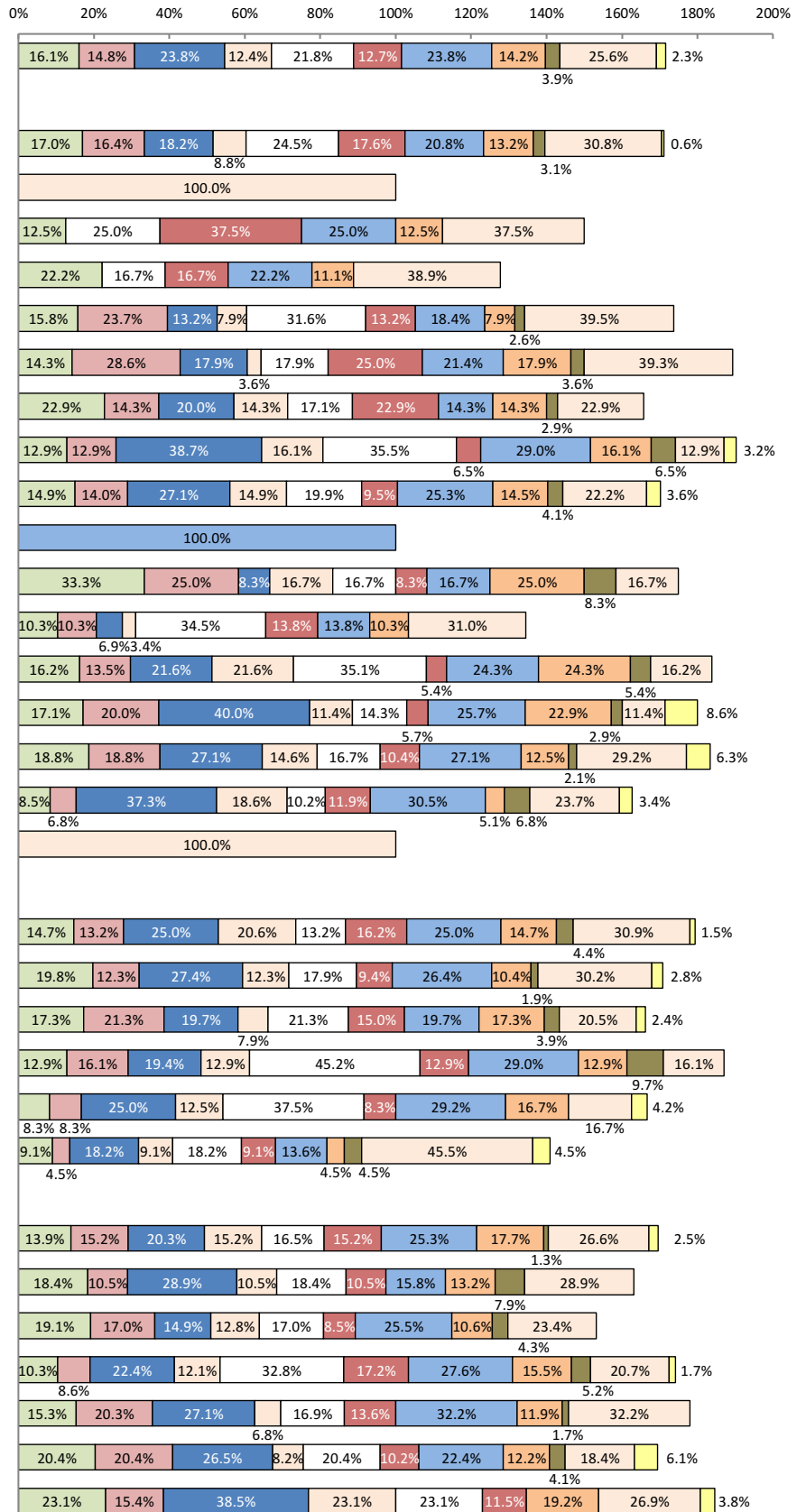
家族構成別で見ると、「参加してみようと思わない」は、<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が30.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が30.2%であった。(図IV-5-2)

居住地域別で見ると、「参加してみようと思わない」は、<南部地域>が32.2%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が28.9%であった。(図IV-5-2)

<図IV-5-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



全体	(386)
【性別・年齢別】	
男性(計)	(159)
10歳代	(1)
20歳代	(8)
30歳代	(18)
40歳代	(38)
50歳代	(28)
60歳代	(35)
70歳以上	(31)
女性(計)	(221)
10歳代	(1)
20歳代	(12)
30歳代	(29)
40歳代	(37)
50歳代	(35)
60歳代	(48)
70歳以上	(59)
その他	(1)
【家族構成別】	
ひとり暮らし(単身世帯)	(68)
夫婦のみ(一世代世帯)	(106)
親と未婚の子ども(核家族)	(127)
親と子ども夫婦(二世代世帯)	(31)
親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)	(24)
その他	(22)
【居住地域別】	
本庁(都心)	(79)
本庁(周辺)	(38)
東部地域	(47)
西部地域	(58)
南部地域	(59)
北部地域	(49)
上河内・河内地域	(26)

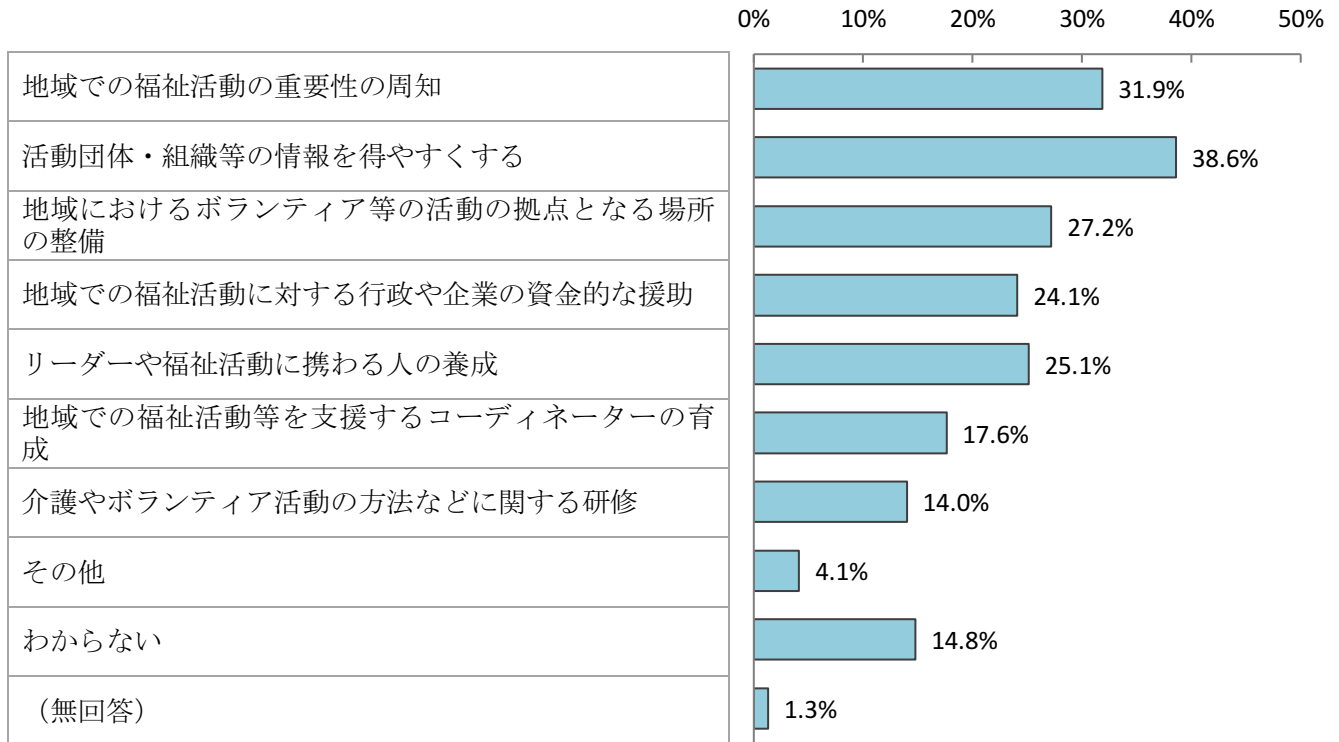


(2) 地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うこと

◇ 「活動団体・組織等の情報を得やすくする」が約4割

問19	すべての市民が、地域の福祉活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。	(〇は3つまで)	n=386
1	地域での福祉活動の重要性の周知		31.9%
2	活動団体・組織等の情報を得やすくする		38.6%
3	地域におけるボランティア等の活動の拠点となる場所の整備		27.2%
4	地域での福祉活動に対する行政や企業の資金的な援助		24.1%
5	リーダーや福祉活動に携わる人の養成		25.1%
6	地域での福祉活動等を支援するコーディネーターの育成		17.6%
7	介護やボランティア活動の方法などに関する研修		14.0%
8	その他		4.1%
9	わからない		14.8%
	(無回答)		1.3%

<図IV-5-3>全体



n=386

地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うことについては、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」が38.6%で最も高く、次いで「地域での福祉活動の重要性の周知」が31.9%、「地域におけるボランティア等の活動の拠点となる場所の整備」が27.2%と続いている。(図IV-5-3)

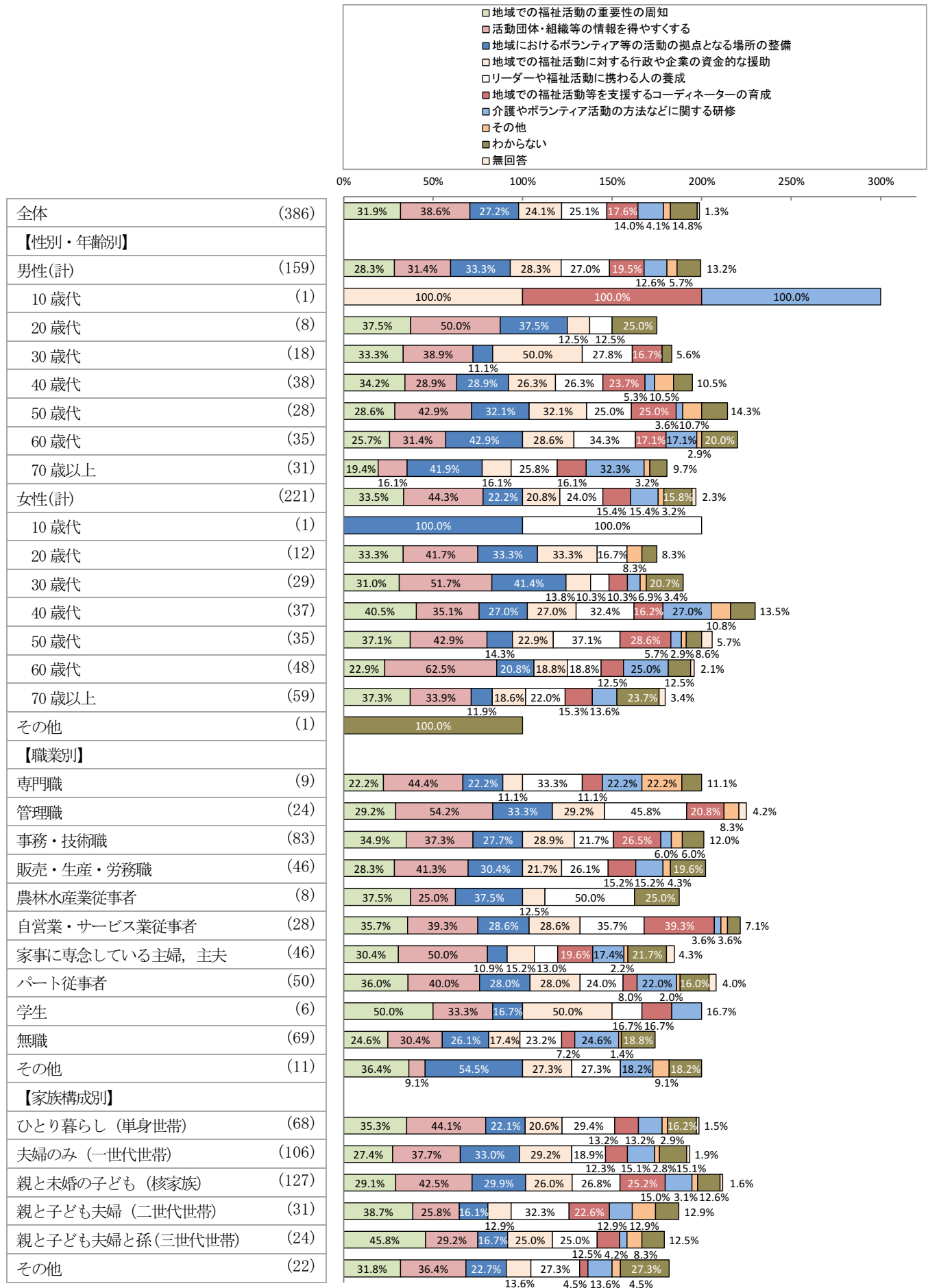
<参考>

性別・年齢別で見ると、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」は<女性/60歳代>が62.5%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が51.7%であった。「地域での福祉活動の重要性の周知」は<女性/40歳代>が40.5%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が37.5%であった。(図IV-5-4)

職業別で見ると、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」は、<管理職>が54.2%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が50.0%であった。「地域での福祉活動の重要性の周知」は<学生>が50.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が37.5%であった。(図IV-5-4)

家族構成別で見ると、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」は、<ひとり暮らし(単身世帯)>が44.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が42.5%であった。「地域での福祉活動の重要性の周知」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が45.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が38.7%であった。(図IV-5-4)

<図IV-5-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



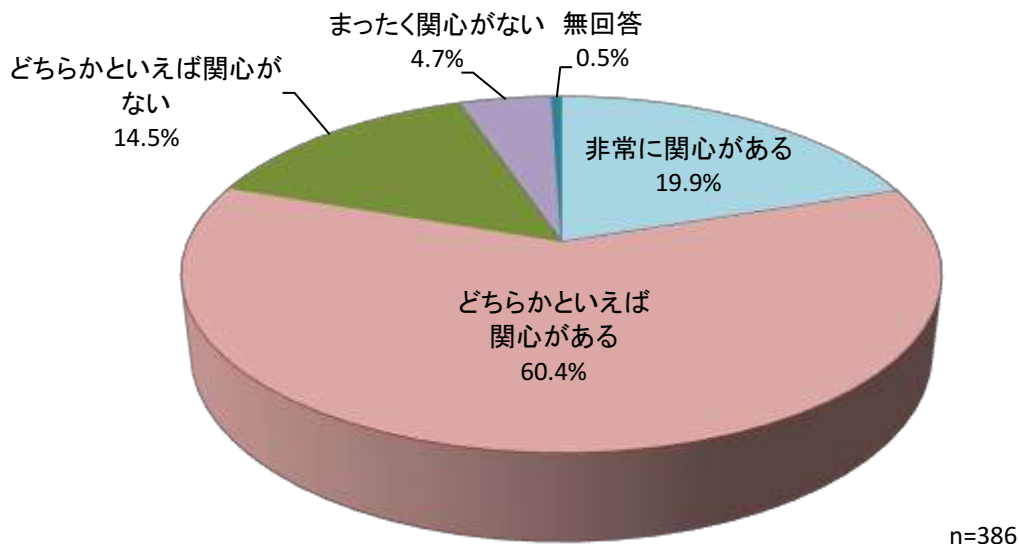
6. 生物多様性について

(1) 自然環境について関心があるか

◇ 「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある(計)】が約8割

問20	自然環境について関心がありますか。	(○は1つ)
		n=386
1	非常に関心がある	19.9%
2	どちらかといえば関心がある	60.4%
3	どちらかといえば関心がない	14.5%
4	まったく関心がない	4.7%
	(無回答)	0.5%

<図IV-6-1>全体



自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」が19.9%、「どちらかといえば関心がある」が60.4%で、これらを合わせた【関心がある(計)】は80.3%であった。一方、「どちらかといえば関心がない」が14.5%、「まったく関心がない」が4.7%で、これらを合わせた【関心がない(計)】は19.2%であった。(図IV-6-1)

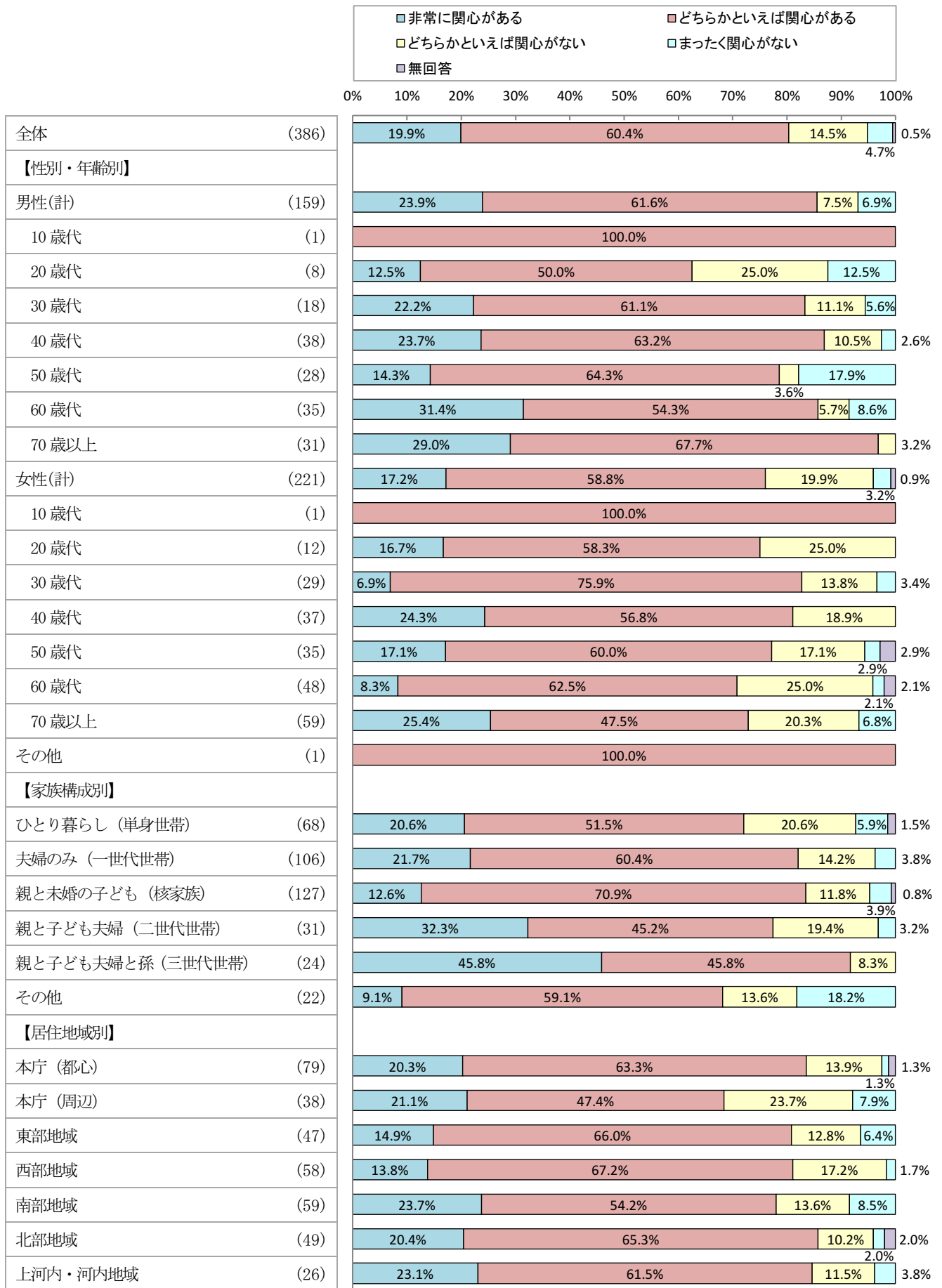
<参考>

性別・年齢別で見ると、【関心がある(計)】は<その他>を除くと<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が96.7%であった。一方、【関心がない(計)】は<男性/20歳代>が37.5%で最も高く、次いで<女性/60歳代>と<女性/70歳以上>がいずれも27.1%であった。(図IV-6-2)

家族構成別で見ると、【関心がある(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が91.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が83.5%であった。一方、【関心がない(計)】は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が26.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が22.6%であった。(図IV-6-2)

居住地域別で見ると、【関心がある(計)】は<北部地域>が85.7%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が84.6%であった。一方、【関心がない(計)】は<本庁(周辺)>が31.6%で最も高く、次いで<南部地域>が22.1%であった。(図IV-6-2)

<図IV-6-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

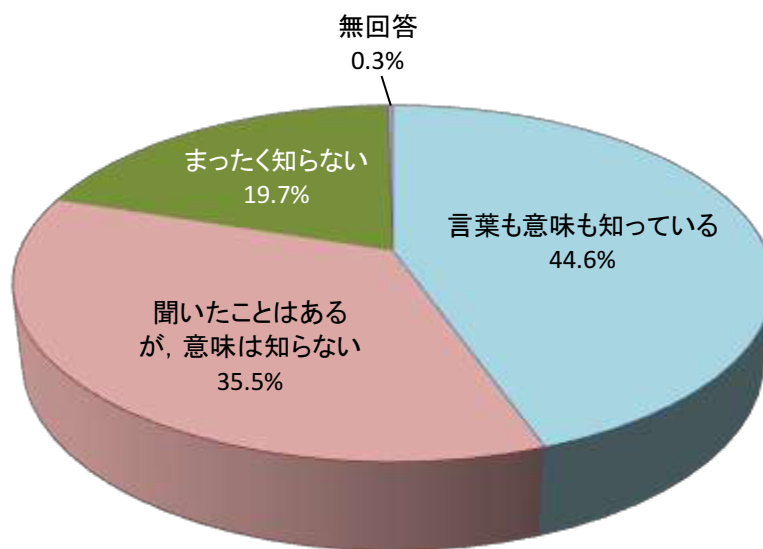


(2) 「生物多様性」の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が4割半ば

問 2 1	「生物多様性」(※)という言葉を知っていますか。	
	※「生物多様性」とは、「生きものの個性と自然とのつながりの豊かさ」のことです。地球上には様々な個性を持った生きものがいて、それらが自然環境の中でつながりあっています。このようなことを知っていれば、「生物多様性」の言葉の意味も知っていることとします。(○は1つ)	
		n=386
1	言葉も意味も知っている	44.6%
2	聞いたことはあるが、意味は知らない	35.5%
3	まったく知らない	19.7%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-3>全体



n=386

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が44.6%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らない」が35.5%、「まったく知らない」が19.7%であった。(図IV-6-3)

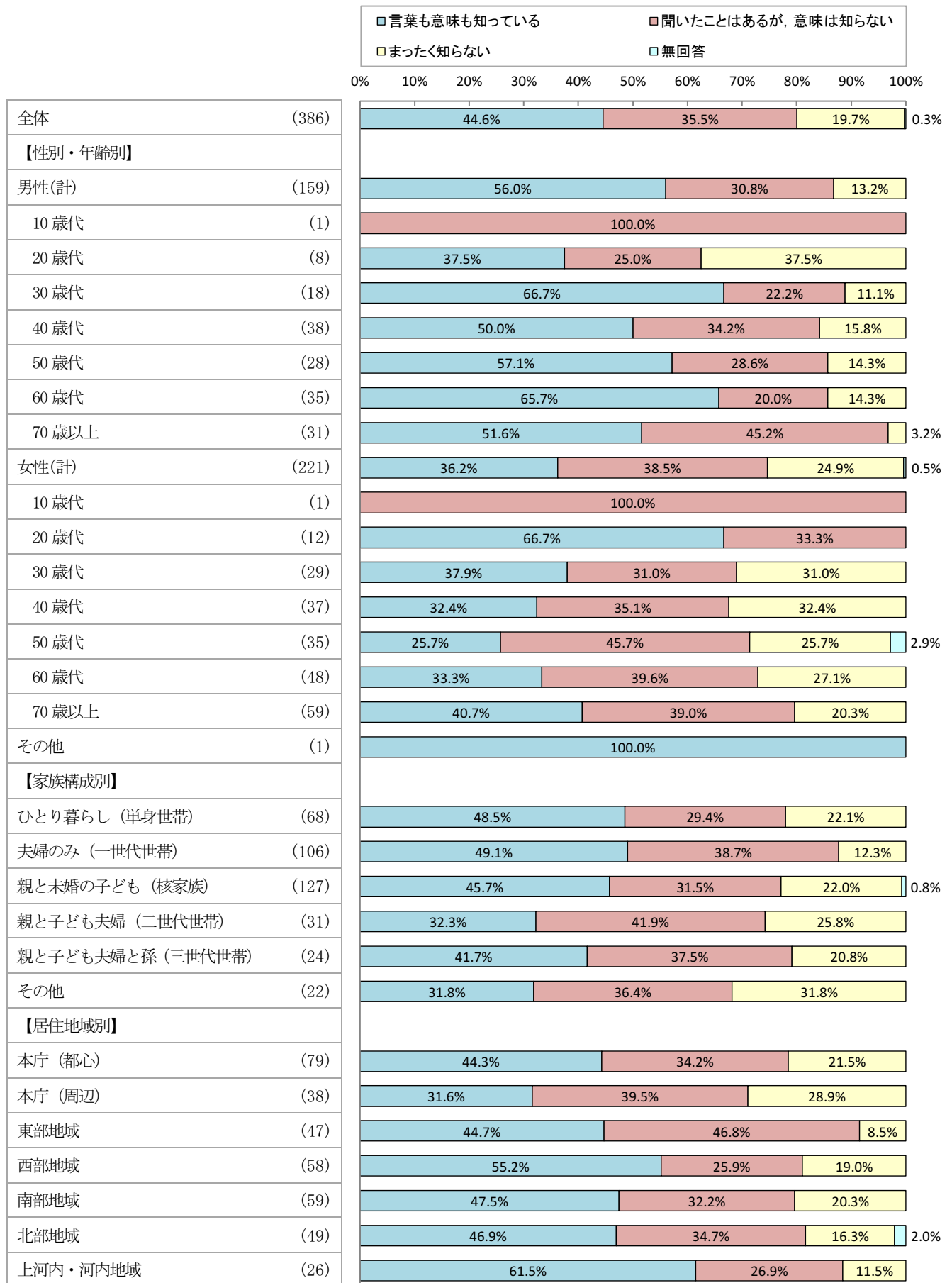
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<その他>を除くと<男性/30歳代>と<女性/20歳代>がいずれも66.7%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が65.7%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が45.7%であった。(図IV-6-4)

家族構成別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が49.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が48.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が41.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が38.7%であった。(図IV-6-4)

居住地域別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<上河内・河内地域>が61.5%で最も高く、次いで<西部地域>が55.2%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<東部地域>が46.8%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が39.5%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

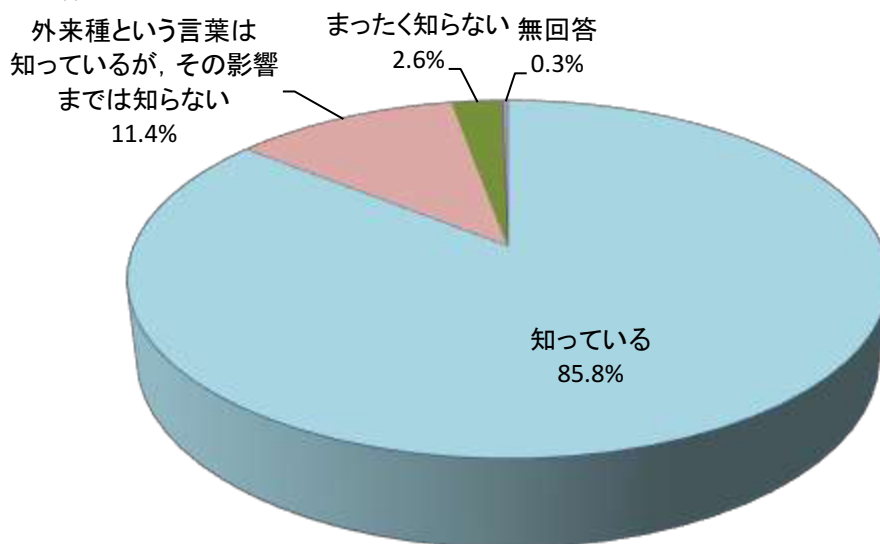
◇ 「知っている」が8割半ば

問22 外来種(※)が及ぼす影響を知っていますか。

※「外来種」とは、「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの」のことです。外来種は、もともといた在来の生きものの生息地を奪ったり、人の生命・身体に危険を及ぼしたり、田畑を荒らしたり、様々なことに悪影響を及ぼす場合があります。このようなことを知っていれば、外来種が及ぼす影響を知っていることとします。(○は1つ)

		n=386
1	知っている	85.8%
2	外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない	11.4%
3	まったく知らない	2.6%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-5>全体



n=386

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が85.8%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」が11.4%、「まったく知らない」が2.6%であった。(図IV-6-5)

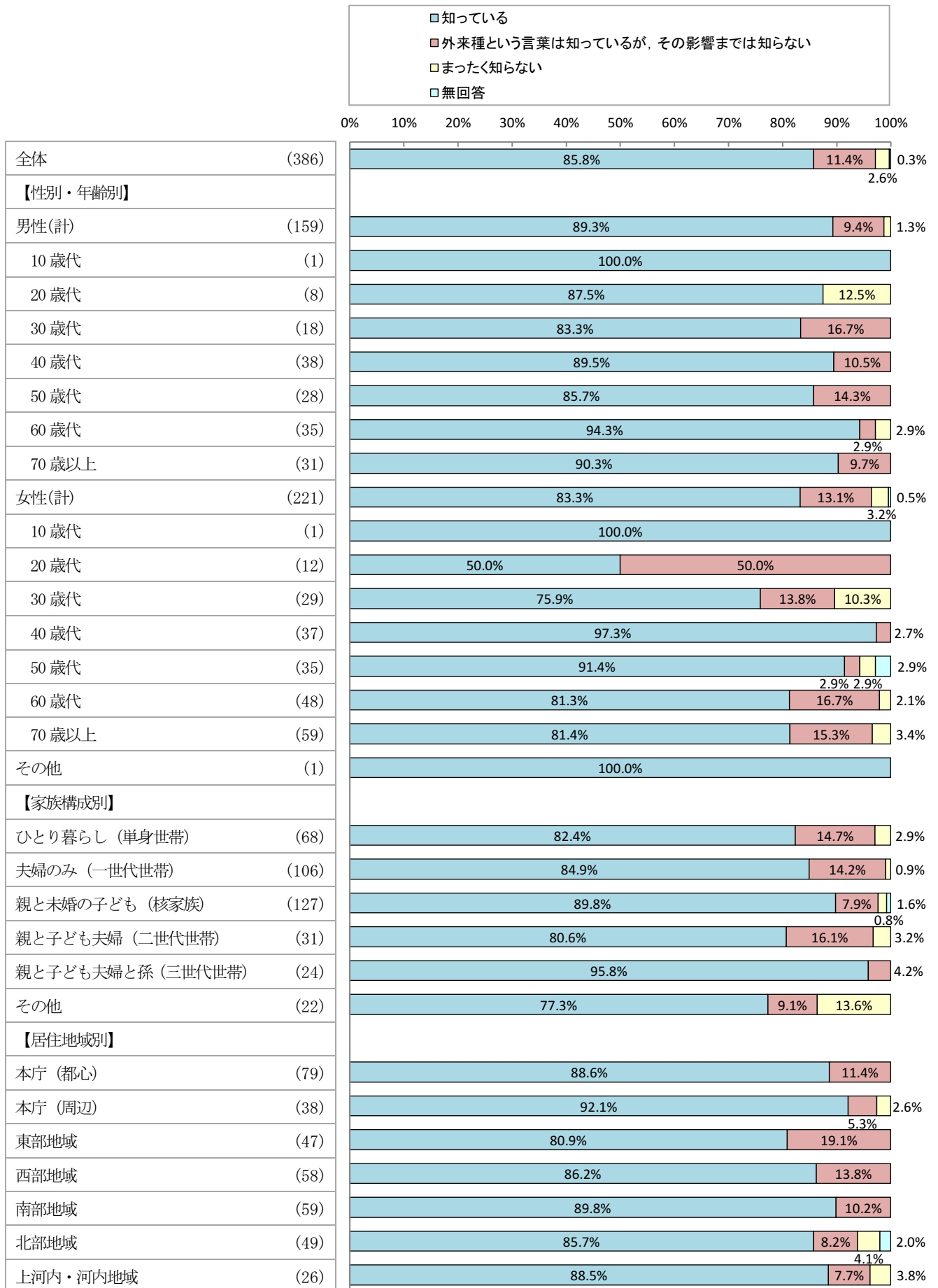
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<その他>を除くと<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が97.3%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>と<女性/60歳代>がいずれも16.7%であった。(図IV-6-6)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が95.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が89.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が16.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が14.7%であった。(図IV-6-6)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(周辺)>が92.1%で最も高く、次いで<南部地域>が89.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<東部地域>が19.1%で最も高く、次いで<西部地域>が13.8%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



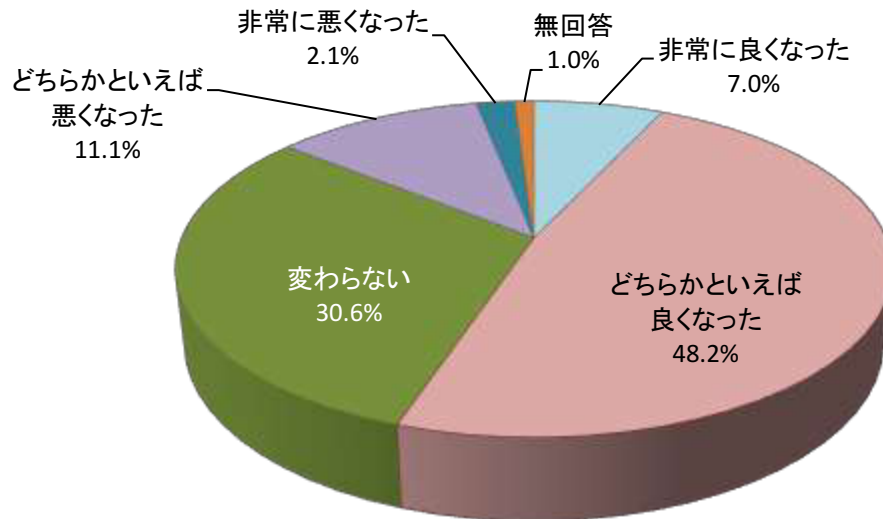
7. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が5割半ば

問23	宇都宮市の景観は10年前と比べてどのように感じますか。	(○は1つ)
		n=386
1	非常に良くなった	7.0%
2	どちらかといえば良くなった	48.2%
3	変わらない	30.6%
4	どちらかといえば悪くなった	11.1%
5	非常に悪くなった	2.1%
	(無回答)	1.0%

<図IV-7-1>全体



n=386

宇都宮市の景観は10年前と比べてどのように感じるかについては、「非常に良くなった」が7.0%、「どちらかといえば良くなった」が48.2%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は55.2%であった。一方、「どちらかといえば悪くなった」が11.1%、「非常に悪くなった」が2.1%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は13.2%であった。(図IV-7-1)

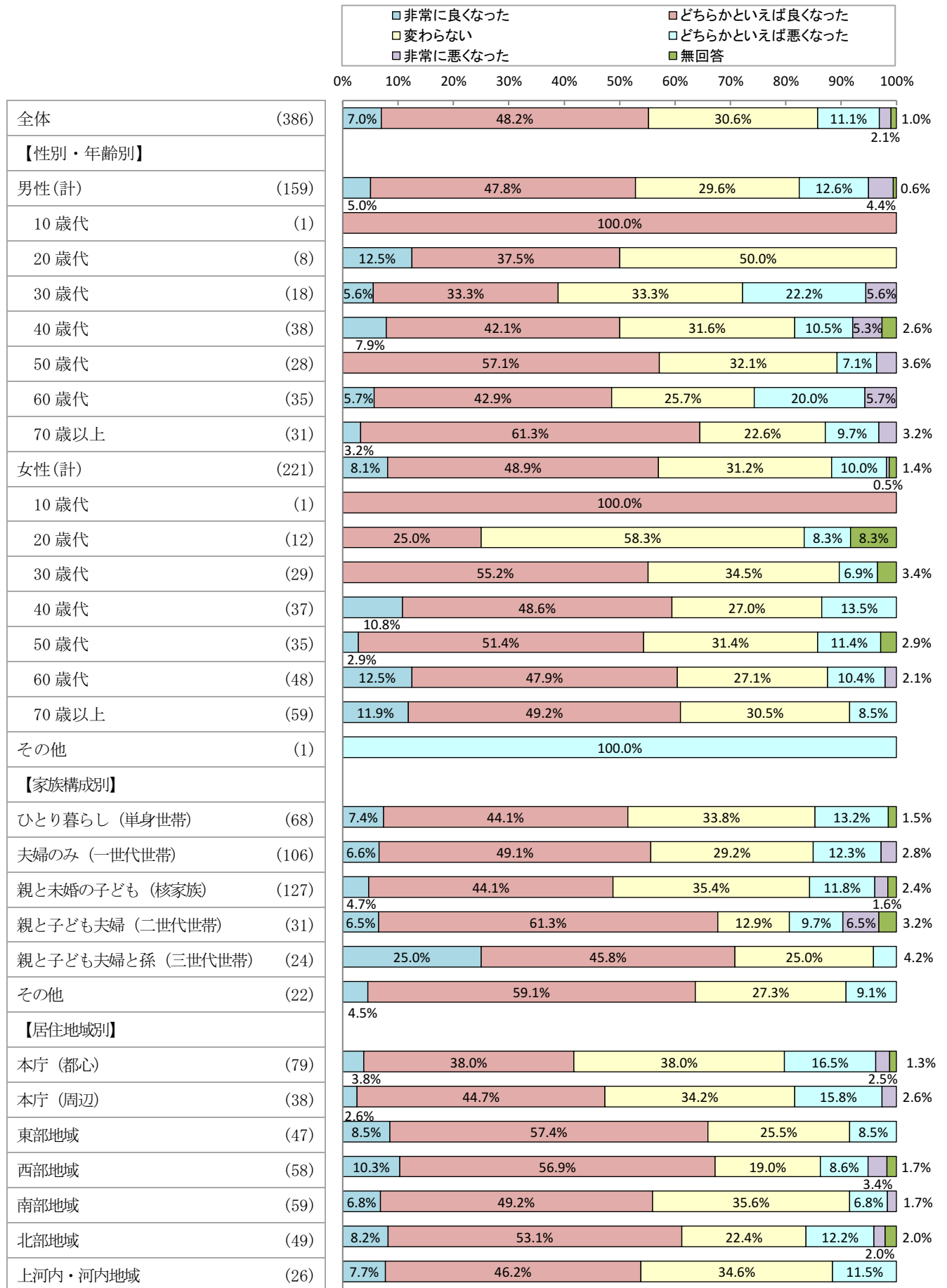
<参考>

性別・年齢別で見ると、【良くなった(計)】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が64.5%であった。一方、【悪くなった(計)】は<その他>を除くと<男性/30歳代>が27.8%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が25.7%であった。(図IV-7-2)

家族構成別で見ると、【良くなった(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が70.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が67.8%であった。一方、【悪くなった(計)】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が16.2%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が15.1%であった。(図IV-7-2)

居住地域別で見ると、【良くなった(計)】は<西部地域>が67.2%で最も高く、次いで<東部地域>が65.9%であった。一方、【悪くなった(計)】は<本庁(都心)>が19.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が18.4%であった。(図IV-7-2)

<図IV-7-2>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

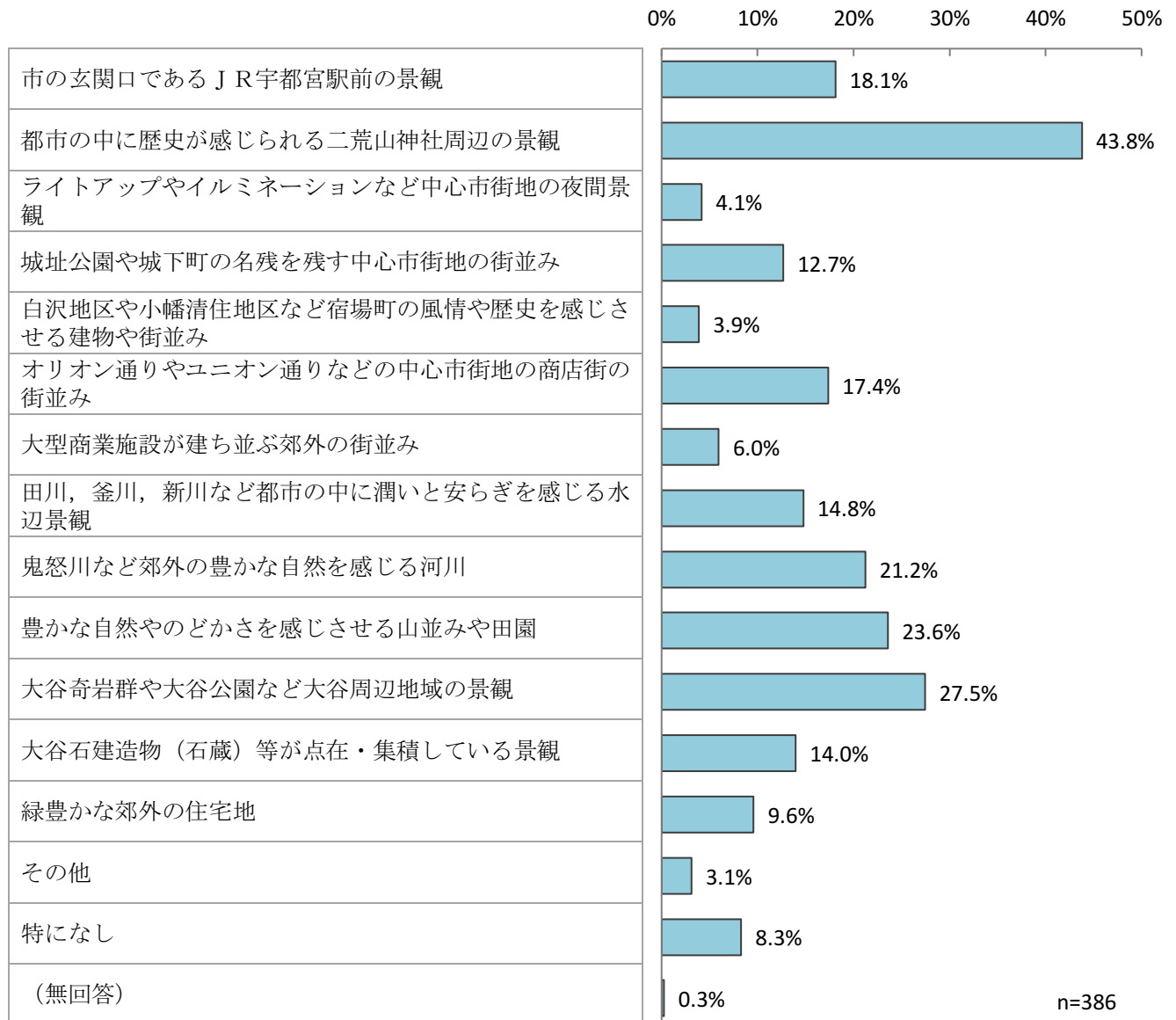


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割半ば

問24 宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。		(○は3つまで)
		n=386
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	18.1%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	43.8%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	4.1%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	12.7%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	3.9%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	17.4%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	6.0%
8	田川, 釜川, 新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	14.8%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	21.2%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	23.6%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	27.5%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	14.0%
13	緑豊かな郊外の住宅地	9.6%
14	その他	3.1%
15	特になし	8.3%
	(無回答)	0.3%

<図IV-7-3>全体



「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が43.8%で最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が27.5%と続いている。(図IV-7-3)

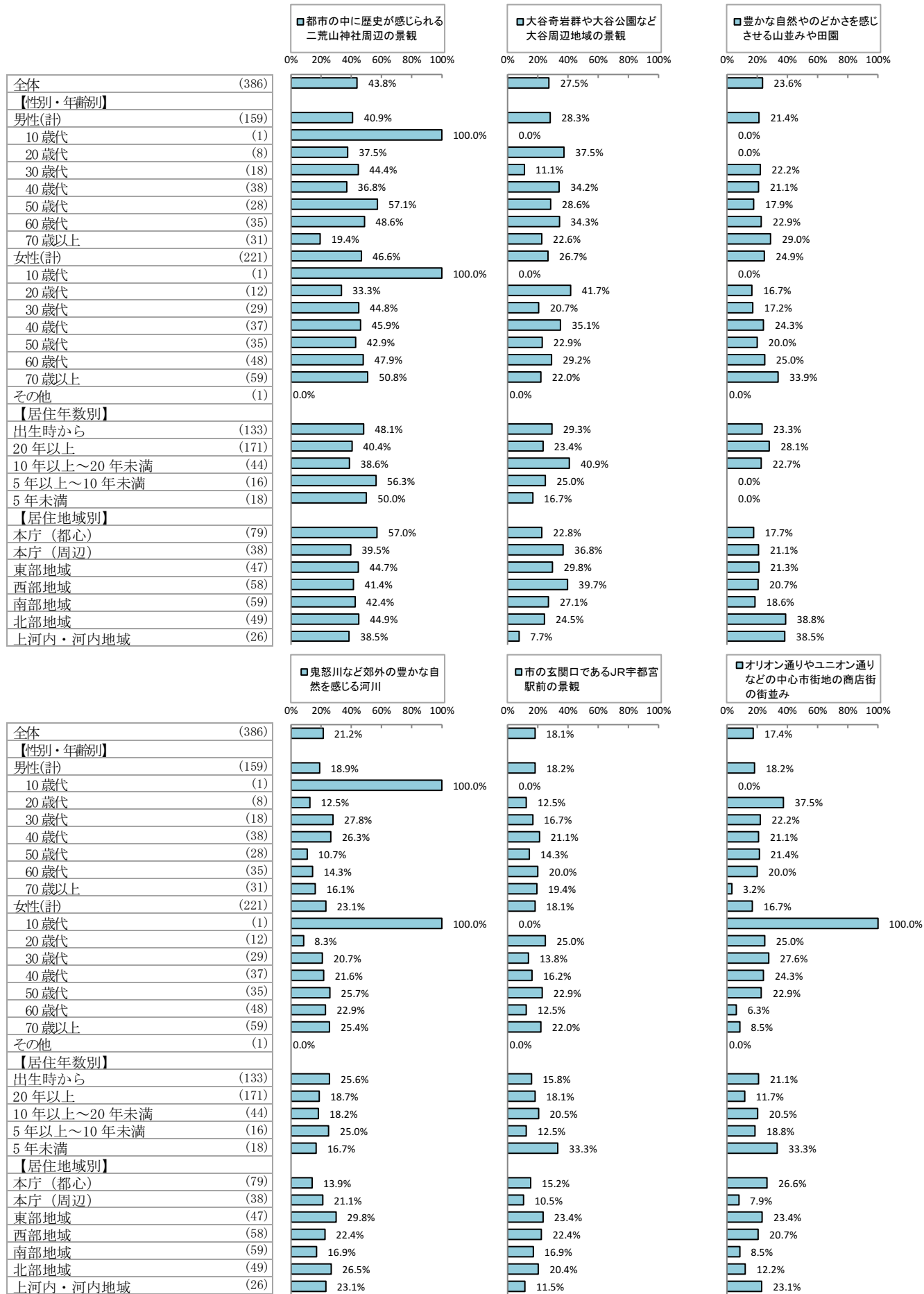
<参考>

上位6項目について、性別・年齢別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が57.1%であった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<女性/20歳代>が41.7%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が37.5%であった。(図IV-7-4)

居住年数別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<5年以上~10年未満>が56.3%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<10年以上~20年未満>が40.9%で最も高かった。(図IV-7-4)

居住地域別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<本庁(都心)>が57.0%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<西部地域>が39.7%で最も高かった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別（上位6項目）

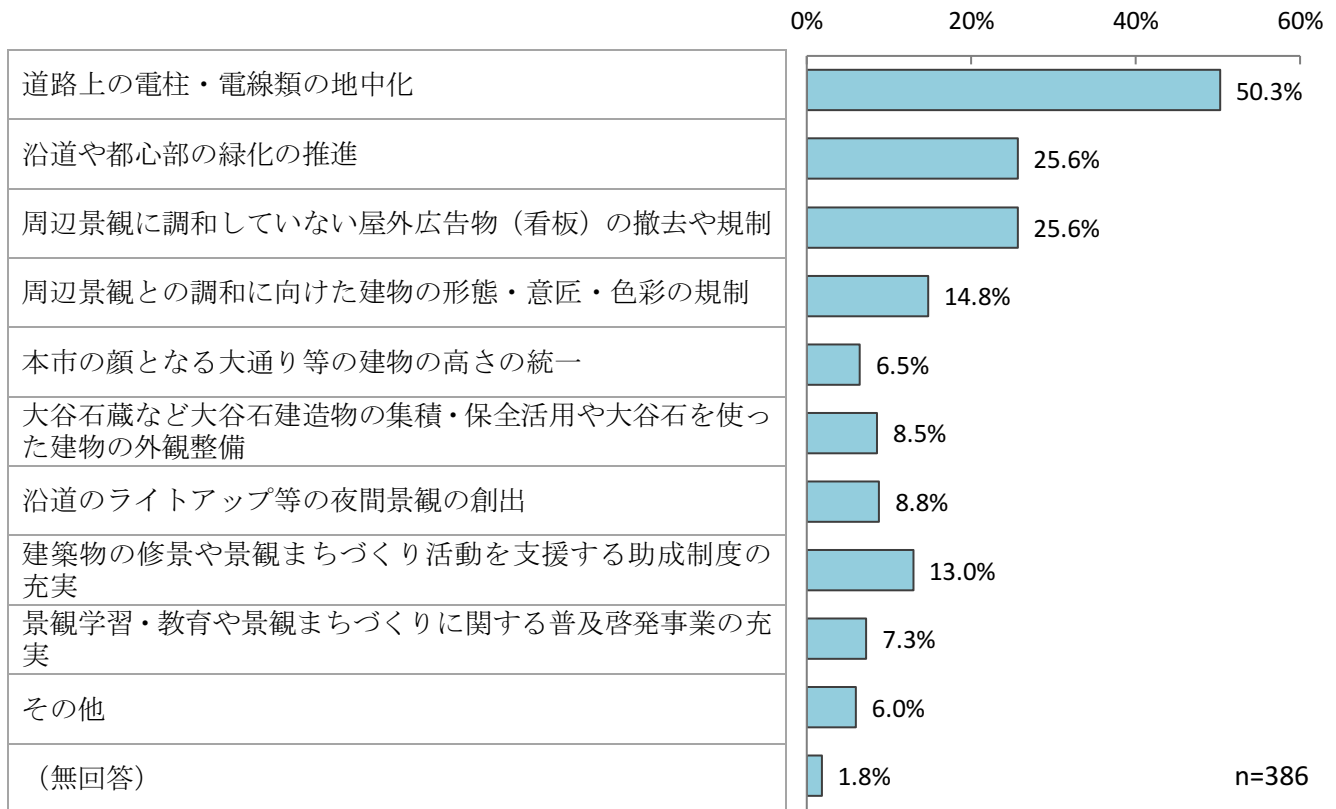


(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割

問25	良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。	(○は2つまで)
		n=386
1	道路上の電柱・電線類の地中化	50.3%
2	沿道や都心部の緑化の推進	25.6%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制	25.6%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	14.8%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一	6.5%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備	8.5%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出	8.8%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	13.0%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	7.3%
10	その他	6.0%
	(無回答)	1.8%

<図IV-7-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が50.3%で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」,「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」がいずれも25.6%と続いている。(図IV-7-5)

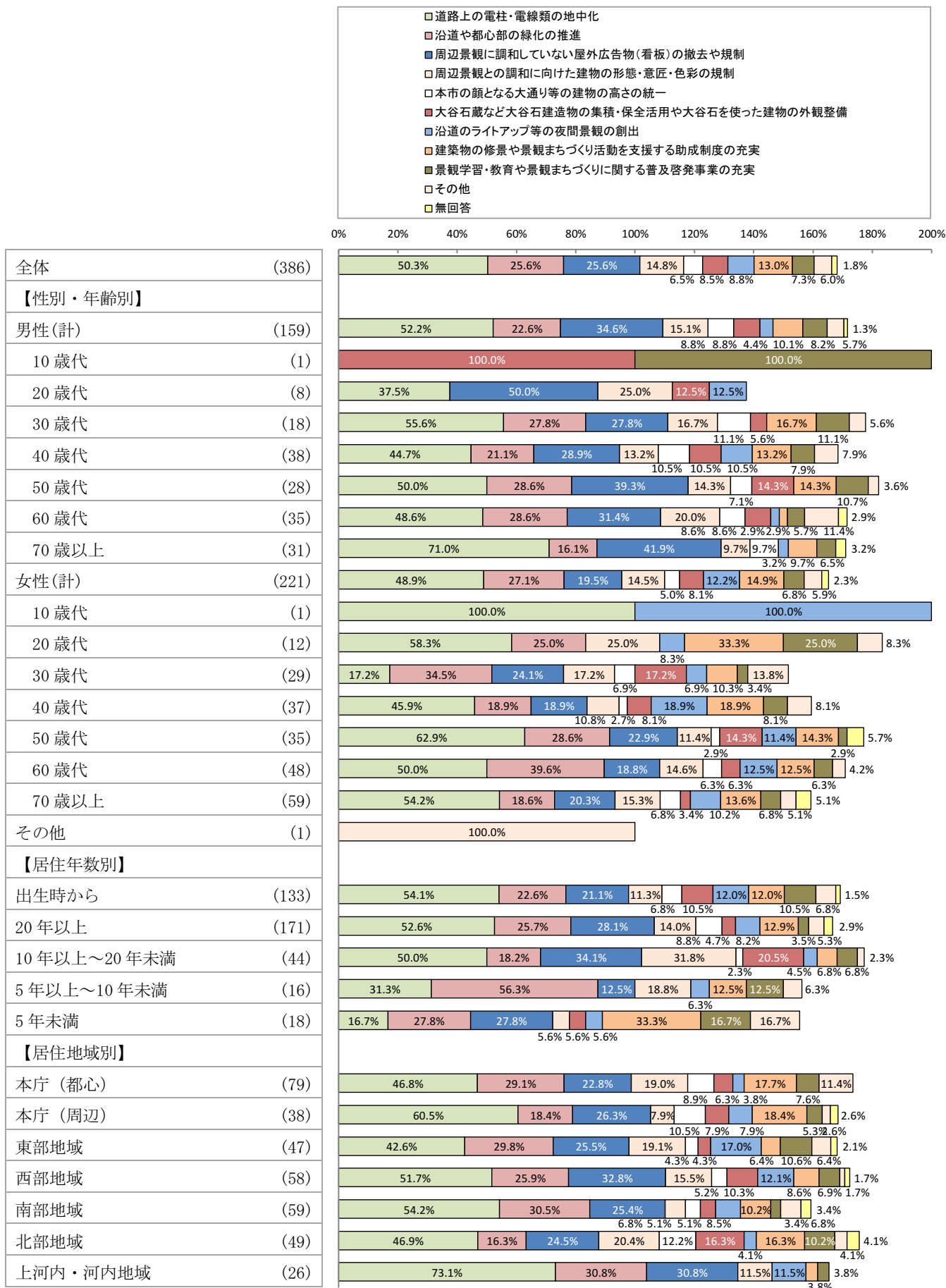
<参考>

性別・年齢別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が71.0%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<女性/60歳代>が39.6%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は<男性/20歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-7-6)

居住年数別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<出生時から>が54.1%で最も高く、次いで<20年以上>が52.6%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<5年以上~10年未満>が56.3%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は<10年以上~20年未満>が34.1%で最も高かった。(図IV-7-6)

居住地域別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<上河内・河内地域>が73.1%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が60.5%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<上河内・河内地域>が30.8%で最も高かった。「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」は<西部地域>が32.8%で最も高かった。(図IV-7-6)

<図IV-7-6>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

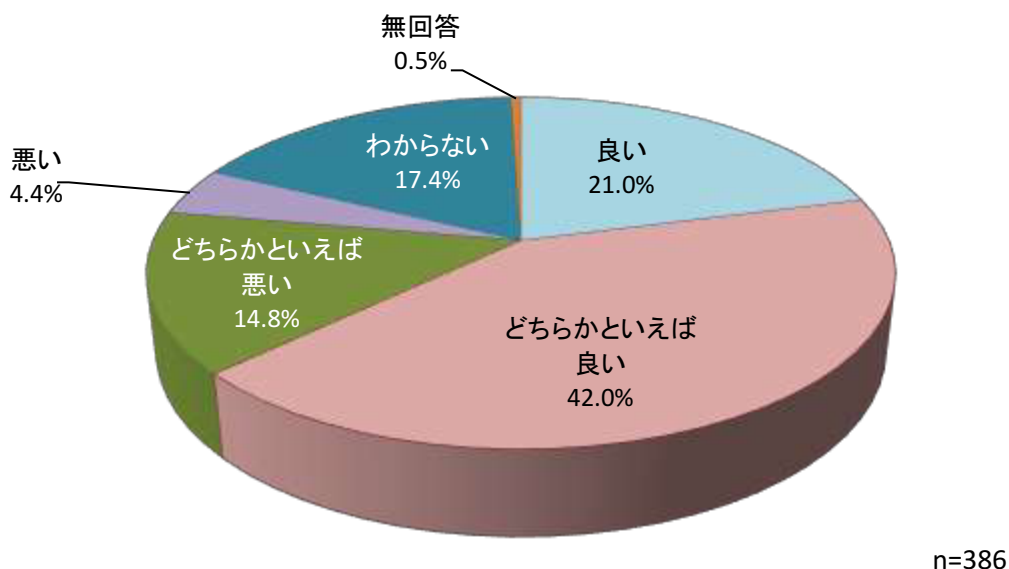


(4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

◇「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強

問26 バスや鉄道などのラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）について、どのような印象をお持ちですか。		(○は1つ)
		n=386
1	良い	21.0%
2	どちらかといえば良い	42.0%
3	どちらかといえば悪い	14.8%
4	悪い	4.4%
5	わからない	17.4%
	(無回答)	0.5%

<図IV-7-7>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」が21.0%、「どちらかといえば良い」が42.0%で、これらを合わせた【良い（計）】は63.0%であった。一方、「どちらかといえば悪い」が14.8%、「悪い」が4.4%で、これらを合わせた【悪い（計）】は19.2%であった。（図IV-7-7）

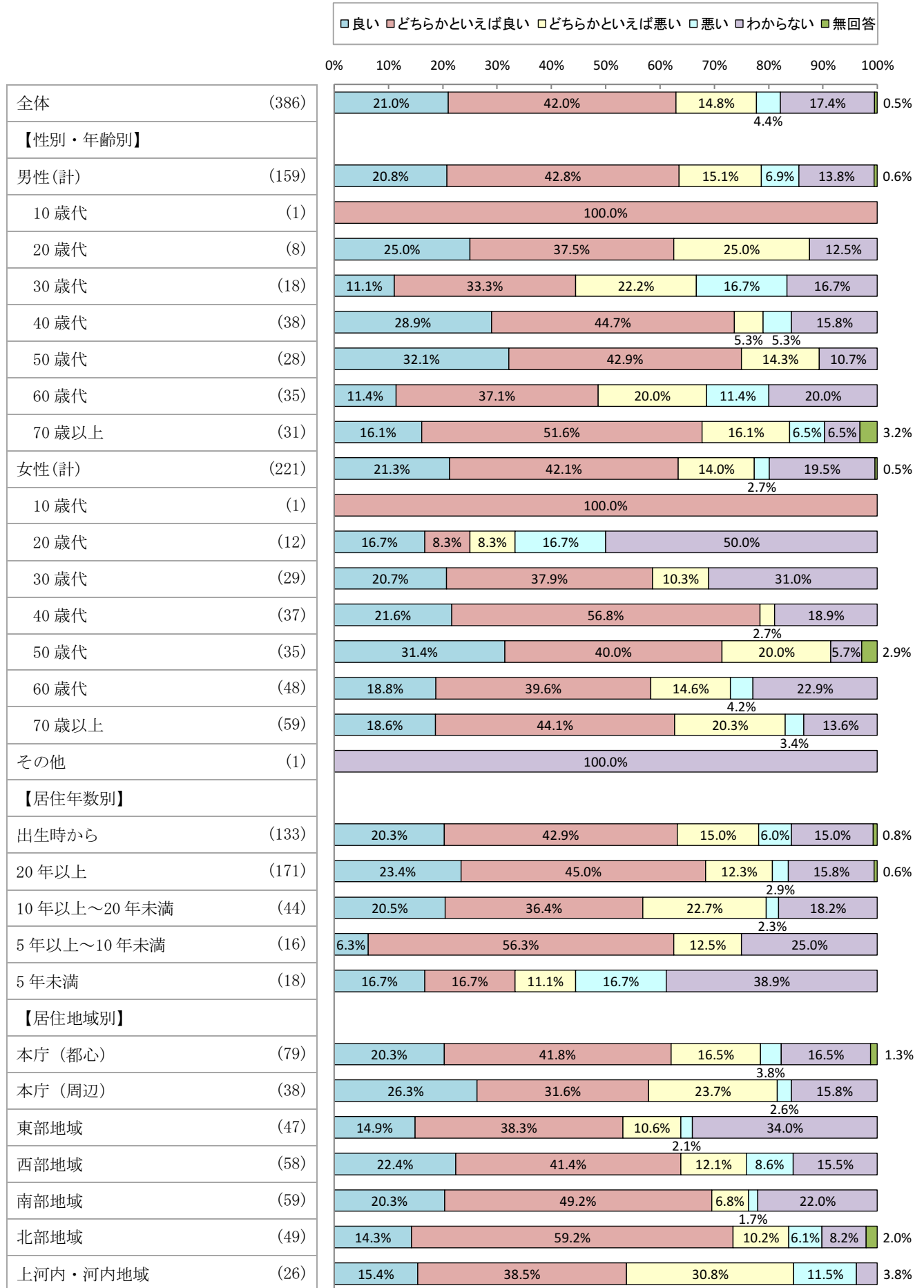
<参考>

性別・年齢別で見ると、【良い（計）】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が78.4%であった。一方、【悪い（計）】は<男性/30歳代>が38.9%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が31.4%であった。（図IV-7-8）

居住年数別で見ると、【良い（計）】は<20年以上>が68.4%で最も高く、次いで<出生時から>が63.2%であった。一方、【悪い（計）】は<5年未満>が27.8%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が25.0%であった。（図IV-7-8）

居住地域別で見ると、【良い（計）】は<北部地域>が73.5%で最も高く、次いで<南部地域>が69.5%であった。一方、【悪い（計）】は<上河内・河内地域>が42.3%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が26.3%であった。（図IV-7-8）

<図IV-7-8>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

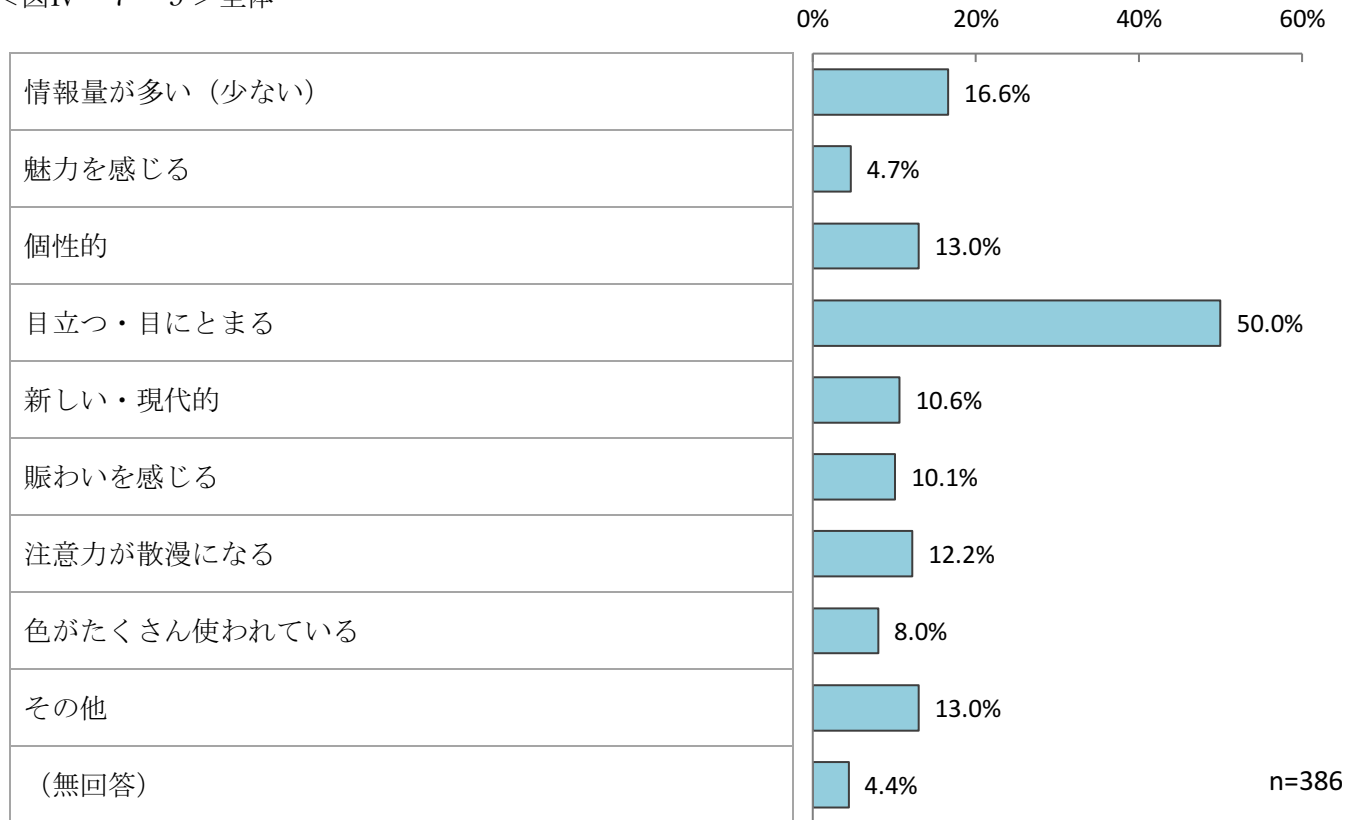


(5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

◇ 「目立つ・目にとまる」が約5割

問27	問26でそのような印象を持たれたのはどのような点についてですか。	(○は2つまで)
		n=386
1	情報量が多い（少ない）	16.6%
2	魅力を感じる	4.7%
3	個性的	13.0%
4	目立つ・目にとまる	50.0%
5	新しい・現代的	10.6%
6	賑わいを感じる	10.1%
7	注意力が散漫になる	12.2%
8	色がたくさん使われている	8.0%
9	その他	13.0%
	（無回答）	4.4%

<図IV-7-9>全体



ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が50.0%で最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」が16.6%と続いている。（図IV-7-9）

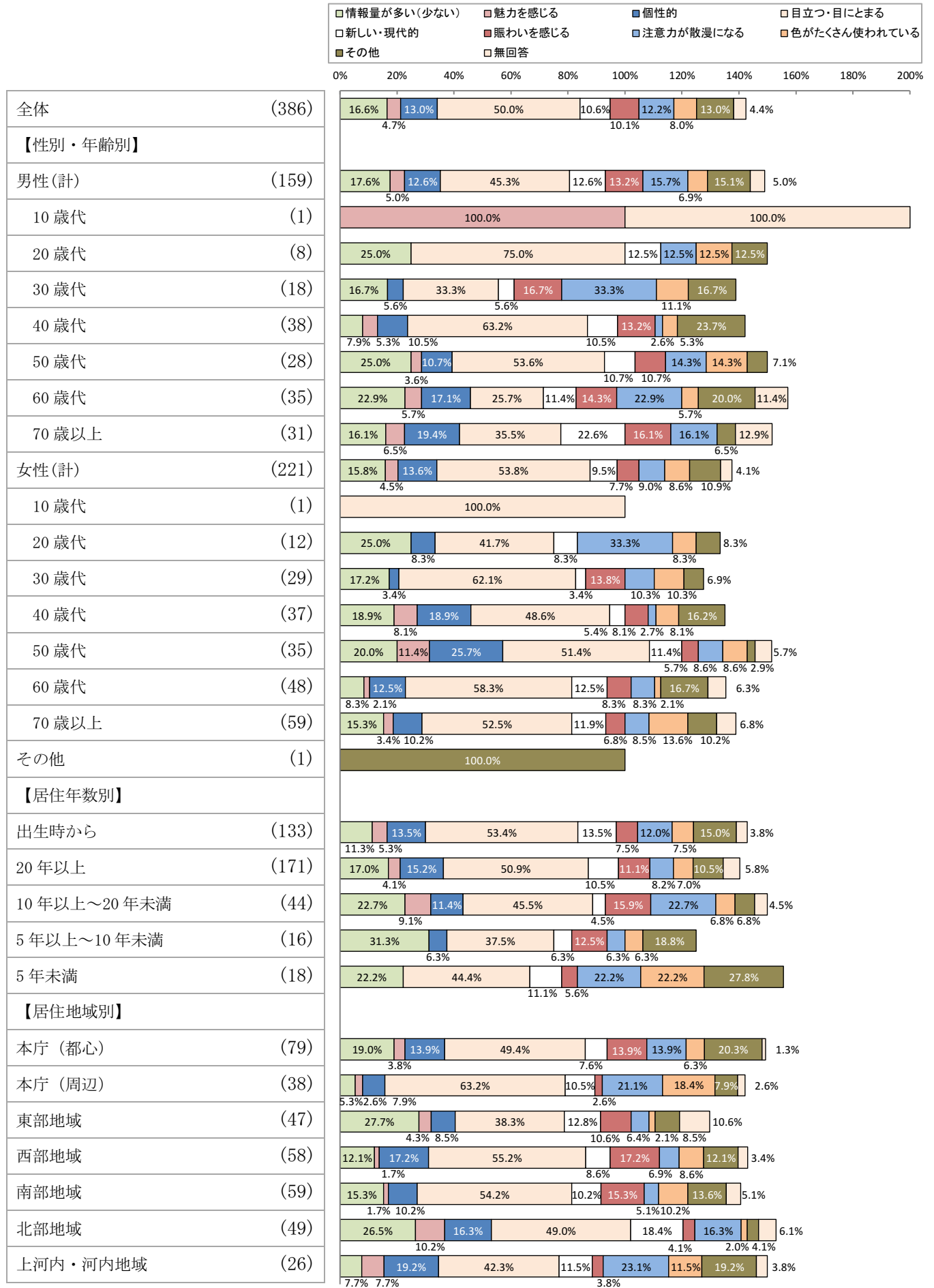
<参考>

性別・年齢別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」は<男性/20歳代>と<男性/50歳代>と<女性/20歳代>がいずれも25.0%であった。（図IV-7-10）

居住年数別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<出生時から>が53.4%が最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」は<5年以上～10年未満>が31.3%であった。（図IV-7-10）

居住地域別で見ると、「目立つ・目にとまる」は<本庁（周辺）>が63.2%で最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」は<東部地域>が27.7%であった。（図IV-7-10）

<図IV-7-10>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



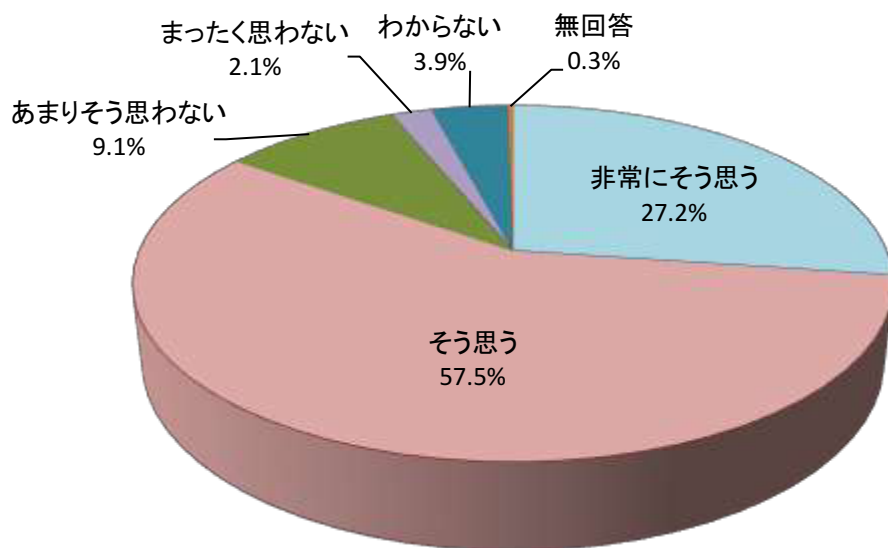
8. うつのみや産の農産物について

(1) 「うつのみや産」の農産物の購入意欲

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が8割半ば

問28 宇都宮市では地産地消を推進していますが、あなたは「うつのみや産」の農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=386
1	非常にそう思う	27.2%
2	そう思う	57.5%
3	あまりそう思わない	9.1%
4	まったく思わない	2.1%
5	わからない	3.9%
	(無回答)	0.3%

<図IV-8-1>全体



n=386

「うつのみや産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が27.2%、「そう思う」が57.5%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は84.7%であった。一方、「あまりそう思わない」が9.1%、「まったく思わない」が2.1%で、これらを合わせた【思わない(計)】は11.2%であった。(図IV-8-1)

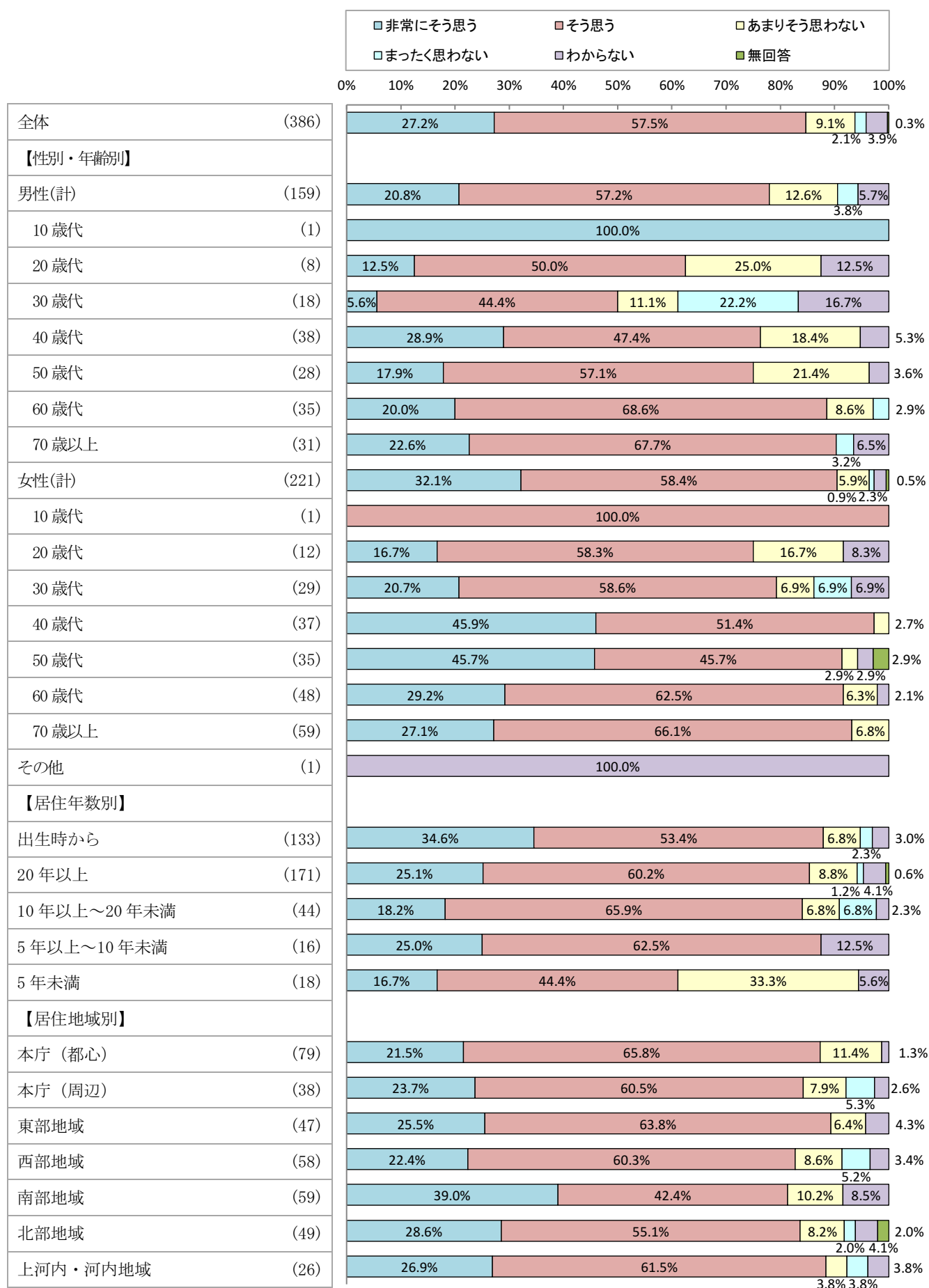
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が97.3%であった。一方、【思わない(計)】は<男性/30歳代>が33.3%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が25.0%であった。(図IV-8-2)

居住年数別で見ると、【そう思う(計)】は<出生時から>が88.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が87.5%であった。一方、【思わない(計)】は<5年未満>が33.3%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が13.6%であった。(図IV-8-2)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<東部地域>が89.3%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が88.4%であった。一方、【思わない(計)】は<西部地域>が13.8%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が13.2%であった。(図IV-8-2)

<図IV-8-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

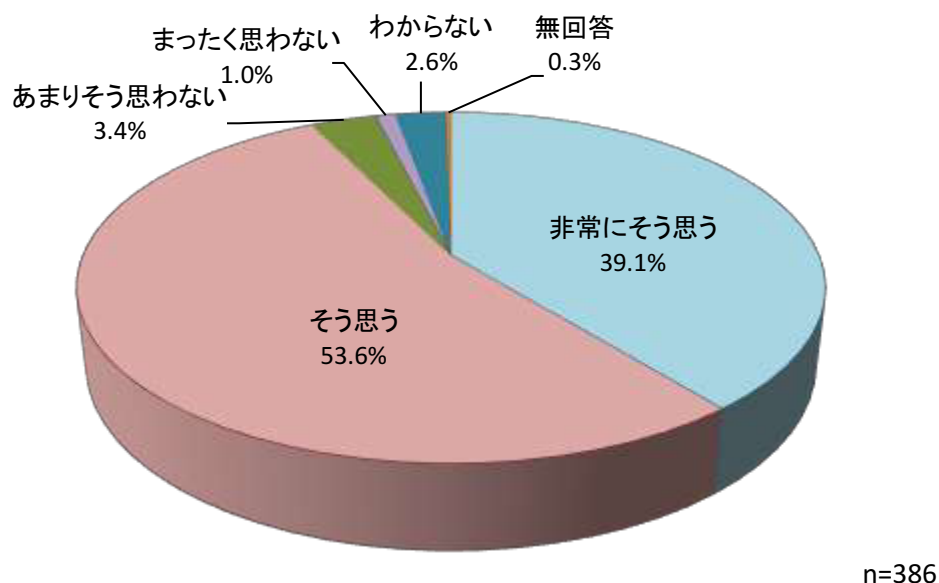


(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割強

問29 宇都宮市では、「農業王国うつのみや」の実現を目指した取組を推進していますが、あなたは宇都宮の農業を大切にしたいと思いますか。		(○は1つ)
		n=386
1	非常にそう思う	39.1%
2	そう思う	53.6%
3	あまりそう思わない	3.4%
4	まったく思わない	1.0%
5	わからない	2.6%
	(無回答)	0.3%

<図IV-8-3>全体



宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」が39.1%、「そう思う」が53.6%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は92.7%であった。一方、「あまりそう思わない」が3.4%、「まったく思わない」が1.0%で、これらを合わせた【思わない（計）】は4.4%であった。(図IV-8-3)

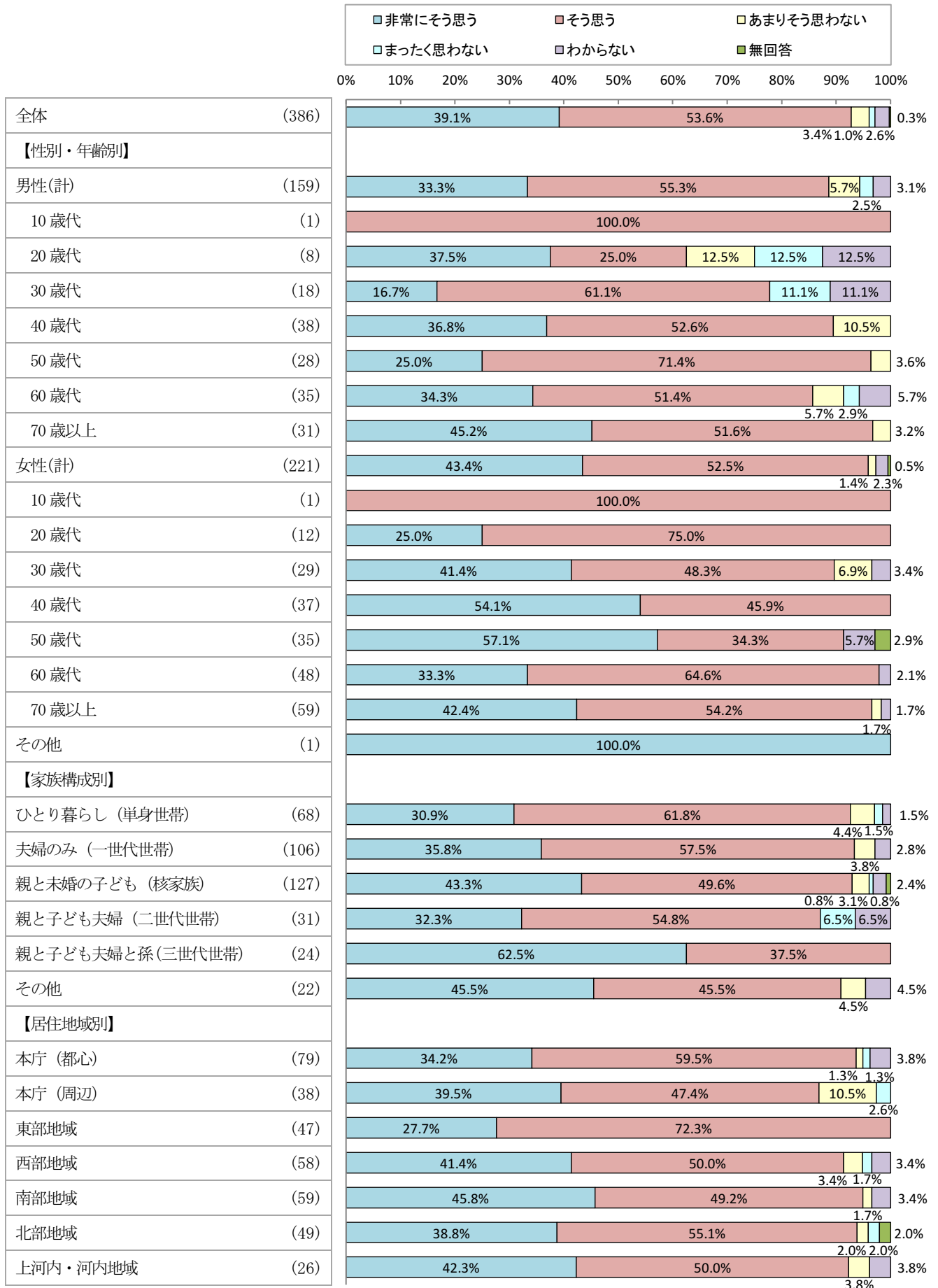
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う（計）】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>と<女性/20歳代>と<女性/40歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。一方、【思わない（計）】は<男性/20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が11.1%であった。(図IV-8-4)

家族構成別で見ると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が93.3%であった。一方、【思わない（計）】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が6.5%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が5.9%であった。(図IV-8-4)

居住地域別で見ると、【そう思う（計）】は<東部地域>が100.0%で最も高く、次いで<南部地域>が95.0%であった。一方、【思わない（計）】は<本庁(周辺)>が13.1%で最も高く、次いで<西部地域>が5.1%であった。(図IV-8-4)

<図Ⅳ－８－４>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別



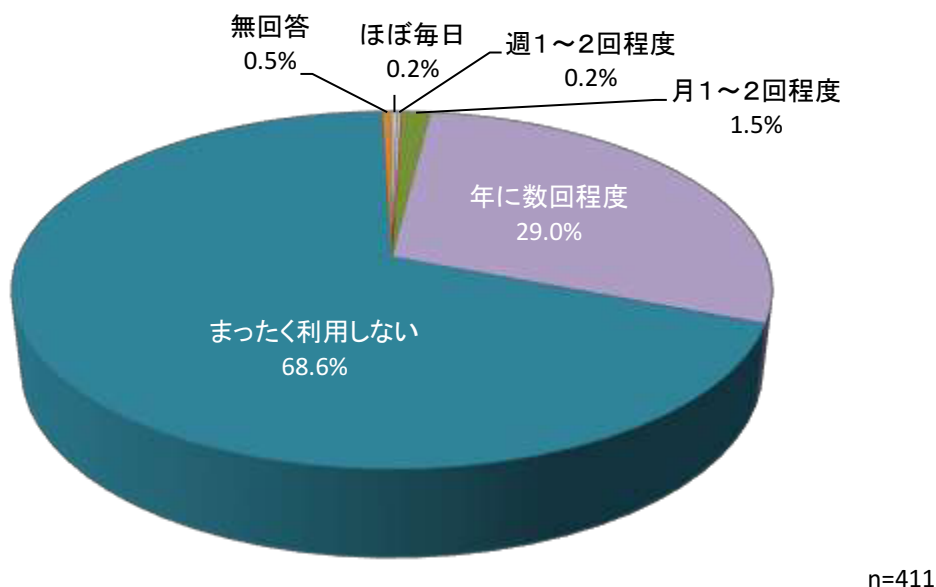
9. まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について

(1) 「八幡山公園」の利用頻度

◇ 「まったく利用しない」が約7割

問30	あなたは、「八幡山公園」をどの程度利用しますか。	(○は1つ)
		n=411
1	ほぼ毎日	0.2%
2	週1～2回程度	0.2%
3	月1～2回程度	1.5%
4	年に数回程度	29.0%
5	まったく利用しない	68.6%
	(無回答)	0.5%

<図IV-9-1>全体



八幡山公園の利用頻度については、「まったく利用しない」が68.6%で最も高く、次いで「年に数回程度」が29.0%、「月1～2回程度」が1.5%と続いている。(図IV-9-1)

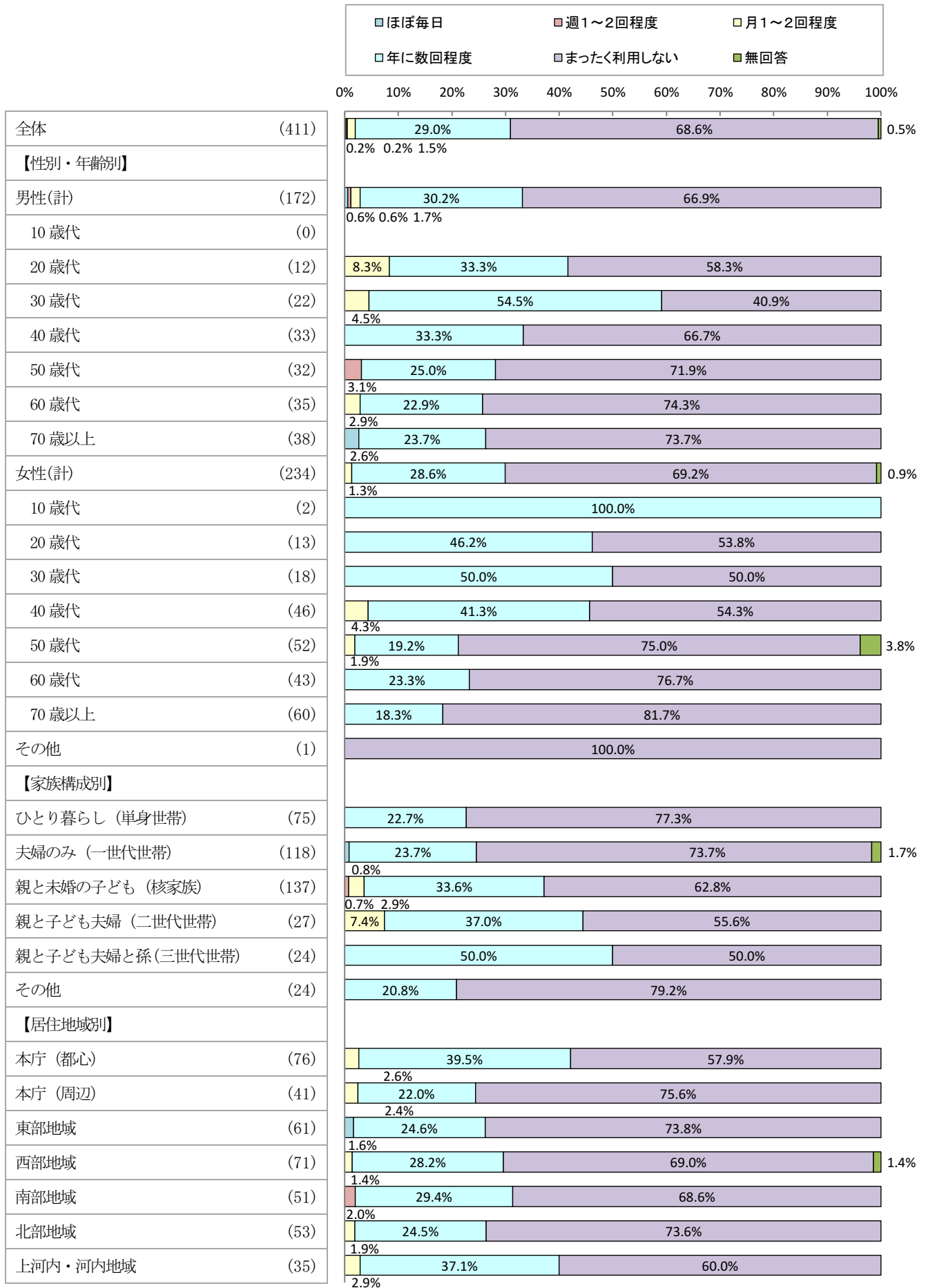
<参考>

性別・年齢別で見ると、「年に数回程度」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が54.5%であった。一方、「まったく利用しない」は<その他>を除くと<女性/70歳以上>が81.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が76.7%であった。(図IV-9-2)

家族構成別で見ると、「年に数回程度」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が37.0%であった。一方、「まったく利用しない」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が77.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が73.7%であった。(図IV-9-2)

居住地域別で見ると、「年に数回程度」は<本庁(都心)>が39.5%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が37.1%であった。一方、「まったく利用しない」は<本庁(周辺)>が75.6%で最も高く、次いで<東部地域>が73.8%であった。(図IV-9-2)

<図IV-9-2>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別



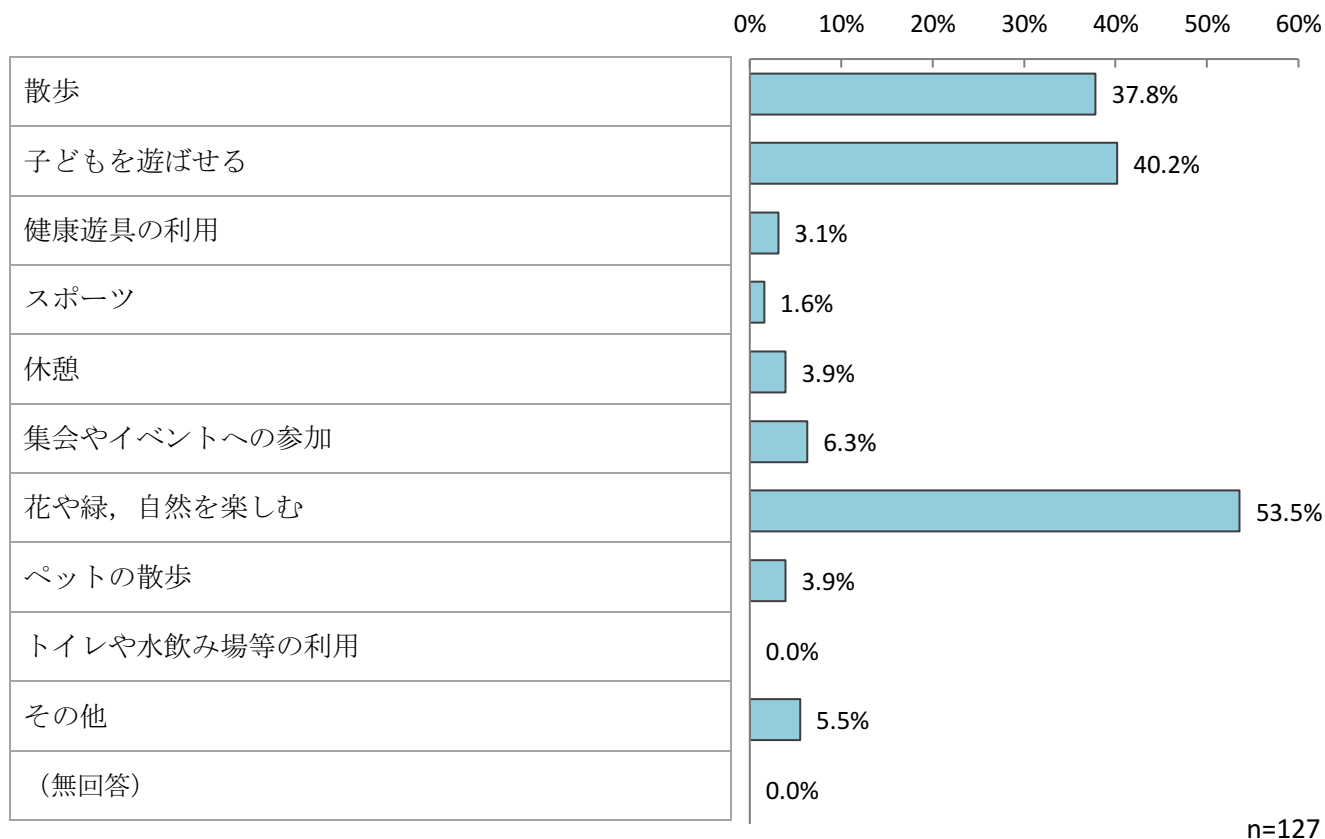
(2) 「八幡山公園」の利用目的

◇ 「花や緑, 自然を楽しむ」が5割半ば

問31 問30で1～4と回答した方にお聞きします。「八幡山公園」をどのような目的で利用しますか。
(〇はいくつでも)

	n=127
1 散歩	37.8%
2 子どもを遊ばせる	40.2%
3 健康遊具の利用	3.1%
4 スポーツ	1.6%
5 休憩	3.9%
6 集会やイベントへの参加	6.3%
7 花や緑, 自然を楽しむ	53.5%
8 ペットの散歩	3.9%
9 トイレや水飲み場等の利用	0.0%
10 その他	5.5%
(無回答)	0.0%

<図IV-9-3>全体



「八幡山公園」の利用目的については、「花や緑, 自然を楽しむ」が 53.5%で最も高く、次いで「子どもを遊ばせる」が 40.2%と続いている。(図IV-9-3)

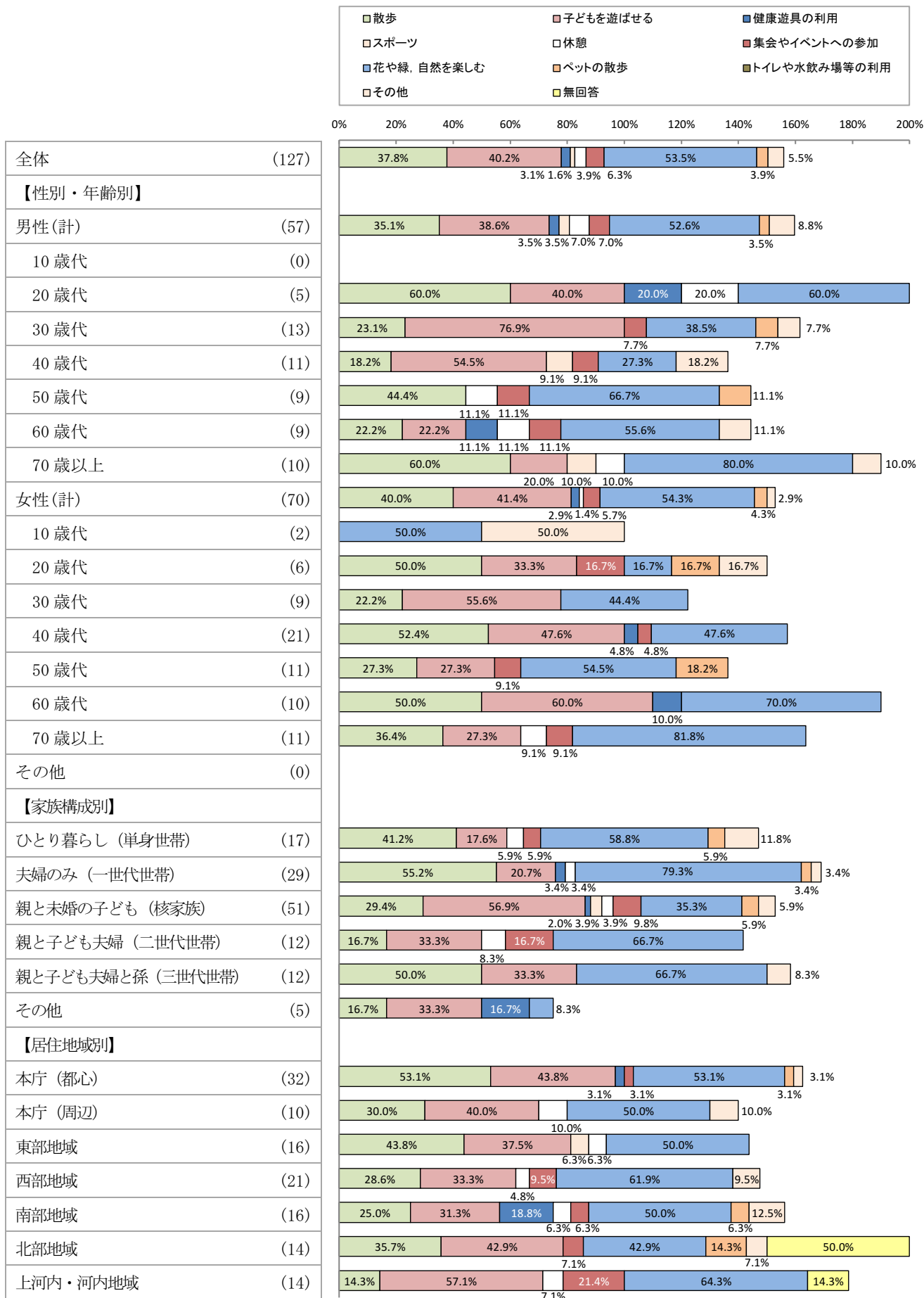
<参考>

性別・年齢別で見ると、「花や緑, 自然を楽しむ」は<女性/70歳以上>が 81.8%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 80.0%であった。「子どもを遊ばせる」は<男性/30歳代>が 76.9%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 60.0%であった。(図IV-9-4)

家族構成別で見ると、「花や緑, 自然を楽しむ」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 79.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>と<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>がいずれも 66.7%であった。「子どもを遊ばせる」は、<親と未婚の子ども(核家族)>が 56.9%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世代世帯)>と<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>がいずれも 33.3%であった。(図IV-9-4)

居住地域別で見ると、「花や緑, 自然を楽しむ」は<上河内・河内地域>が 64.3%で最も高く、次いで<西部地域>が 61.9%であった。「子どもを遊ばせる」は<上河内・河内地域>が 57.1%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 43.8%であった。(図IV-9-4)

<図IV-9-4>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

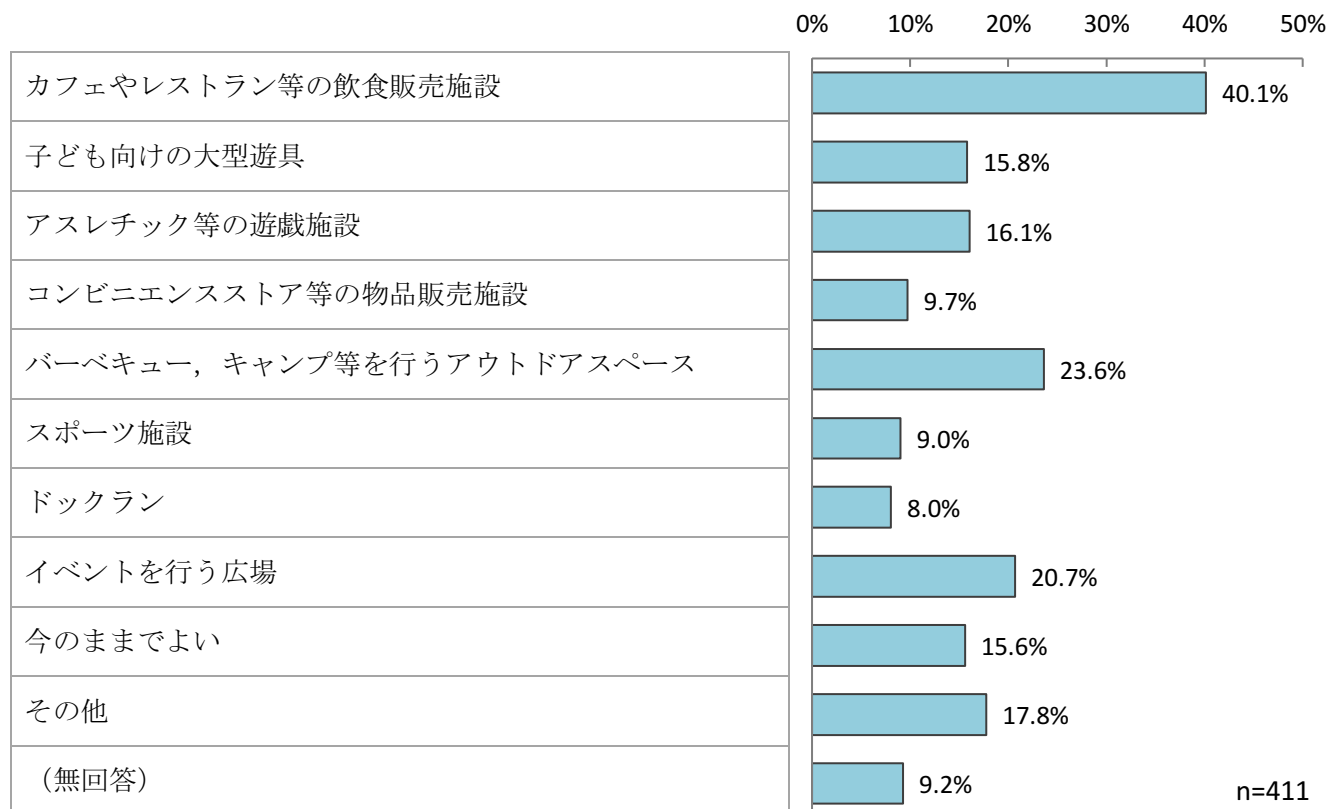


(3) 「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

◇ 「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が約4割

問3 2 「八幡山公園」の魅力や利便性が向上するためには、どのような施設があるとよいと思いますか。		
		(〇はいくつでも)
		n=411
1	カフェやレストラン等の飲食販売施設	40.1%
2	子ども向けの大型遊具	15.8%
3	アスレチック等の遊戯施設	16.1%
4	コンビニエンスストア等の物品販売施設	9.7%
5	バーベキュー, キャンプ等を行うアウトドアスペース	23.6%
6	スポーツ施設	9.0%
7	ドックラン	8.0%
8	イベントを行う広場	20.7%
9	今のままでよい	15.6%
10	その他	17.8%
	(無回答)	9.2%

<図IV-9-5>全体



「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が40.1%で最も高く、次いで「バーベキュー, キャンプ等を行うアウトドアスペース」が23.6%と続いている。(図IV-9-5)

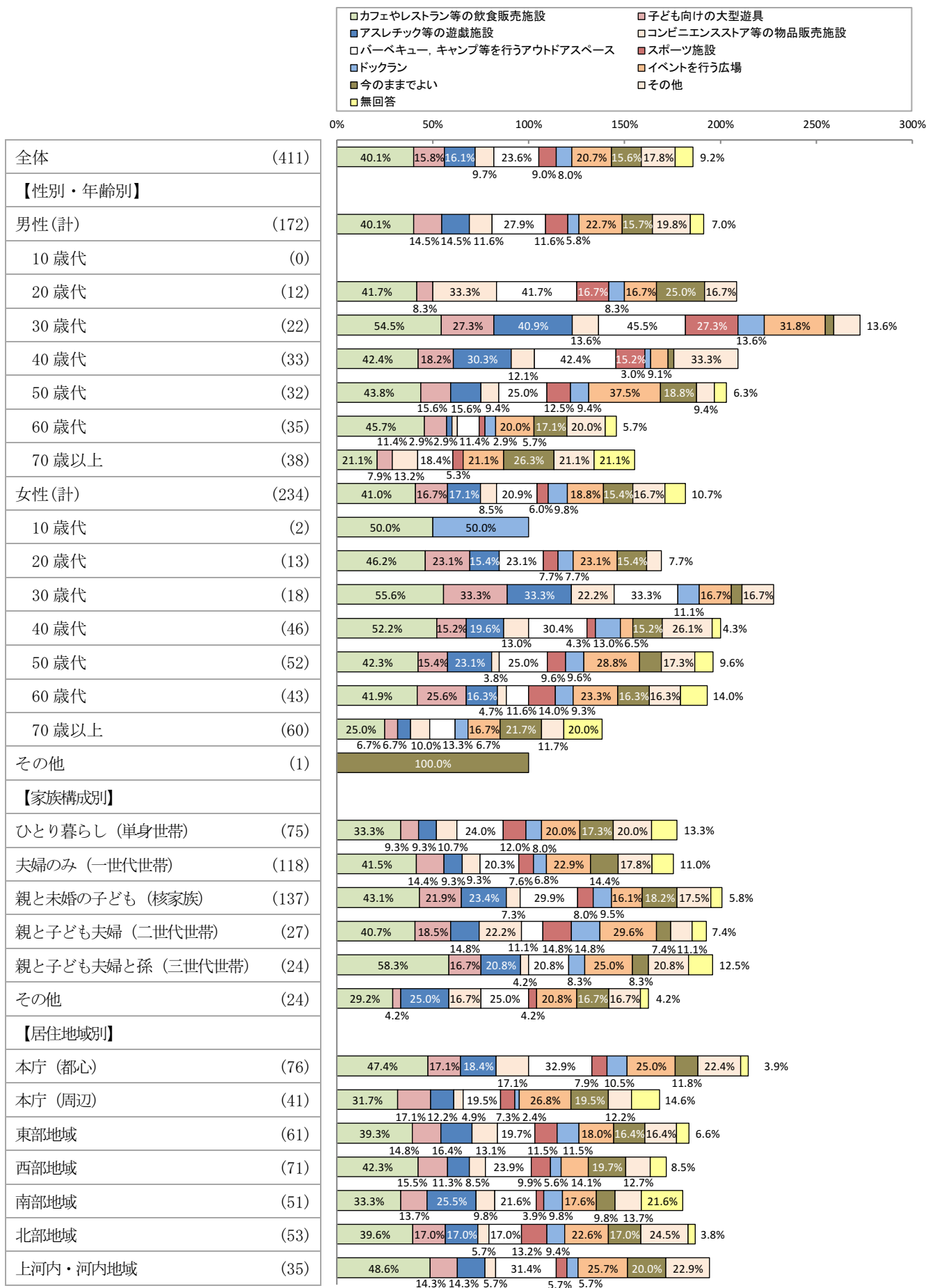
<参考>

性別・年齢別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<女性/30歳代>が55.6%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が54.5%であった。「バーベキュー, キャンプ等を行うアウトドアスペース」は<男性/30歳代>が45.5%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が42.4%であった。(図IV-9-6)

家族構成別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が58.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が43.1%であった。「バーベキュー, キャンプ等を行うアウトドアスペース」は、<親と未婚の子ども(核家族)>が29.9%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が24.0%であった。(図IV-9-6)

居住地域別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<上河内・河内地域>が48.6%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が47.4%であった。「バーベキュー, キャンプ等を行うアウトドアスペース」は<本庁(都心)>が32.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が31.4%であった。(図IV-9-6)

<図IV-9-6>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

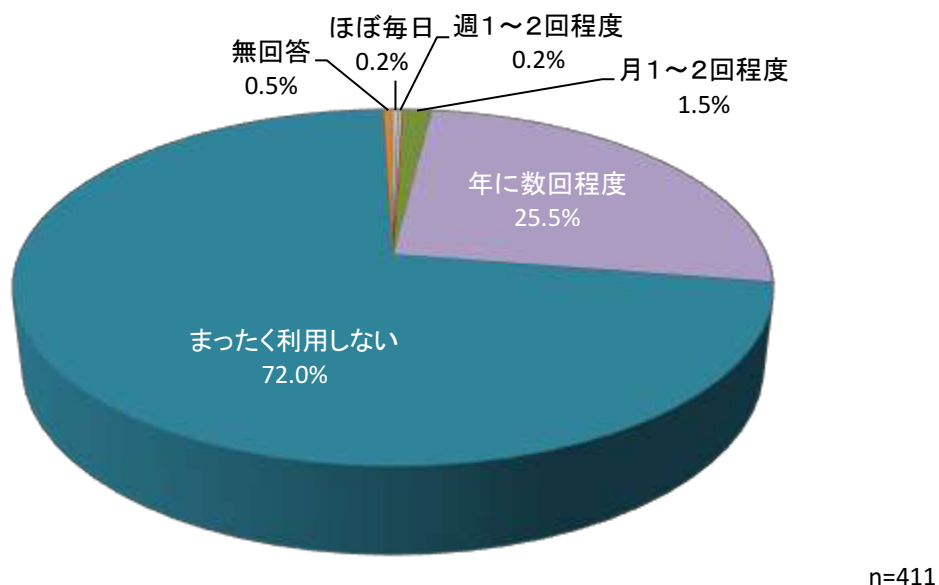


(4) 「宇都宮城址公園」の利用頻度

◇ 「まったく利用しない」が7割強

問33 あなたは、「宇都宮城址公園」をどの程度利用しますか。		(○は1つ)
		n=411
1	ほぼ毎日	0.2%
2	週1～2回程度	0.2%
3	月1～2回程度	1.5%
4	年に数回程度	25.5%
5	まったく利用しない	72.0%
	(無回答)	0.5%

<図IV-9-7>全体



「宇都宮城址公園の利用頻度」については、「まったく利用しない」が72.0%で最も高く、次いで「年に数回程度」が25.5%、「月1～2回程度」が1.5%と続いている。(図IV-9-7)

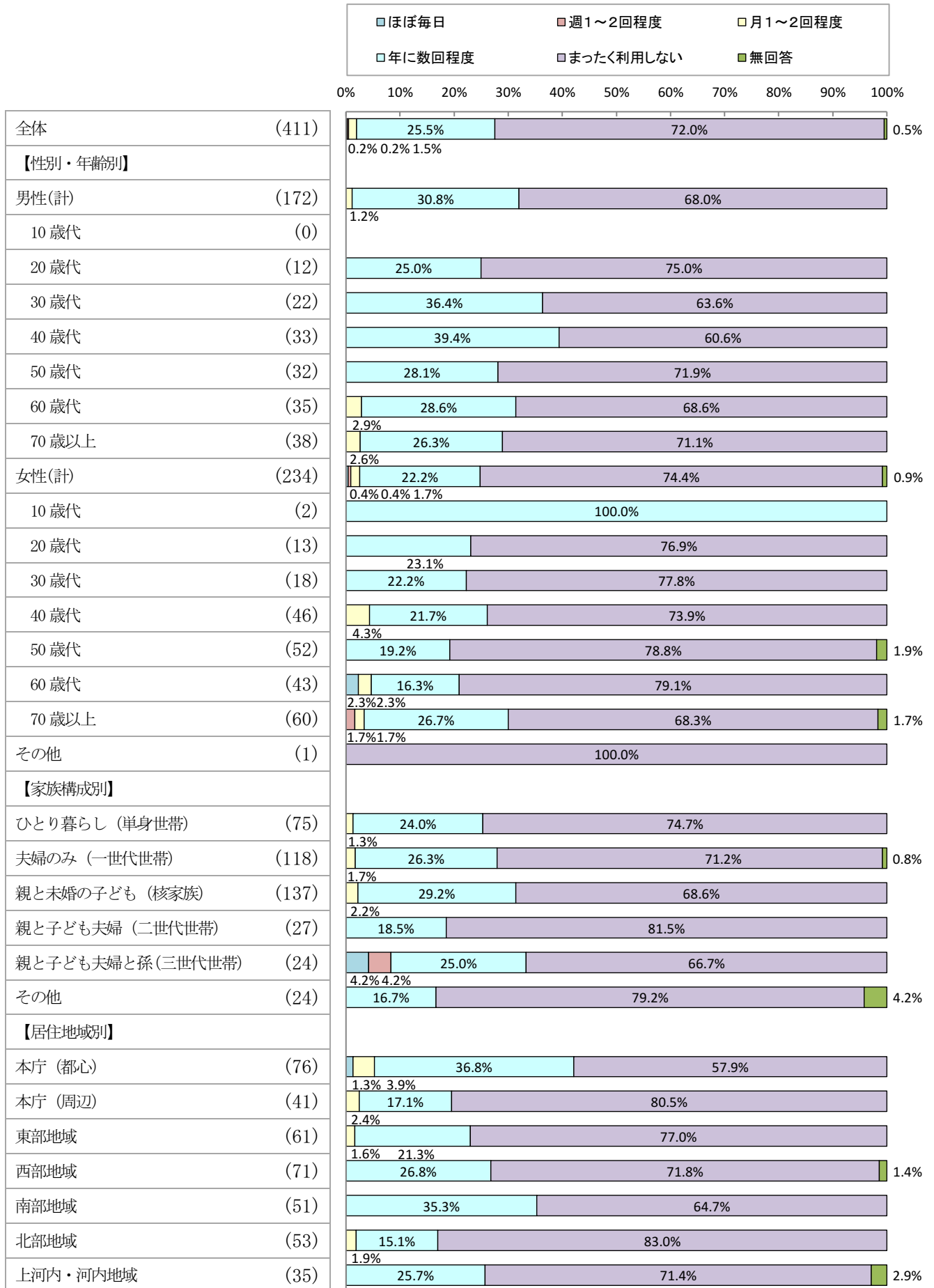
<参考>

性別・年齢別で見ると、「年に数回程度」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が39.4%であった。一方、「まったく利用しない」は<その他>を除くと<女性/60歳代>が79.1%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が78.8%であった。(図IV-9-8)

家族構成別で見ると、「年に数回程度」は<親と未婚の子ども(核家族)>が29.2%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が26.3%であった。一方、「まったく利用しない」は、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が81.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が74.7%であった。(図IV-9-8)

居住地域別で見ると、「年に数回程度」は<本庁(都心)>が36.8%で最も高く、次いで<南部地域>が35.3%であった。一方、「まったく利用しない」は<北部地域>が83.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が80.5%であった。(図IV-9-8)

<図IV-9-8>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

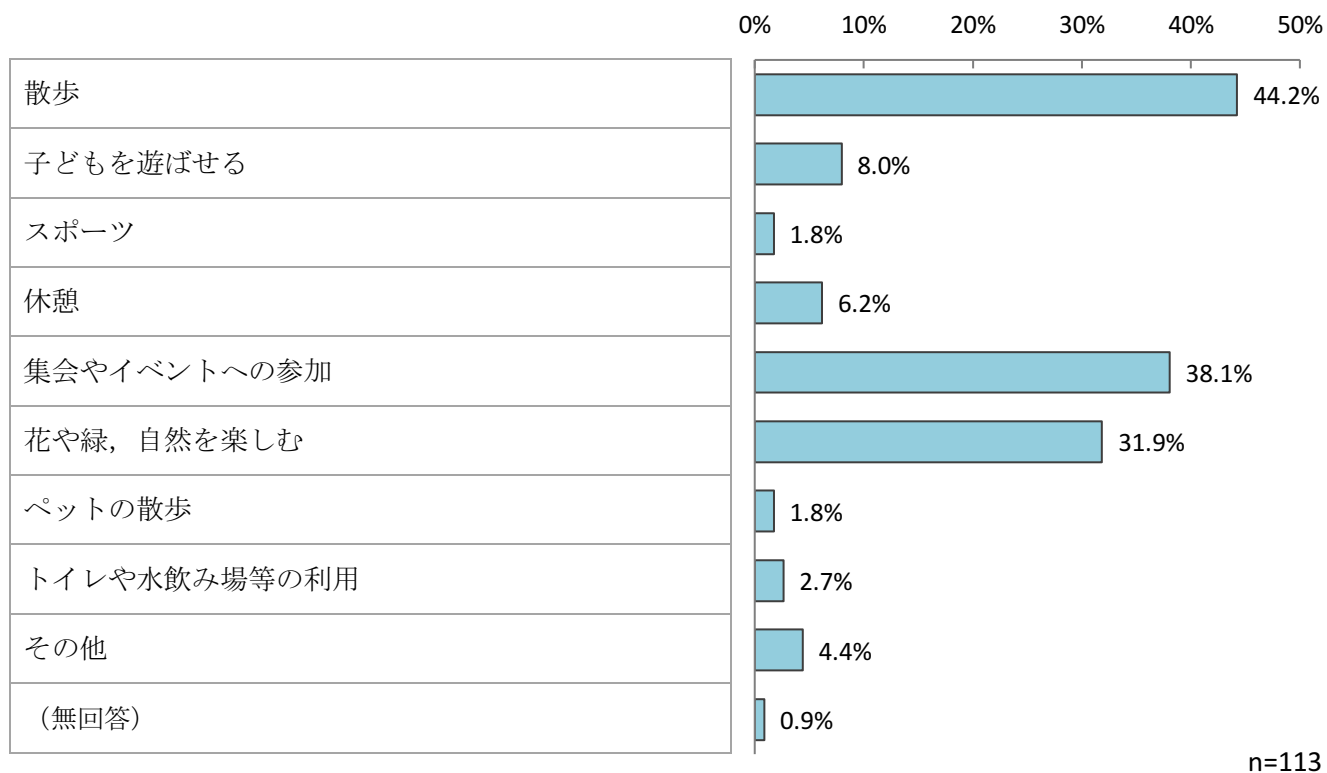


(5) 「宇都宮城址公園」の利用目的

◇ 「散歩」が4割半ば

問3 4	問3 3で1～4と回答した方にお聞きします。「宇都宮城址公園」をどのような目的で利用しますか。	(〇はいくつでも)	n=113
1	散歩		44.2%
2	子どもを遊ばせる		8.0%
3	スポーツ		1.8%
4	休憩		6.2%
5	集会やイベントへの参加		38.1%
6	花や緑, 自然を楽しむ		31.9%
7	ペットの散歩		1.8%
8	トイレや水飲み場等の利用		2.7%
9	その他		4.4%
	(無回答)		0.9%

<図IV-9-9>全体



「宇都宮城址公園」の利用目的については、「散歩」が44.2%で最も高く、次いで「集会やイベントへの参加」が38.1%と続いている。(図IV-9-9)

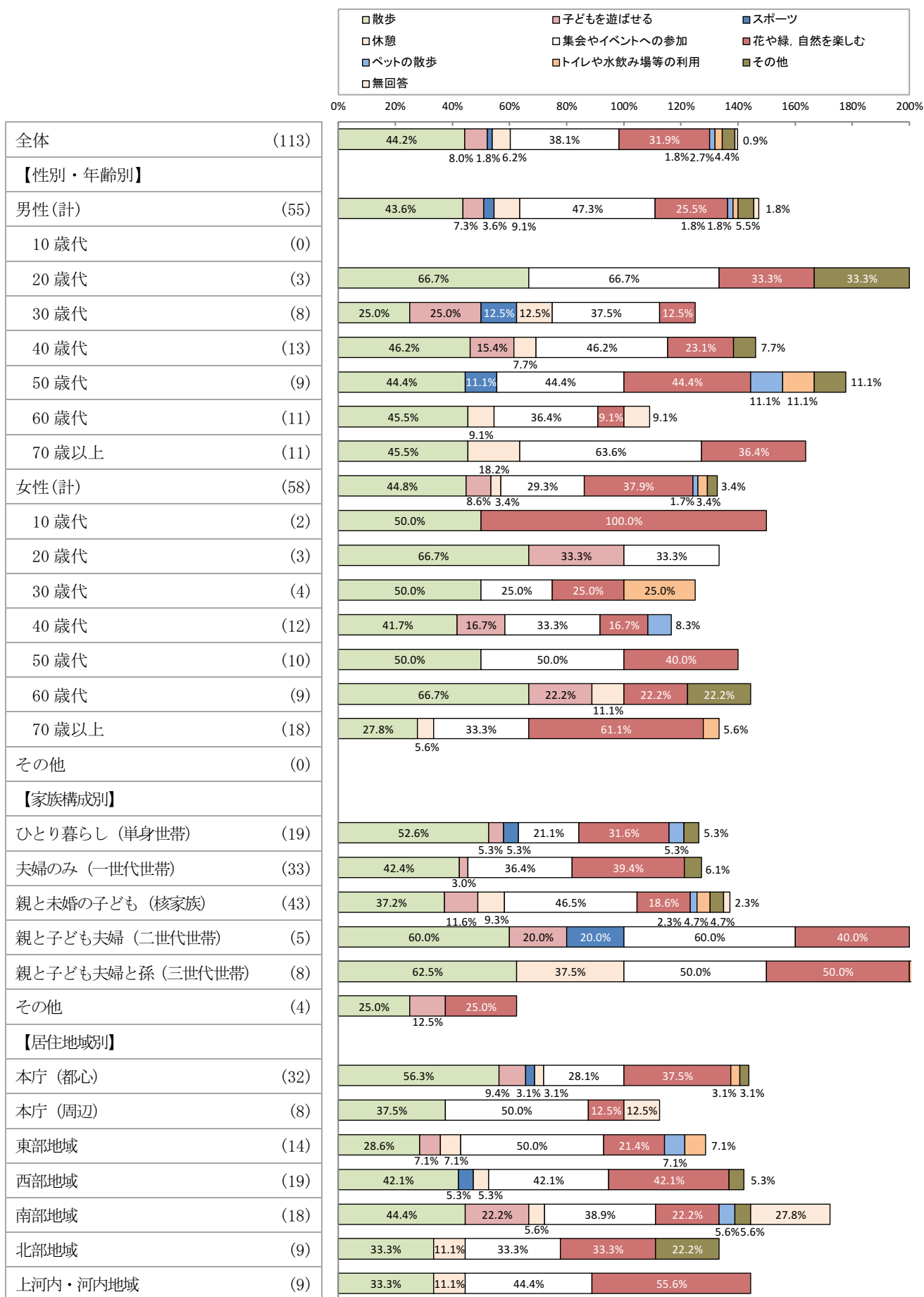
<参考>

性別・年齢別で見ると、「散歩」は<男性/20歳代>と<女性/20歳代>と<女性/60歳代>がいずれも66.7%で最も高く、次いで<女性/10歳代>と<女性/30歳代>と<女性/50歳代>がいずれも50.0%であった。「集会やイベントへの参加」は<男性/20歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が63.6%であった。(図IV-9-10)

家族構成別で見ると、「散歩」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が62.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が60.0%であった。「集会やイベントへの参加」は、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が60.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が50.0%であった。(図IV-9-10)

居住地域別で見ると、「散歩」は<本庁(都心)>が56.3%で最も高く、次いで<南部地域>が44.4%であった。「集会やイベントへの参加」は<本庁(周辺)>と<東部地域>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が44.4%であった。(図IV-9-10)

<図IV-9-10>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

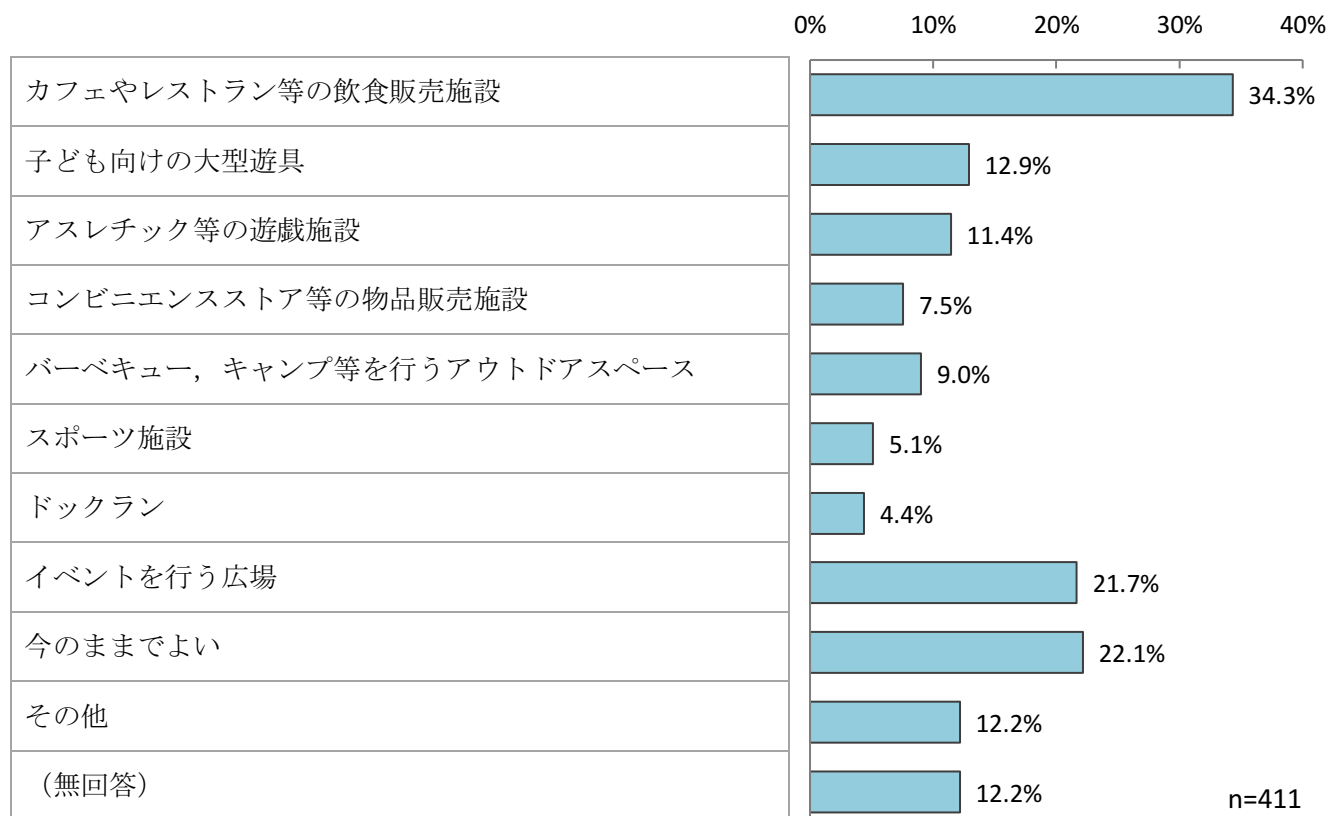


(6) 「宇都宮城址公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

◇ 「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が3割半ば

問35 「宇都宮城址公園」の魅力や利便性が向上するためには、どのような施設があるとよいと思いますか。		(〇はいくつでも)
		n=411
1	カフェやレストラン等の飲食販売施設	34.3%
2	子ども向けの大型遊具	12.9%
3	アスレチック等の遊戯施設	11.4%
4	コンビニエンスストア等の物品販売施設	7.5%
5	バーベキュー、キャンプ等を行うアウトドアスペース	9.0%
6	スポーツ施設	5.1%
7	ドックラン	4.4%
8	イベントを行う広場	21.7%
9	今のままでよい	22.1%
10	その他	12.2%
	(無回答)	12.2%

<図IV-9-11>全体



宇都宮城址公園の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が 34.3%で最も高く、次いで「今のままでよい」が 22.1%と続いている。(図IV-9-11)

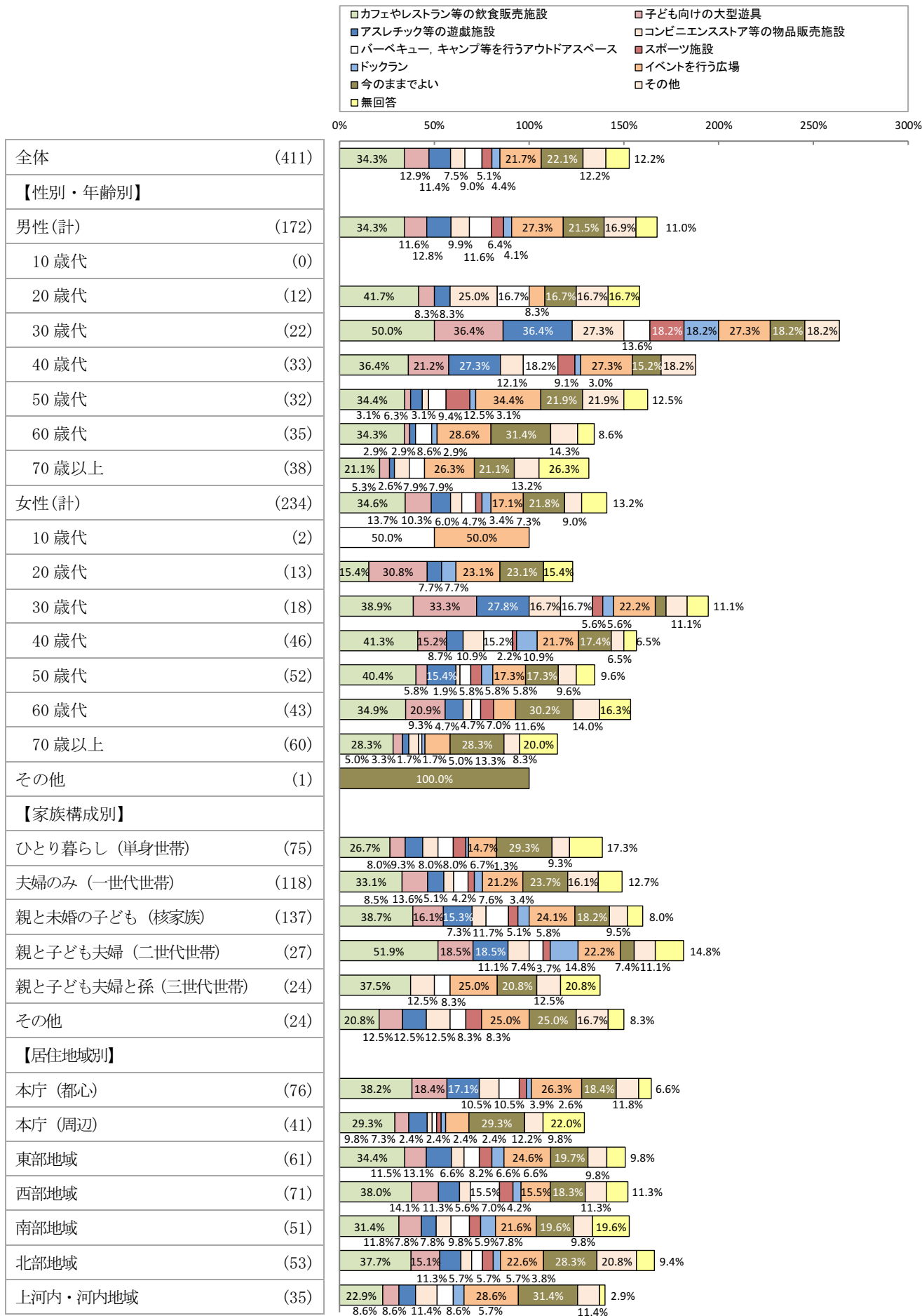
<参考>

性別・年齢別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<男性/30歳代>が 50.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が 41.7%であった。「今のままでよい」は<その他>を除くと<男性/60歳代>が 31.4%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 30.2%であった。(図IV-9-12)

家族構成別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 51.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 38.7%であった。「今のままでよい」は、<ひとり暮らし(単身世帯)>が 29.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 23.7%であった。(図IV-9-12)

居住地域別で見ると、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」は<本庁(都心)>が 38.2%で最も高く、次いで<西部地域>が 38.0%であった。「今のままでよい」は<上河内・河内地域>が 31.4%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 29.3%であった。(図IV-9-12)

<図IV-9-12>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別



10. 救急車の利用について

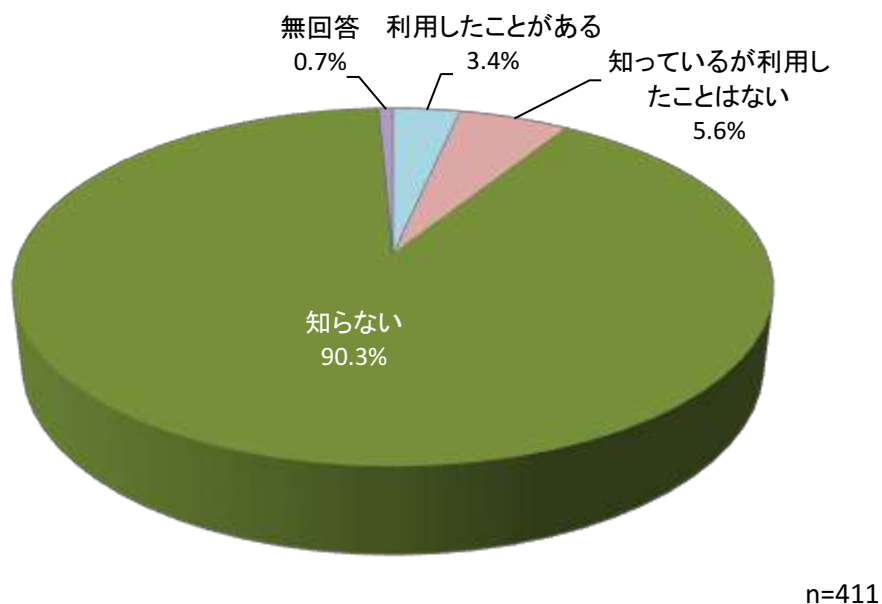
(1) 救急受診アプリケーション「Q助」の認知度

◇ 「知らない」が約9割

問36 救急車を呼ぶか迷った際に、症状の緊急度が素早く判定でき、救急車を呼ぶ目安とすることができる救急受診アプリケーション「Q助」を知っていますか。 (○は1つ)

	n=411
1 利用したことがある	3.4%
2 知っているが利用したことはない	5.6%
3 知らない	90.3%
(無回答)	0.7%

<図IV-10-1>全体

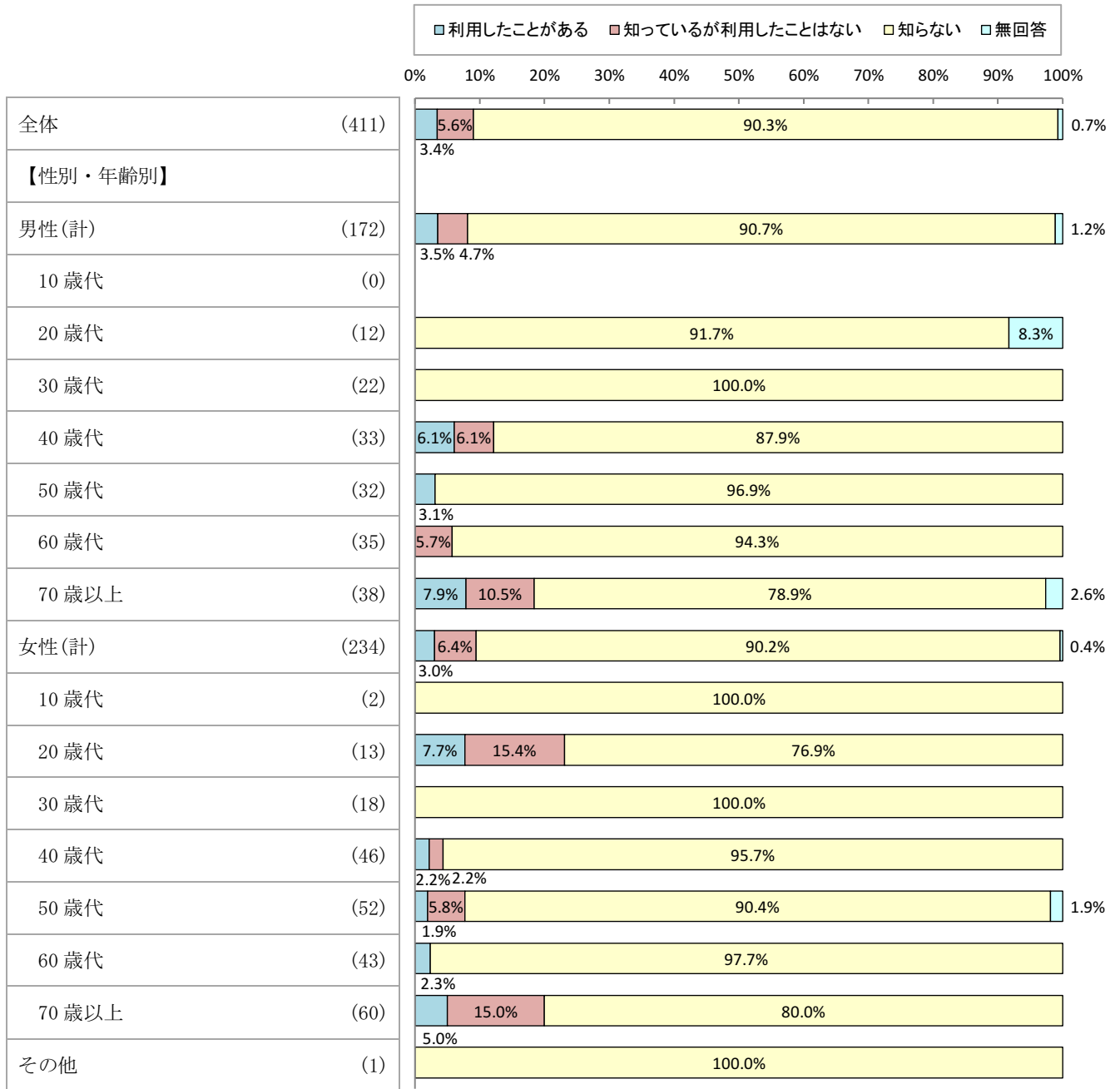


救急受診アプリケーション「Q助」の認知度については、「知らない」が90.3%で最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」が5.6%、「利用したことがある」が3.4%であった。(図IV-10-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「利用したことがある」は<男性/70歳以上>が7.9%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が7.7%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと<男性/30歳代>と<女性/10歳代>と<女性/30歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が97.7%であった。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性別・年齢別

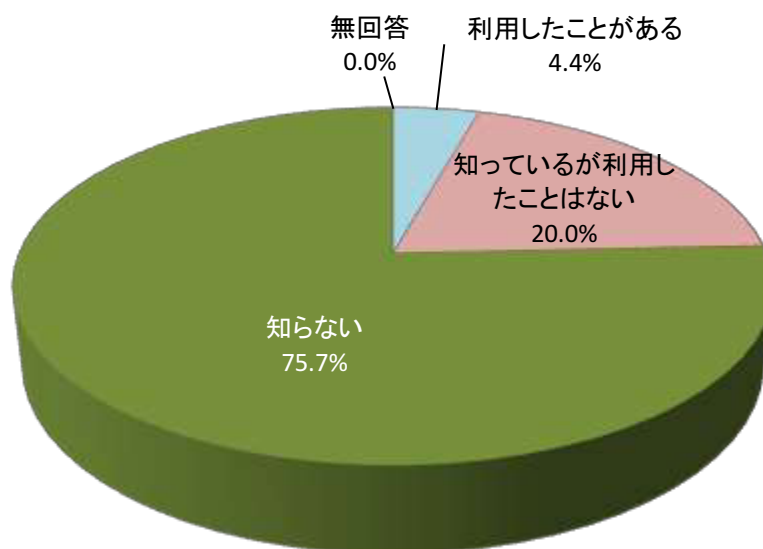


(2) 「救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）」の認知度

◇ 「知らない」が7割半ば

問37	救急車は必要ないけれど急な病気やけがに関する家庭での対処方法などを相談したい時に、看護師がアドバイスをしてくれる「救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）」を知っていますか。 (○は1つ)	n=411
1	利用したことがある	4.4%
2	知っているが利用したことはない	20.0%
3	知らない	75.7%
	(無回答)	0.0%

<図IV-10-3>全体



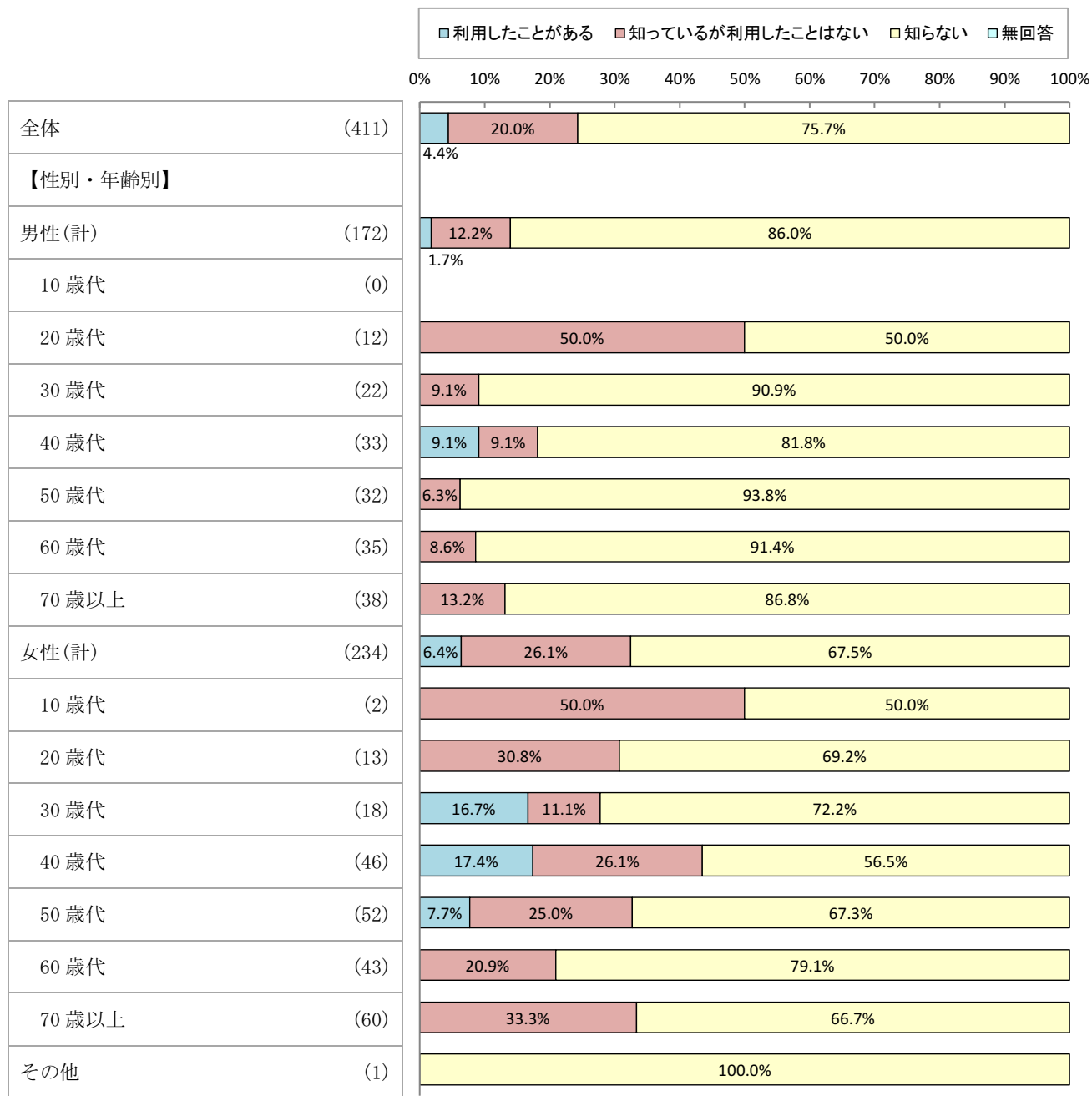
n=411

「救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）」の認知度については、「知らない」が75.7%で最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」が20.0%、「利用したことがある」が4.4%であった。(図IV-10-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「利用したことがある」は<女性/40歳代>が17.4%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が16.7%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと<男性/50歳代>が93.8%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が91.4%であった。(図IV-10-4)

<図IV-10-4>性別・年齢別

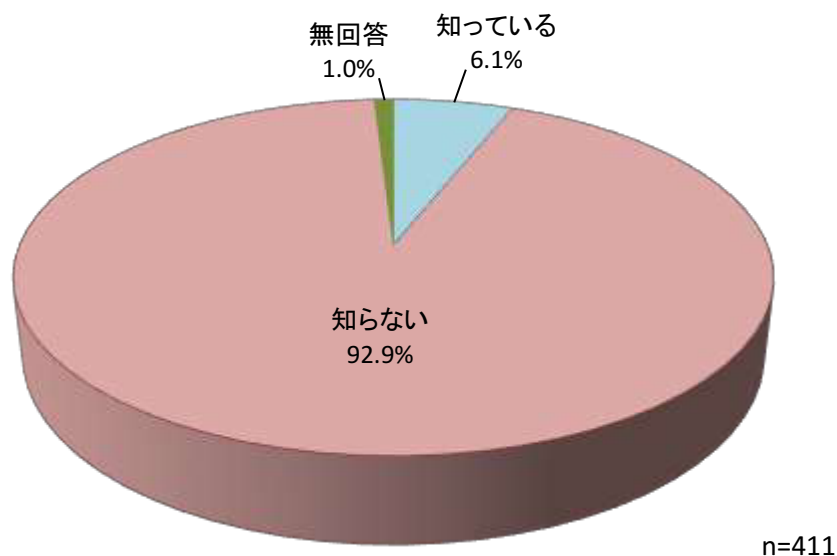


(3) 救急電話相談の相談時間の認知度

◇ 「知らない」が9割強

問38	「救急電話相談の相談時間（大人：月～金18時～22時・土日祝日16時～22時，子ども：月～土18時～翌朝8時，日祝日8時～翌朝8時）」を知っていますか。（○は1つ）	n=411
1	知っている	6.1%
2	知らない	92.9%
	（無回答）	1.0%

<図IV-10-5>全体

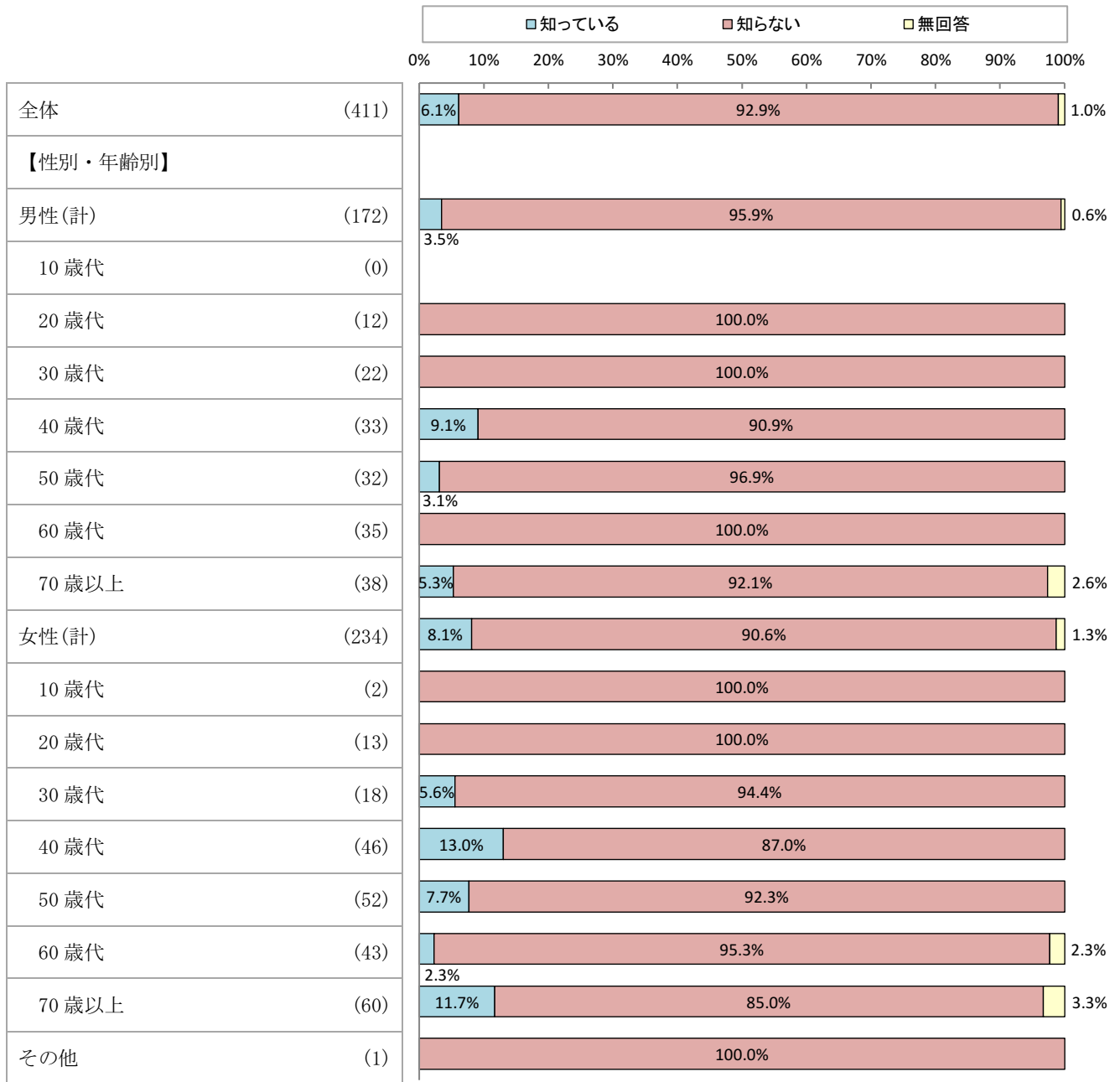


救急電話相談の相談時間の認知度については、「知らない」が92.9%、「知っている」が6.1%であった。（図IV-10-5）

<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<女性/40歳代>が13.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が11.7%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと<男性/20歳代>と<男性/30歳代>と<男性/60歳代>と<女性/10歳代>と<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が96.9%であった。（図IV-10-6）

<図IV-10-6>性別・年齢別



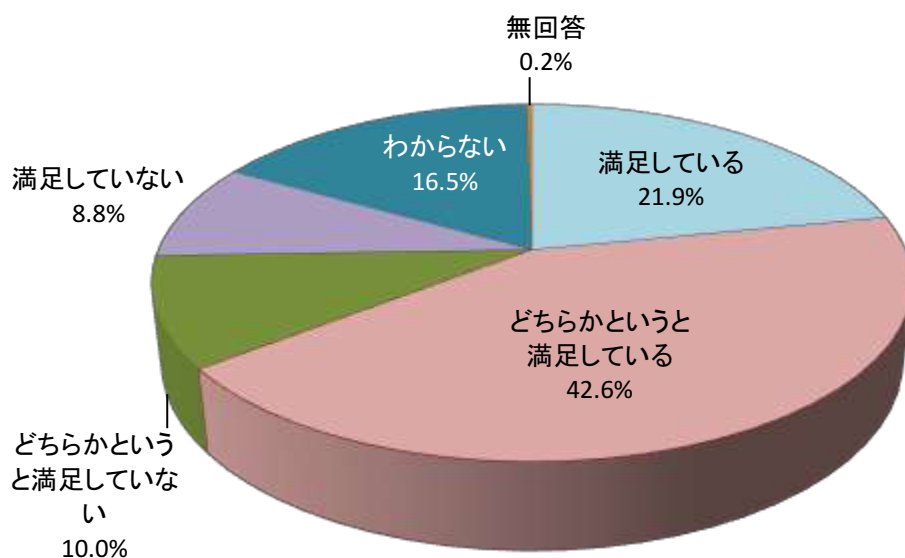
11. 上下水道事業について

(1) 上下水道サービスの満足度

◇ 「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた【満足している（計）】が6割半ば

問39	あなたは、上下水道サービス（※）に満足していますか。	
	※上下水道サービスとは、安全で安心な水道水の供給、下水の適正処理の推進、受付サービスの向上、情報提供の充実、効率的な事業運営による健全な経営の推進など	（○は1つ）
		n=411
1	満足している	21.9%
2	どちらかという満足している	42.6%
3	どちらかという満足していない	10.0%
4	満足していない	8.8%
5	わからない	16.5%
	（無回答）	0.2%

<図IV-11-1>全体



n=411

上下水道サービスの満足度については、「満足している」が21.9%、「どちらかという満足している」が42.6%で、これらを合わせた【満足している（計）】は64.5%であった。一方、「どちらかという満足していない」が10.0%、「満足していない」が8.8%で、これらを合わせた【満足していない（計）】は18.8%であった。（図IV-11-1）

<参考>

性別・年齢別で見ると、【満足している（計）】は<男性/40歳代>が81.8%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が73.4%と続いている。一方、【不満である（計）】は<男性/70歳以上>が26.3%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が25.7%と続いている。（図IV-11-2）

居住年数別で見ると、【満足している（計）】は<5年未満>が74.0%で最も高く、次いで<20年以上>が66.6%と続いている。一方、【不満である（計）】は<5年以上～10年未満>が29.4%で最も高く、次いで<20年以上>が18.7%と続いている。（図IV-11-2）

居住地域別で見ると、【満足している（計）】は<東部地域>が70.5%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が68.3%と続いている。一方、【不満である（計）】は<南部地域>が23.5%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が22.0%と続いている。（図IV-11-2）

<図Ⅳ－1 1－2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

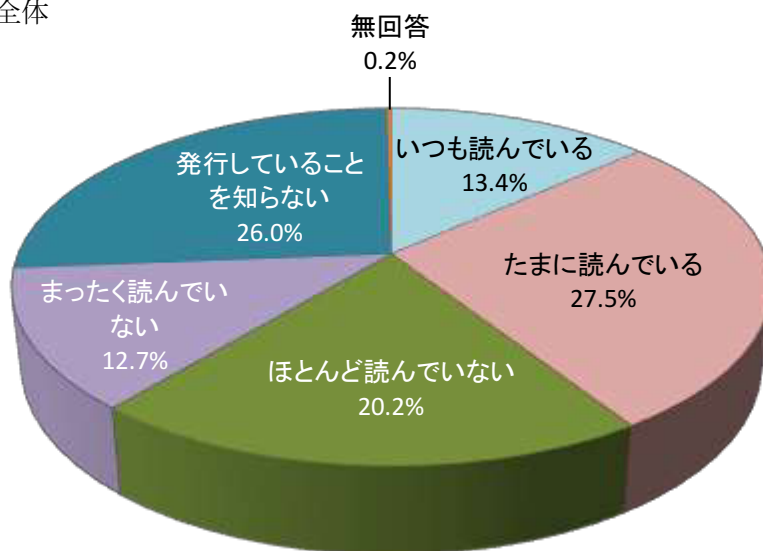


(2) 上下水道局の広報紙「私たちの暮らしと水」を読む頻度

◇ 「たまに読んでいる」が3割弱

問40	上下水道局では、広報紙「私たちの暮らしと水」を年4回（6，9，12，3月），新聞折込や送付により市民へお届けしていますが，あなたは，どの程度，広報紙「私たちの暮らしと水」を読んでいますか。	(○は1つ)
		n=411
1	いつも読んでいる	13.4%
2	たまに読んでいる	27.5%
3	ほとんど読んでいない	20.2%
4	まったく読んでいない	12.7%
5	発行していることを知らない	26.0%
	(無回答)	0.2%

<図IV-11-3>全体



n=411

上下水道局の広報紙を読む頻度については、「いつも読んでいる」が13.4%、「たまに読んでいる」が27.5%で、これらを合わせた『読んでいる（計）』が40.9%であった。一方、「ほとんど読んでいない」が20.2%、「まったく読んでいない」が12.7%で、これらを合わせた『読んでいない（計）』が32.9%であった。（図IV-11-3）

<参考>

性別・年齢別で見ると，【読んでいる（計）】は<女性/70歳以上>が70.0%で最も高く，次いで<女性/60歳代>が65.1%と続いている。一方，【読んでいない（計）】は<女性/40歳代>が43.5%で最も高く，次いで<女性/50歳代>が42.3%と続いている。（図IV-11-4）

居住年数別で見ると，【読んでいる（計）】は<20年以上>が49.1%で最も高く，次いで<出生時から>が43.9%と続いている。一方，【読んでいない（計）】は<20年以上>が36.9%で最も高く，<10年以上～20年未満>が35.5%と続いている。（図IV-11-4）

居住地域別で見ると，【読んでいる（計）】は<本庁（周辺）>が56.1%で最も高く，次いで<上河内・河内地域>が45.7%と続いている。一方，【読んでいない（計）】は<本庁（周辺）>が39.0%で最も高く，次いで<東部地域>が36.1%と続いている。（図IV-11-4）

<図IV-11-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



12. まちづくり活動への意識について

(1) まちづくり活動の参加状況

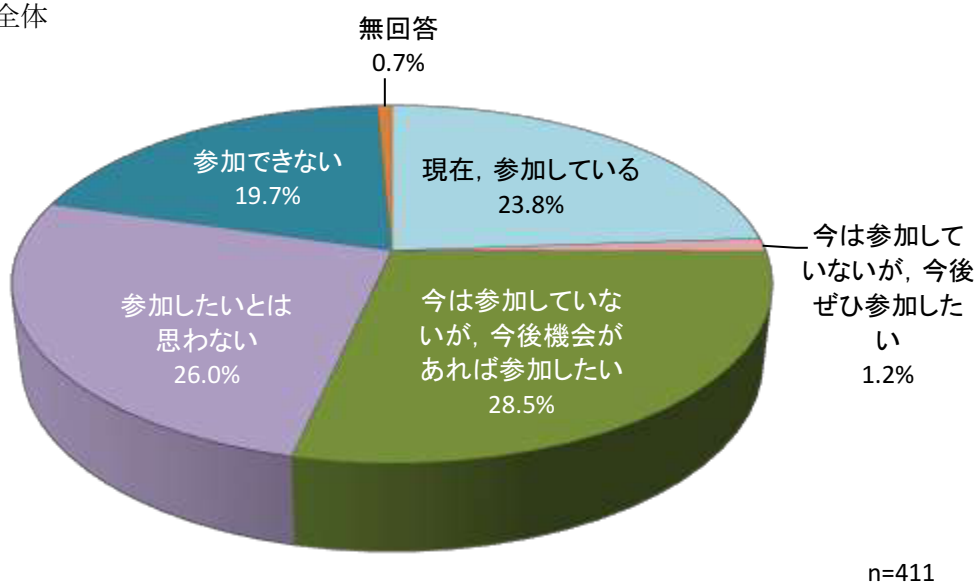
◇「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が約3割

問41 あなたの「まちづくり活動」(※)の参加状況について教えてください。

※まちづくり活動とは、自治会の活動、子ども会・育成会の活動、地域構成団体の活動（体育協会、婦人会、防犯協会等）、NPOや企業の活動、ボランティア活動など、営利を目的としない公益的な活動 (○は1つ)

	n=411
1 現在、参加している	23.8%
2 今は参加していないが、今後ぜひ参加したい	1.2%
3 今は参加していないが、今後機会があれば参加したい	28.5%
4 参加したいとは思わない	26.0%
5 参加できない	19.7%
(無回答)	0.7%

<図IV-12-1>全体



まちづくり活動の参加状況については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が28.5%で最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が26.0%、「現在、参加している」が23.8%と続いている。(図IV-12-1)

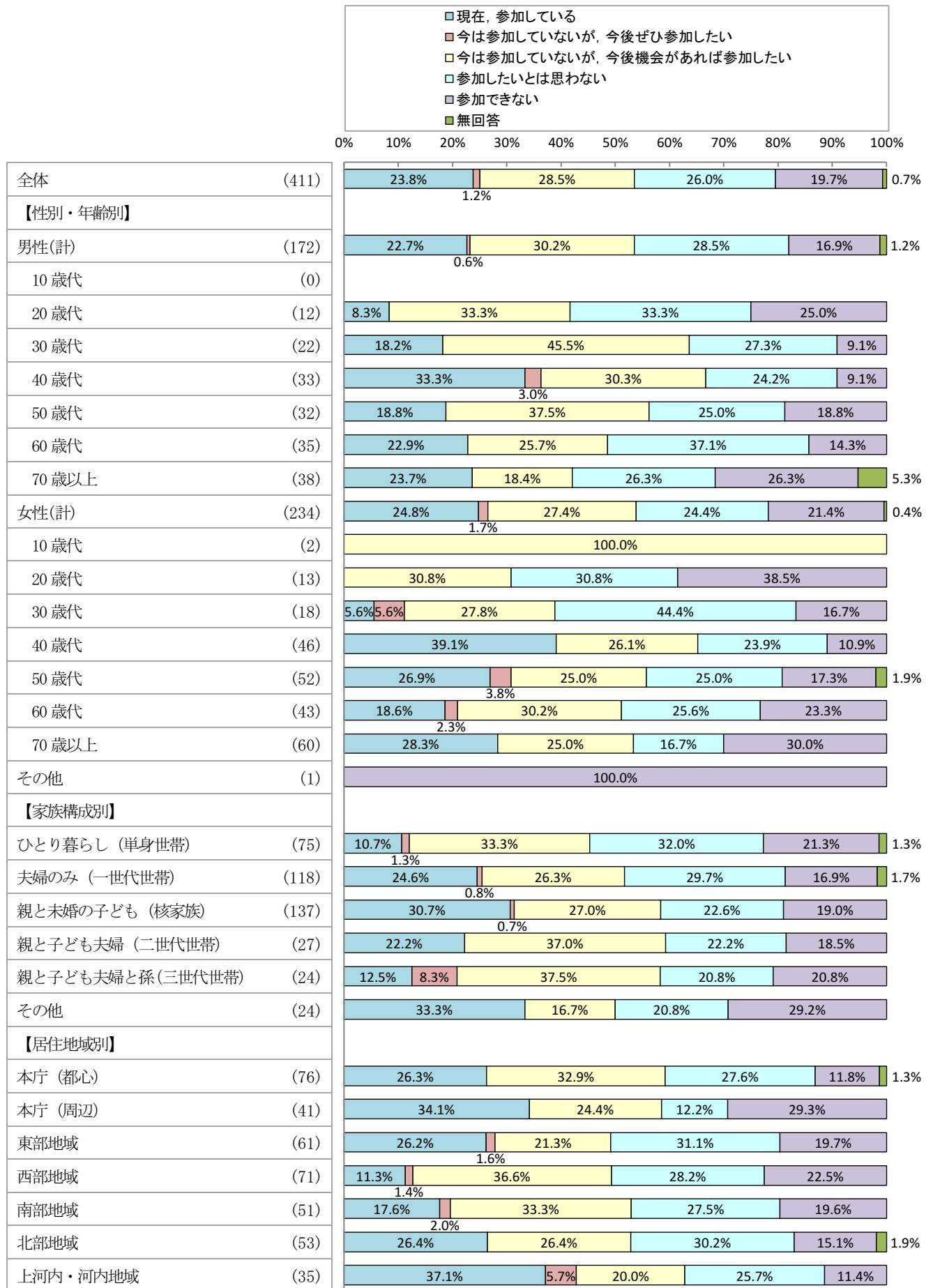
<参考>

性別・年齢別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が45.5%と続いている。「現在、参加している」は<女性/40歳代>が39.1%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が33.3%と続いている。(図IV-12-2)

家族構成別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が37.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が37.0%と続いている。「現在、参加している」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が30.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が24.6%と続いている。(図IV-12-2)

居住地域別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<西部地域>が36.6%で最も高く、次いで<南部地域>が33.3%と続いている。「現在、参加している」は<上河内・河内地域>が37.1%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が34.1%と続いている。(図IV-12-2)

<図IV-12-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

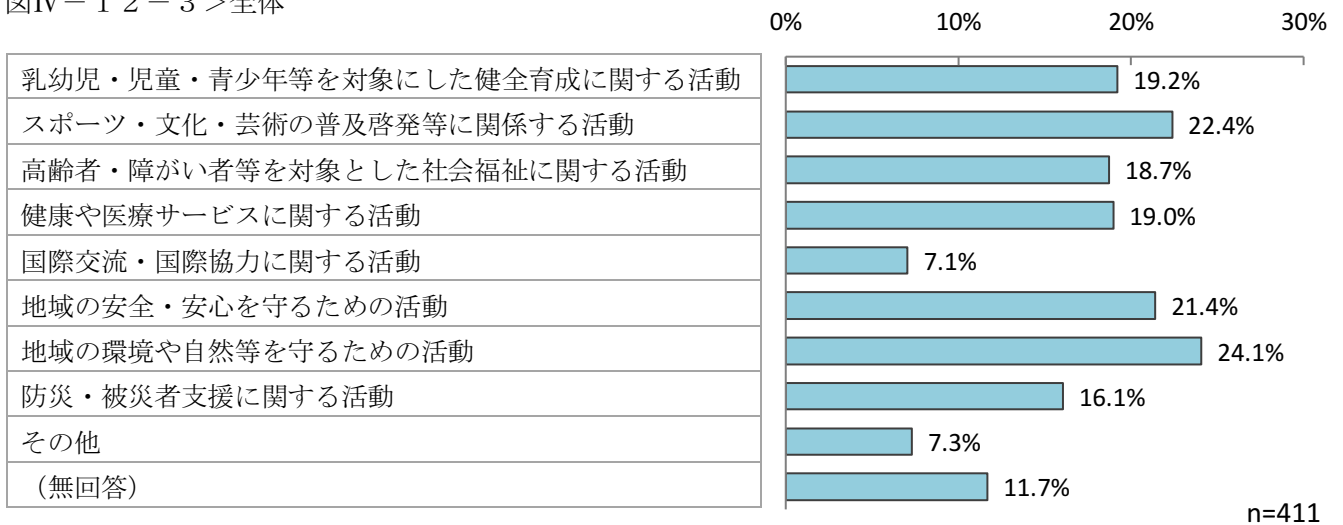


(2) 参加中または興味があるまちづくり活動

◇ 「地域の環境や自然等を守るための活動」が2割半ば

問42 あなたはどのような種類のまちづくり活動に参加していますか、または興味がありますか。		(〇はいくつでも)
		n=411
1	乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動	19.2%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動	22.4%
3	高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動	18.7%
4	健康や医療サービスに関する活動	19.0%
5	国際交流・国際協力に関する活動	7.1%
6	地域の安全・安心を守るための活動	21.4%
7	地域の環境や自然等を守るための活動	24.1%
8	防災・被災者支援に関する活動	16.1%
9	その他	7.3%
	(無回答)	11.7%

<図IV-12-3>全体



参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の環境や自然等を守るための活動」が24.1%で最も高く、次いで「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が22.4%、「地域の安全・安心を守るための活動」が21.4%と続いている。(図IV-12-3)

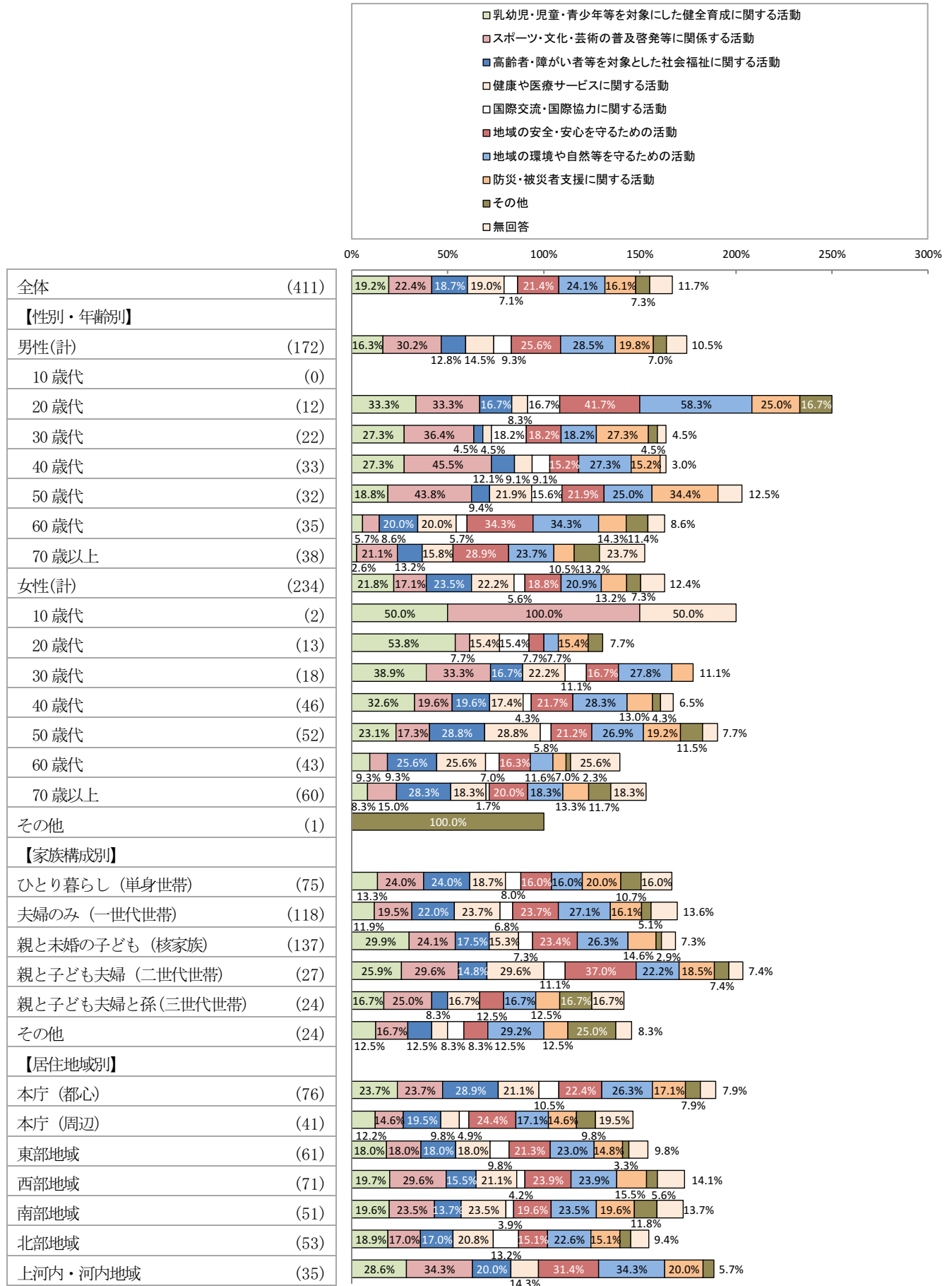
<参考>

性別・年齢別で見ると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<男性/20歳代>が58.3%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が34.3%と続いている。「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が45.5%と続いている。(図IV-12-4)

家族構成別で見ると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世代世帯)>が27.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が26.3%と続いている。「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が29.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が25.0%と続いている。(図IV-12-4)

居住地域別で見ると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<上河内・河内地域>が34.3%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が26.3%と続いている。「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<上河内・河内地域>が34.3%で最も高く、次いで<西部地域>が29.6%と続いている。(図IV-12-4)

<図IV-12-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) まちづくり活動に参加したいと思わない, または参加できない理由

◇ 「参加するチャンス・きっかけがない」が約3割

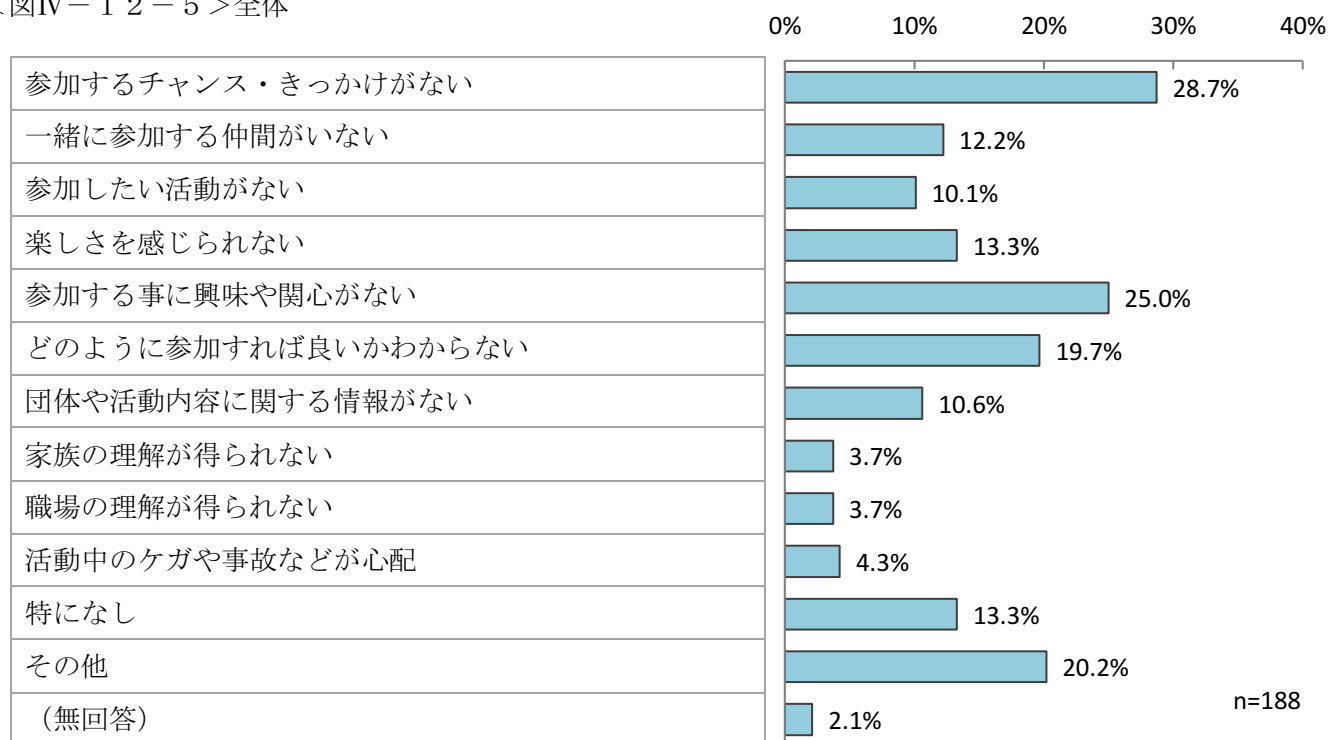
問43 問41でまちづくり活動に「4 参加したいと思わない」, 「5 参加できない」と回答した方にお聞きします。参加したいと思わない, または参加できない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

n=188

1	参加するチャンス・きっかけがない	28.7%
2	一緒に参加する仲間がない	12.2%
3	参加したい活動がない	10.1%
4	楽しさを感じられない	13.3%
5	参加する事に興味や関心がない	25.0%
6	どのように参加すれば良いかわからない	19.7%
7	団体や活動内容に関する情報がない	10.6%
8	家族の理解が得られない	3.7%
9	職場の理解が得られない	3.7%
10	活動中のケガや事故などが心配	4.3%
11	特になし	13.3%
12	その他	20.2%
	(無回答)	2.1%

<図IV-12-5>全体



まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が 28.7%で最も高く、次いで「参加する事に興味や関心がない」が 25.0%、＜その他＞を除くと「どのように参加すれば良いかわからない」が 19.7%と続いている。(図IV-12-5)

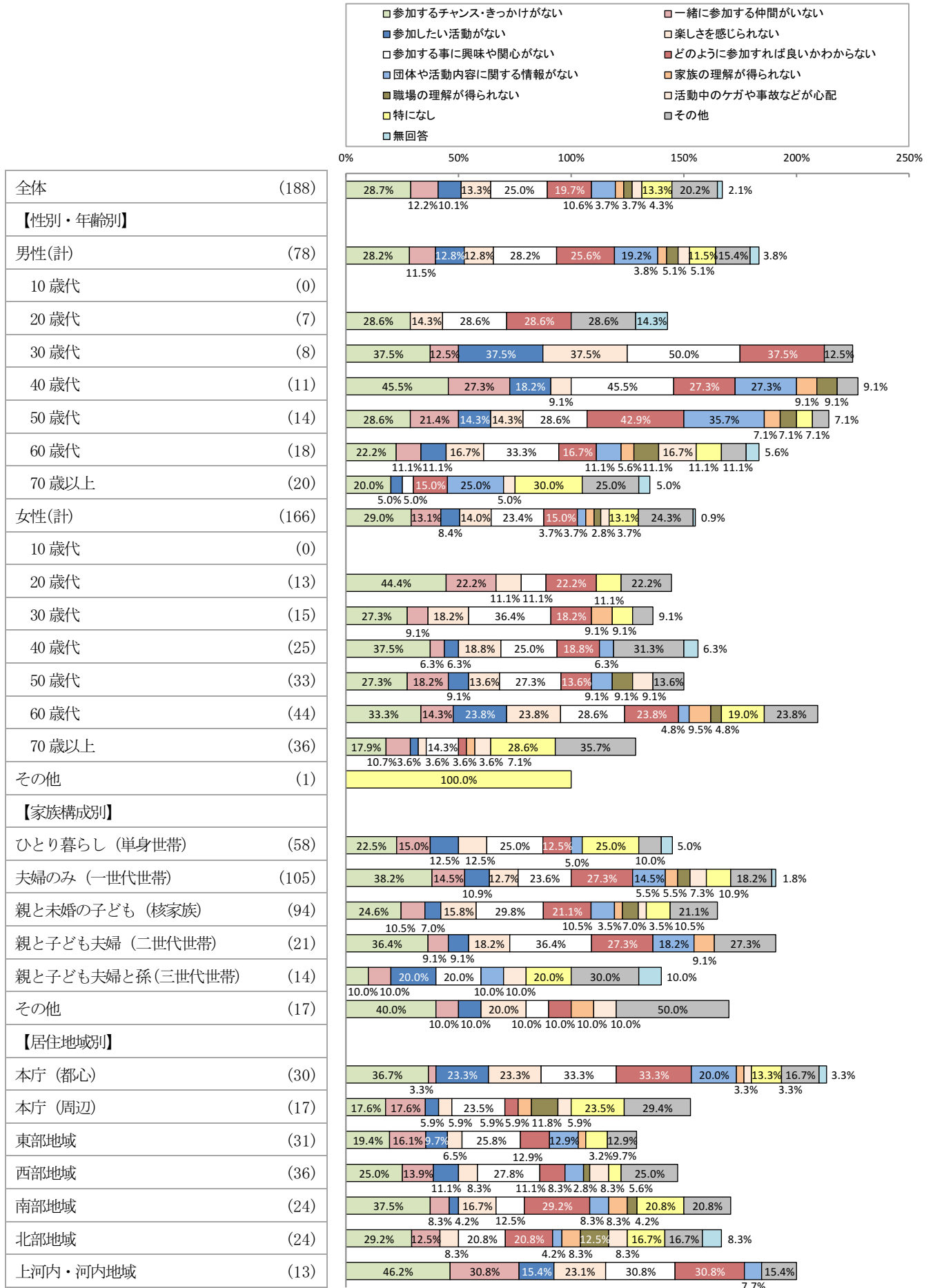
<参考>

性別・年齢別で見ると、「参加するチャンス・きっかけがない」は＜男性/40歳代＞が 45.5%で最も高く、次いで＜女性/20歳代＞が 44.4%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は＜男性/30歳代＞が 50.0%で最も高く、次いで＜男性/40歳代＞が 45.5%と続いている。(図IV-12-6)

家族構成別で見ると、「参加するチャンス・きっかけがない」は＜その他＞を除くと＜夫婦のみ（一世代世帯）＞が 38.2%で最も高く、次いで＜親と子ども夫婦（二世代世帯）＞が 36.4%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は＜親と子ども夫婦（二世代世帯）＞が 36.4%で最も高く、次いで＜親と未婚の子ども（核家族）＞が 29.8%と続いている。(図IV-12-6)

居住地域別で見ると、「参加するチャンス・きっかけがない」は＜上河内・河内地域＞が 46.2%で最も高く、次いで＜南部地域＞が 37.5%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は＜本庁（都心）＞が 33.3%で最も高く、次いで＜上河内・河内地域＞が 30.8%と続いている。(図IV-12-6)

<図IV-12-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



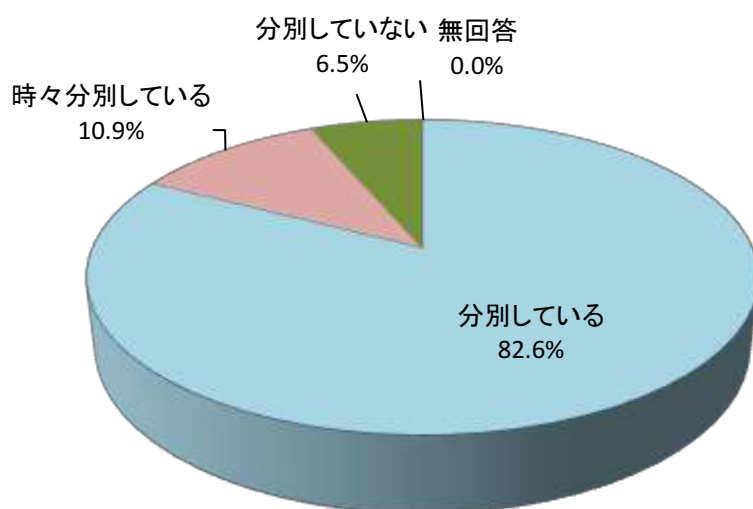
1 3. 資源とごみの分別について

(1) 「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況

◇ 「分別している」が8割強

問 4 4	あなたは、「プラスチック製容器包装（お弁当やお惣菜の容器，お菓子の袋，発泡スチロール製緩衝材など）」を分別して排出していますか。	(○は1つ)
		n=402
1	分別している	82.6%
2	時々分別している	10.9%
3	分別していない	6.5%
	(無回答)	0.0%

<図IV-13-1>全体



n=402

「プラスチック製容器包装（お弁当やお惣菜の容器，お菓子の袋，発泡スチロール製緩衝材など）」の排出時の分別については、「分別している」が82.6%で最も高く，次いで「時々分別している」が10.9%，「分別していない」が6.5%であった。(図IV-13-1)

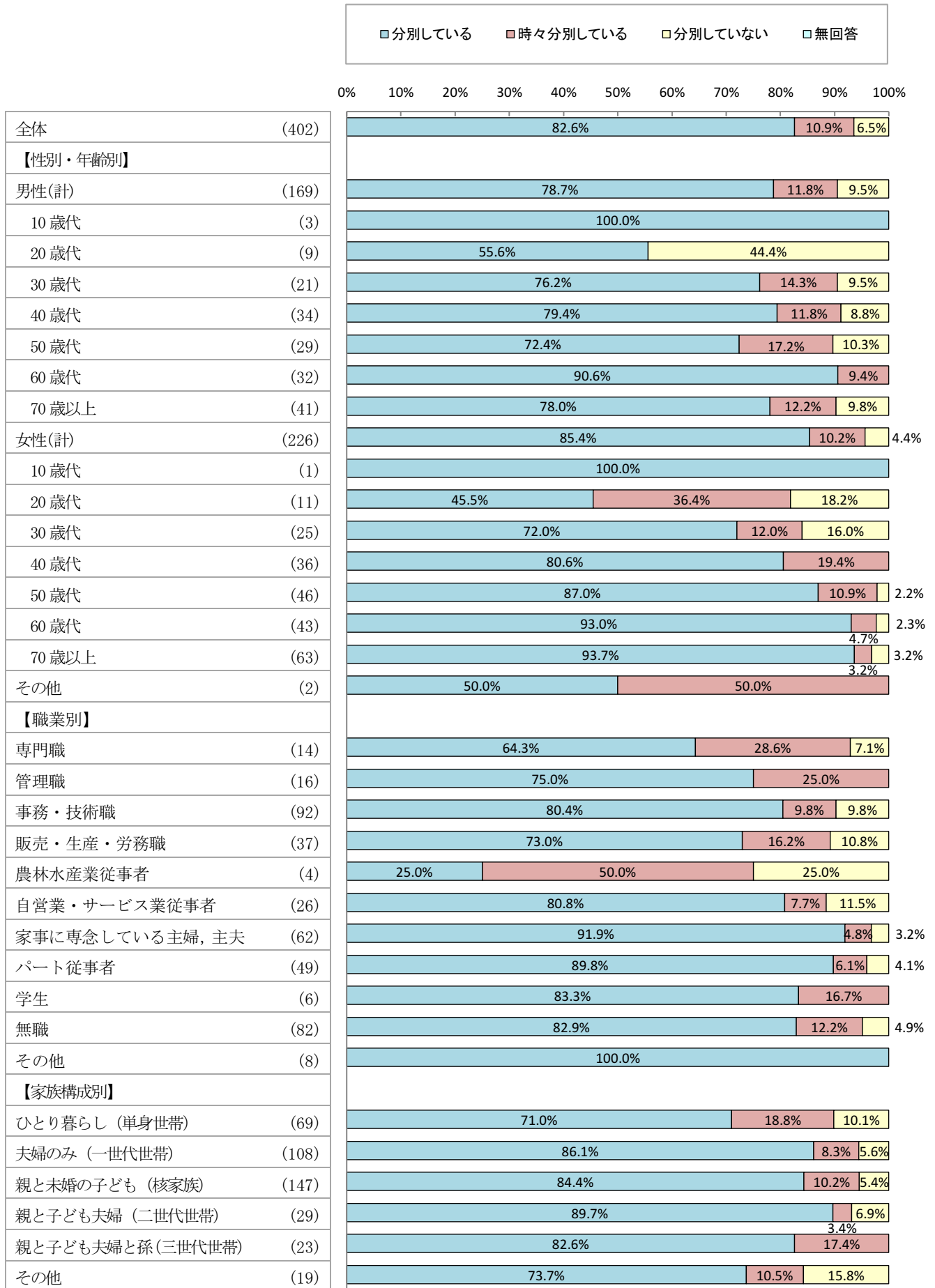
<参考>

性別・年齢別で見ると、「分別している」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く，次いで<女性/70歳以上>が93.7%と続いている。一方，「分別していない」は<男性/20歳代>が44.4%で最も高く，次いで<女性/20歳代>が18.2%と続いている。(図IV-13-2)

職業別で見ると，「分別している」は<その他>を除くと<家事に専念している主婦，主夫>が91.9%で最も高く，次いで<パート従事者>が89.8%であった。一方，「分別していない」は<農林水産業従事者>が25.0%で最も高く，次いで<自営業・サービス業従事者>が11.5%であった。(図IV-13-2)

家族構成別で見ると，「分別している」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が89.7%で最も高く，次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が86.1%であった。一方，「分別していない」は<その他>を除くと<ひとり暮らし（単身世帯）>が10.1%で最も高く，次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が6.9%であった。(図IV-13-2)

<図IV-13-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

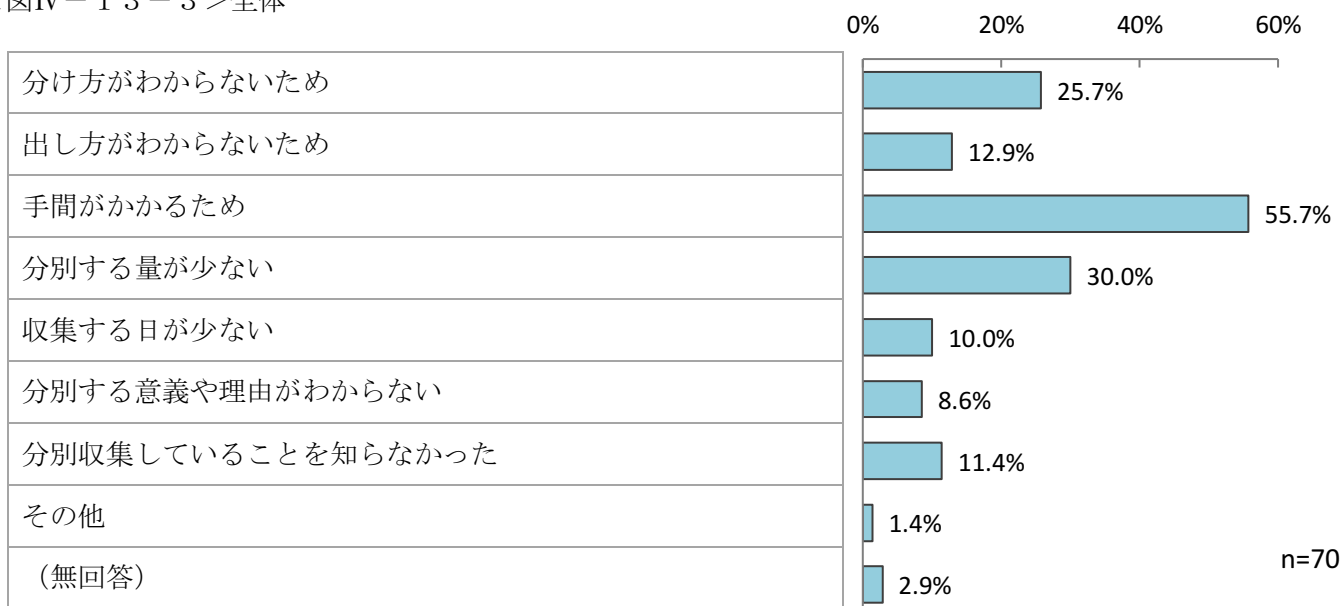


(2) 「プラスチック製容器包装」を分別しない理由

◇ 「手間がかかるため」が5割半ば

問45	問44で「2 時々分別している」、「3 分別していない」と答えた方にお聞きします。時々分別している、分別していない理由は何ですか。	(〇はいくつでも)
		n=70
1	分け方がわからないため	25.7%
2	出し方がわからないため	12.9%
3	手間がかかるため	55.7%
4	分別する量が少ない	30.0%
5	収集する日が少ない	10.0%
6	分別する意義や理由がわからない	8.6%
7	分別収集していることを知らなかった	11.4%
8	その他	1.4%
	(無回答)	2.9%

<図IV-13-3>全体



「プラスチック製容器包装」を分別しない理由については、「手間がかかるため」が 55.7%で最も高く、「分別する量が少ない」が 30.0%と続いている。(図IV-13-3)

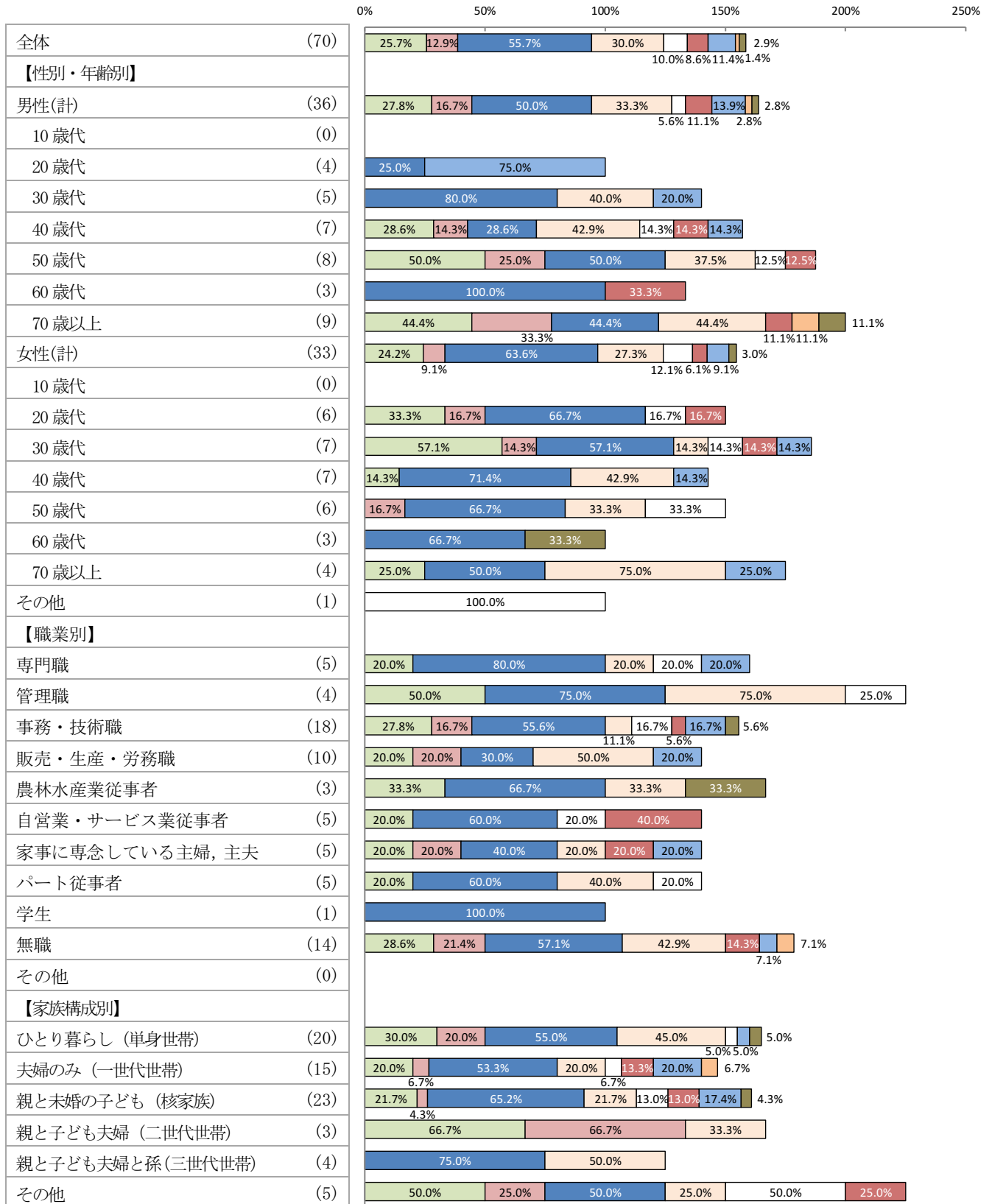
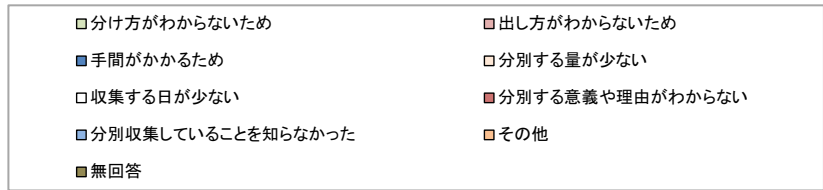
<参考>

性別・年齢別で見ると、「手間がかかるため」は<男性/60歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が 80.0%と続いている。「分別する量が少ない」は<女性/70歳以上>が 75.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 44.4%と続いている。(図IV-13-4)

職業別で見ると、「手間がかかるため」は<学生>が 100.0%で最も高く、次いで<専門職>が 80.0%であった。「分別する量が少ない」は<管理職>が 75.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が 50.0%であった。(図IV-13-4)

家族構成別で見ると、「手間がかかるため」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 75.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 65.2%であった。「分別する量が少ない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 50.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 45.0%であった。(図IV-13-4)

<図IV-13-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

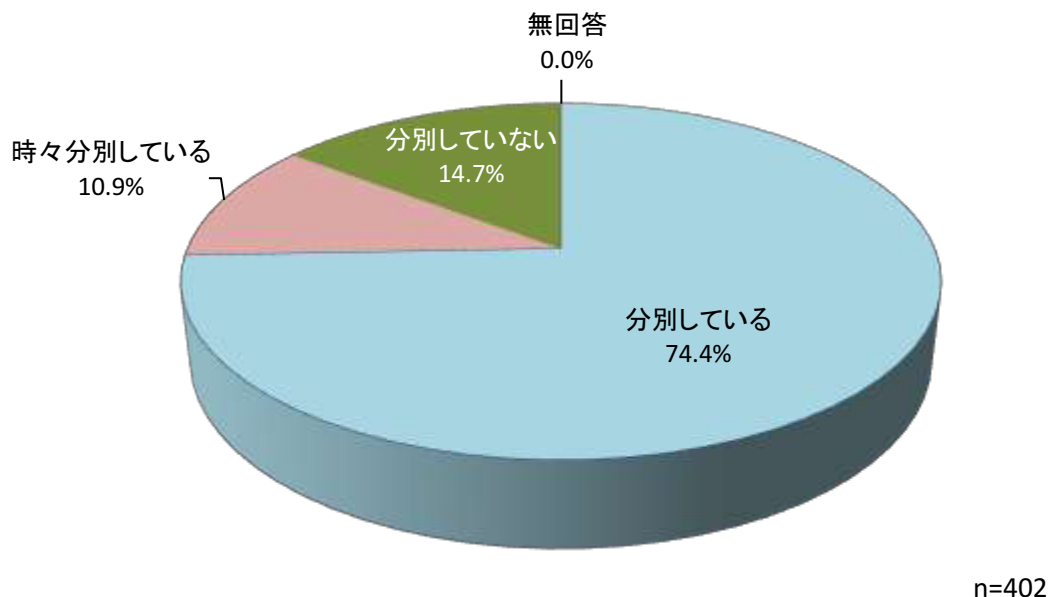


(3) 資源化できる紙の排出時の分別状況

◇ 「分別している」が7割半ば

問46	あなたは、「新聞、雑誌、ダンボール、紙パック」以外にも、資源化できる紙（お菓子や食品が入っていた箱、ティッシュ箱、郵便封筒、メモ用紙など）を分別して排出していますか。	(○は1つ)
		n=402
1	分別している	74.4%
2	時々分別している	10.9%
3	分別していない	14.7%
	(無回答)	0.0%

<図IV-13-5>全体



資源化できる紙の排出時の分別状況については、「分別している」が74.4%で最も高く、次いで「分別していない」が14.7%、「時々分別している」が10.9%であった。(図IV-13-5)

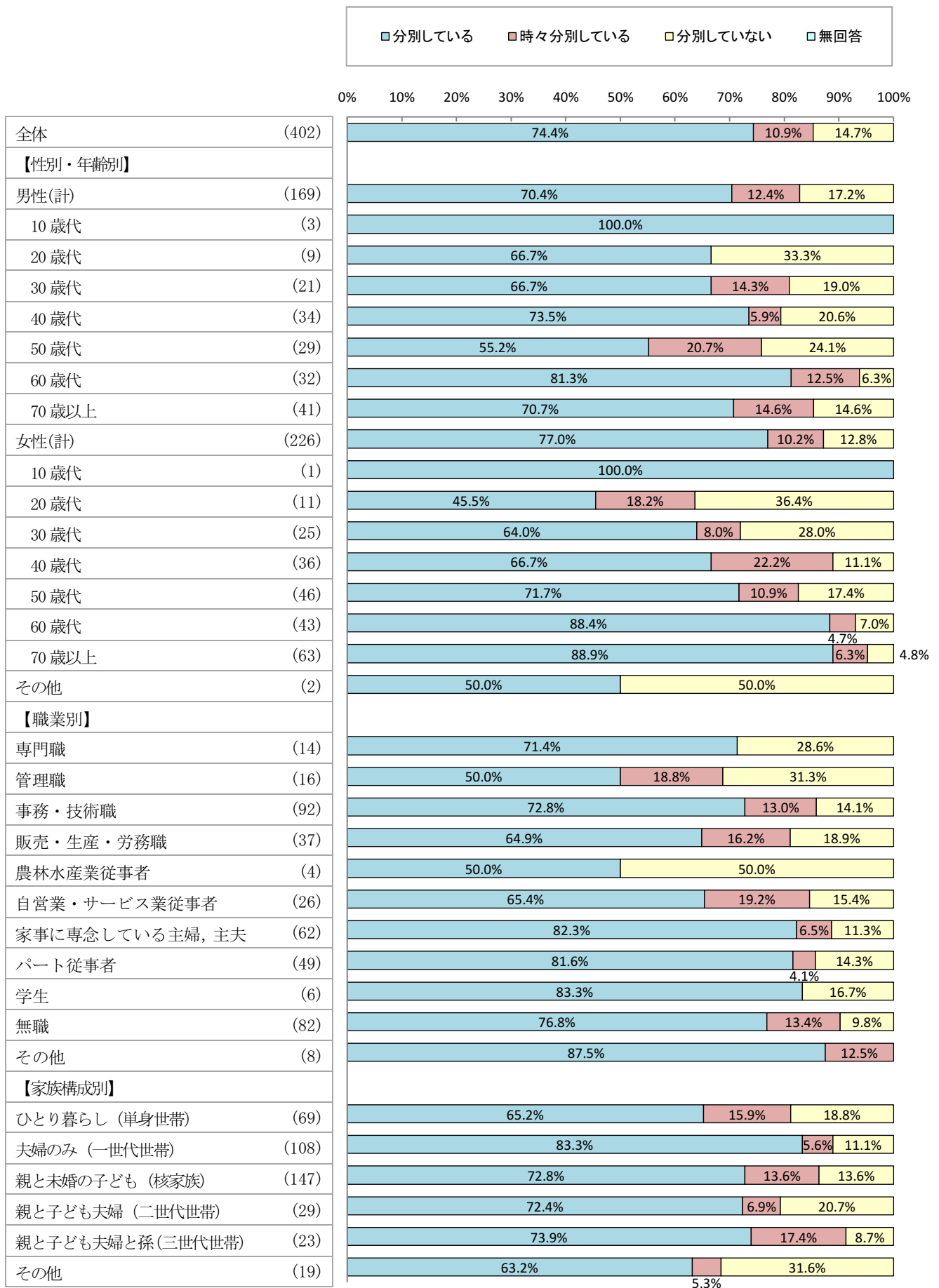
<参考>

年齢別で見ると、「分別している」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が88.9%と続いている。一方、「分別していない」は<その他>を除くと<女性/20歳代>が36.4%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が33.3%と続いている。(図IV-13-6)

職業別で見ると、「分別している」は<その他>を除くと<学生>が83.3%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が82.3%と続いている。一方、「分別していない」は<農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<管理職>が31.3%と続いている。(図IV-13-6)

家族構成別で見ると、「分別している」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が73.9%と続いている。一方、「分別していない」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が20.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が18.8%と続いている。(図IV-13-6)

<図IV-13-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

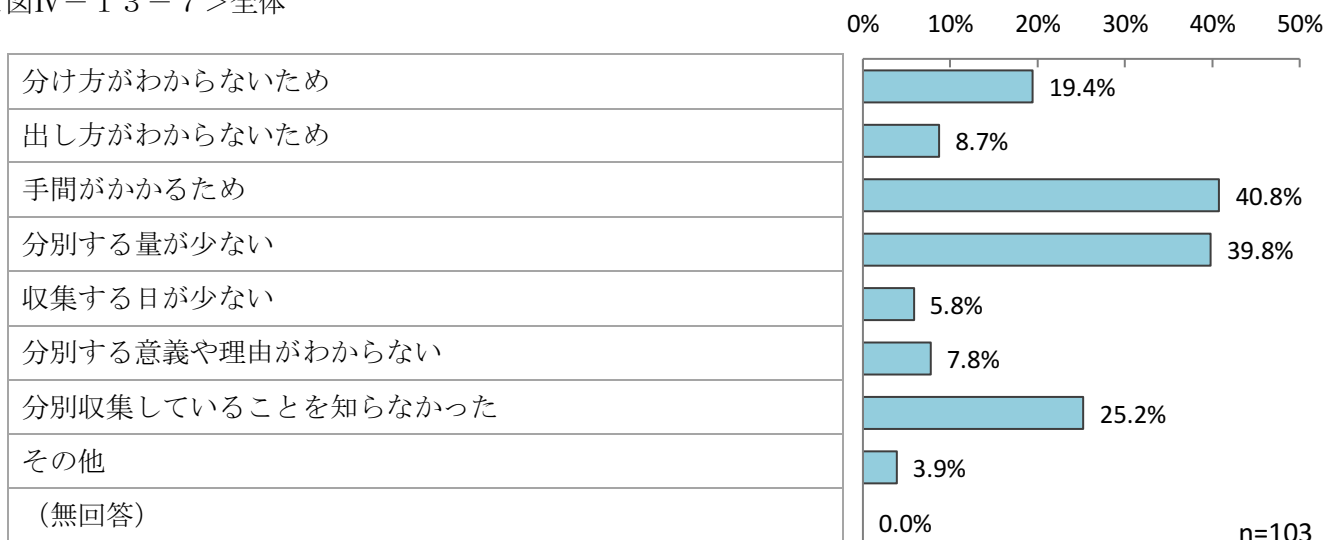


(4) 資源化できる紙を分別しない理由

◇ 「手間がかかるため」が約4割

問47	問46で「2 時々分別している」, 「3 分別していない」と答えた方にお聞きします。時々分別している, 分別していない理由は何ですか。	(○はいくつでも)
		n=103
1	分け方がわからないため	19.4%
2	出し方がわからないため	8.7%
3	手間がかかるため	40.8%
4	分別する量が少ない	39.8%
5	収集する日が少ない	5.8%
6	分別する意義や理由がわからない	7.8%
7	分別収集していることを知らなかった	25.2%
8	その他	3.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-13-7>全体



資源化できる紙を分別しない理由については、「手間がかかるため」が40.8%で最も高く、次いで「分別する量が少ない」が39.8%と続いている。(図IV-13-7)

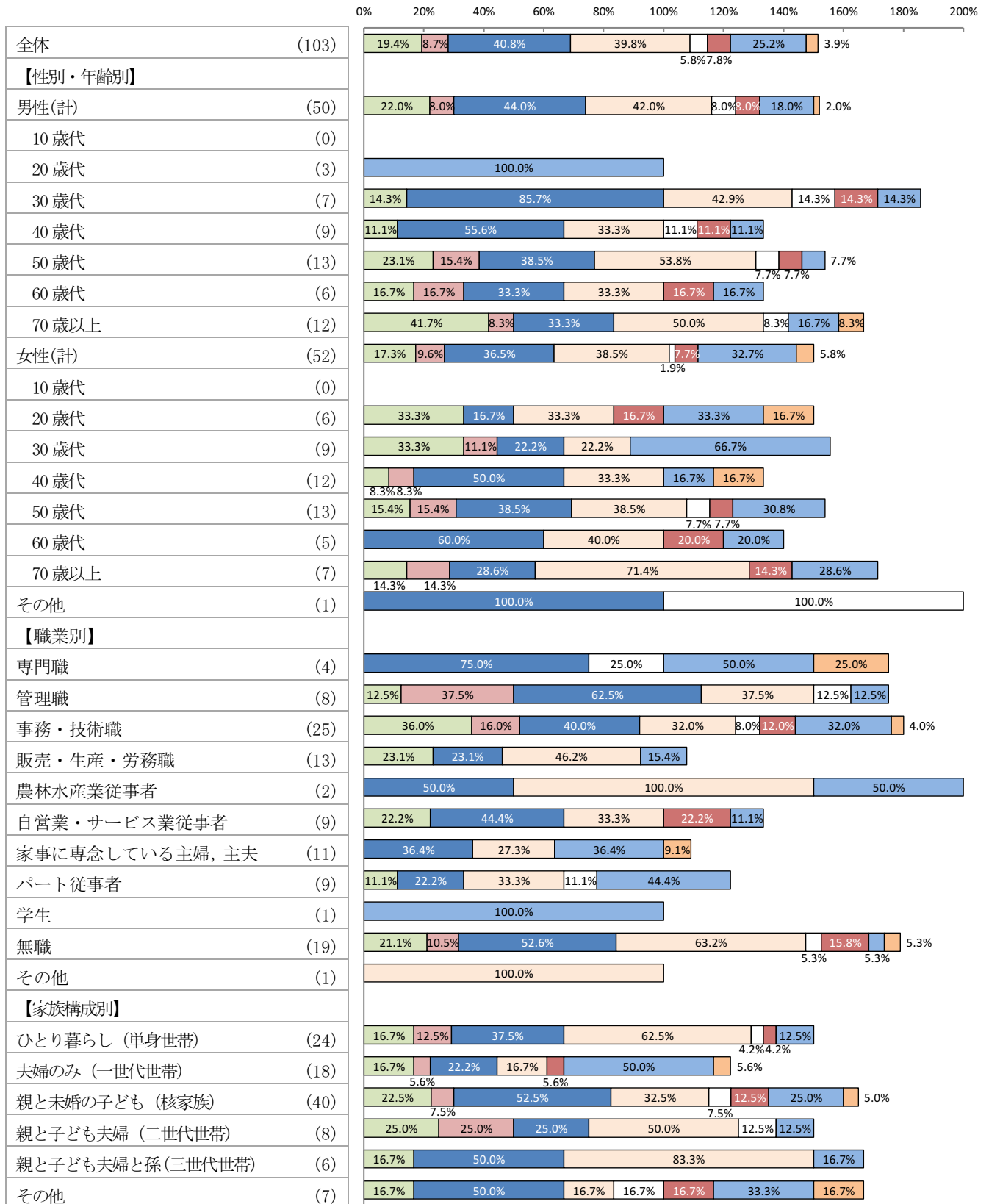
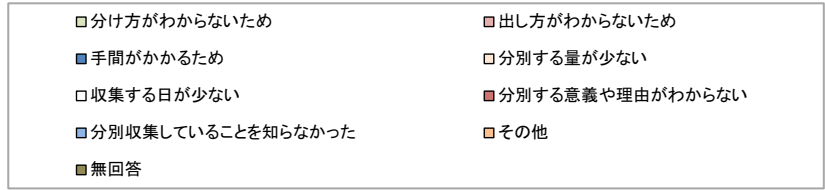
<参考>

性別・年齢別で見ると、「手間がかかるため」は<その他>を除くと<男性/30歳代>が85.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が60.0%と続いている。「分別する量が少ない」は<女性/70歳以上>が71.4%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が53.8%と続いている。(図IV-13-8)

職業別で見ると、「手間がかかるため」は<専門職>が75.0%で最も高く、次いで<管理職>が62.5%であった。「分別する量が少ない」は<その他>を除くと<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<無職>が63.2%であった。(図IV-13-8)

家族構成別で見ると、「手間がかかるため」は<親と未婚の子ども(核家族)>が52.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が50.0%であった。「分別する量が少ない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が62.5%であった。(図IV-13-8)

<図IV-13-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別

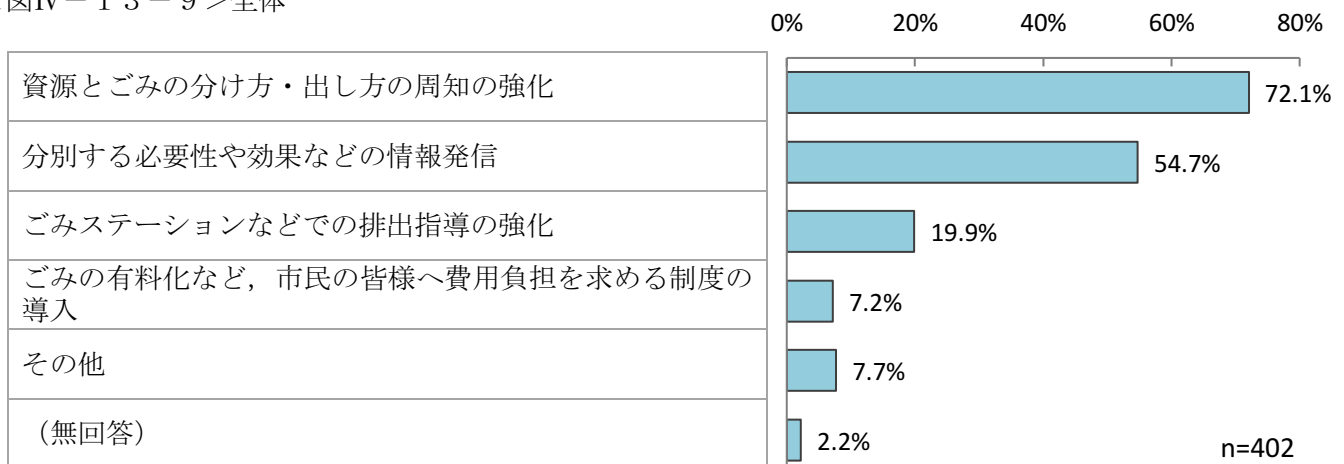


(5) ごみと資源物の分別を推進するために必要なこと

◇「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」が7割強

問48	ごみと資源物の分別を推進するために必要なことは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)	n=402
1	資源とごみの分け方・出し方の周知の強化	72.1%
2	分別する必要性や効果などの情報発信	54.7%
3	ごみステーションなどでの排出指導の強化	19.9%
4	ごみの有料化など、市民の皆様へ費用負担を求める制度の導入	7.2%
5	その他	7.7%
	(無回答)	2.2%

<図IV-13-9>全体



ごみと資源物の分別を推進するために必要なことについては、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」が72.1%で最も高く、次いで「分別する必要性や効果などの情報発信」が54.7%と続いている。(図IV-13-9)

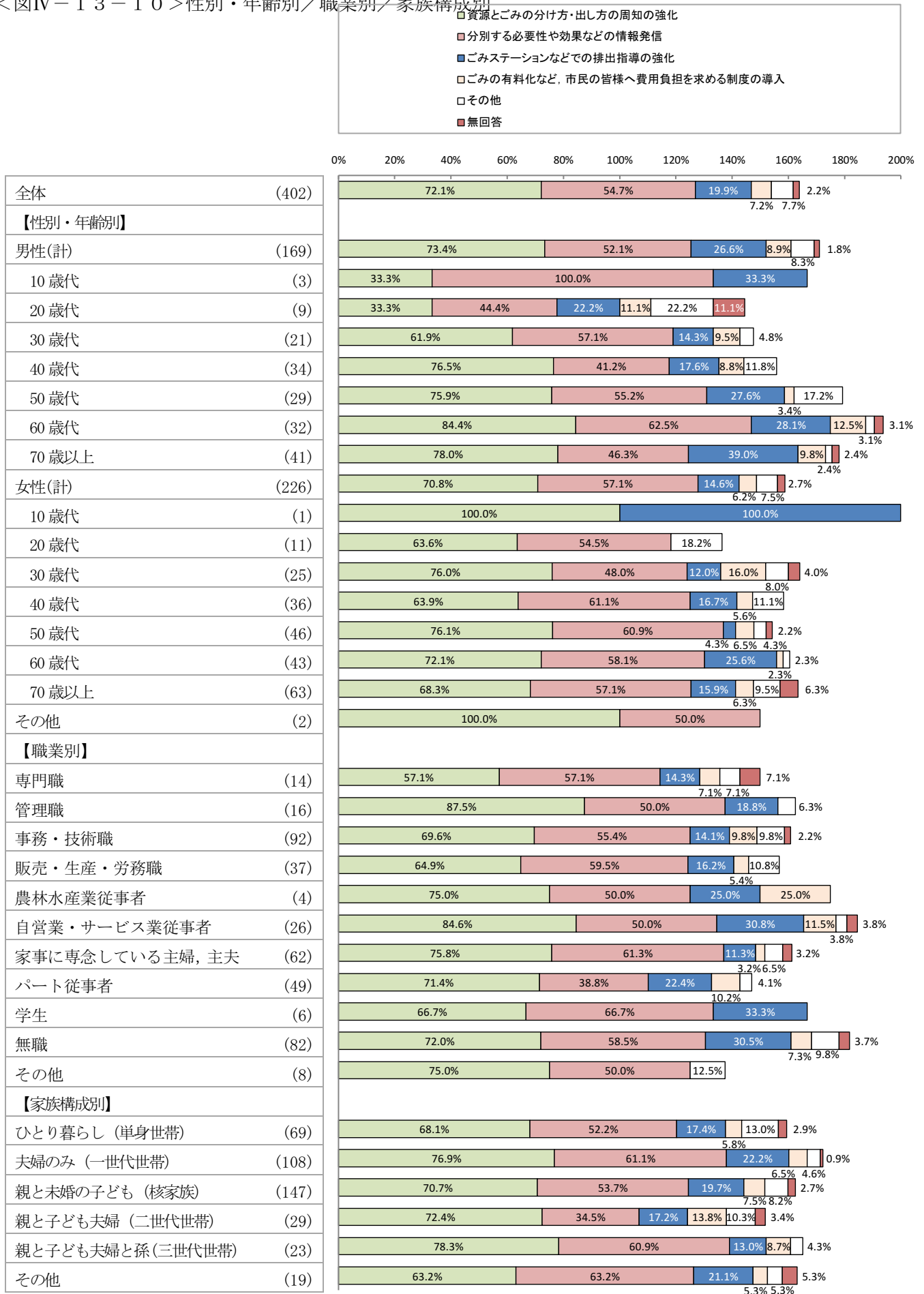
<参考>

性別・年齢別で見ると、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」は<その他>を除くと<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が84.4%と続いている。「分別する必要性や効果などの情報発信」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が62.5%と続いている。(図IV-13-10)

職業別で見ると、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」は<管理職>が87.5%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が84.6%であった。「分別する必要性や効果などの情報発信」は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が61.3%であった。(図IV-13-10)

家族構成別で見ると、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が78.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が76.9%であった。「分別する必要性や効果などの情報発信」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>が61.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が60.9%であった。(図IV-13-10)

<図IV-13-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別

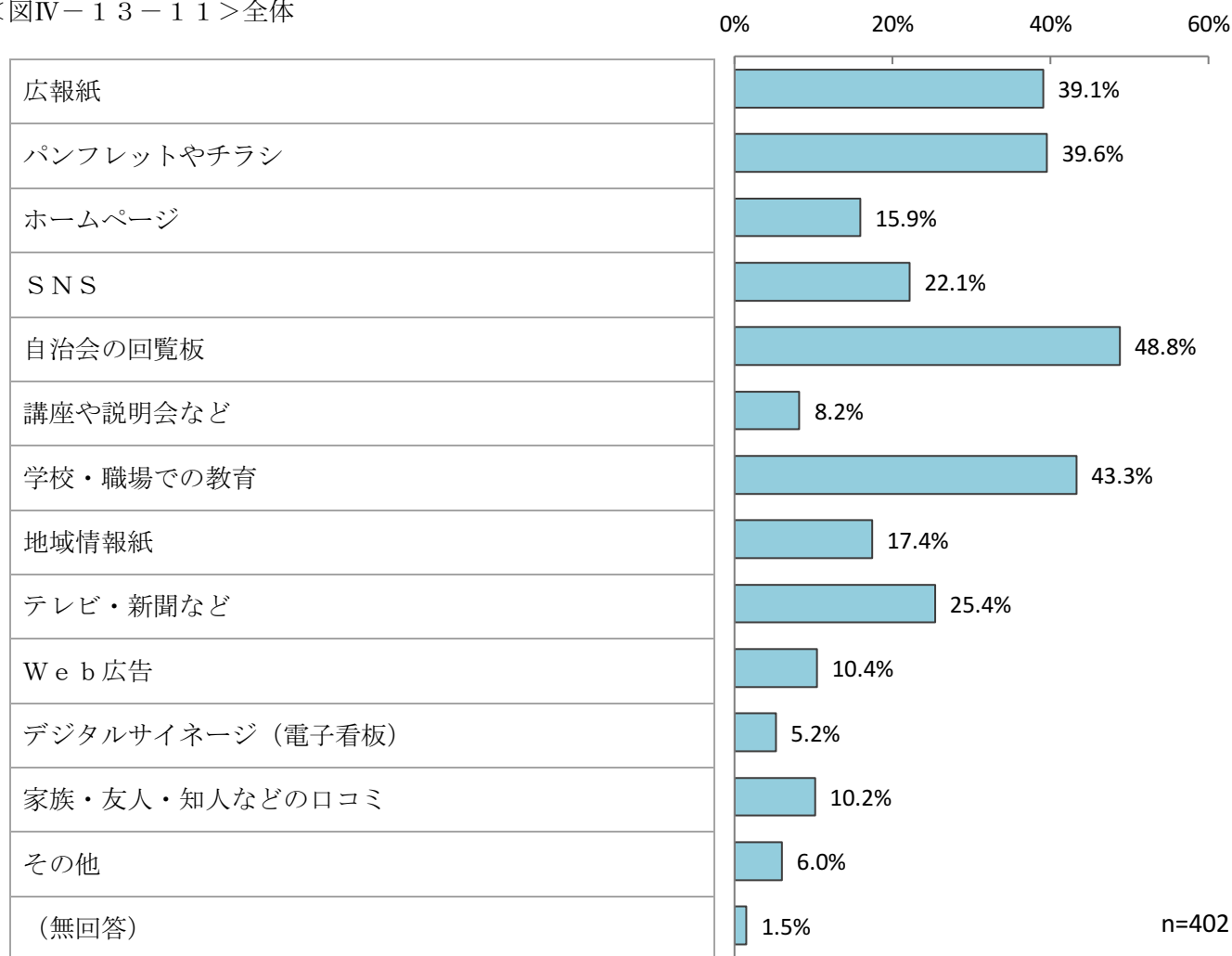


(6) ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組

◇ 「自治会の回覧板」が約5割

問49 ごみと資源物の分別の周知方法として、有効な取組はどれだと思いますか。(〇はいくつでも)		n=402
1	広報紙	39.1%
2	パンフレットやチラシ	39.6%
3	ホームページ	15.9%
4	SNS	22.1%
5	自治会の回覧板	48.8%
6	講座や説明会など	8.2%
7	学校・職場での教育	43.3%
8	地域情報紙	17.4%
9	テレビ・新聞など	25.4%
10	Web広告	10.4%
11	デジタルサイネージ(電子看板)	5.2%
12	家族・友人・知人などの口コミ	10.2%
13	その他	6.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-13-11>全体



ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組については、「自治会の回覧板」が 48.8%で最も高く、次いで「学校・職場での教育」が 43.3%と続いている。（図IV-13-11）

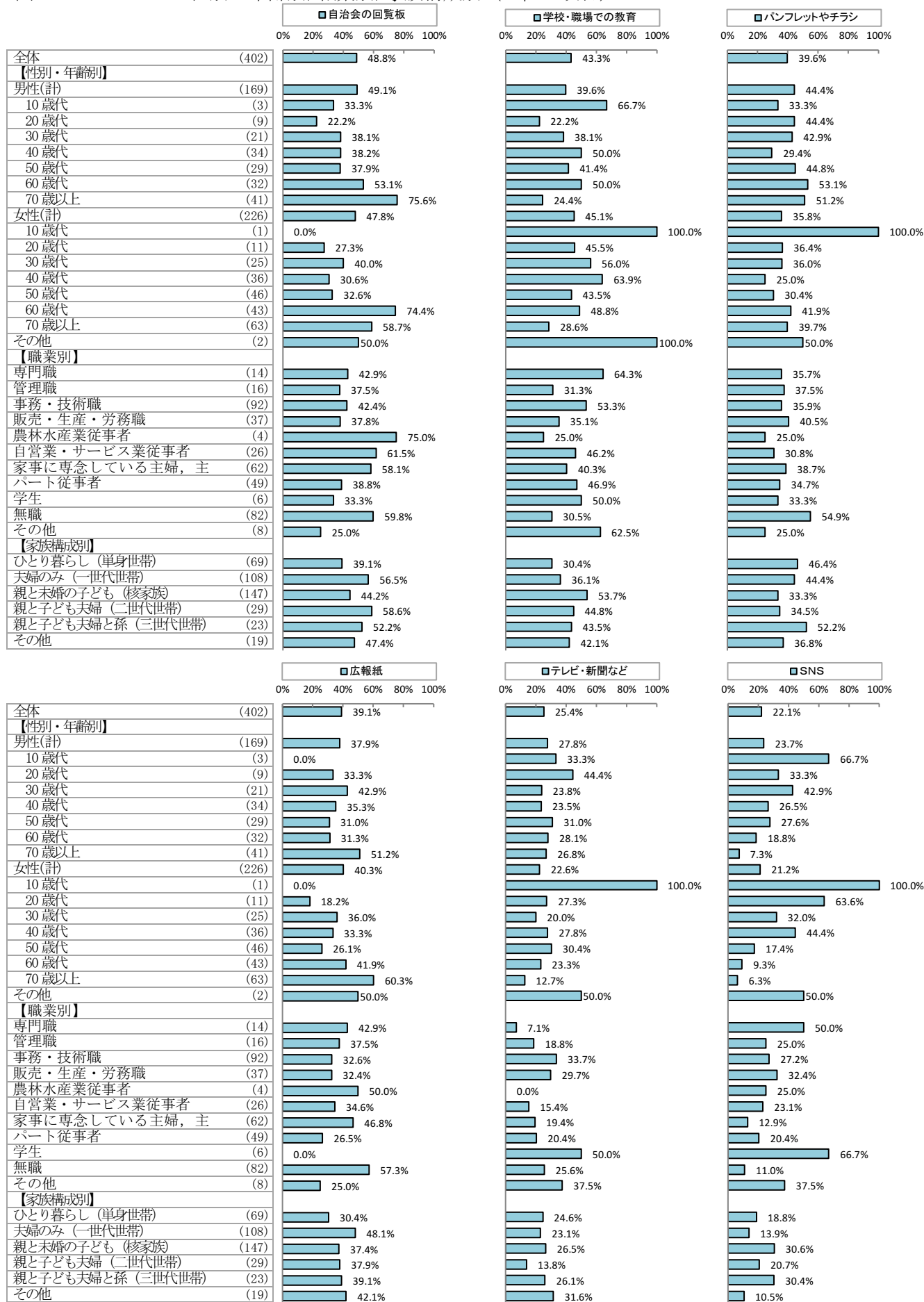
<参考>

上位6項目について、性別・年齢別で見ると、「自治会の回覧板」は<男性/70歳以上>が 75.6%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 74.4%と続いている。「学校・職場での教育」は<その他>を除くと、<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 66.7%と続いている。（図IV-13-12）

職業別で見ると、「自治会の回覧板」は<農林水産業従事者>が 75.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が 61.5%であった。「学校・職場での教育」は<専門職>が 64.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと<事務・技術職>が 53.3%であった。（図IV-13-12）

家族構成別で見ると、「自治会の回覧板」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 58.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 56.5%であった。「学校・職場での教育」は<親と未婚の子ども（核家族）>が 53.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 44.8%であった。（図IV-13-12）

<図IV-13-12>性別・年齢別/職業別/家族構成別（上位6項目）



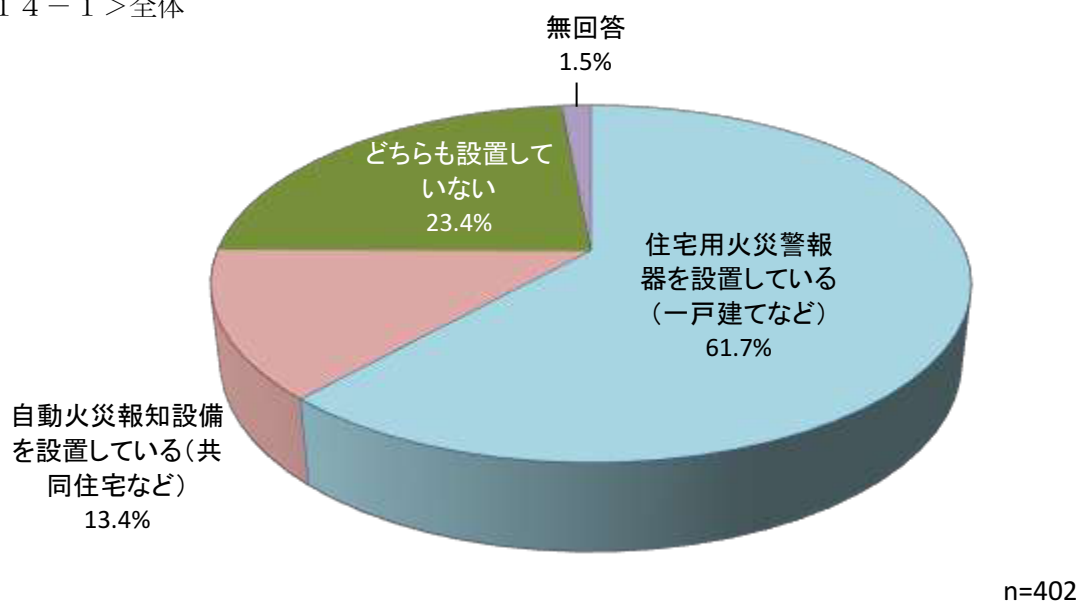
14. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 「住宅用火災警報器を設置している」が6割強

問50	現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」を設置していますか。(○は1つ)	n=402
1	住宅用火災警報器を設置している(一戸建てなど)	61.7%
2	自動火災報知設備を設置している(共同住宅など)	13.4%
3	どちらも設置していない	23.4%
	(無回答)	1.5%

<図IV-14-1>全体



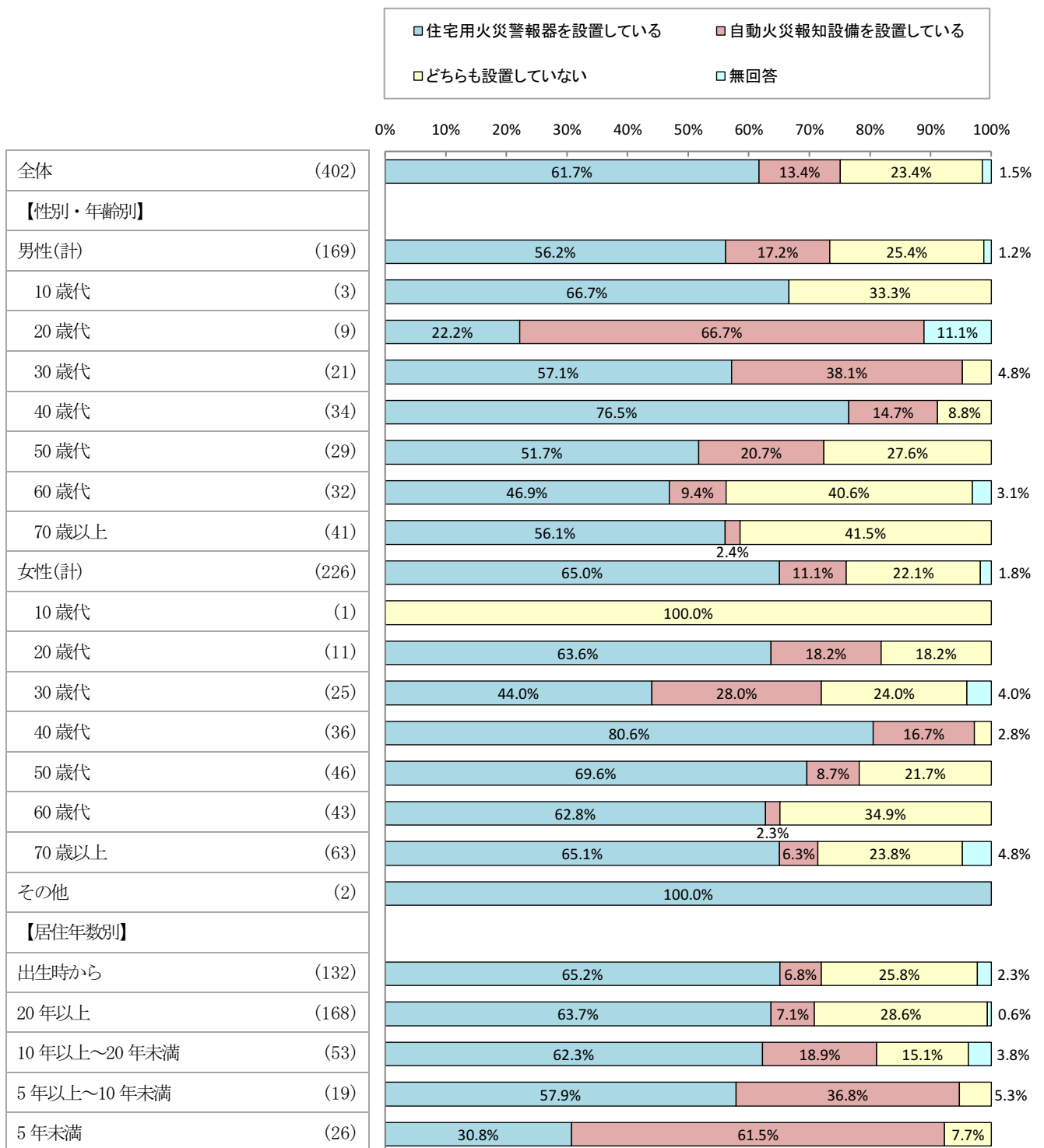
「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している」が61.7%で最も高く、「どちらも設置していない」が23.4%、「自動火災報知設備を設置している(共同住宅など)」が13.4%であった。(図IV-14-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「住宅用火災警報器を設置している」は<その他>を除くと<女性/40歳代>が80.6%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が76.5%と続いている。「どちらも設置していない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、<男性/70歳以上>が41.5%と続いている。(図IV-14-2)

居住年数別で見ると、「住宅用火災警報器を設置している」は<出生時から>が65.2%で最も高く、次いで<20年以上>が63.7%であった。「どちらも設置していない」は<20年以上>が28.6%で最も高く、次いで<出生時から>が25.8%であった。(図IV-14-2)

<図IV-14-2>性別・年齢別/居住年数別

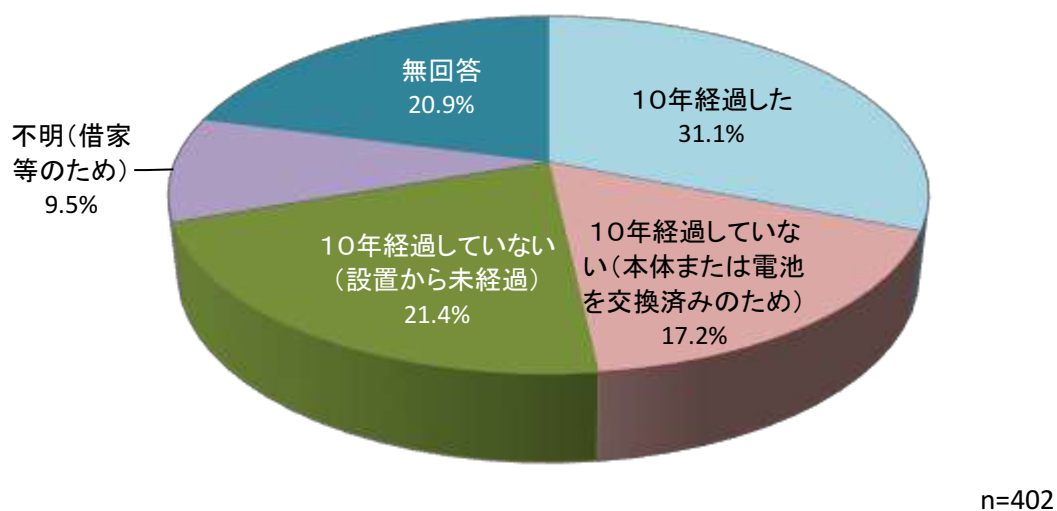


(2) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

◇ 「10年経過した」が約3割

問5 1	設置している住宅用火災警報器は設置から10年を経過していますか。	(○は1つ)
		n=402
1	10年経過した	31.1%
2	10年経過していない(本体または電池を交換済みのため)	17.2%
3	10年経過していない(設置から未経過)	21.4%
4	不明(借家等のため)	9.5%
	(無回答)	20.9%

<図IV-14-3>全体



設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「10年経過した」が31.1%で最も高く、次いで「10年経過していない(設置から未経過)」が21.4%、「10年経過していない(本体または電池を交換済みのため)」が17.2%と続いている。(図IV-14-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「10年経過した」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<その他>を除くと<女性/20歳代>が45.5%と続いている。「10年経過していない(設置から未経過)」は<男性/20歳代>が44.4%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が44.0%と続いている。(図IV-14-4)

居住年数別で見ると、「10年経過した」は<20年以上>が36.3%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が35.8%であった。一方、「不明」は<5年未満>が53.8%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が10.5%であった。(図IV-14-4)

<図IV-14-4>性別・年齢別/居住年数別

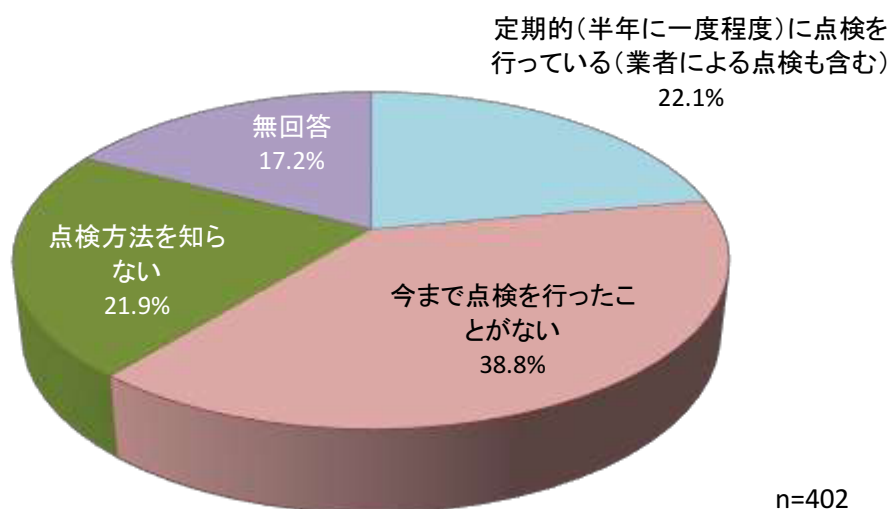


(3) 住宅用火災警報器等の点検の有無

◇ 「今まで点検を行ったことがない」が約4割

問52	今までに住宅用火災警報器等の点検を行ったことはありますか。	(○は1つ)
		n=402
1	定期的(半年に一度程度)に点検を行っている(業者による点検も含む)	22.1%
2	今まで点検を行ったことがない	38.8%
3	点検方法を知らない	21.9%
	(無回答)	17.2%

<図IV-14-5>全体



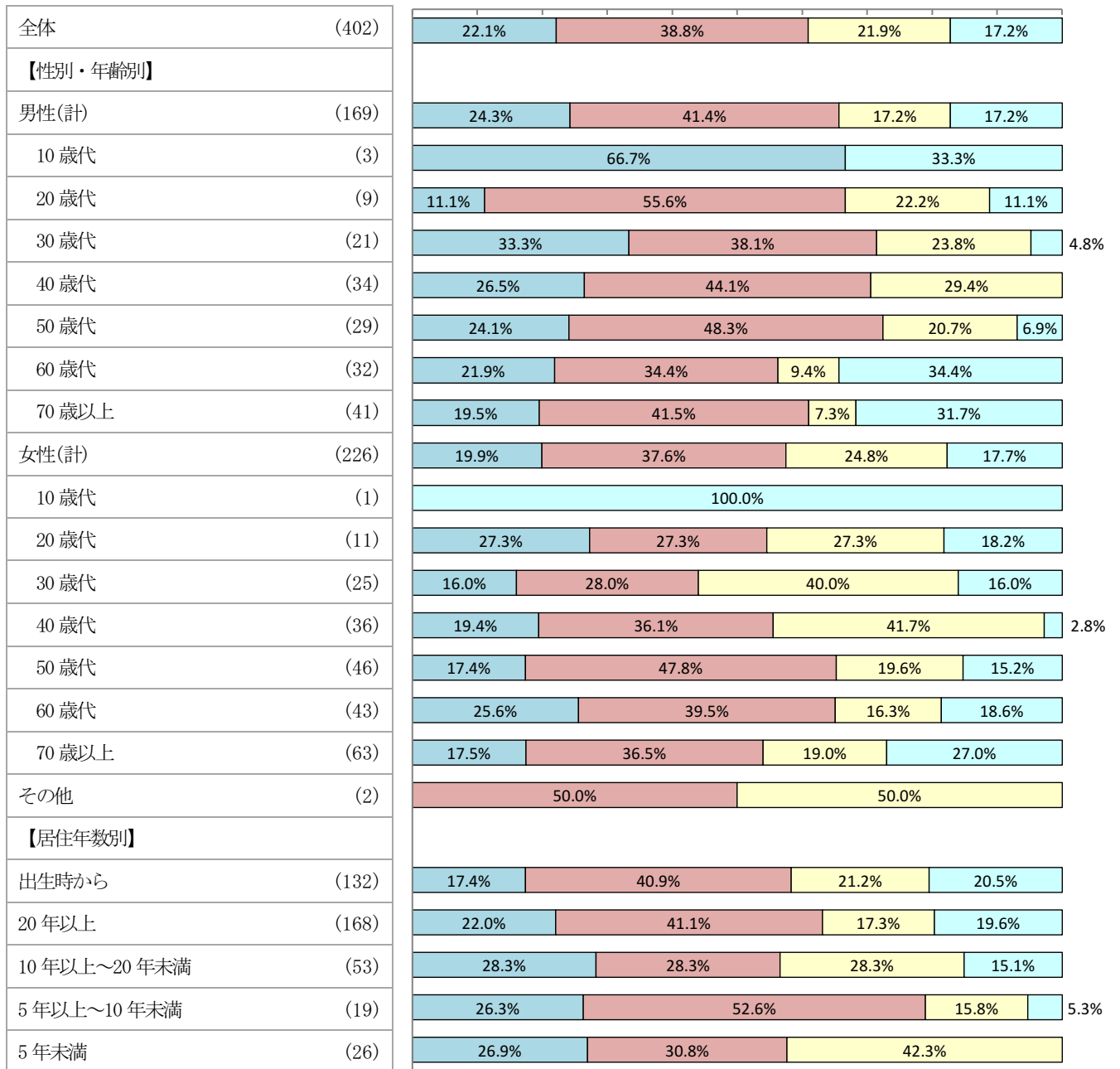
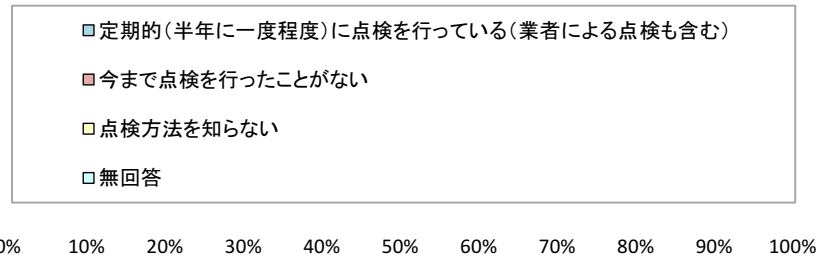
設置している住宅用火災警報器の点検の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が38.8%で最も高く、次いで「定期的(半年に一度程度)に点検を行っている(業者による点検も含む)」が22.1%、「点検方法を知らない」が21.9%と続いている(図IV-14-5)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「定期的(半年に一度程度)に点検を行っている(業者による点検も含む)」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が33.3%と続いている。一方、「点検方法を知らない」は<その他>を除くと<女性/40歳代>が41.7%で最も高く、<女性/30歳代>が40.0%と続いている。(図IV-14-6)

居住年数別で見ると、「定期的(半年に一度程度)に点検を行っている(業者による点検も含む)」は<10年以上~20年未満>が28.3%で最も高く、次いで<5年未満>が26.9%であった。一方、「点検方法を知らない」は<5年未満>が42.3%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が28.3%であった。(図IV-14-6)

<図IV-14-6>性別・年齢別/居住年数別



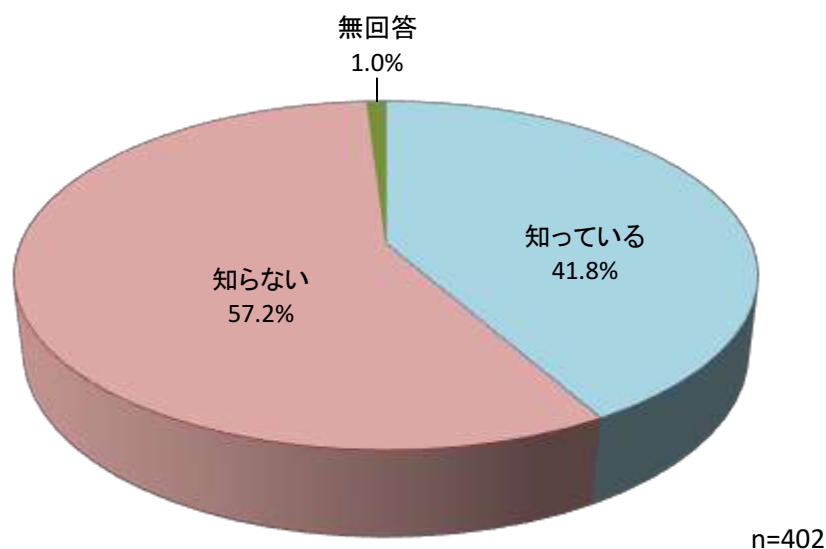
15. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

◇ 「知らない」が6割弱

問53	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っていますか。	(○は1つ)
		n=402
1	知っている	41.8%
2	知らない	57.2%
	(無回答)	1.0%

<図IV-15-1>全体



「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度については、「知っている」が41.8%、「知らない」は57.2%であった。(図IV-15-1)

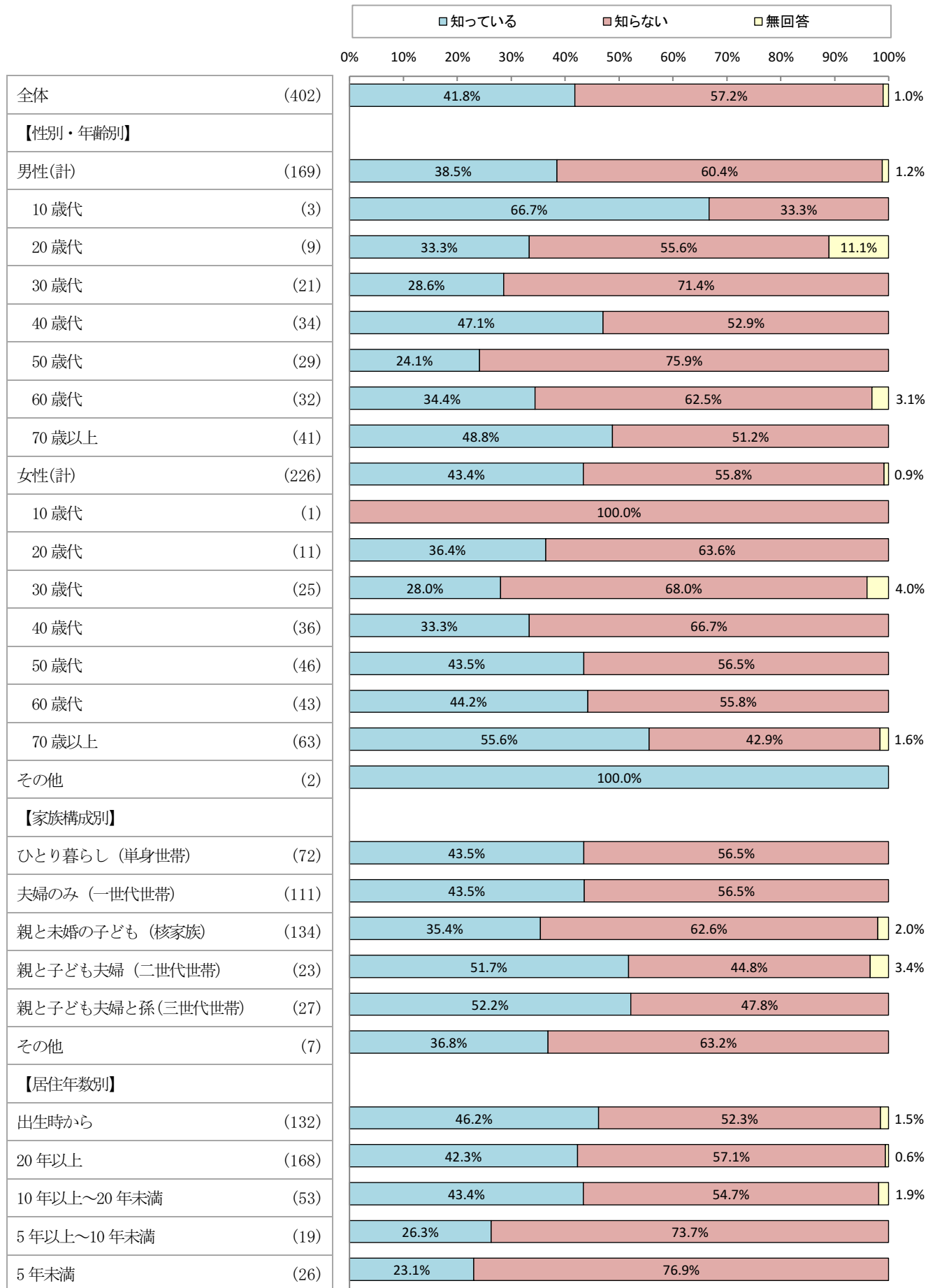
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<その他>を除くと<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、<女性/70歳以上>が55.6%と続いている。一方、「知らない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が75.9%と続いている。(図IV-15-2)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が52.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が51.7%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が62.6%で最も高く、<ひとり暮らし(単身世帯)>と<夫婦のみ(一世帯世帯)>がいずれも56.5%と続いている。(図IV-15-2)

居住年数別で見ると、「知っている」は<出生時から>が46.2%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が43.4%であった。一方、「知らない」は<5年未満>が76.9%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が73.7%であった。(図IV-15-2)

<図IV-15-2>性別・年齢別/家族構成別/居住年数別

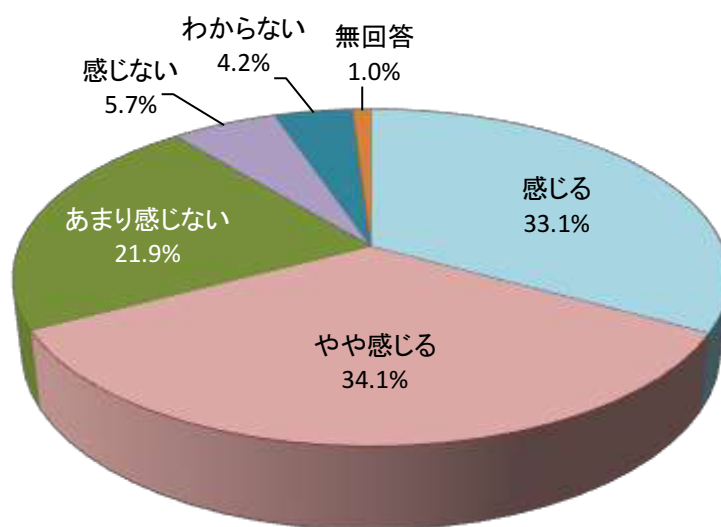


(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

◇ 「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が7割弱

問54	宇都宮市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じますか。	(○は1つ)
		n=402
1	感じる	33.1%
2	やや感じる	34.1%
3	あまり感じない	21.9%
4	感じない	5.7%
5	わからない	4.2%
	(無回答)	1.0%

<図IV-15-3>全体



n=402

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」が 33.1%、「やや感じる」が 34.1%で、これらを合わせた【感じる(計)】は 67.2%であった。一方、「あまり感じない」が 21.9%、「感じない」が 5.7%で、これらを合わせた【感じない(計)】は 27.6%であった。(図IV-15-3)

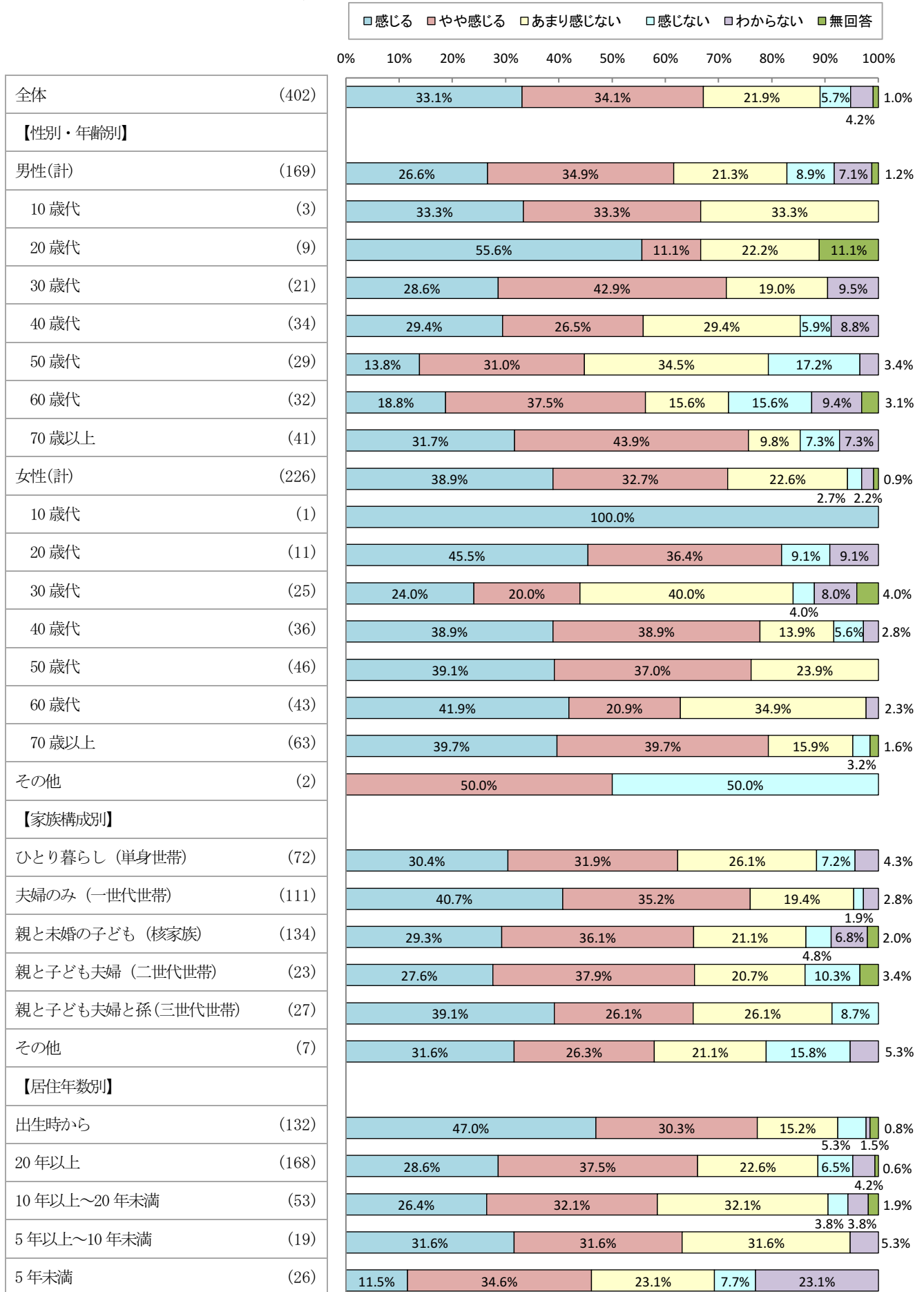
<参考>

性別・年齢別で見ると、【感じる(計)】は<女性/10歳以上>が 100.0%で最も高く、<女性/20歳代>が 81.9%と続いている。一方、【感じない(計)】は<男性/50歳代>が 51.7%で最も高く、次いで<その他>を除くと<女性/30歳代>が 44.0%と続いている。(図IV-15-4)

家族構成別で見ると、【感じる(計)】は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 75.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が 65.5%であった。一方、【感じない(計)】は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 34.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 33.3%であった。(図IV-15-4)

居住年数別で見ると、【感じる(計)】は<出生時から>が 77.3%で最も高く、次いで<20年以上>が 66.1%であった。一方、【感じない(計)】は<10年以上~20年未満>が 35.9%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が 31.6%であった。(図IV-15-4)

<図IV-15-4>性別・年齢別/家族構成別/居住年数別



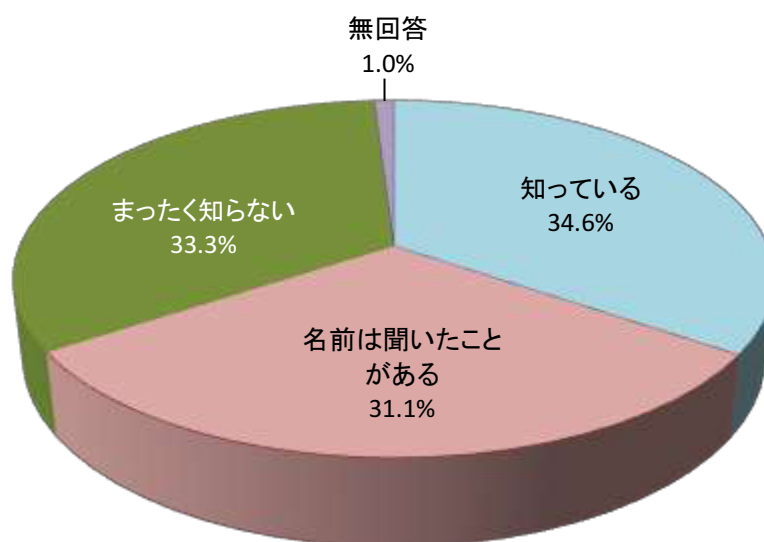
16. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1)「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

◇ 「知っている」が3割半ば

問55	ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=402
1	知っている	34.6%
2	名前は聞いたことがある	31.1%
3	まったく知らない	33.3%
	(無回答)	1.0%

<図IV-16-1>全体



n=402

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が34.6%で最も高く、次いで「まったく知らない」が33.3%、「名前は聞いたことがある」が31.1%であった。（図IV-16-1）

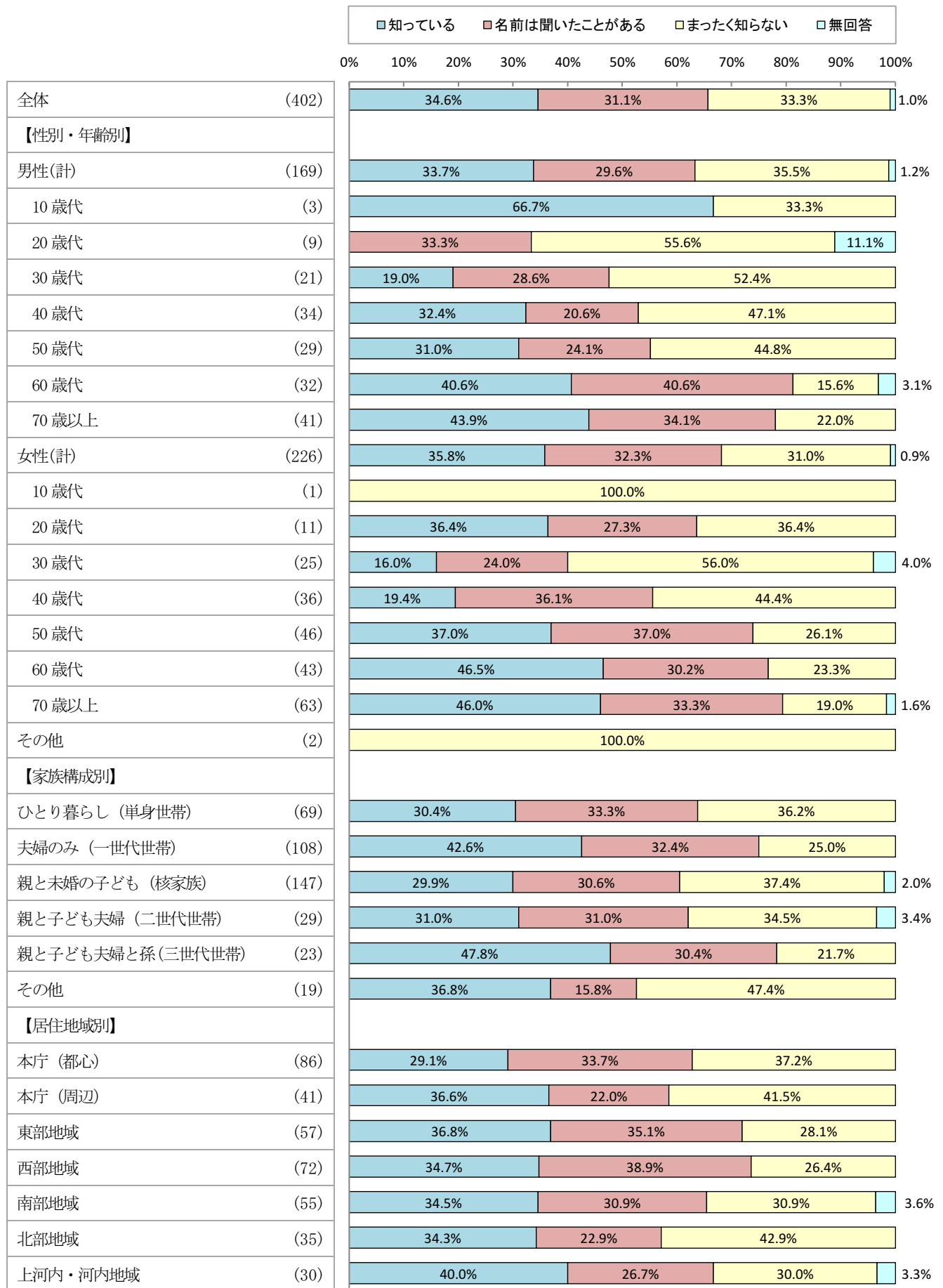
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が46.5%と続いている。一方、「まったく知らない」は<その他>を除くと<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が56.0%と続いている。（図IV-16-2）

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が47.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が42.6%と続いている。一方、「まったく知らない」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が37.4%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が36.2%と続いている。（図IV-16-2）

居住地域別で見ると、「知っている」は<上河内・河内地域>が40.0%で最も高く、次いで<東部地域>が36.8%と続いている。一方、「まったく知らない」は<北部地域>が42.9%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が41.5%と続いている。（図IV-16-2）

<図IV-16-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

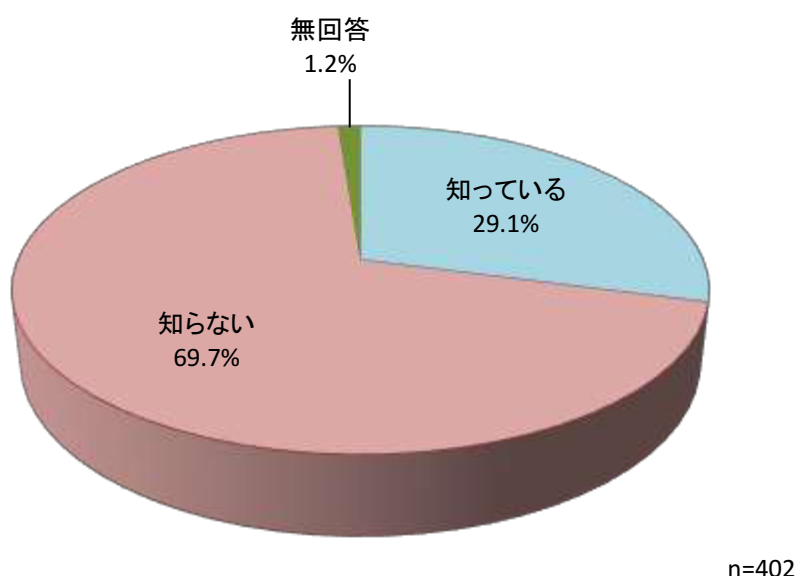


(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

◇ 「知らない」が約7割

問56	貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度があることを知っていますか。(○は1つ)	n=402
1	知っている	29.1%
2	知らない	69.7%
	(無回答)	1.2%

<図IV-16-3>全体



貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が69.7%、「知っている」が29.1%であった。(図IV-16-3)

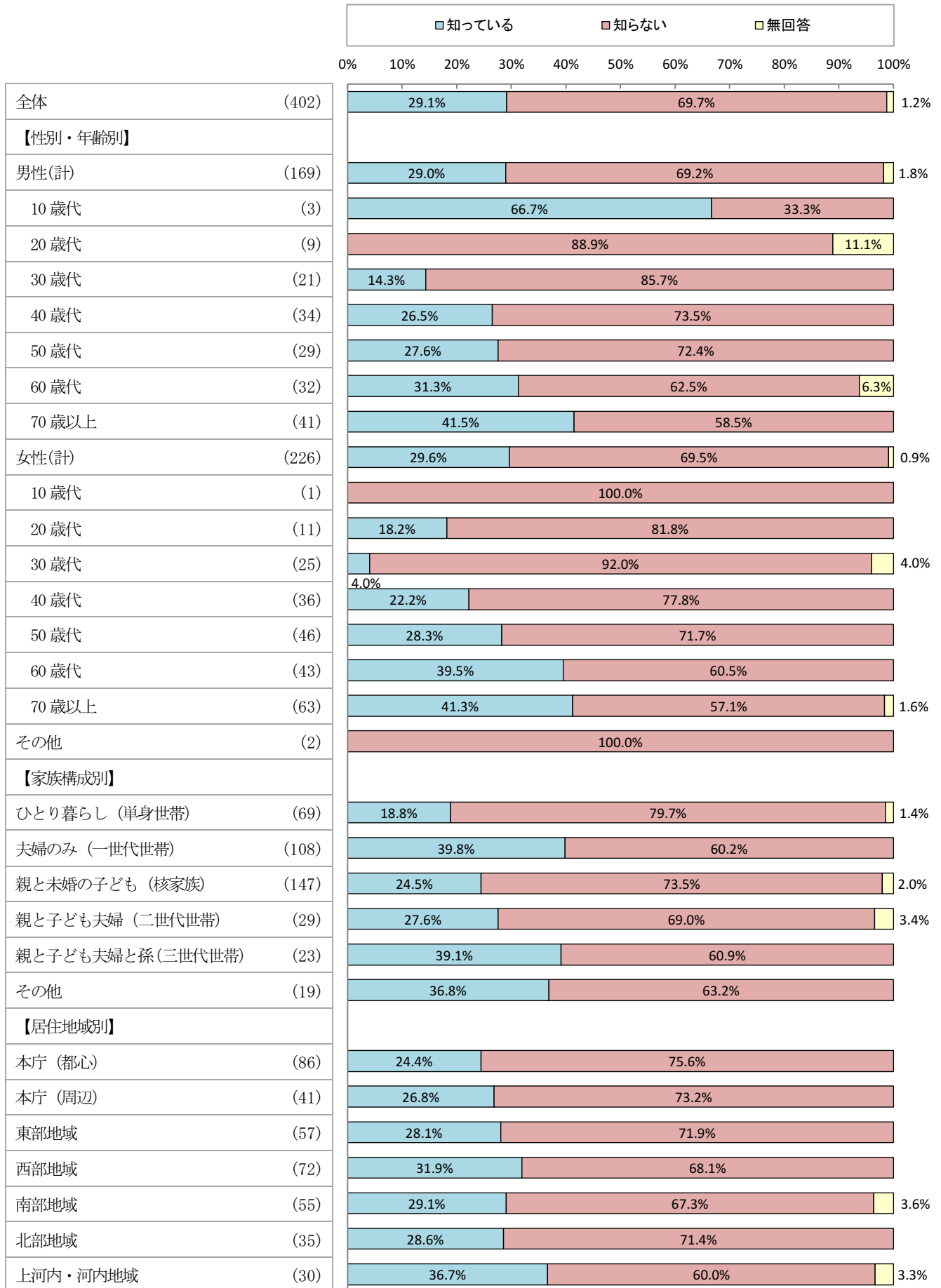
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が41.5%と続いている。一方、「知らない」は<その他>を除くと<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が92.0%と続いている。(図IV-16-4)

家族構成別で見ると、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が39.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が39.1%と続いている。一方、「知らない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が79.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が73.5%と続いている。(図IV-16-4)

居住地域別で見ると、「知っている」は<上河内・河内地域>が36.7%で最も高く、次いで<西部地域>が31.9%と続いている。一方、「知らない」は<本庁(都心)>が75.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が73.2%と続いている。(図IV-16-4)

<図IV-16-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

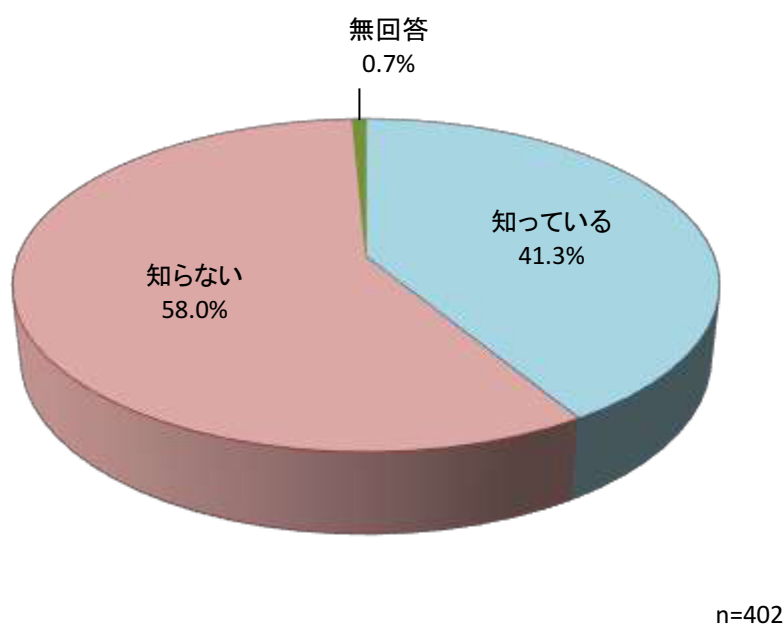


(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

◇ 「知らない」が6割弱

問 5 7	貯留タンクや浸透ますなどを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=402
1	知っている	41.3%
2	知らない	58.0%
	(無回答)	0.7%

<図IV-16-5>全体



貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度については、「知らない」が 58.0%、「知っている」が 41.3%であった。(図IV-16-5)

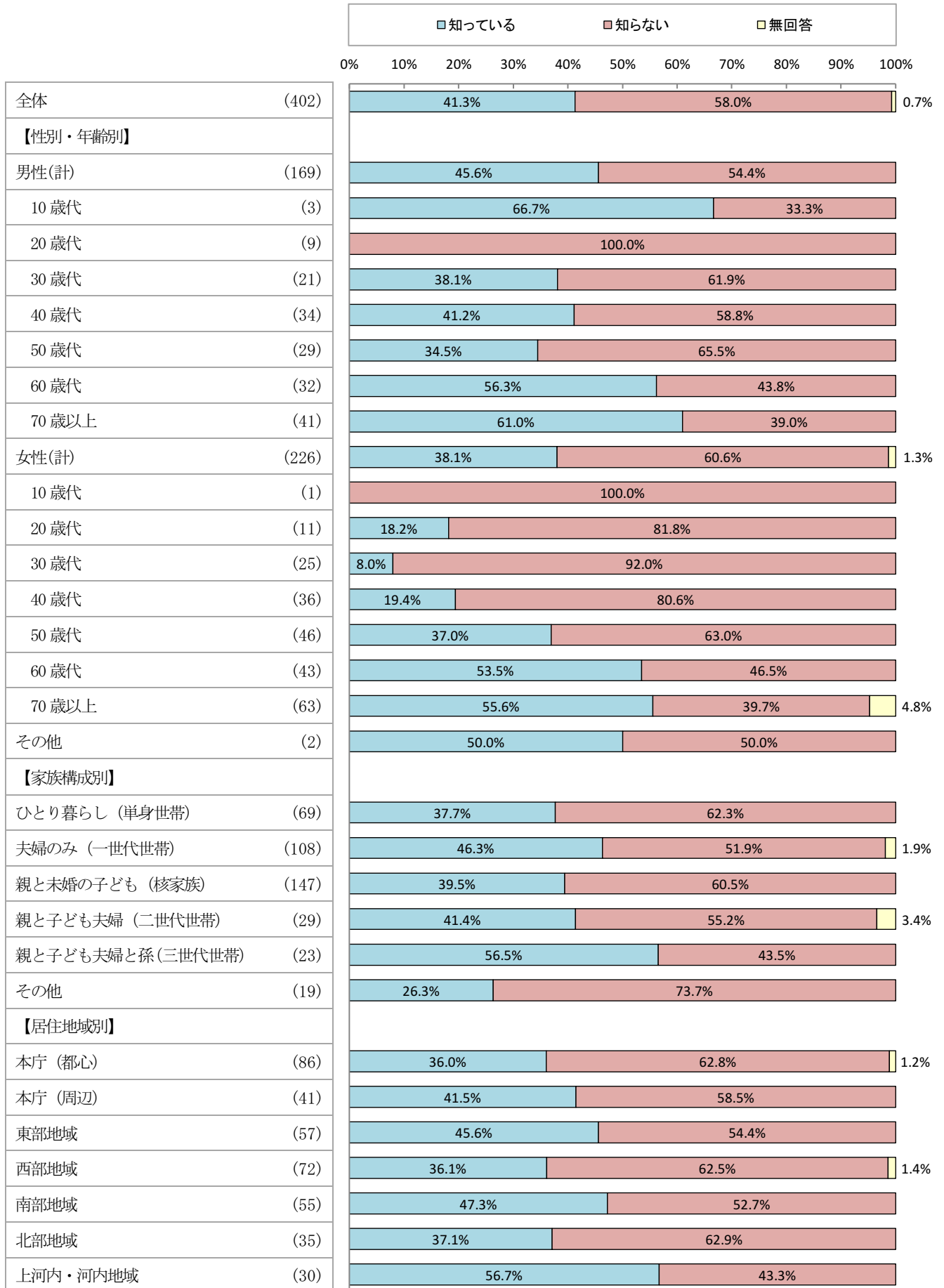
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/10歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 61.0%と続いている。一方、「知らない」は<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも 100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 92.0%と続いている。(図IV-16-6)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 56.5%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が 46.3%と続いている。一方、「知らない」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が 62.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 60.5%と続いている。(図IV-16-6)

居住地域別で見ると、「知っている」は<上河内・河内地域>が 56.7%で最も高く、次いで<南部地域>が 47.3%と続いている。一方、「知らない」は<北部地域>が 62.9%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 62.8%と続いている。(図IV-16-6)

<図IV-16-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

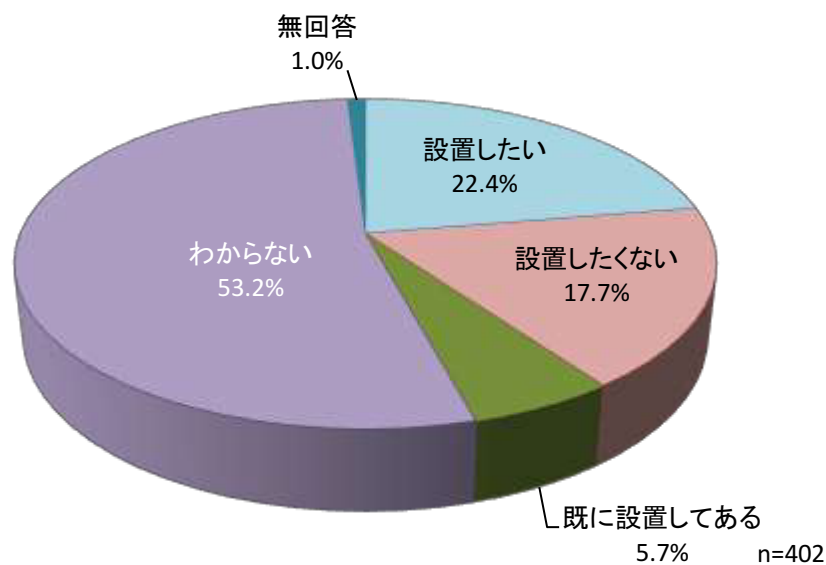


(4) 貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うか

◇ 「わからない」が5割強

問58 貯留タンクや浸透ますを設置したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=402
1	設置したい	22.4%
2	設置したくない	17.7%
3	既に設置してある	5.7%
4	わからない	53.2%
	(無回答)	1.0%

<図IV-16-7>全体



貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うかについては、「わからない」が53.2%で最も高く、次いで「設置したい」が22.4%、「設置したくない」が17.7%と続いている。(図IV-16-7)

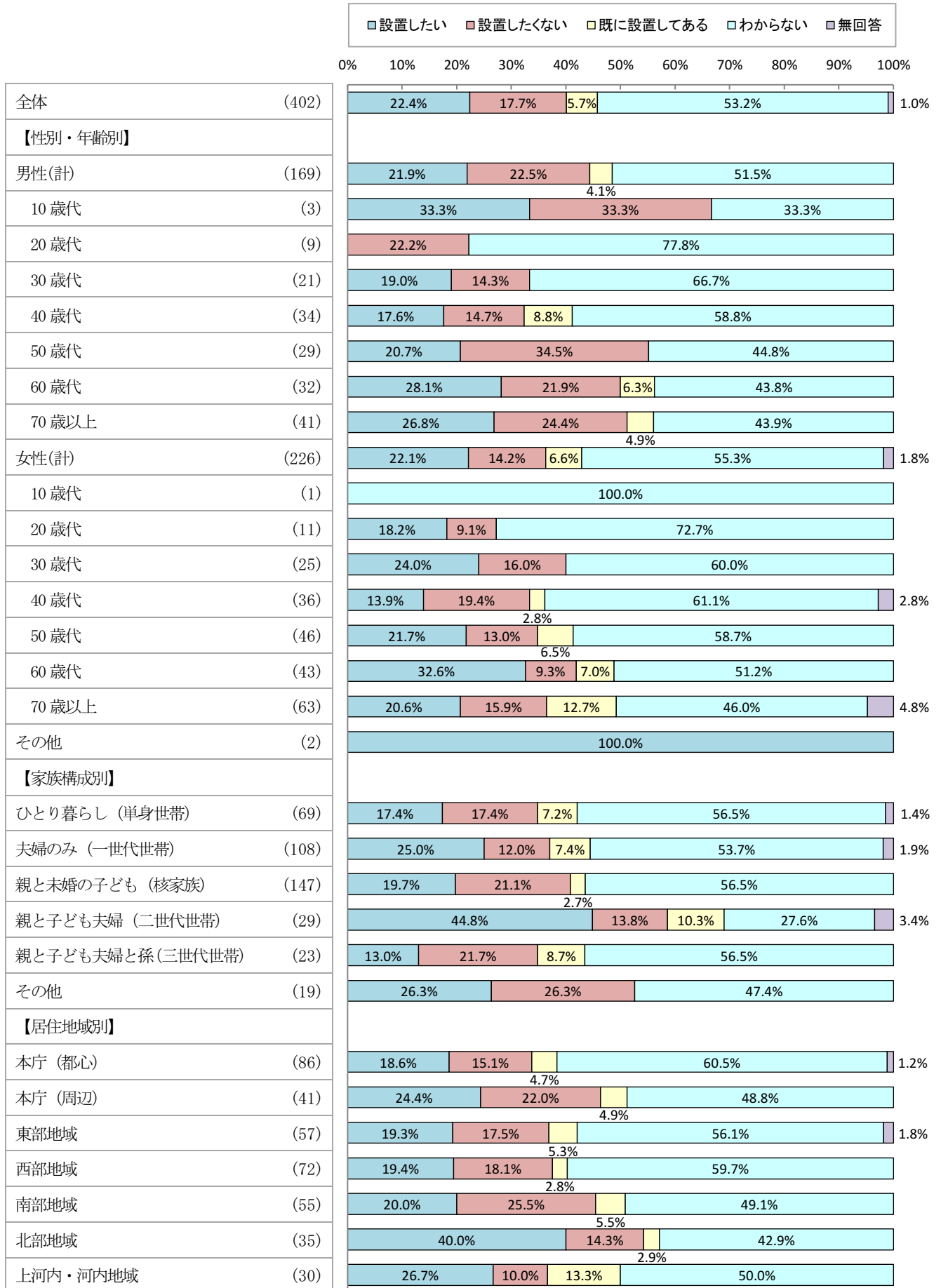
<参考>

性別・年齢別で見ると、「設置したい」は<その他>を除くと<男性/10歳代>が33.3%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が32.6%と続いている。一方、「設置したくない」は<男性/50歳代>が34.5%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が33.3%と続いている。(図IV-16-8)

家族構成別で見ると、「設置したい」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が44.8%で最も高く、次いで<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>が25.0%と続いている。一方、「設置したくない」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が21.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が21.1%と続いている。(図IV-16-8)

居住地域別で見ると、「設置したい」は<北部地域>が40.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が26.7%と続いている。一方、「設置したくない」は<南部地域>が25.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が22.0%と続いている。(図IV-16-8)

<図IV-16-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

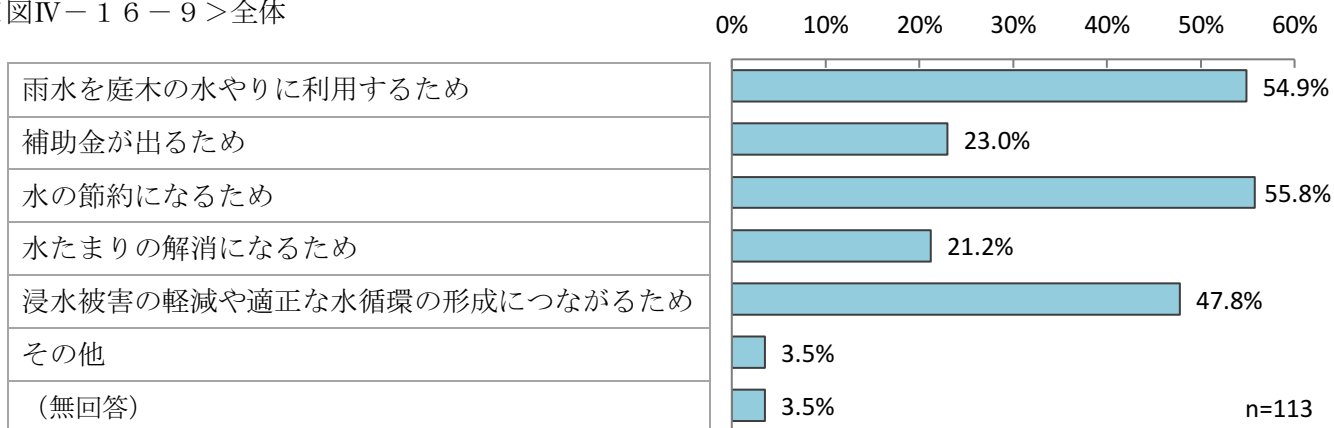


(5) 設置希望・既設置の理由

◇ 「雨水を庭木の水やりに利用するため」「水の節約になるため」が5割半ば

問59	問58で「1 設置したい」, 「3 既に設置してある」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。	(〇はいくつでも)	n=113
1	雨水を庭木の水やりに利用するため		54.9%
2	補助金が出るため		23.0%
3	水の節約になるため		55.8%
4	水たまりの解消になるため		21.2%
5	浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため		47.8%
6	その他		3.5%
	(無回答)		3.5%

<図IV-16-9>全体



設置希望・既設置の理由については、「水の節約になるため」が55.8%で最も高く、次いで「雨水を庭木の水やりに利用するため」が54.9%、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が47.8%と続いている。(図IV-16-9)

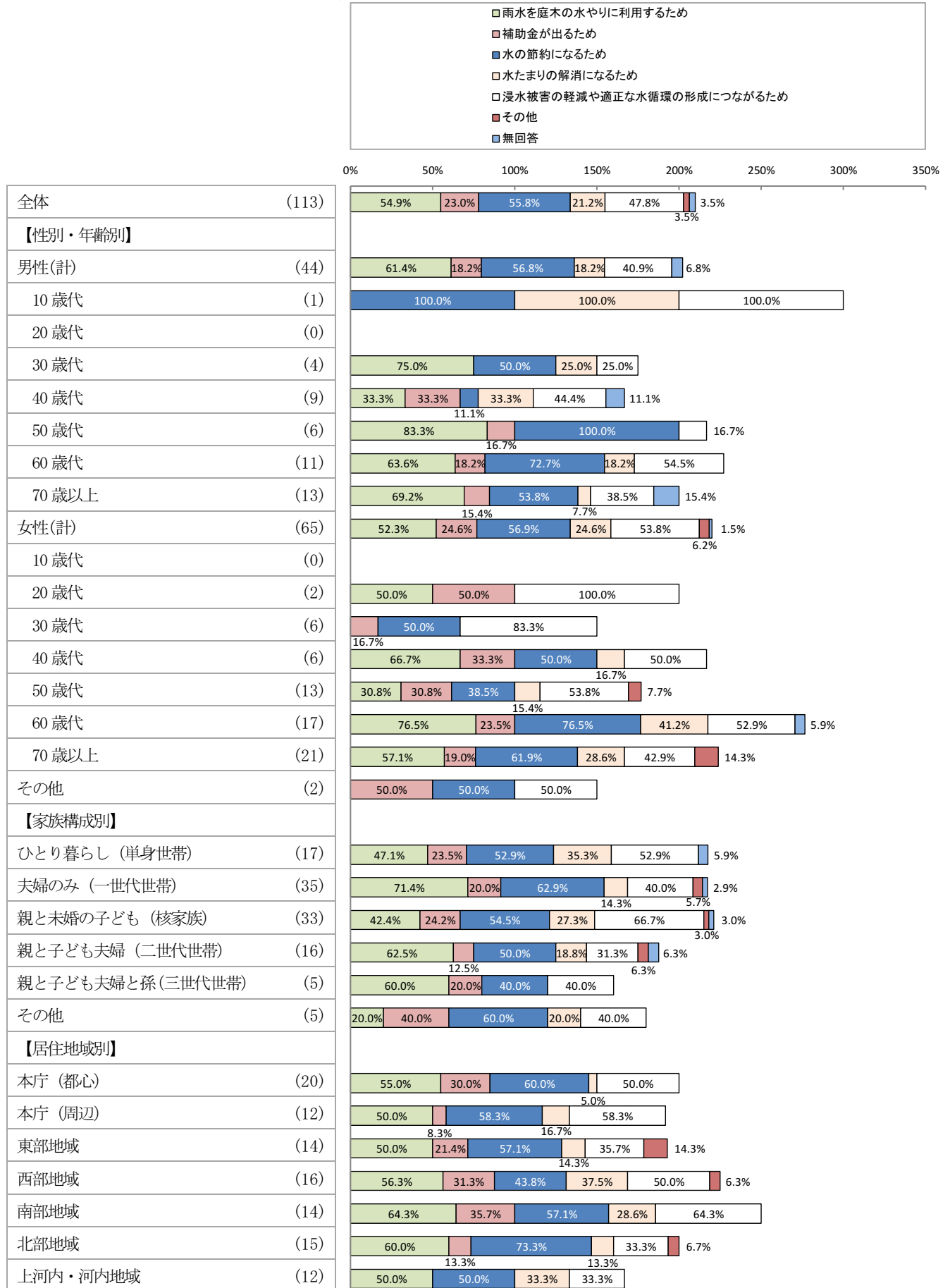
<参考>

性別・年齢別で見ると、「水の節約になるため」は<男性/10歳代>と<男性/50歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が76.5%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<男性/50歳代>が83.3%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が76.5%と続いている。(図IV-16-10)

家族構成別で見ると、「水の節約になるため」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が62.9%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が54.5%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が71.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が62.5%と続いている。(図IV-16-10)

居住地域別で見ると、「水の節約になるため」は<北部地域>が73.3%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が60.0%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<南部地域>が64.3%で最も高く、次いで<北部地域>が60.0%と続いている。(図IV-16-10)

<図IV-16-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



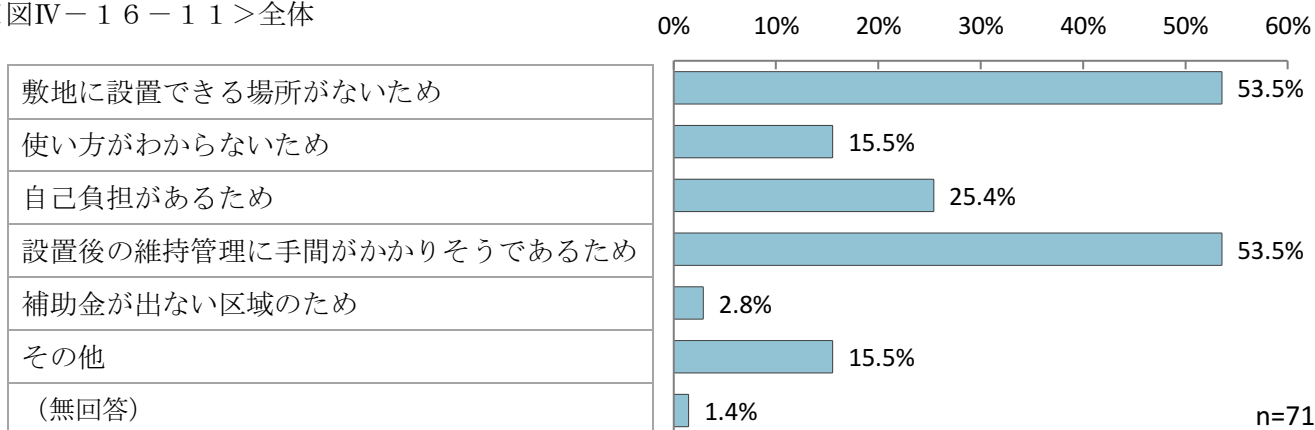
(6) 設置したくない理由

◇ 「敷地に設置できる場所がないため」「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割半ば

問60 問58で「2 設置したくない」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。
(○はいくつでも) n=71

1	敷地に設置できる場所がないため	53.5%
2	使い方がわからないため	15.5%
3	自己負担があるため	25.4%
4	設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため	53.5%
5	補助金が出ない区域のため	2.8%
6	その他	15.5%
	(無回答)	1.4%

<図IV-16-11>全体



設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」がいずれも53.5%で最も高く、次いで「自己負担があるため」が25.4%と続いている。
(図IV-16-11)

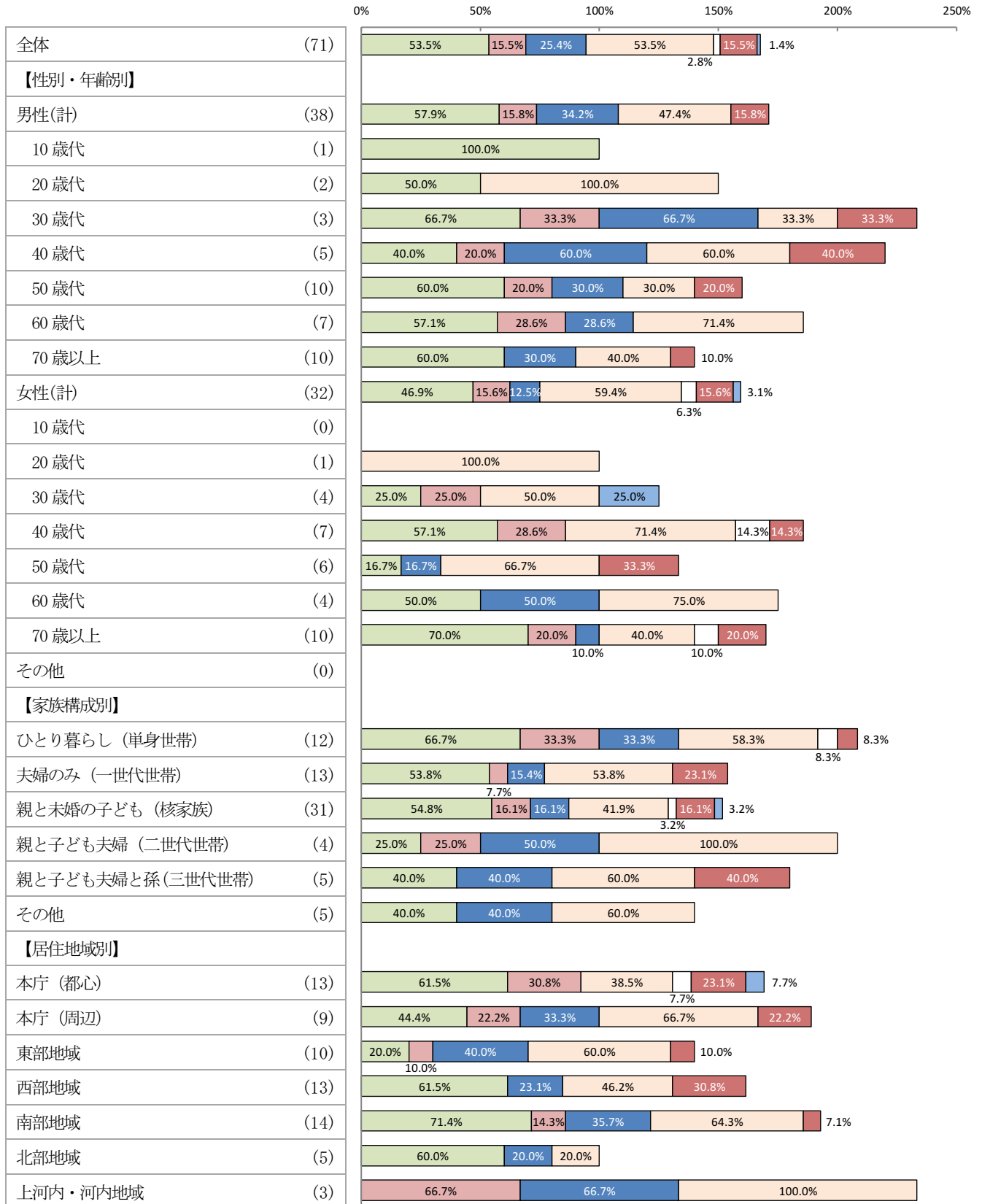
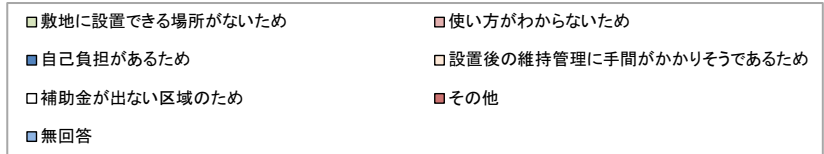
<参考>

性別・年齢別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が70.0%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<男性/20歳代>と<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が75.0%と続いている。(図IV-16-12)

家族構成別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が66.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が54.8%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が60.0%と続いている。(図IV-16-12)

居住地域別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<南部地域>が71.4%で最も高く、次いで<本庁(都心)>と<西部地域>がいずれも61.5%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<上河内・河内地域>が100.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が66.7%と続いている。(図IV-16-12)

<図IV-16-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



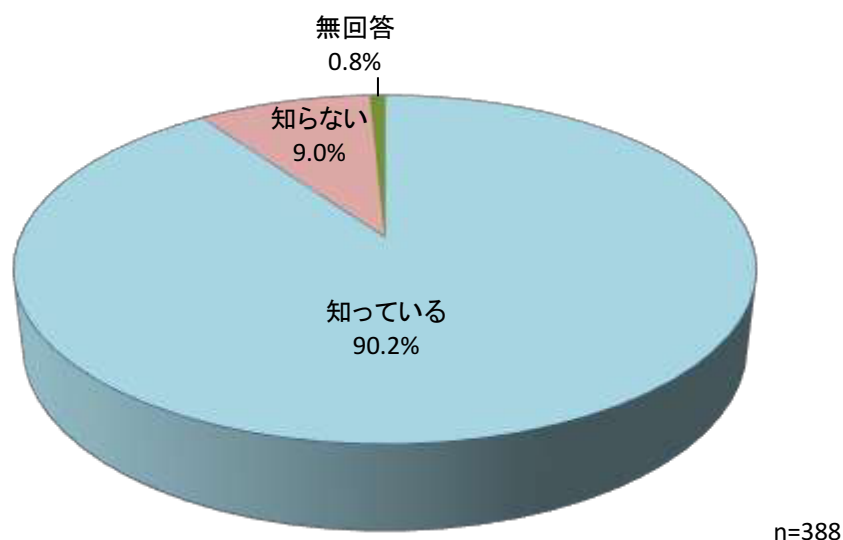
17. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

◇ 「知っている」が約9割

問6 1	あなたは、栃木県で国体が開催されることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=388
1	知っている	90.2%
2	知らない	9.0%
	(無回答)	0.8%

<図IV-17-1>全体



栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が90.2%、一方、「知らない」は9.0%であった。(図IV-17-1)

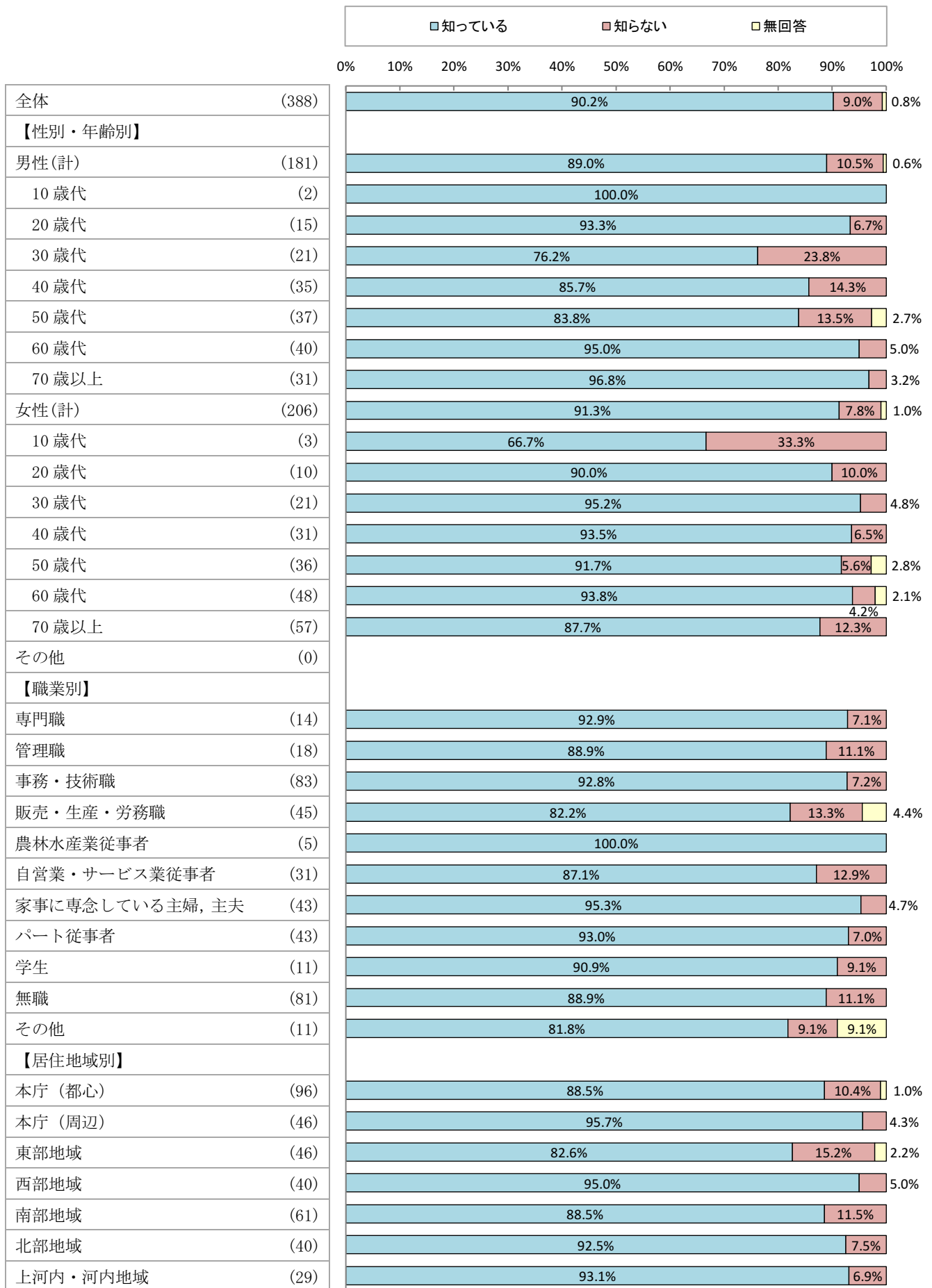
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が96.8%と続いている。一方、「知らない」は<女性/10歳代>が33.3%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が23.8%と続いている。(図IV-17-2)

職業別で見ると、「知っている」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が95.3%と続いている。一方、「知らない」は<販売・生産・労務職>が13.3%で最も高く、<自営業・サービス業従事者>が12.9%と続いている。(図IV-17-2)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(周辺)>が95.7%で最も高く、次いで<西部地域>が95.0%と続いている。一方、「知らない」は<東部地域>が15.2%で最も高く、次いで<南部地域>が11.5%と続いている。(図IV-17-2)

<図IV-17-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

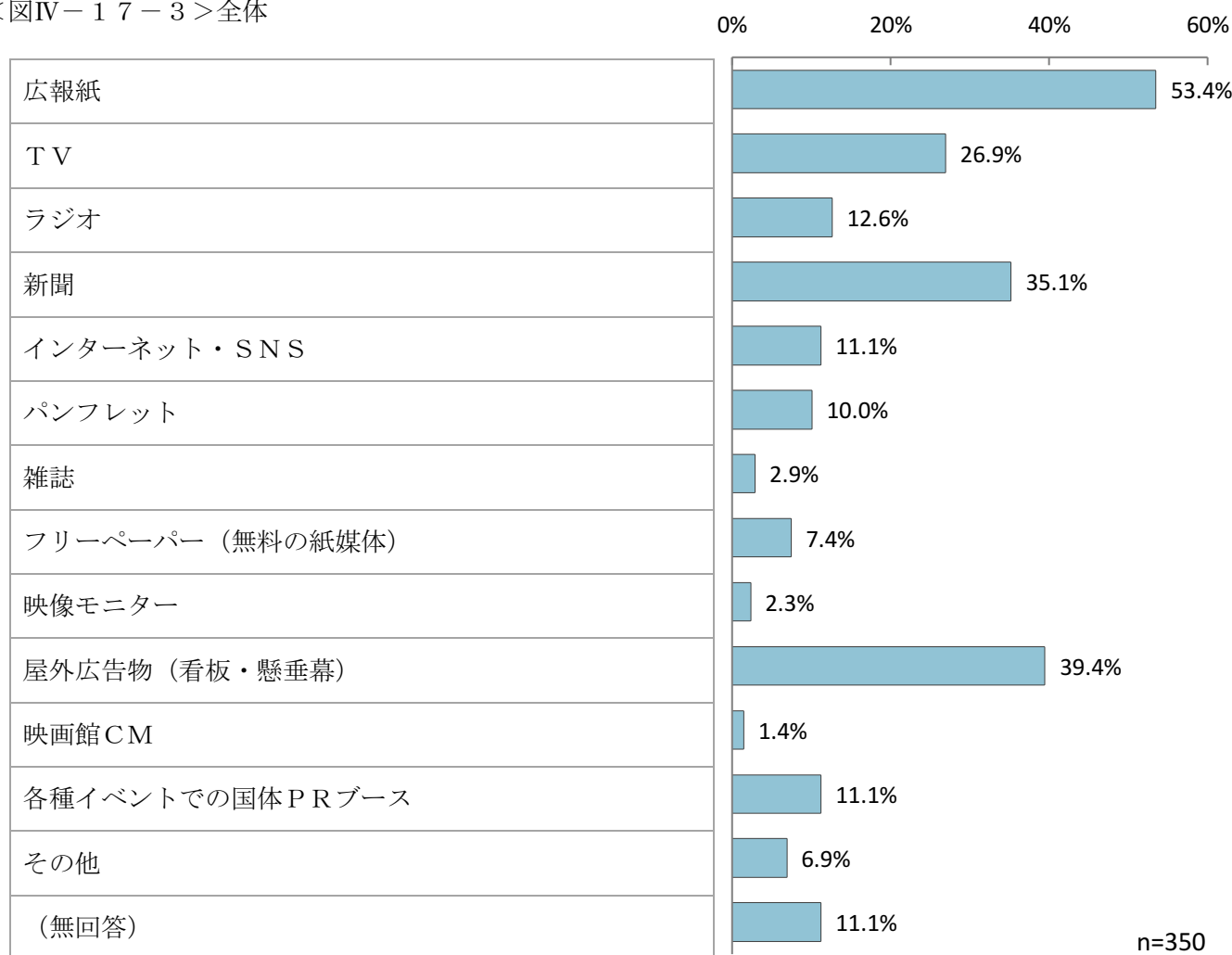


(2) 国体開催情報の入手手段

◇ 「広報紙」が5割強

問6 2	問6 1で「1 知っている」と答えた方にお聞きします。あなたは国体が栃木県で開催されることを、どのような広報手段で知りましたか。	(〇はいくつでも)	n=350
1	広報紙		53.4%
2	TV		26.9%
3	ラジオ		12.6%
4	新聞		35.1%
5	インターネット・SNS		11.1%
6	パンフレット		10.0%
7	雑誌		2.9%
8	フリーペーパー（無料の紙媒体）		7.4%
9	映像モニター		2.3%
10	屋外広告物（看板・懸垂幕）		39.4%
11	映画館CM		1.4%
12	各種イベントでの国体PRブース		11.1%
13	その他		6.9%
	（無回答）		11.1%

<図IV-17-3>全体



国体開催情報の入手方法については、「広報紙」が53.4%で最も高く、次いで「屋外広告物（看板・懸垂幕）」が39.4%と続いている。（図IV-17-3）

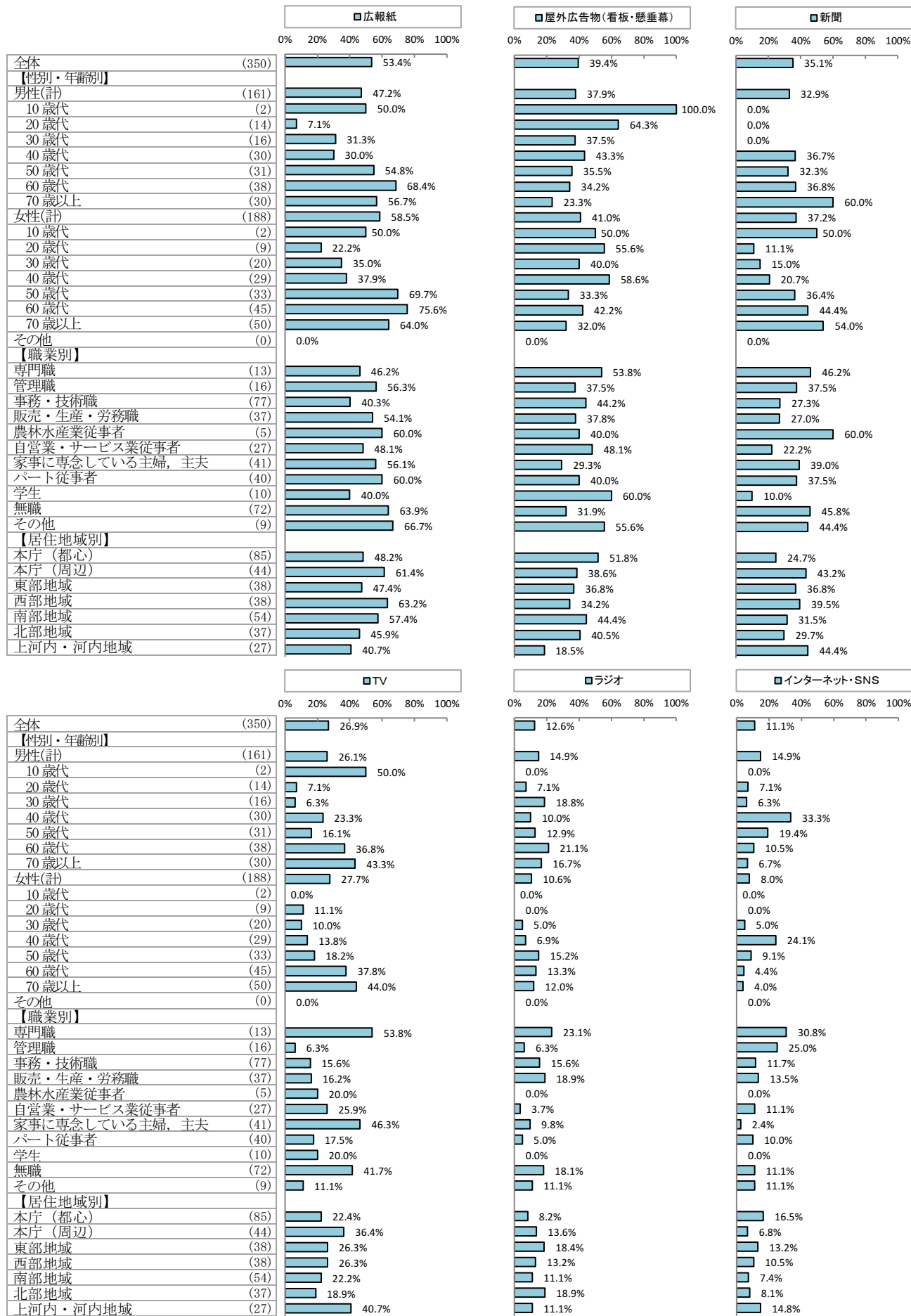
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報紙」は<女性/60歳代>が75.6%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が69.7%と続いている。「屋外広告物（看板・懸垂幕）」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が64.3%と続いている。（図IV-17-4）

職業別で見ると、「広報紙」は<その他>を除くと<無職>が63.9%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>と<パート従事者>がいずれも60.0%と続いている。「屋外広告物（看板・懸垂幕）」は<学生>が60.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<専門職>が53.8%と続いている。（図IV-17-4）

居住地域別で見ると、「広報紙」は<西部地域>が63.2%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が61.4%と続いている。「屋外広告物（看板・懸垂幕）」は<本庁（都心）>が51.8%で最も高く、次いで<南部地域>が44.4%と続いている。（図IV-17-4）

<図IV-17-4>性別・年齢別/職業別/居住地域別（上位6項目）

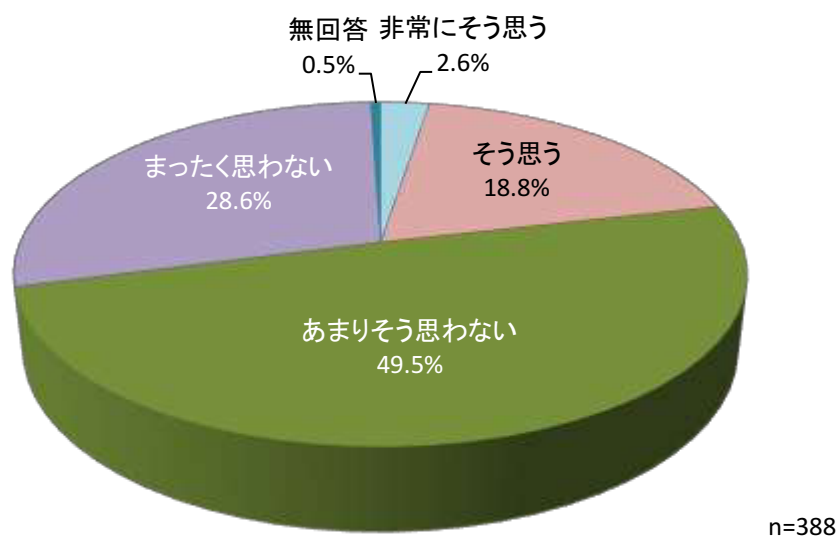


(3) とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向

◇ 「あまりそう思わない」と「まったく思わない」を合わせた【思わない(計)】が8割弱

問63	あなたは、ボランティア活動（花いっぱい運動・環境美化活動など）で、とちぎ国体に参加したいと思いますか。	(○は1つ)
		n=388
1	非常にそう思う	2.6%
2	そう思う	18.8%
3	あまりそう思わない	49.5%
4	まったく思わない	28.6%
	(無回答)	0.5%

<図IV-17-5>全体



とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向については、「非常にそう思う」が2.6%、「そう思う」が18.8%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は21.4%であった。一方、「あまりそう思わない」が49.5%、「まったく思わない」が28.6%で、これらを合わせた【思わない(計)】は78.1%であった。(図IV-17-5)

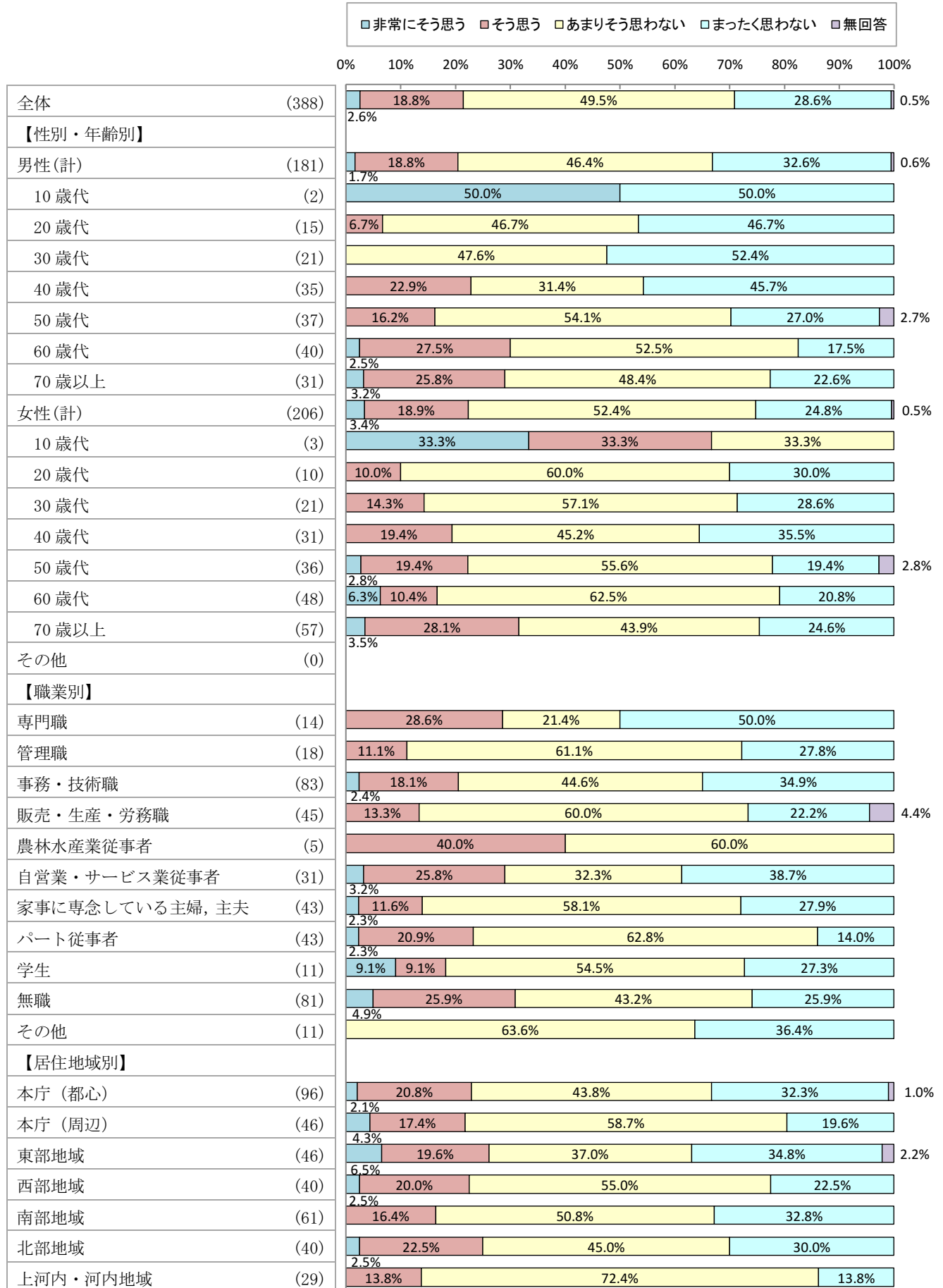
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<女性/10歳代>が66.6%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が50.0%と続いている。一方、【思わない(計)】は<男性/30歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が93.4%と続いている。(図IV-17-6)

職業別で見ると、【そう思う(計)】は<農林水産業従事者>が40.0%で最も高く、次いで<無職>が30.8%と続いている。一方、【思わない(計)】は<その他>を除くと<管理職>が88.9%で最も高く、<家事に専念している主婦、主夫>が86.0%と続いている。(図IV-17-6)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<東部地域>が26.1%で最も高く、次いで<北部地域>が25.0%と続いている。一方、【思わない(計)】は<上河内・河内地域>が86.2%で最も高く、次いで<南部地域>が83.6%と続いている。(図IV-17-6)

<図IV-17-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別

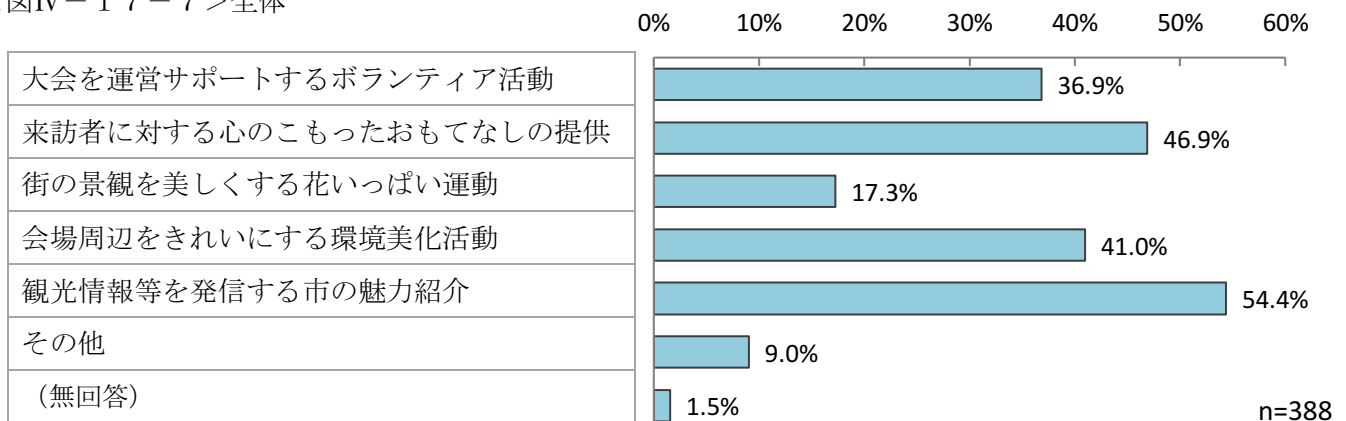


(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

◇ 「観光情報等を発信する市の魅力紹介」が5割半ば

問64	あなたは、多くの大会参加者・観覧者が来訪する国体を盛り上げるために、何が重要だと思いますか。 (〇はいくつでも)	n=388
1	大会を運営サポートするボランティア活動	36.9%
2	来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供	46.9%
3	街の景観を美しくする花いっぱい運動	17.3%
4	会場周辺をきれいにする環境美化活動	41.0%
5	観光情報等を発信する市の魅力紹介	54.4%
6	その他	9.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-17-7>全体



国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報等を発信する市の魅力紹介」が54.4%で最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が46.9%と続いている。(図IV-17-7)

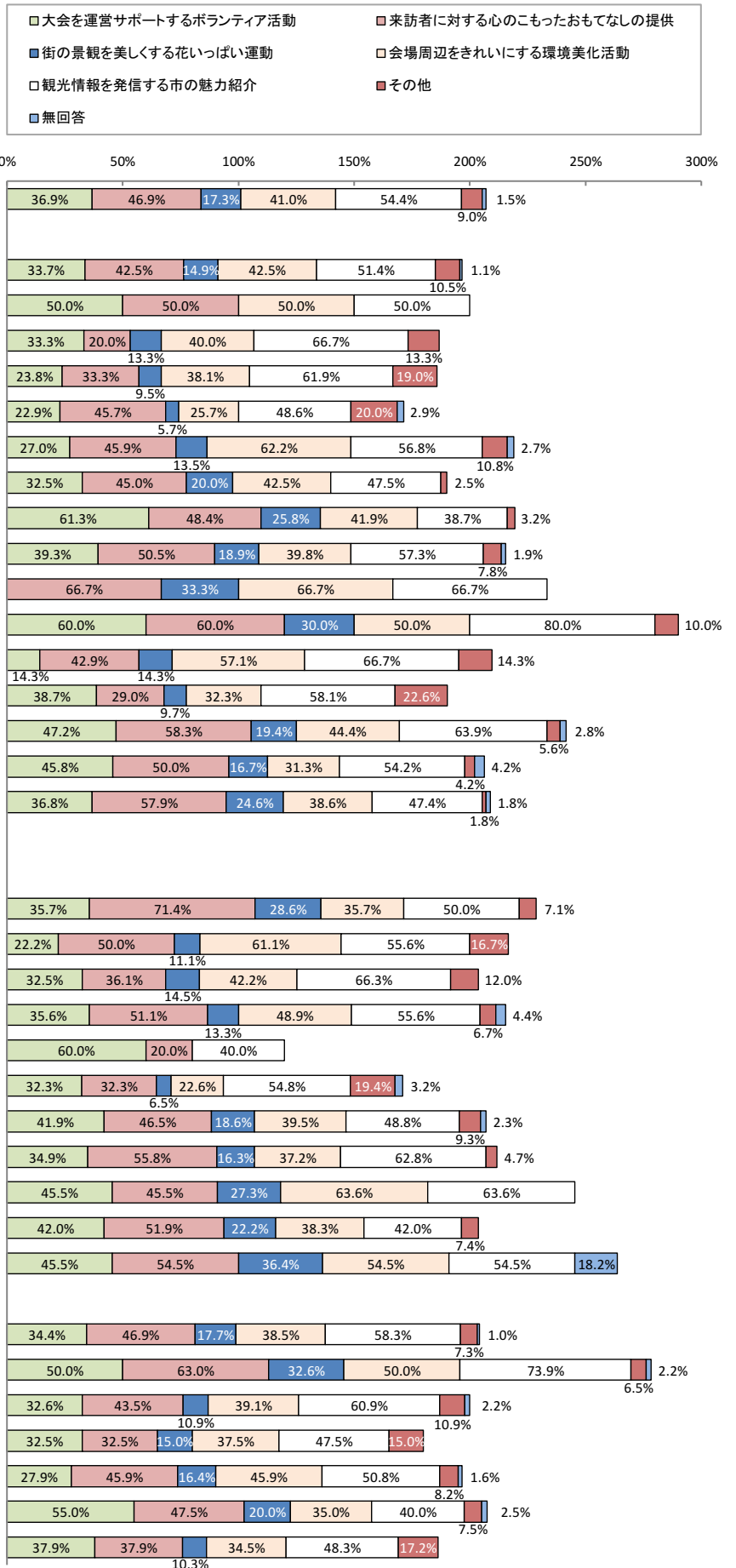
<参考>

性別・年齢別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<女性/20歳代>が80.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>と<女性/10歳代>と<女性/30歳代>がいずれも66.7%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が60.0%と続いている。(図IV-17-8)

職業別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<事務・技術職>が66.3%で最も高く、次いで<学生>が63.6%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<専門職>が71.4%で最も高く、<パート従事者>が55.8%と続いている。(図IV-17-8)

居住地域別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<本庁(周辺)>が73.9%で最も高く、次いで<東部地域>が60.9%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<本庁(周辺)>が63.0%で最も高く、次いで<北部地域>が47.5%と続いている。(図IV-17-8)

<図IV-17-8>性別・年齢別／職業別／居住地域別



18. 多文化共生の認知度について

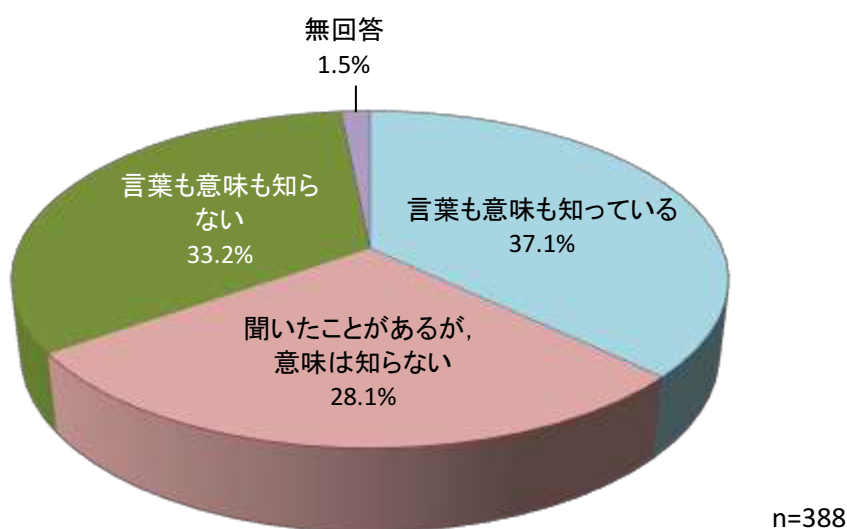
(1) 多文化共生の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が4割弱

問65 宇都宮市では、外国人と日本人が、言葉や生活習慣などの文化的違いを互いに認め合い、共に支え合うまちづくり（多文化共生）を進めています。あなたは、「多文化共生」という言葉を知っていますか。 (○は1つ)

		n=388
1	言葉も意味も知っている	37.1%
2	聞いたことがあるが、意味は知らない	28.1%
3	言葉も意味も知らない	33.2%
	(無回答)	1.5%

<図IV-18-1>全体



多文化共生の認知度については、「言葉も意味も知っている」が37.1%で最も高く、次いで「言葉も意味も知らない」が33.2%、「聞いたことがあるが、意味は知らない」が28.1%であった。(図IV-18-1)

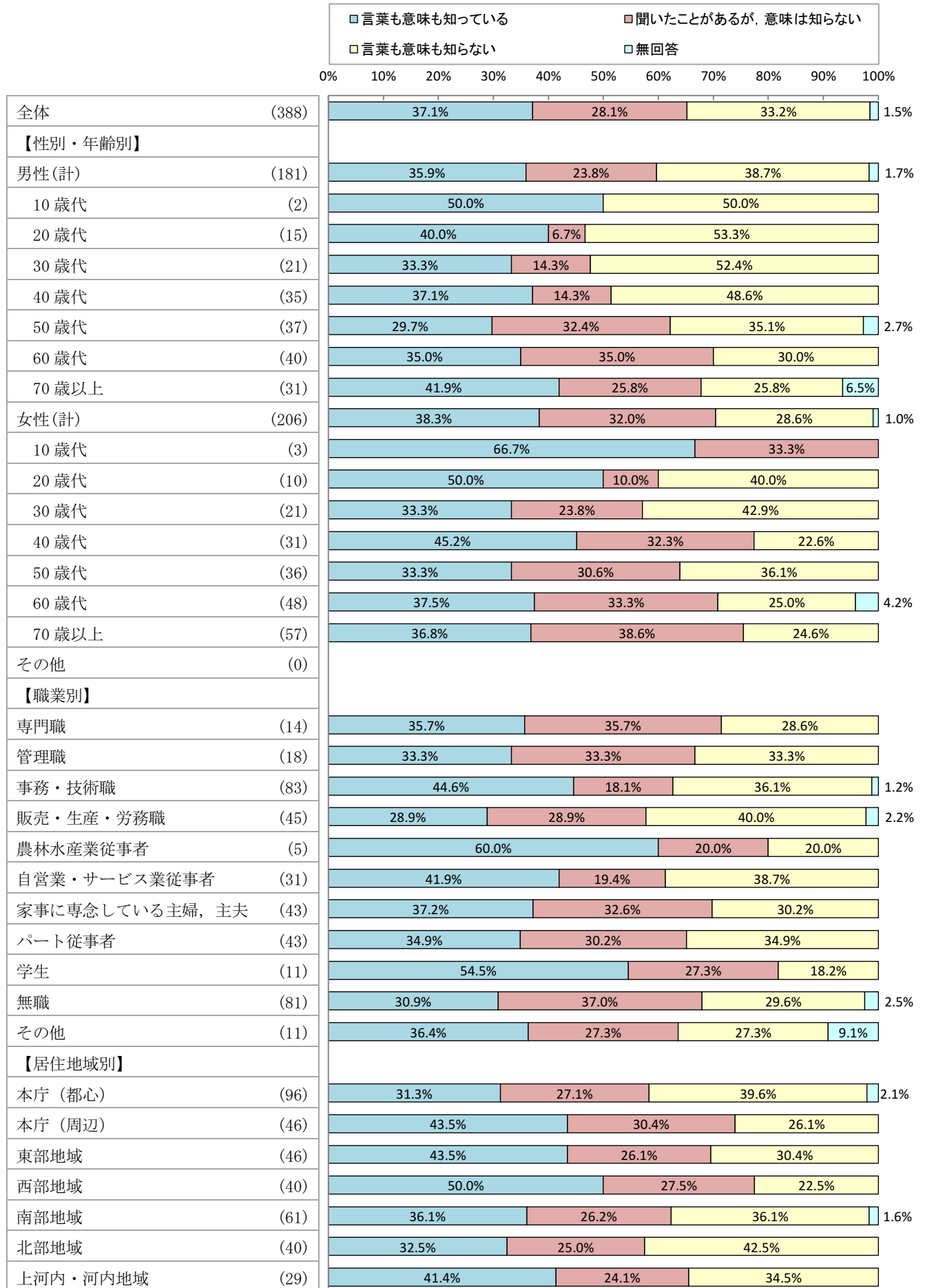
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、<男性/10歳代>と<女性/20歳代>がいずれも50.0%と続いている。一方、「言葉も意味も知らない」は<男性/20歳代>が53.3%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が52.4%と続いている。(図IV-18-2)

職業別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<農林水産業従事者>が60.0%で最も高く、次いで<学生>が54.5%であった。一方、「言葉も意味も知らない」は<販売・生産・労務職>が40.0%で最も高く、<自営業・サービス業従事者>が38.7%と続いている。(図IV-18-2)

居住地域別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<西部地域>が50.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>と<東部地域>が43.5%であった。一方、「言葉も意味も知らない」は<北部地域>が42.5%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が39.6%であった。(図IV-18-2)

<図IV-18-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

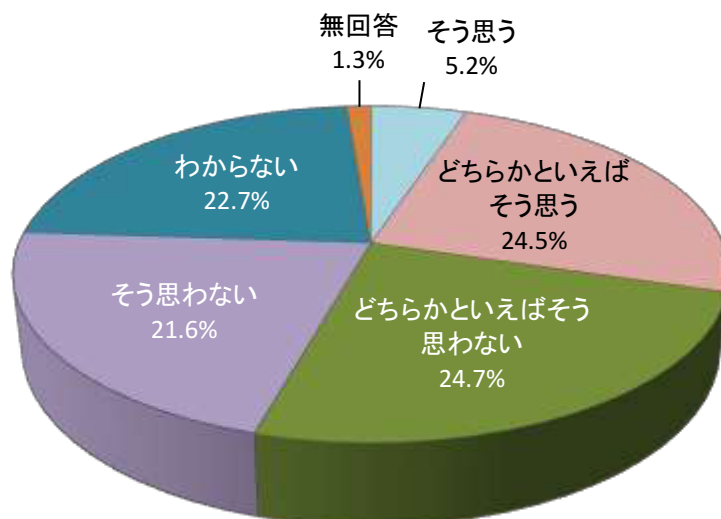


(2) 外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無

◇ 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が4割半ば

問66	あなたの周りや身近なところで、外国人と日本人が、お互いの文化的な違いを認め合えるような雰囲気があると思いますか。	(○は1つ)
		n=388
1	そう思う	5.2%
2	どちらかといえばそう思う	24.5%
3	どちらかといえばそう思わない	24.7%
4	そう思わない	21.6%
5	わからない	22.7%
	(無回答)	1.3%

<図IV-18-3>全体



n=388

外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無については、「そう思う」が5.2%、「どちらかといえばそう思う」が24.5%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は29.7%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が24.7%、「そう思わない」が21.6%で、これらを合わせた【そう思わない(計)】は46.3%であった。(図IV-18-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<男性/20歳代>が53.3%で最も高く、<男性/30歳代>が42.8%と続いている。一方、【そう思わない(計)】は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が58.1%と続いている。(図IV-18-4)

職業別で見ると、【そう思う(計)】は<管理職>が50.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が40.0%であった。一方、【そう思わない(計)】は<農林水産業従事者>が60.0%で最も高く、<専門職>が50.0%と続いている。(図IV-18-4)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<本庁(周辺)>が41.3%で最も高く、次いで<南部地域>が32.8%であった。一方、【そう思わない(計)】は<上河内・河内地域>が62.1%で最も高く、次いで<西部地域>が57.5%であった。(図IV-18-4)

<図IV-18-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

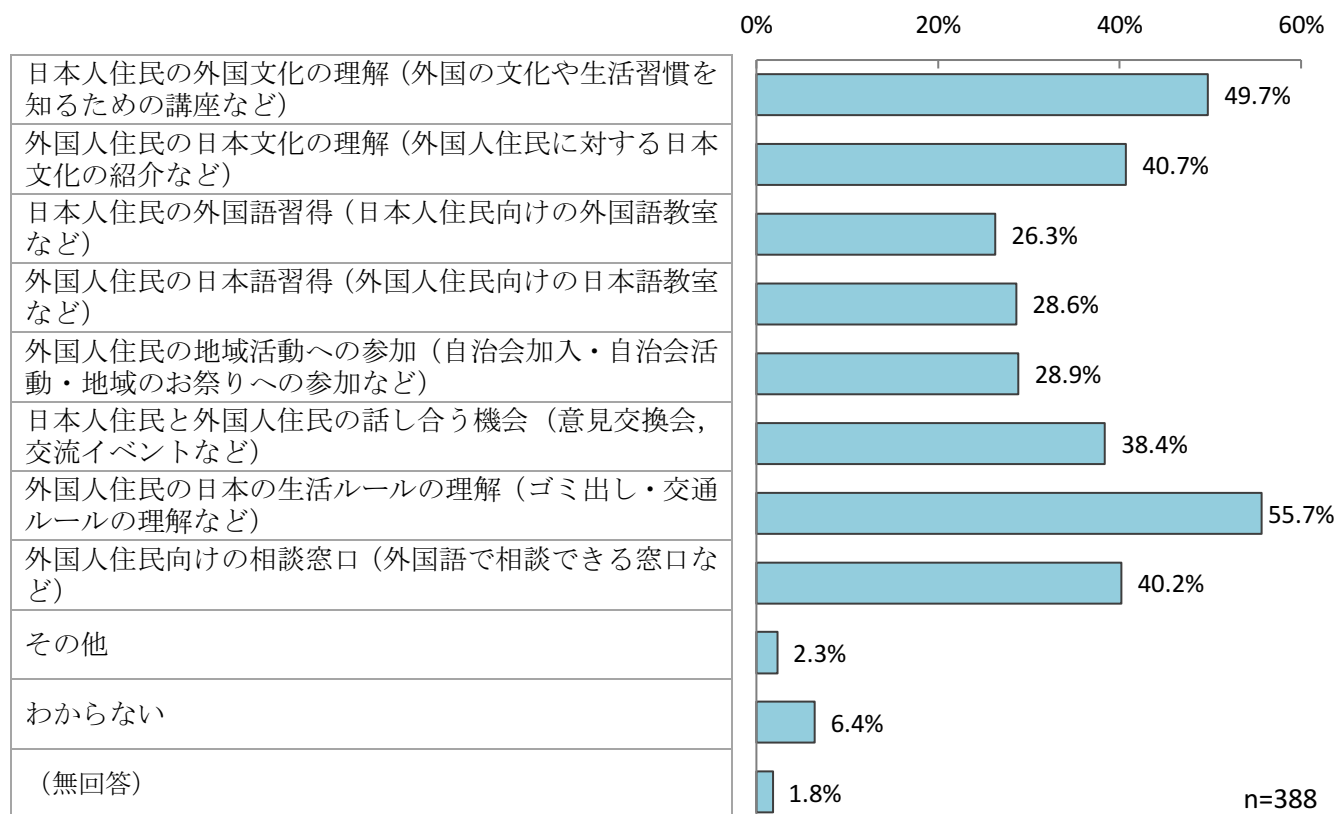


(3) 多文化共生の推進にあたり大切なこと

◇ 「外国人住民の日本の生活ルール(ゴミ出し・交通ルールの理解など)」が5割半ば

問67 宇都宮市の「多文化共生」を進めるにあたり、何が大切だと思いますか。(〇はいくつでも)		n=388
1	日本人住民の外国文化の理解(外国の文化や生活習慣を知るための講座など)	49.7%
2	外国人住民の日本文化の理解(外国人住民に対する日本文化の紹介など)	40.7%
3	日本人住民の外国語習得(日本人住民向けの外国語教室など)	26.3%
4	外国人住民の日本語習得(外国人住民向けの日本語教室など)	28.6%
5	外国人住民の地域活動への参加(自治会加入・自治会活動・地域のお祭りへの参加など)	28.9%
6	日本人住民と外国人住民の話し合う機会(意見交換会、交流イベントなど)	38.4%
7	外国人住民の日本の生活ルールの理解(ゴミ出し・交通ルールの理解など)	55.7%
8	外国人住民向けの相談窓口(外国語で相談できる窓口など)	40.2%
9	その他	2.3%
10	わからない	6.4%
	(無回答)	1.8%

<図IV-18-5>全体



多文化共生の推進にあたり大切なことについては、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」が 55.7%で最も高く、次いで「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」が 49.7%と続いている。(図IV-18-5)

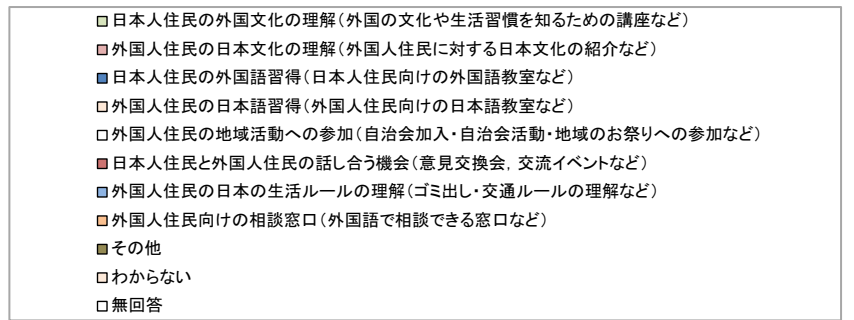
<参考>

性別・年齢別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<女性/10歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 64.6%と続いている。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>と<女性/10歳代>と<女性/30歳代>がいずれも 66.7%と続いている。(図IV-18-6)

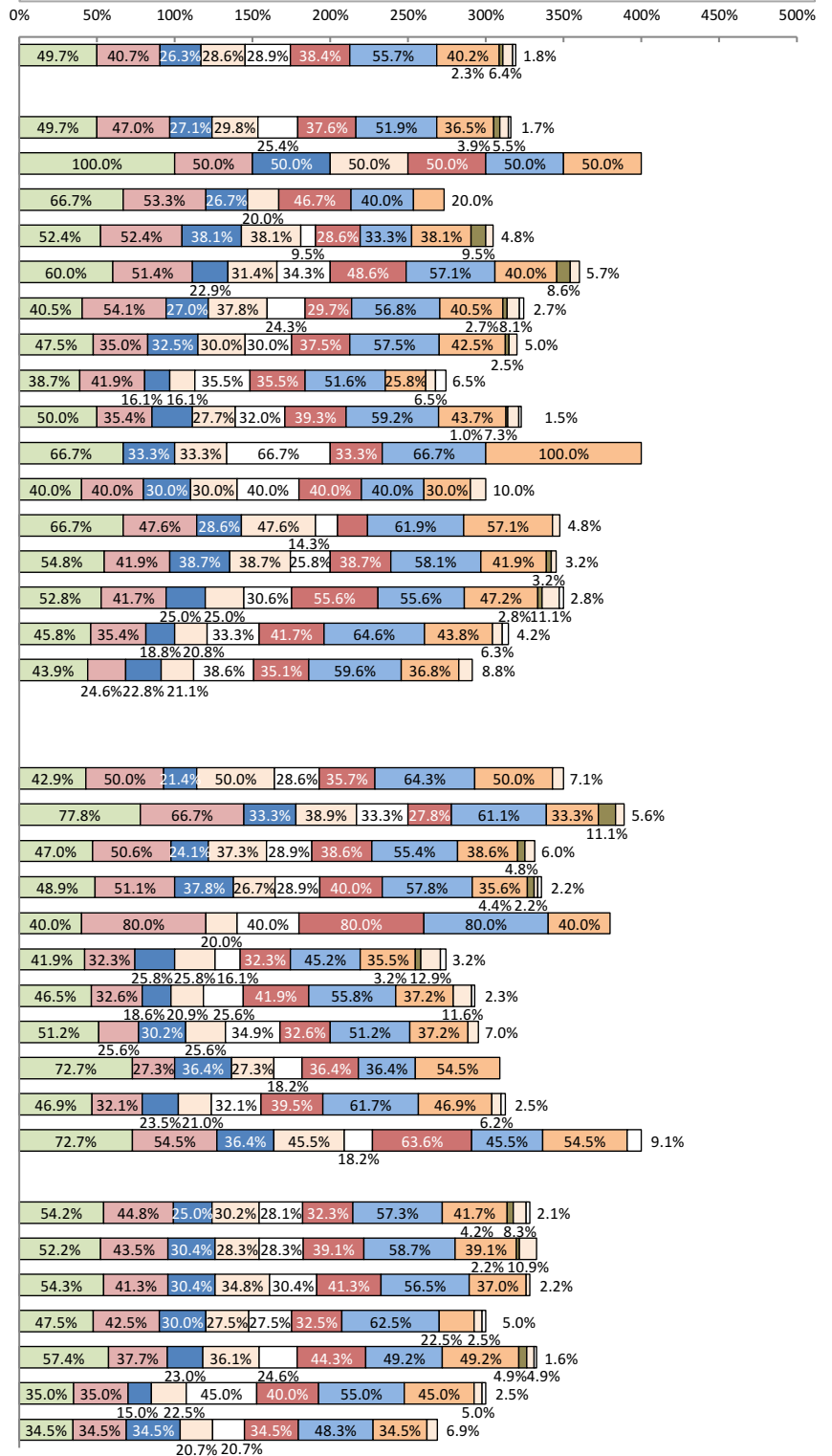
職業別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<農林水産業従事者>が 80.0%で最も高く、次いで<専門職>が 64.3%であった。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<管理職>が 77.8%で最も高く、<学生>が 72.7%と続いている。(図IV-18-6)

居住地域別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<西部地域>が 62.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 58.7%であった。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<南部地域>が 57.4%で最も高く、次いで<東部地域>が 54.3%であった。(図IV-18-6)

<図IV-18-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



全体	(388)
【性別・年齢別】	
男性(計)	(181)
10歳代	(2)
20歳代	(15)
30歳代	(21)
40歳代	(35)
50歳代	(37)
60歳代	(40)
70歳以上	(31)
女性(計)	(206)
10歳代	(3)
20歳代	(10)
30歳代	(21)
40歳代	(31)
50歳代	(36)
60歳代	(48)
70歳以上	(57)
その他	(0)
【職業別】	
専門職	(14)
管理職	(18)
事務・技術職	(83)
販売・生産・労務職	(45)
農林水産業従事者	(5)
自営業・サービス業従事者	(31)
家事に専念している主婦, 主夫	(43)
パート従事者	(43)
学生	(11)
無職	(81)
その他	(11)
【居住地域別】	
本庁(都心)	(96)
本庁(周辺)	(46)
東部地域	(46)
西部地域	(40)
南部地域	(61)
北部地域	(40)
上河内・河内地域	(29)



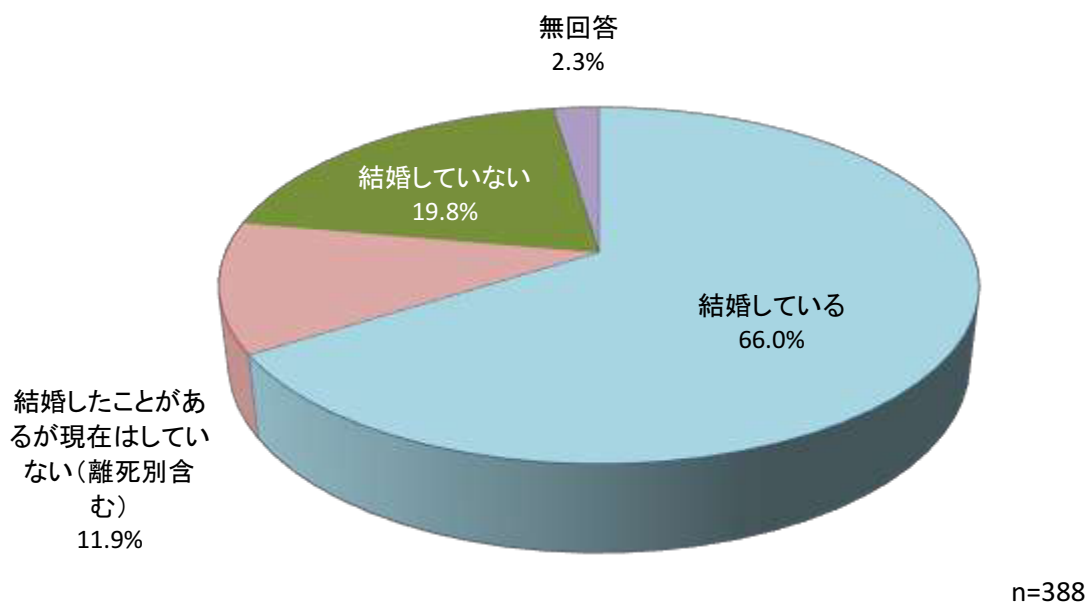
19. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

◇ 「結婚している」が6割半ば

問68	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=388
1	結婚している	66.0%
2	結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)	11.9%
3	結婚していない	19.8%
	(無回答)	2.3%

<図IV-19-1>全体



結婚しているかについては、「結婚している」が66.0%で最も高く、次いで「結婚していない」が19.8%、「結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」が11.9%であった。(図IV-19-1)

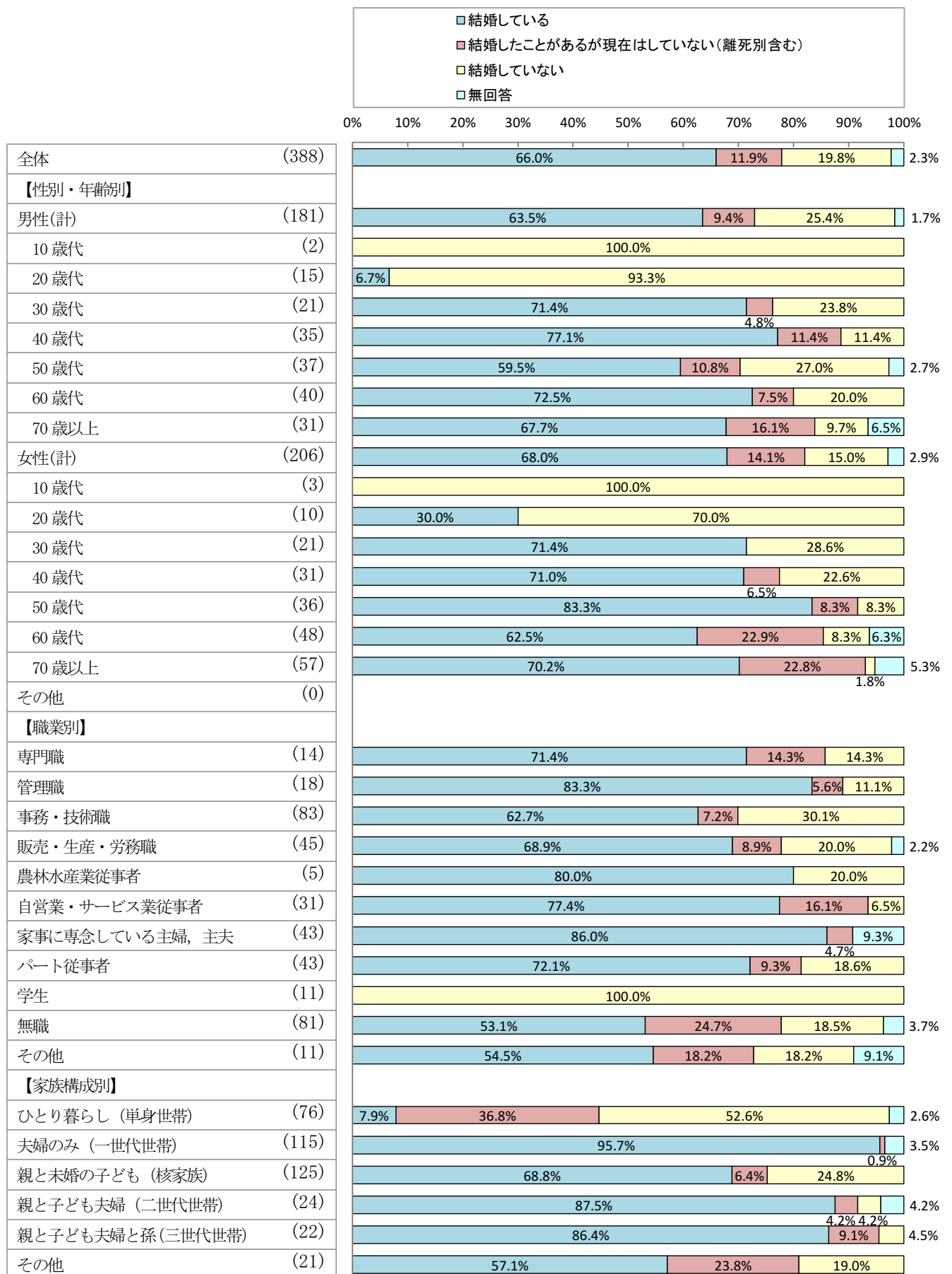
<参考>

性別・年齢別で見ると、「結婚している」は<女性/50歳代>が83.3%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が77.1%と続いている。一方、「結婚していない」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が93.3%と続いている。(図IV-19-2)

職業別で見ると、「結婚している」は<家事に専念している主婦、主夫>が86.0%で最も高く、次いで<管理職>が83.3%と続いている。一方、「結婚していない」は<学生>が100.0%で最も高く、<事務・技術職>が30.1%と続いている。(図IV-19-2)

家族構成別で見ると、「結婚している」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が95.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が87.5%と続いている。一方、「結婚していない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が52.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が24.8%と続いている。(図IV-19-2)

<図IV-19-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

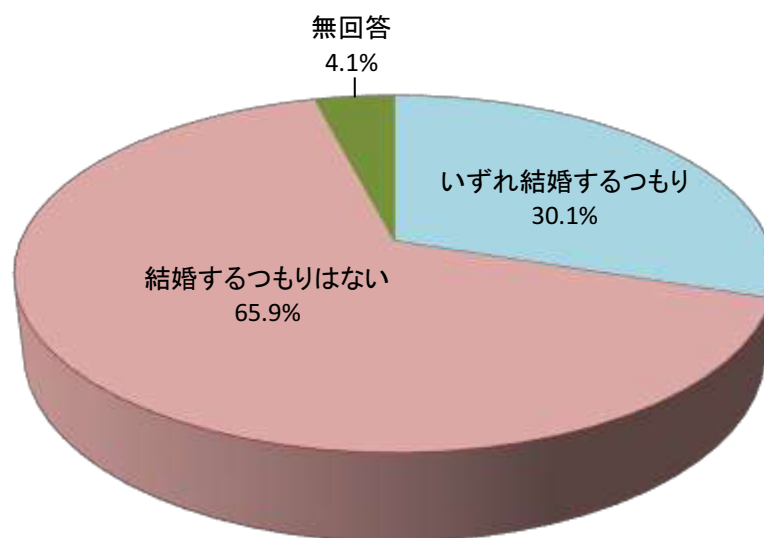


(2) 結婚するつもりがあるか

◇ 「結婚するつもりはない」が6割半ば

問69	問68で「2 結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」、「3 結婚していない」と答えた方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。(○は1つ)	n=123
1	いずれ結婚するつもり	30.1%
2	結婚するつもりはない (無回答)	65.9% 4.1%

<図IV-19-3>全体



n=123

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が30.1%、「結婚するつもりはない」が65.9%であった。(図IV-19-3)

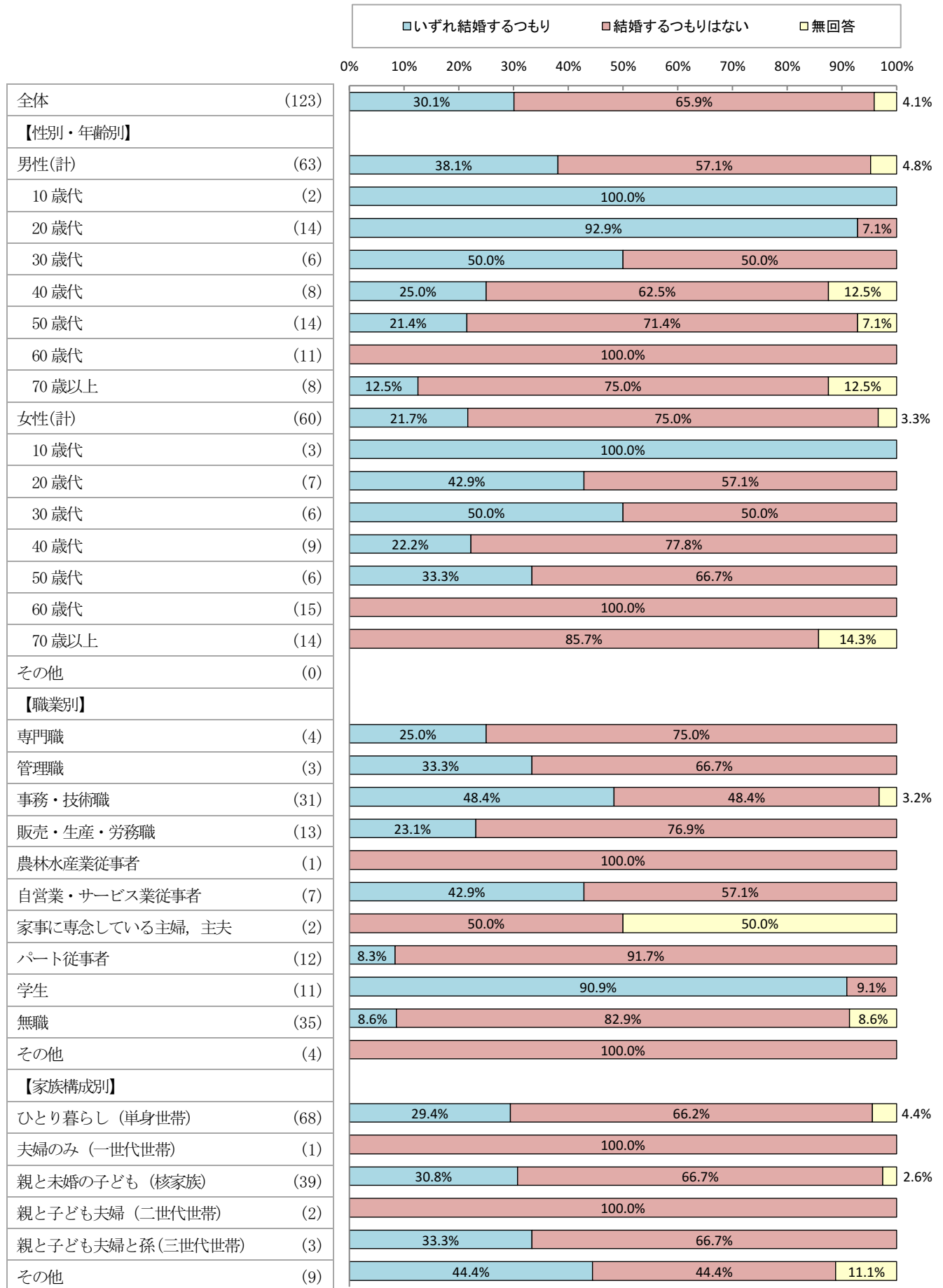
<参考>

性別・年齢別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が92.9%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<男性/60歳代>と<女性/60歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が85.7%と続いている。(図IV-19-4)

職業別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<学生>が90.9%で最も高く、次いで<事務・技術職>が48.4%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<その他>除くと<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、<パート従事者>が91.7%と続いている。(図IV-19-4)

家族構成別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が33.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が30.8%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>と<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>と<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>がいずれも66.7%と続いている。(図IV-19-4)

<図IV-19-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

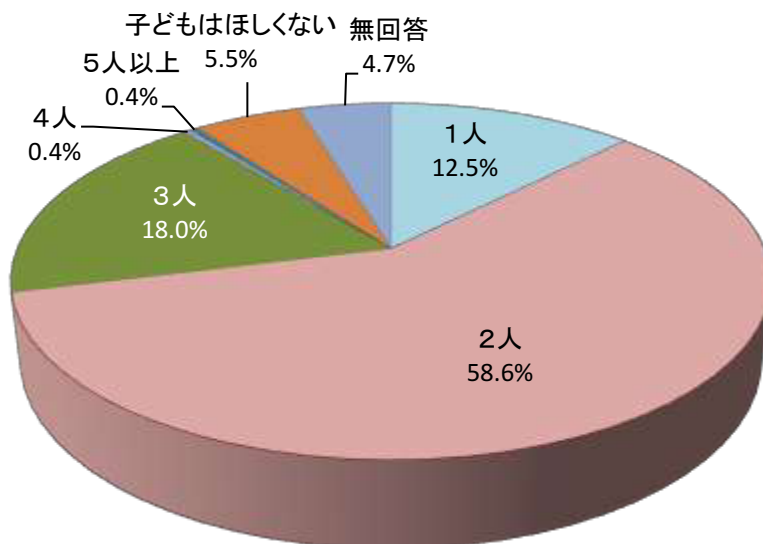


(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

◇ 「2人」が約6割

問70	問68で「1 結婚している」と答えた方にお伺いします。「これまでに生んだお子さん」と「今後のお子さんの予定」の数を合わせて、全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。(〇は1つ)	n=256
1	1人	12.5%
2	2人	58.6%
3	3人	18.0%
4	4人	0.4%
5	5人以上	0.4%
6	子どもはほしくない (無回答)	5.5% 4.7%

<図IV-19-5>全体



n=256

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が58.6%と最も高く、次いで「3人」が18.0%、「1人」が12.5%と続いている。(図IV-19-5)

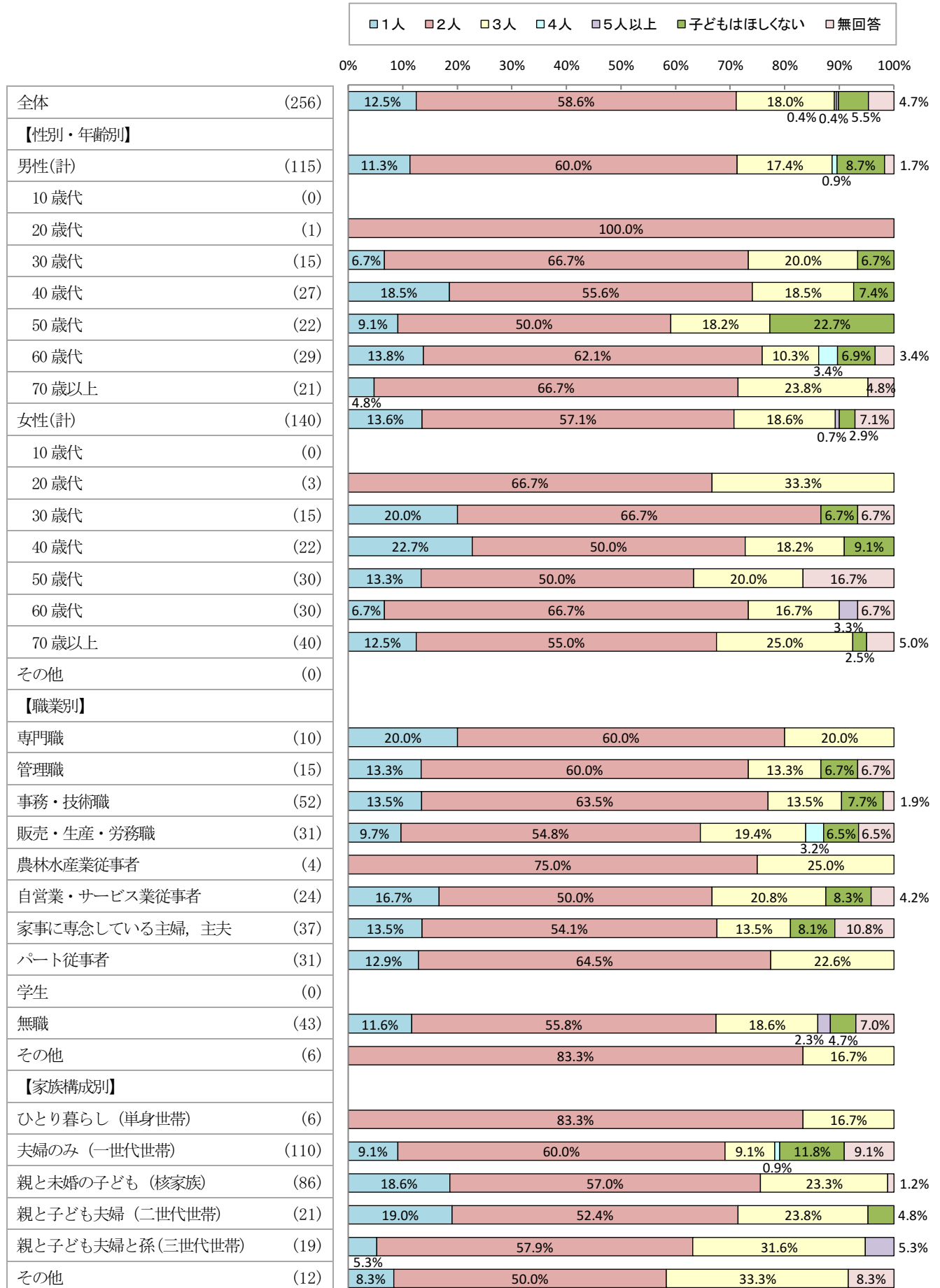
<参考>

性別・年齢別で見ると、「2人」は<男性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>と<男性/70歳以上>と<女性/20歳代>と<女性/30歳代>と<女性/60歳代>がいずれも66.7%と続いている。「1人」は<女性/40歳代>が22.7%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が20.0%と続いている。(図IV-19-6)

職業別で見ると、「2人」は<その他>を除くと<農林水産業従事者>が75.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が64.5%と続いている。一方、「1人」は<専門職>が20.0%で最も高く、<自営業・サービス従事者>が16.7%と続いている。(図IV-19-6)

家族構成別で見ると、「2人」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が60.0%と続いている。「1人」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が19.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が18.6%と続いている。(図IV-19-6)

<図IV-19-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

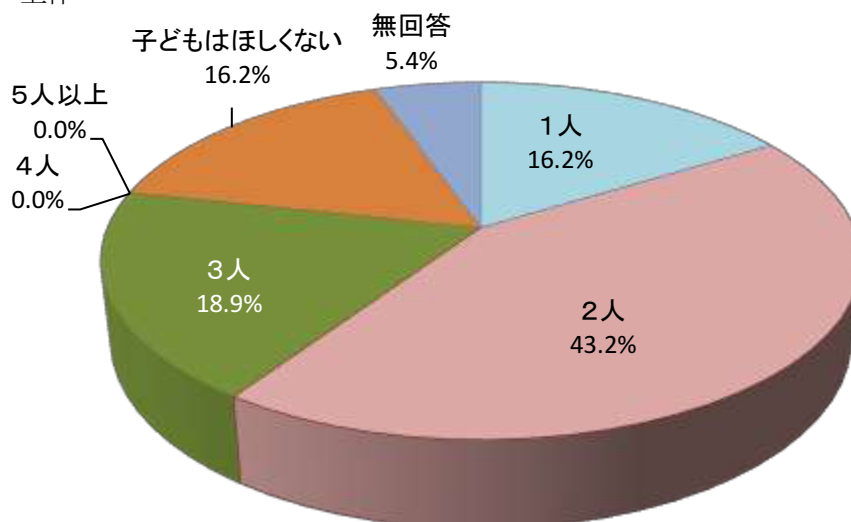


(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

◇ 「2人」が4割強

問7 1	問6 9で「1 いずれ結婚するつもり」と答えた方にお伺いします。子どもは何人ほしいですか。	(○は1つ)
		n=37
1	1人	16.2%
2	2人	43.2%
3	3人	18.9%
4	4人	0.0%
5	5人以上	0.0%
6	子どもはほしくない	16.2%
	(無回答)	5.4%

<図IV-19-7>全体



n=37

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が43.2%と最も高く、次いで「3人」が18.9%、「1人」、「子どもはほしくない」がいずれも16.2%と続いている。(図IV-19-7)

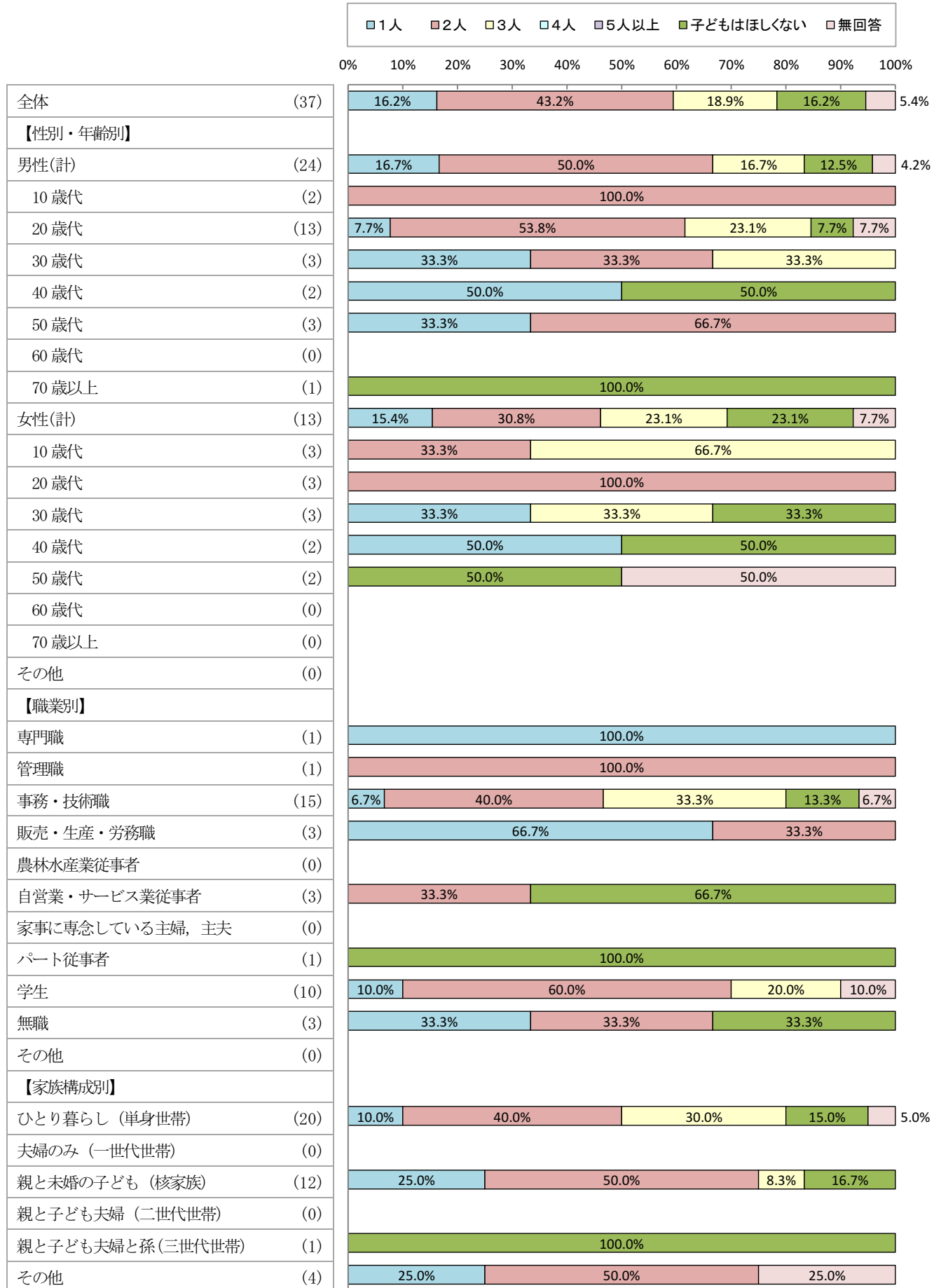
<参考>

性別・年齢別で見ると、「2人」は<男性/10歳代>と<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が66.7%と続いている。「1人」は<男性/40歳代>と<女性/40歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>と<男性/50歳代>と<女性/30歳代>がいずれも33.3%と続いている。(図IV-19-8)

職業別で見ると、「2人」は<管理職>が100.0%で最も高く、次いで<学生>が60.0%と続いている。一方、「1人」は<専門職>が100.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が66.7%と続いている。(図IV-19-8)

家族構成別で見ると、「2人」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が50.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が40.0%と続いている。「1人」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が25.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が10.0%と続いている。(図IV-19-8)

<図IV-19-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



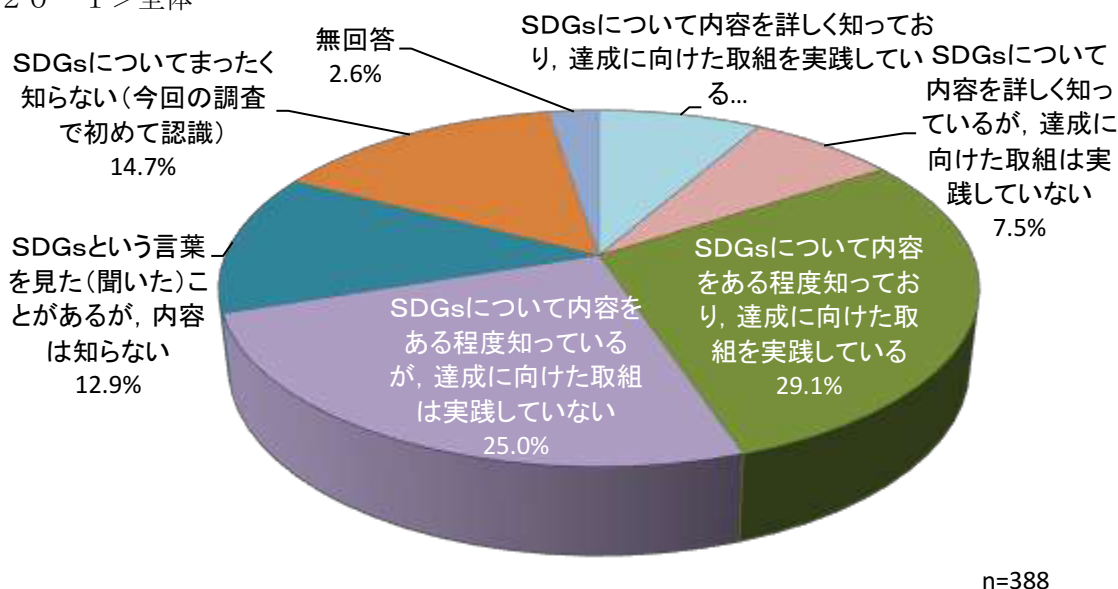
20. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について

(1) SDGs についての認知度

◇ 「SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が約3割

問72	あなたは「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」についてどの程度知っていますか。（○は1つ）	n=388
1	SDGs について内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している	8.2%
2	SDGs について内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない	7.5%
3	SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している	29.1%
4	SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない	25.0%
5	SDGs という言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない	12.9%
6	SDGs についてまったく知らない（今回の調査で初めて認識）	14.7%
	（無回答）	2.6%

<図IV-20-1>全体



SDGsの認知度については、「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が29.1%で最も高く、次いで「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が25.0%、「SDGsについてまったく知らない（今回の調査で初めて認識）」が14.7%と続いている。（図IV-20-1）

<参考>

性別・年齢別で見ると、「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が50.0%と続いている。「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<男性/60歳代>が42.5%で最も高く、次いで<男性/30歳代>と<女性/10歳代>がいずれも33.3%と続いている。（図IV-20-2）

職業別で見ると、「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」は<農林水産業従事者>が40.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が39.5%と続いている。「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<事務・技術職>が34.9%で最も高く、<自営業・サービス業従事者>が32.3%と続いている。（図IV-20-2）

家族構成別で見ると、「SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」は<親と未婚の子ども（核家族）>が36.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が30.4%と続いている。「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<その他>を除くと<夫婦のみ（一世代世帯）>が27.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が27.2%と続いている。（図IV-20-2）

<図IV-20-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(2) SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

◇「買い物をするときはマイバッグを使っている」が7割強

問73 次のSDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものをお答えください。

(〇はいくつでも)

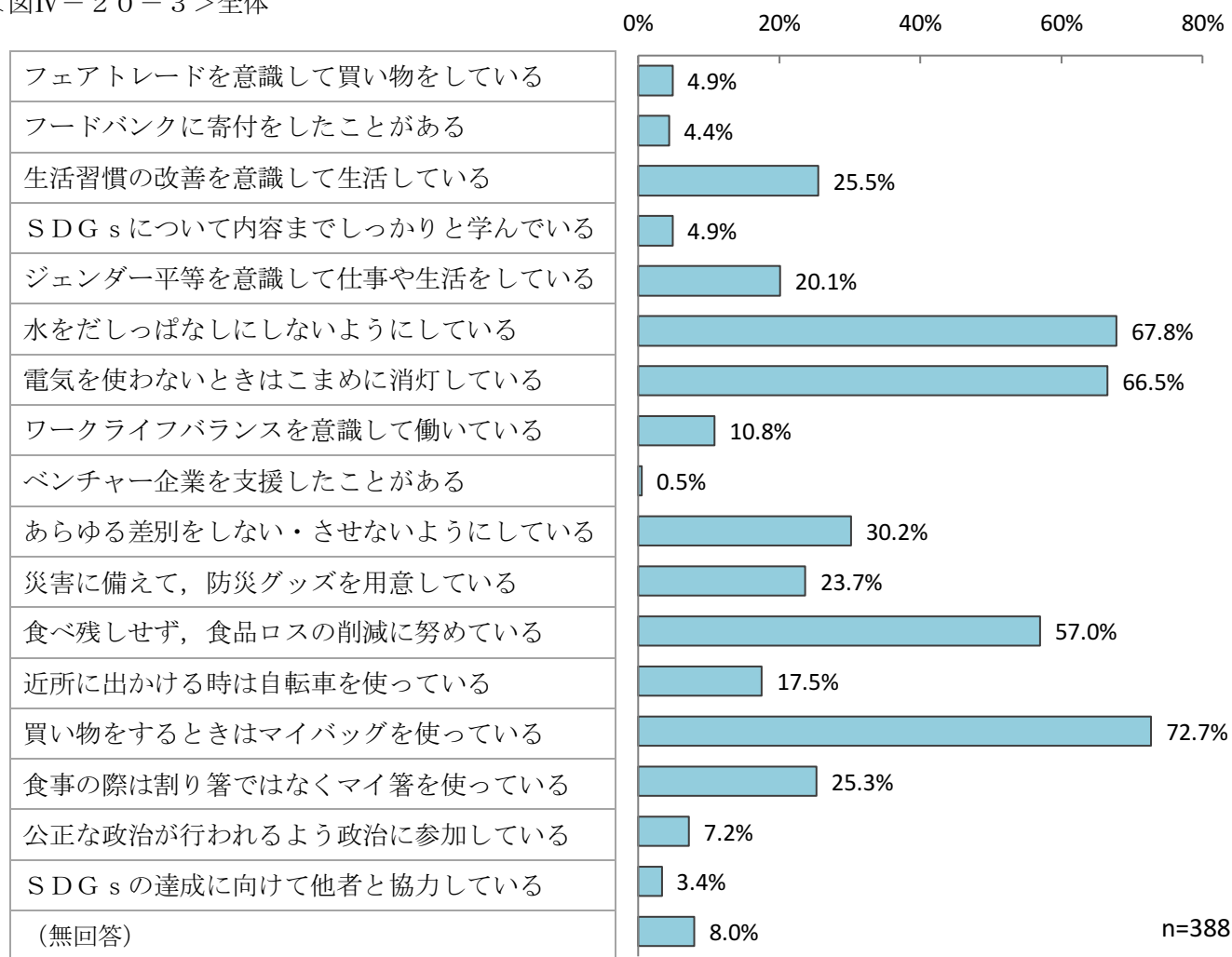
n=388

1	フェアトレード(※1)を意識して買い物をしている	4.9%
2	フードバンクに寄付をしたことがある	4.4%
3	生活習慣の改善を意識して生活している	25.5%
4	SDGsについて内容までしっかりと学んでいる	4.9%
5	ジェンダー平等を意識して仕事や生活をしている	20.1%
6	水をだしっぱなしにしないようにしている	67.8%
7	電気を使わないときはこまめに消灯している	66.5%
8	ワークライフバランスを意識して働いている	10.8%
9	ベンチャー企業(※2)を支援したことがある	0.5%
10	あらゆる差別をしない・させないようにしている	30.2%
11	災害に備えて、防災グッズを用意している	23.7%
12	食べ残しせず、食品ロスの削減に努めている	57.0%
13	近所に出かける時は自転車を使っている	17.5%
14	買い物をするときはマイバッグを使っている	72.7%
15	食事の際は割り箸ではなくマイ箸を使っている	25.3%
16	公正な政治が行われるよう政治に参加している	7.2%
17	SDGsの達成に向けて他者と協力している	3.4%
	(無回答)	8.0%

※1 主に発展途上国から原料や製品を適正な値段で継続的に購入し、生産者の待遇改善と自立を目指すしくみ

※2 革新的な技術をもとに新規事業に取り組むため、設立された企業

<図IV-20-3>全体



SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」が72.7%で最も高く、次いで「水をだしっぱなしにしないようにしている」が67.8%、「電気を使わないときはこまめに消灯している」が66.5%と続いている。(図IV-20-3)

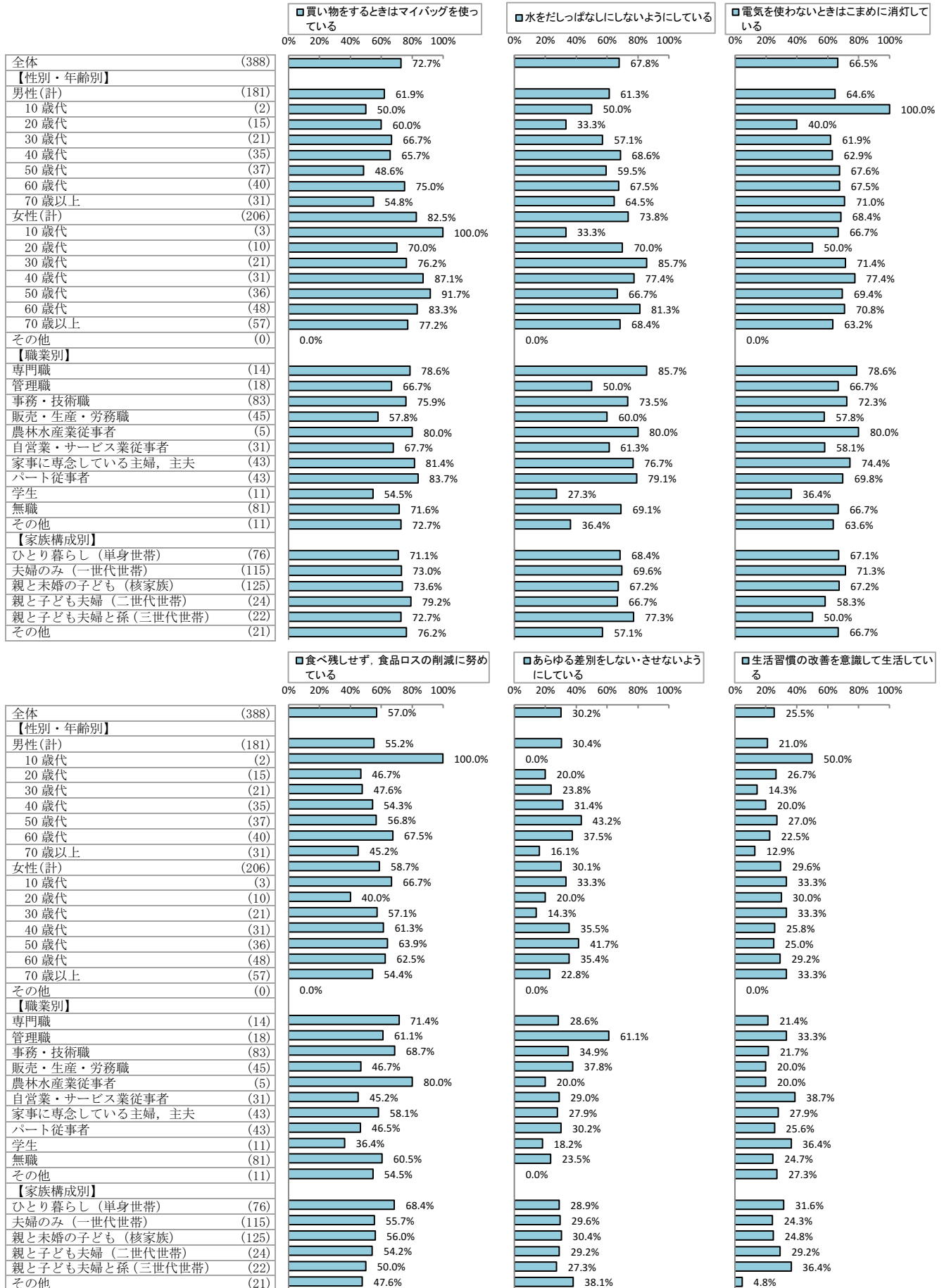
<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が91.7%と続いている。「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<女性/30歳代>が85.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が81.3%と続いている。(図IV-20-4)

職業別で見ると、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<パート従事者>が83.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が81.4%と続いている。「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<専門職>が85.7%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が80.0%と続いている。(図IV-20-4)

家族構成別で見ると、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が79.2%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が73.6%と続いている。「水をだしっぱなしにしないようにしている」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が77.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が69.6%と続いている。(図IV-20-4)

<図IV-20-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別（上位6項目）

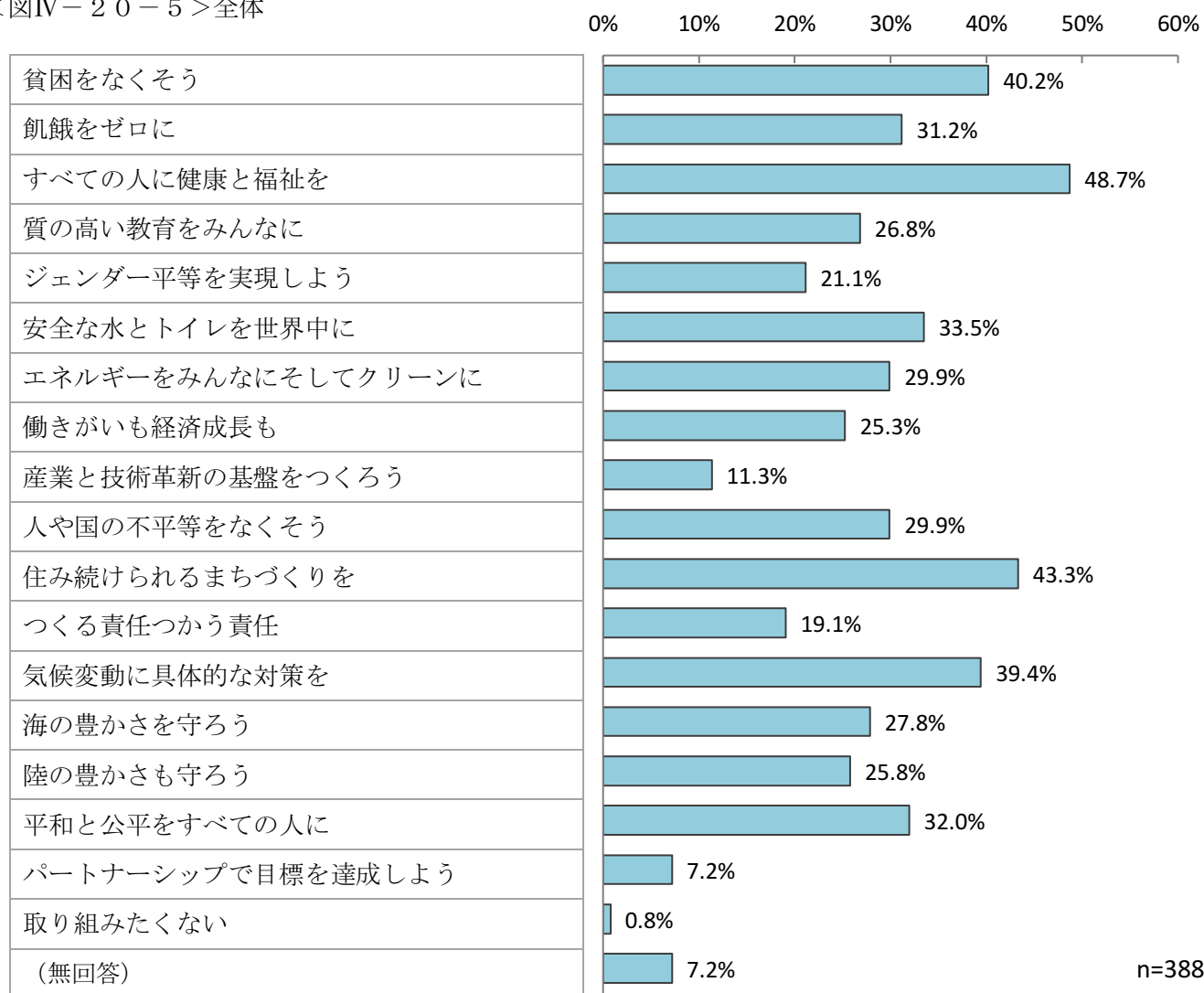


(3) SDGs のゴールの中で興味・関心のある分野

◇ 「すべての人に健康と福祉を」が約5割

問74 SDGs のゴールの中で、興味・関心のある分野をお答えください。		(〇はいくつでも)
		n=388
1	貧困をなくそう	40.2%
2	飢餓をゼロに	31.2%
3	すべての人に健康と福祉を	48.7%
4	質の高い教育をみんなに	26.8%
5	ジェンダー平等を実現しよう	21.1%
6	安全な水とトイレを世界中に	33.5%
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	29.9%
8	働きがいも経済成長も	25.3%
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	11.3%
10	人や国の不平等をなくそう	29.9%
11	住み続けられるまちづくりを	43.3%
12	つくる責任つかう責任	19.1%
13	気候変動に具体的な対策を	39.4%
14	海の豊かさを守ろう	27.8%
15	陸の豊かさも守ろう	25.8%
16	平和と公平をすべての人に	32.0%
17	パートナーシップで目標を達成しよう	7.2%
18	取り組みたくない	0.8%
	(無回答)	7.2%

<図IV-20-5>全体



SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野については、「すべての人に健康と福祉を」が48.7%で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が43.3%と続いている。(図IV-20-5)

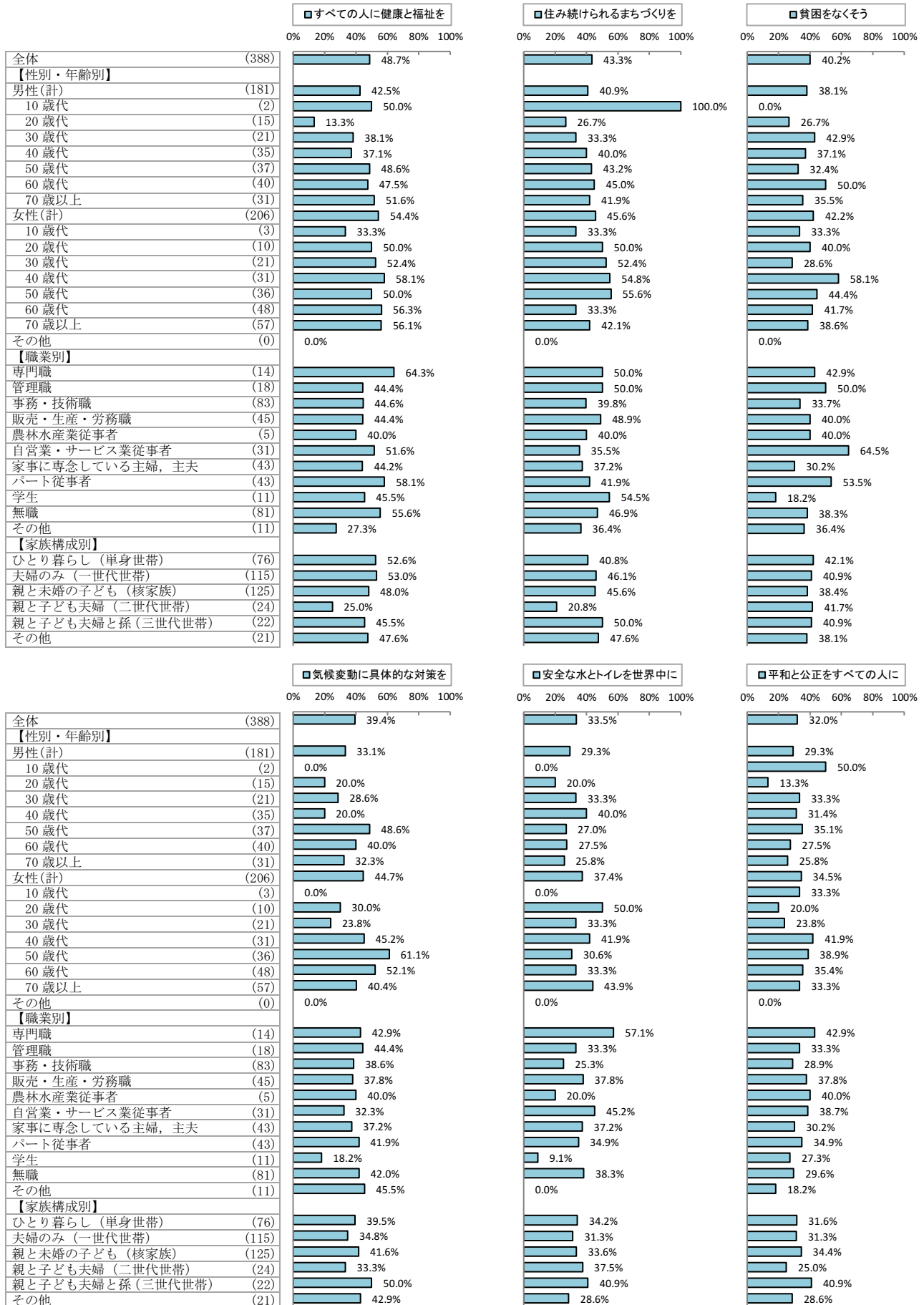
<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「すべての人に健康と福祉を」は<女性/40歳代>が58.1%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が56.3%と続いている。「住み続けられるまちづくりを」は<男性/10歳代>が100.0%、「貧困をなくそう」は<女性/40歳代>が58.1%、「気候変動に具体的な対策を」は<女性/50歳代>が61.1%で最も高かった。(図IV-20-6)

上位6項目について職業別で見ると、「すべての人に健康と福祉を」は<専門職>が64.3%で最も高く、次いで<パート従事者>が58.1%と続いている。「住み続けられるまちづくりを」は<学生>が54.5%、「貧困をなくそう」は<自営業・サービス業従事者>が64.5%、「気候変動に具体的な対策を」は<その他>を除くと<管理職>が44.4%で最も高かった。(図IV-20-6)

家族構成別で見ると、「すべての人に健康と福祉を」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が53.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が52.6%と続いている。「住み続けられるまちづくりを」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が50.0%、「貧困をなくそう」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が42.1%、「気候変動に具体的な対策を」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が50.0%で最も高かった。(図IV-20-6)

<図IV-20-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別（上位6項目）



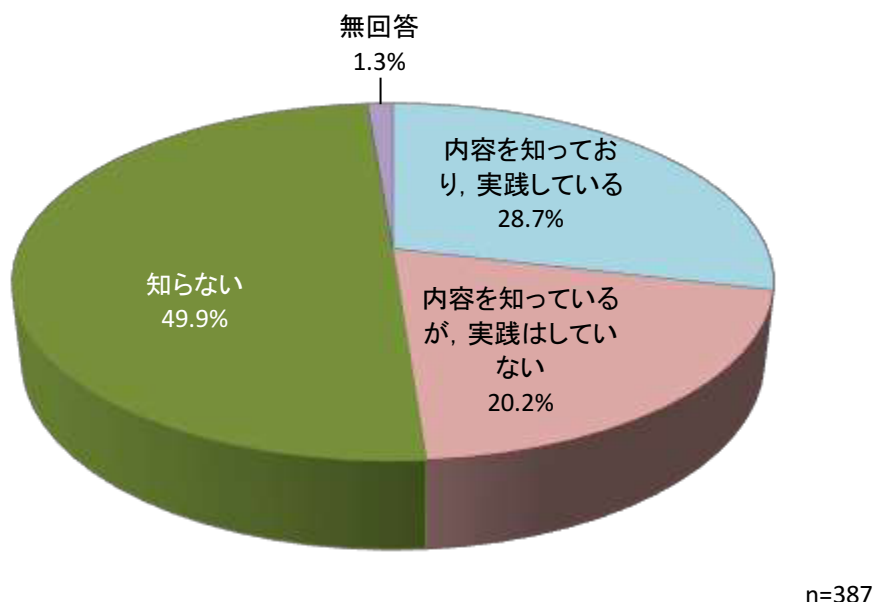
2 1. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

◇ 「知らない」が約5割

問75	宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っていますか。	(○は1つ)
		n=387
1	内容を知っており、実践している	28.7%
2	内容を知っているが、実践はしていない	20.2%
3	知らない	49.9%
	(無回答)	1.3%

<図IV-21-1>全体



「もったいない運動」の認知度については、「知らない」が49.9%で最も高く、次いで「内容を知っており、実践している」が28.7%、「内容を知っているが、実践はしていない」が20.2%であった。(図IV-21-1)

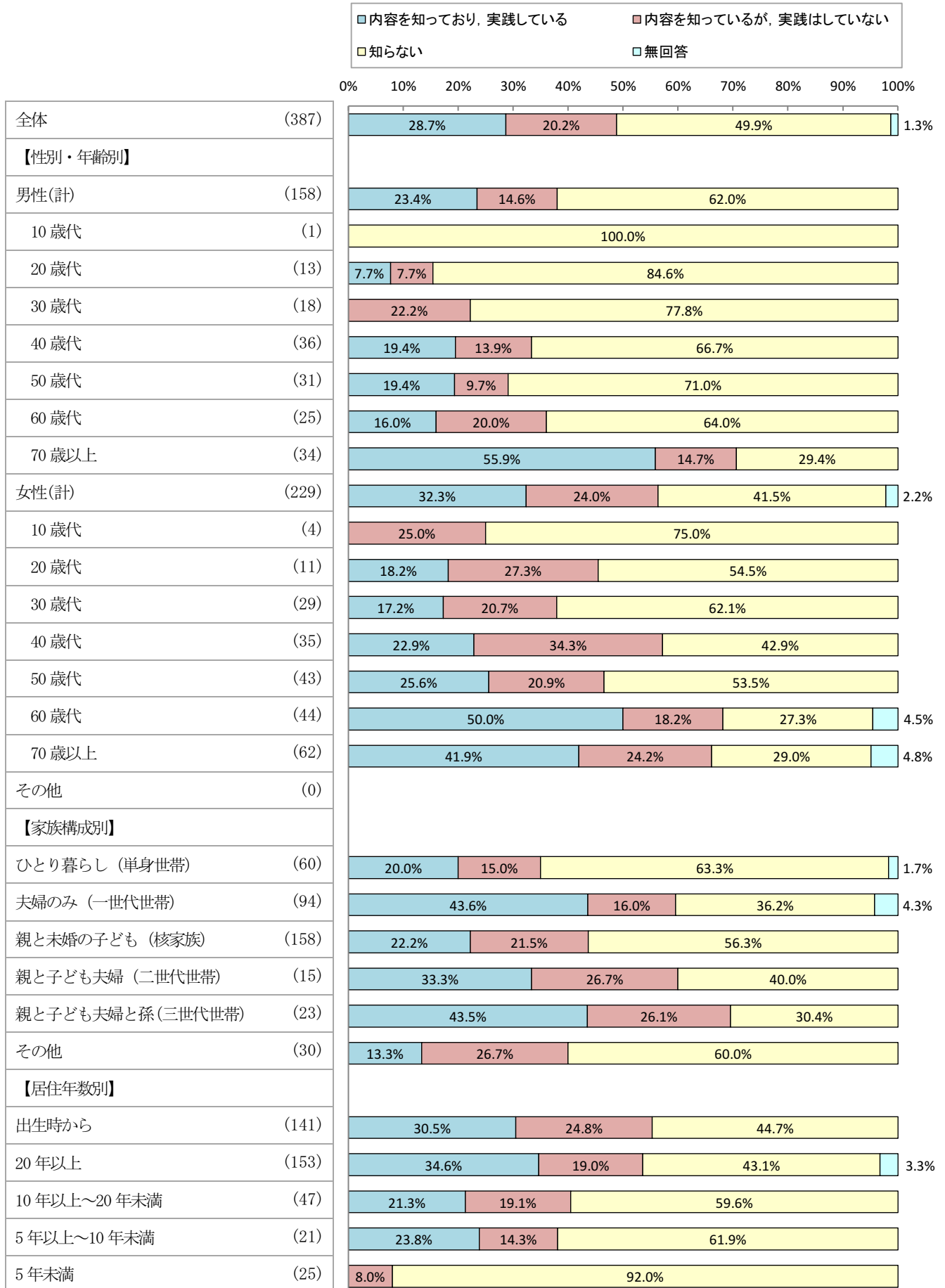
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知らない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が84.6%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<男性/70歳以上>が55.9%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が50.0%と続いている。(図IV-21-2)

家族構成別で見ると、「知らない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が63.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が56.3%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が43.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が43.5%と続いている。(図IV-21-2)

居住年数別で見ると、「知らない」は<5年未満>が92.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が61.9%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<20年以上>が34.6%で最も高く、次いで<出生時から>が30.5%と続いている。(図IV-21-2)

<図IV-2 1-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

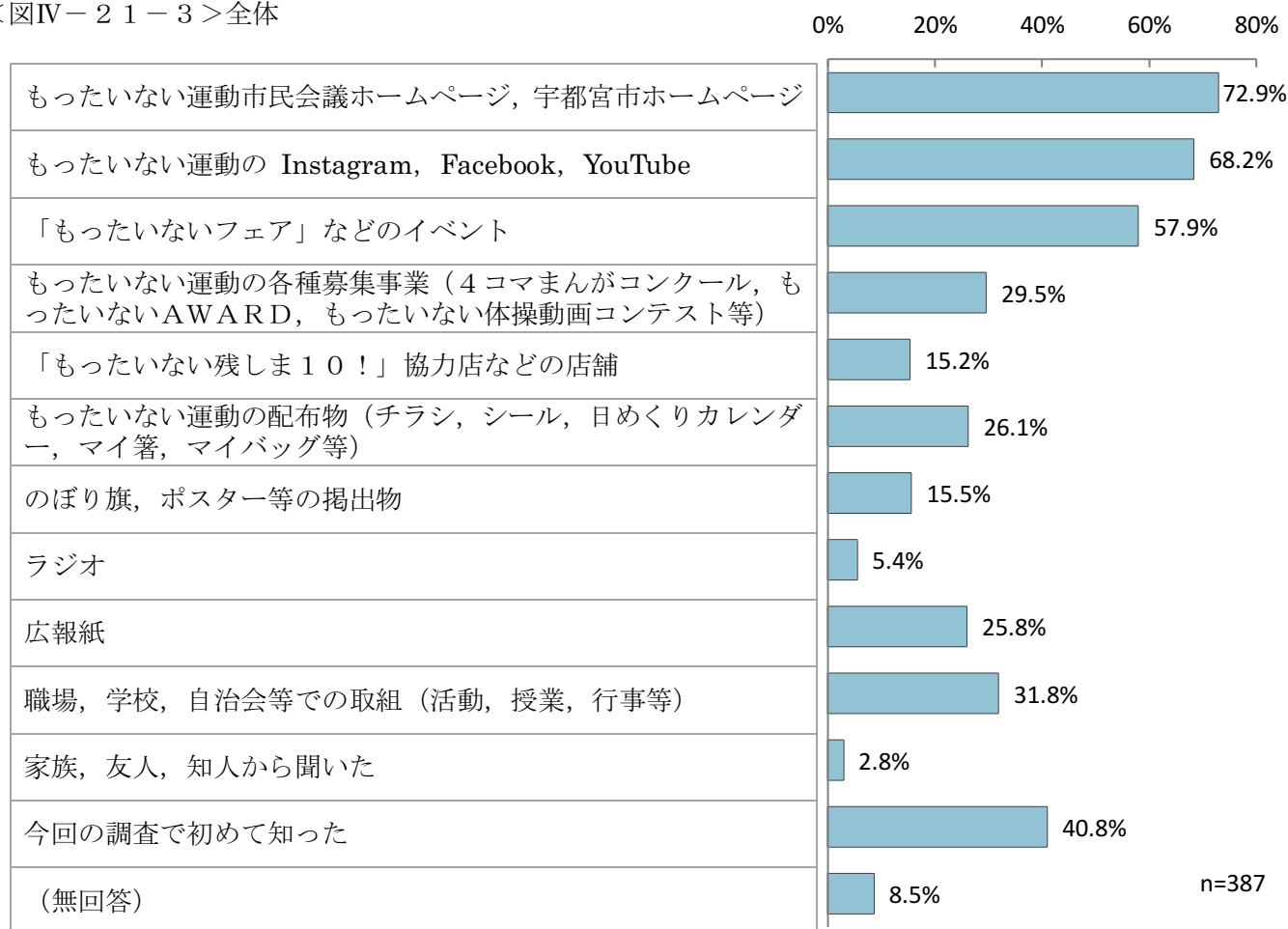


(2) 「もったいない運動」を知った経緯

◇ 「もったいない運動市民会議ホームページ，宇都宮市ホームページ」が7割強

問76	「もったいない運動」について、どのようにして知りましたか。	(〇はいくつでも)
		n=387
1	もったいない運動市民会議ホームページ，宇都宮市ホームページ	72.9%
2	もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube	68.2%
3	「もったいないフェア」などのイベント	57.9%
4	もったいない運動の各種募集事業（4コマまんがコンクール，もったいないA WARD，もったいない体操動画コンテスト等）	29.5%
5	「もったいない残しま10！」協力店などの店舗	15.2%
6	もったいない運動の配布物（チラシ，シール，日めくりカレンダー，マイ箸， マイバッグ等）	26.1%
7	のぼり旗，ポスター等の掲出物	15.5%
8	ラジオ	5.4%
9	広報紙	25.8%
10	職場，学校，自治会等での取組（活動，授業，行事等）	31.8%
11	家族，友人，知人から聞いた	2.8%
12	今回の調査で初めて知った	40.8%
	（無回答）	8.5%

<図IV-21-3>全体



「もったいない運動」を知った経緯については、「もったいない運動市民会議ホームページ, 宇都宮市ホームページ」が72.9%で最も高く、次いで「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」が68.2%と続いている。(図IV-21-3)

<参考>

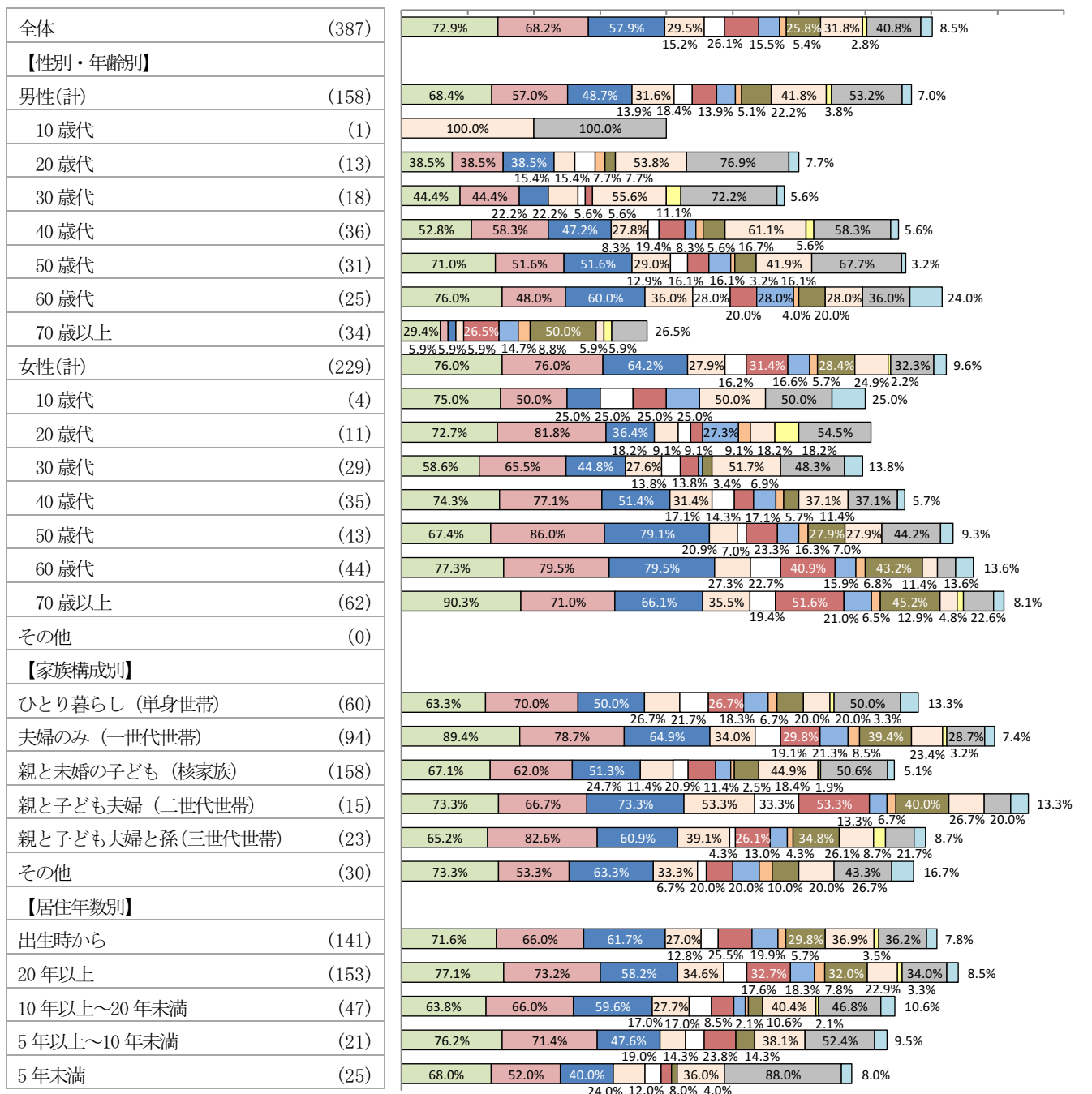
性別・年齢別で見ると、「もったいない運動市民会議ホームページ, 宇都宮市ホームページ」は<女性/70歳以上>が90.3%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が77.3%と続いている。「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」は<女性/50歳代>が86.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が81.8%と続いている。(図IV-21-4)

家族構成別で見ると、「もったいない運動市民会議ホームページ, 宇都宮市ホームページ」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が89.4%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が73.3%と続いている。「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が82.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が78.7%と続いている。(図IV-21-4)

居住年数別で見ると、「もったいない運動市民会議ホームページ, 宇都宮市ホームページ」は<20年以上>が77.1%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が76.2%と続いている。「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」は<20年以上>が73.2%で最も高く、<5年以上~10年未満>が71.4%と続いている。(図IV-21-4)

<図IV-21-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

- もっていない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ
- もっていない運動の Instagram, Facebook, YouTube
- 「もっていないフェア」などのイベント
- もっていない運動の各種募集事業(4コマまんがコンクール, もっていないAWARD, もっていない体操動画コンテスト等)
- 「もっていない残しま10!」協力店などの店舗
- もっていない運動の配布物(チラシ, シール, 日めくりカレンダー, マイ箸, マイバッグ等)
- のぼり旗, ポスター等の掲出物
- ラジオ
- 広報紙
- 職場, 学校, 自治会等での取組(活動, 授業, 行事等)
- 家族, 友人, 知人から聞いた
- 今回の調査で初めて知った
- 無回答

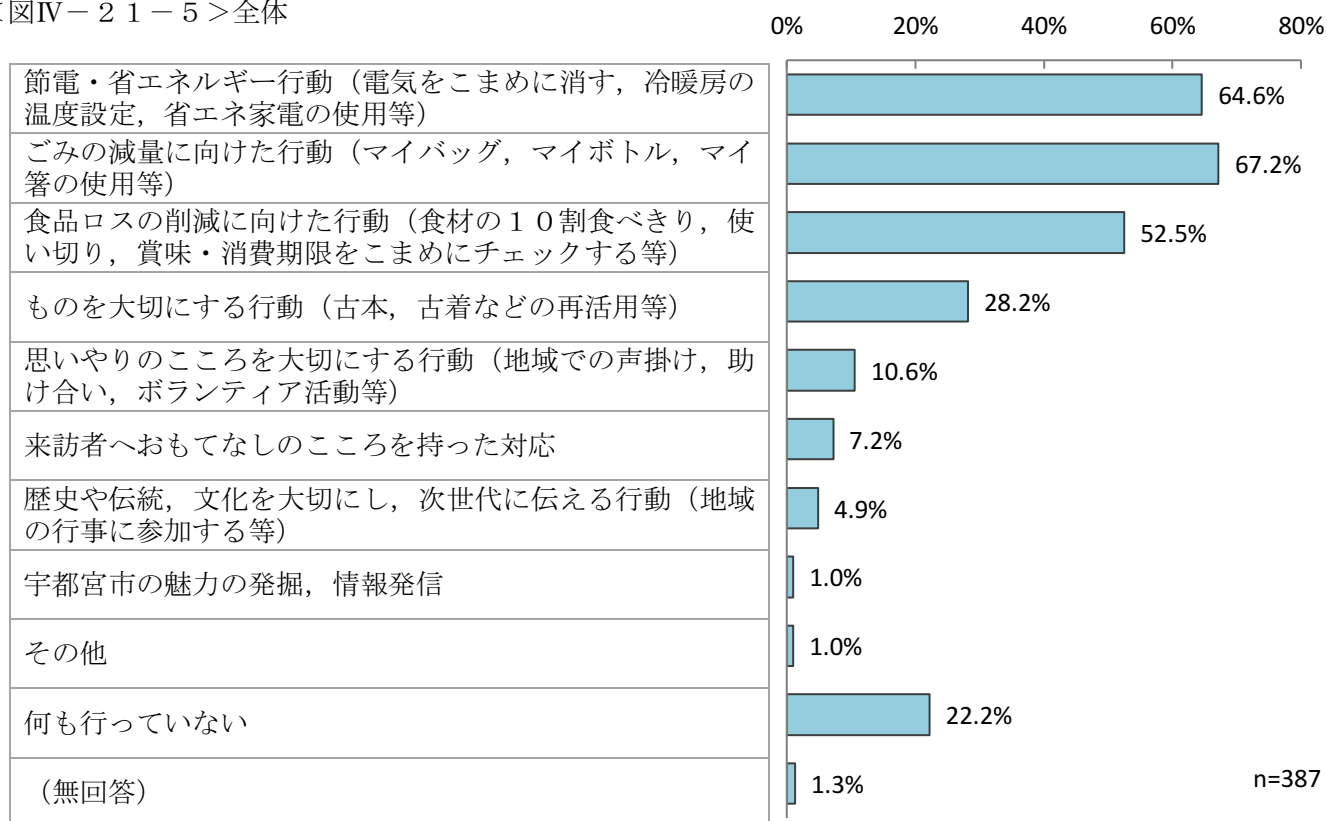


(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

◇ 「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」が7割弱

問77 あなたが日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」はどのようなことですか。		(〇はいくつでも)	n=387
1	節電・省エネルギー行動 (電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)		64.6%
2	ごみの減量に向けた行動 (マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)		67.2%
3	食品ロスの削減に向けた行動 (食材の10割食べきり, 使い切り, 賞味・消費 期限をこまめにチェックする等)		52.5%
4	ものを大切にしている行動 (古本, 古着などの再活用等)		28.2%
5	思いやりのところを大切にしている行動 (地域での声掛け, 助け合い, ボランティア活動等)		10.6%
6	来訪者へおもてなしのところを持った対応		7.2%
7	歴史や伝統, 文化を大切に, 次世代に伝える行動 (地域の行事に参加する等)		4.9%
8	宇都宮市の魅力の発掘, 情報発信		1.0%
9	その他		1.0%
10	何も行ってない		22.2%
	(無回答)		1.3%

<図IV-21-5>全体



日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」が67.2%で最も高く，次いで「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」が64.6%と続いている。（図IV-21-5）

<参考>

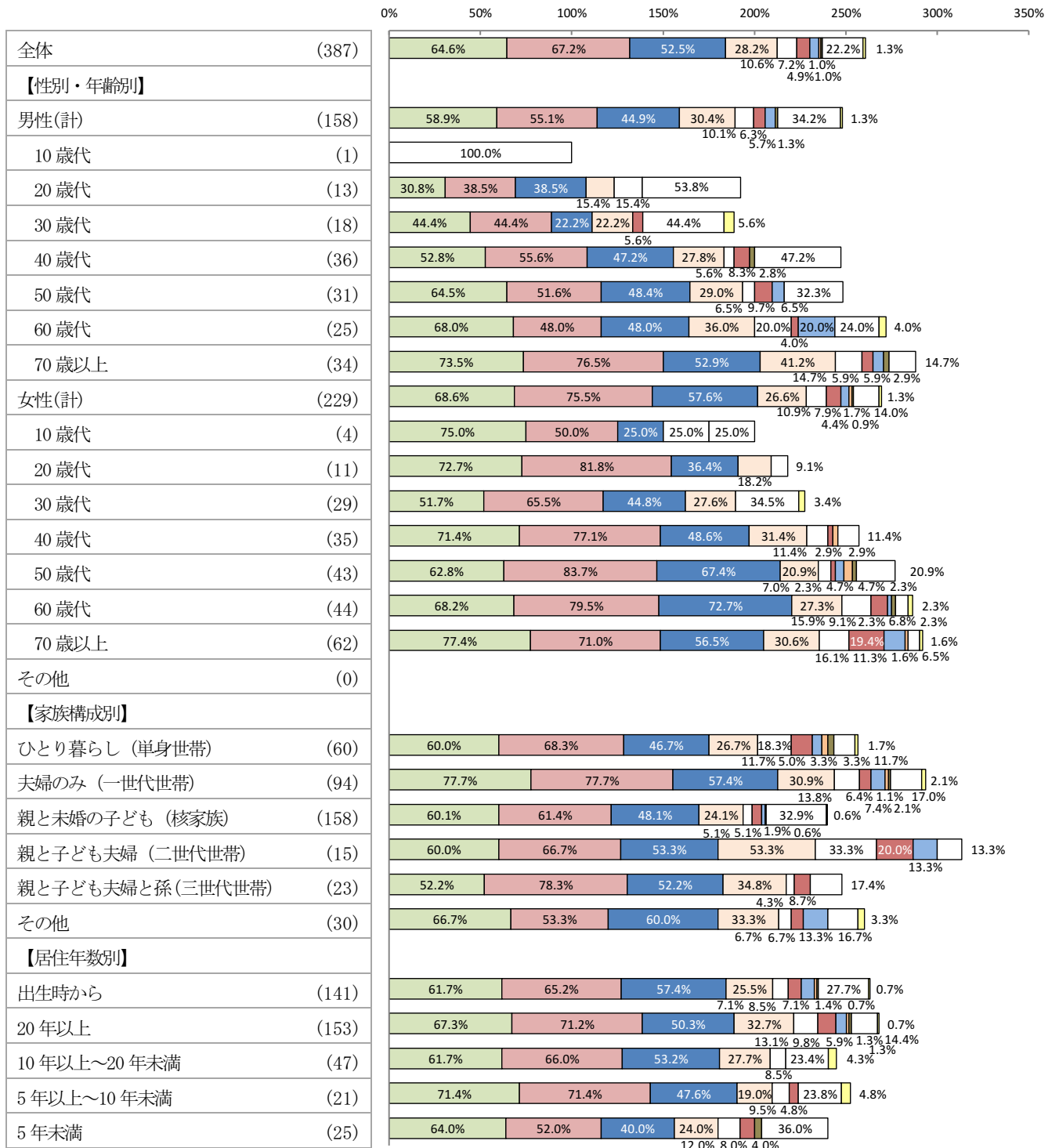
性別・年齢別で見ると，「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<女性/50歳代>が83.7%で最も高く，次いで<女性/20歳代>が81.8%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<女性/70歳以上>が77.4%で最も高く，次いで<女性/10歳代>が75.0%と続いている。（図IV-21-6）

家族構成別で見ると，「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が78.3%で最も高く，次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が77.7%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が77.7%で最も高く，次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が60.1%と続いている。（図IV-21-6）

居住年数別で見ると，「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<5年以上～10年未満>が71.4%で最も高く，次いで<20年以上>が71.2%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<5年以上～10年未満>が71.4%で最も高く，次いで<20年以上>が67.3%と続いている。（図IV-21-6）

<図IV-21-6>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

- 節電・省エネルギー行動(電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)
- ごみの減量に向けた行動(マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)
- 食品ロスの削減に向けた行動(食材の10割食べきり, 使い切り, 賞味・消費期限をこまめにチェックする等)
- ものを大切にする行動(古本, 古着などの再活用等)
- 思いやりのこころを大切にする行動(地域での声掛け, 助け合い, ボランティア活動等)
- 来訪者へおもてなしのこころを持った対応
- 歴史や伝統, 文化を大切にし, 次世代に伝える行動(地域の行事に参加する等)
- 宇都宮市の魅力の発掘, 情報発信
- その他
- 何も行ってない
- 無回答



22. 男女共同参画について

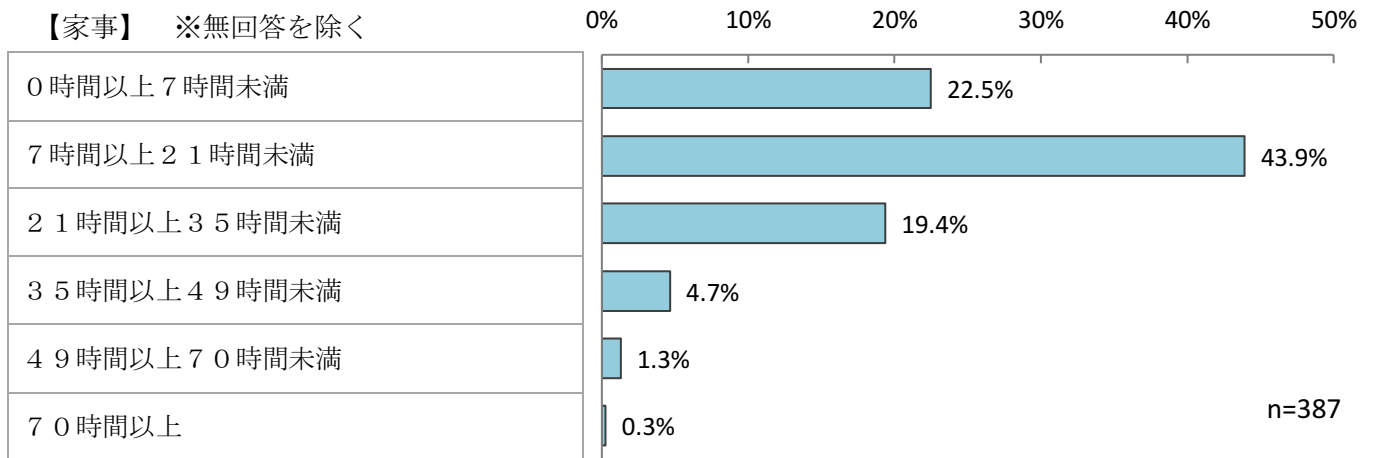
(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

※月曜日から土曜日は1日3時間程度（3時間×6日＝18時間）、日曜日は1日2時間程度（2時間×1日＝2時間）を費やしている場合、回答は「20時間」となります。また、育児、介護について、対象者がいない場合は、「対象者なし」に○を付けてください。

◇ 「7時間以上21時間未満」が4割半ば

問78	1週間の生活の中で、家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。	
	【家事】	n=387
1	0時間以上7時間未満	22.5%
2	7時間以上21時間未満	43.9%
3	21時間以上35時間未満	19.4%
4	35時間以上49時間未満	4.7%
5	49時間以上70時間未満	1.3%
6	70時間以上	0.3%
	(無回答)	8.0%

<図IV-22-1>全体



家事に費やした時間については、「7時間以上21時間未満」が43.9%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が22.5%、「21時間以上35時間未満」が19.4%と続いている。（図IV-22-1）

<参考>

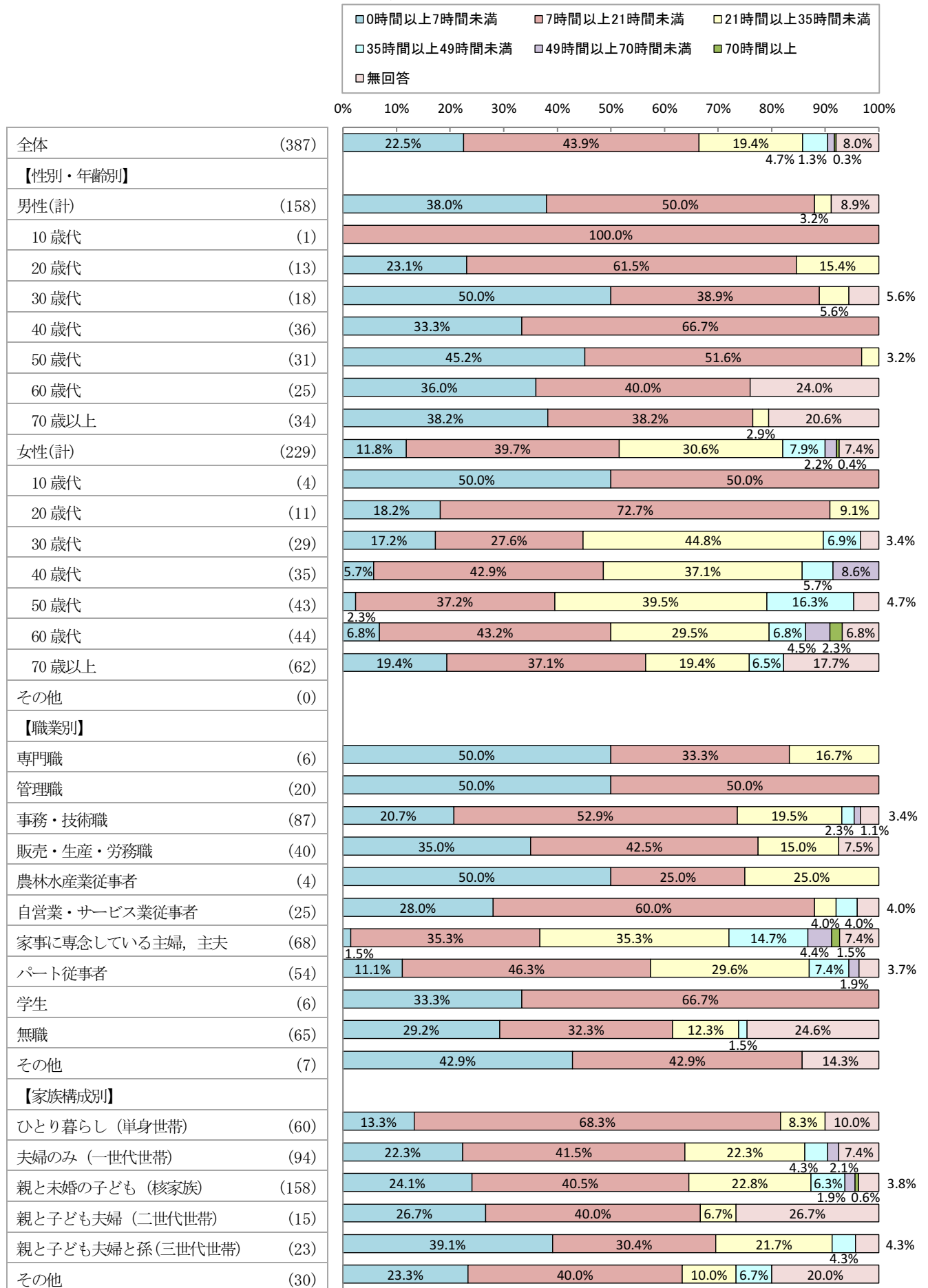
性別・年齢別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が72.7%であった。「0時間以上7時間未満」は<男性/30歳代>と<女性/10歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が45.2%であった。「21時間以上35時間未満」は<女性/30歳代>が44.8%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が39.5%であった。（図IV-22-2）

職業別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が60.0%であった。「0時間以上7時間未満」は<専門職>と<管理職>と<農林水産業従事者>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<販売・生産・労務職>が35.0%であった。

「21時間以上35時間未満」は<家事に専念している主婦、主夫>が35.3%で最も高く、次いで<パート従事者>が29.6%であった。（図IV-22-2）

家族構成別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が68.3%で最も高かった。「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が39.1%で最も高かった。「21時間以上35時間未満」は<親と未婚の子ども（核家族）>が22.8%で最も高かった。（図IV-22-2）

<図IV-22-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

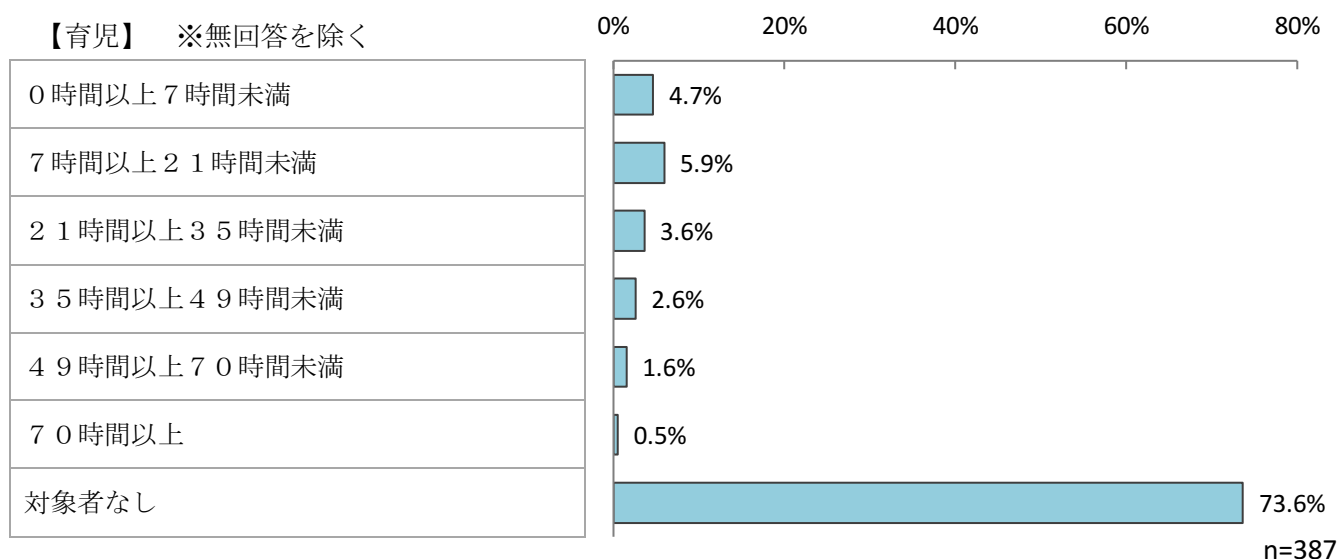


【育児】

		n=387
1	0時間以上7時間未満	4.7%
2	7時間以上21時間未満	5.9%
3	21時間以上35時間未満	3.6%
4	35時間以上49時間未満	2.6%
5	49時間以上70時間未満	1.6%
6	70時間以上	0.5%
7	対象者なし	73.6%
	(無回答)	7.5%

<図IV-22-3>全体

【育児】 ※無回答を除く



育児に費やした時間については、「対象者なし」が73.6%で最も高く、次いで「7時間以上21時間未満」が5.9%、「0時間以上7時間未満」が4.7%と続いている。(図IV-22-3)

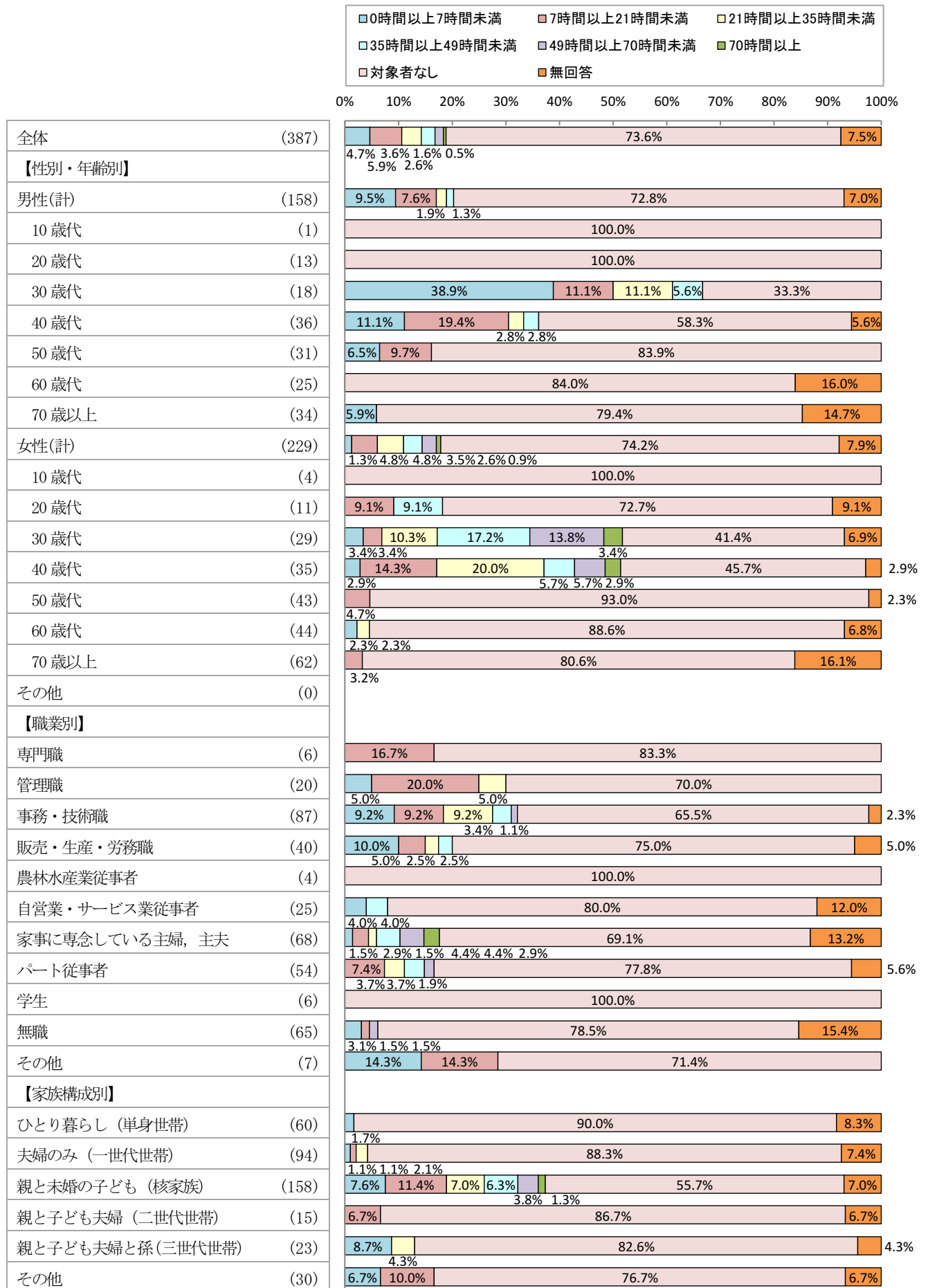
<参考>

性別・年齢別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<男性/40歳代>が19.4%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が14.3%であった。(図IV-22-4)

職業別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<管理職>が20.0%で最も高く、次いで<専門職>が16.7%であった。(図IV-22-4)

家族構成別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<親と未婚の子ども(核家族)>が11.4%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が6.7%であった。(図IV-22-4)

<図IV-22-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

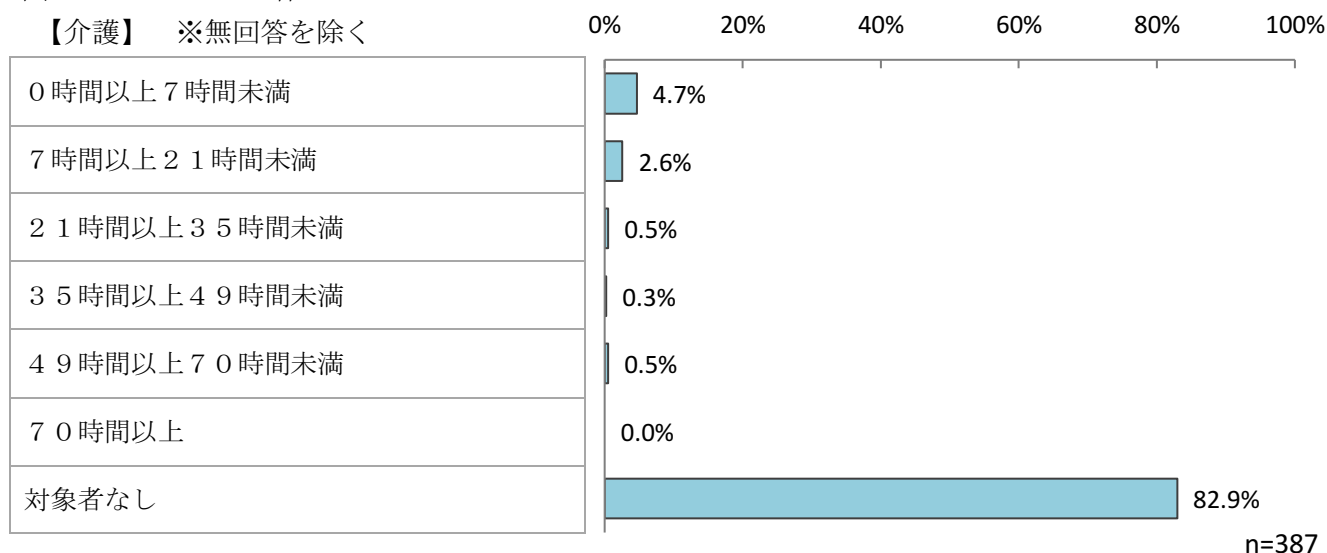


【介護】

		n=387
1	0時間以上7時間未満	4.7%
2	7時間以上21時間未満	2.6%
3	21時間以上35時間未満	0.5%
4	35時間以上49時間未満	0.3%
5	49時間以上70時間未満	0.5%
6	70時間以上	0.0%
7	対象者なし	82.9%
	(無回答)	8.5%

<図IV-22-5>全体

【介護】 ※無回答を除く



介護に費やした時間については、「対象者なし」が82.9%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が4.7%、「7時間以上21時間未満」が2.6%と続いている。(図IV-22-5)

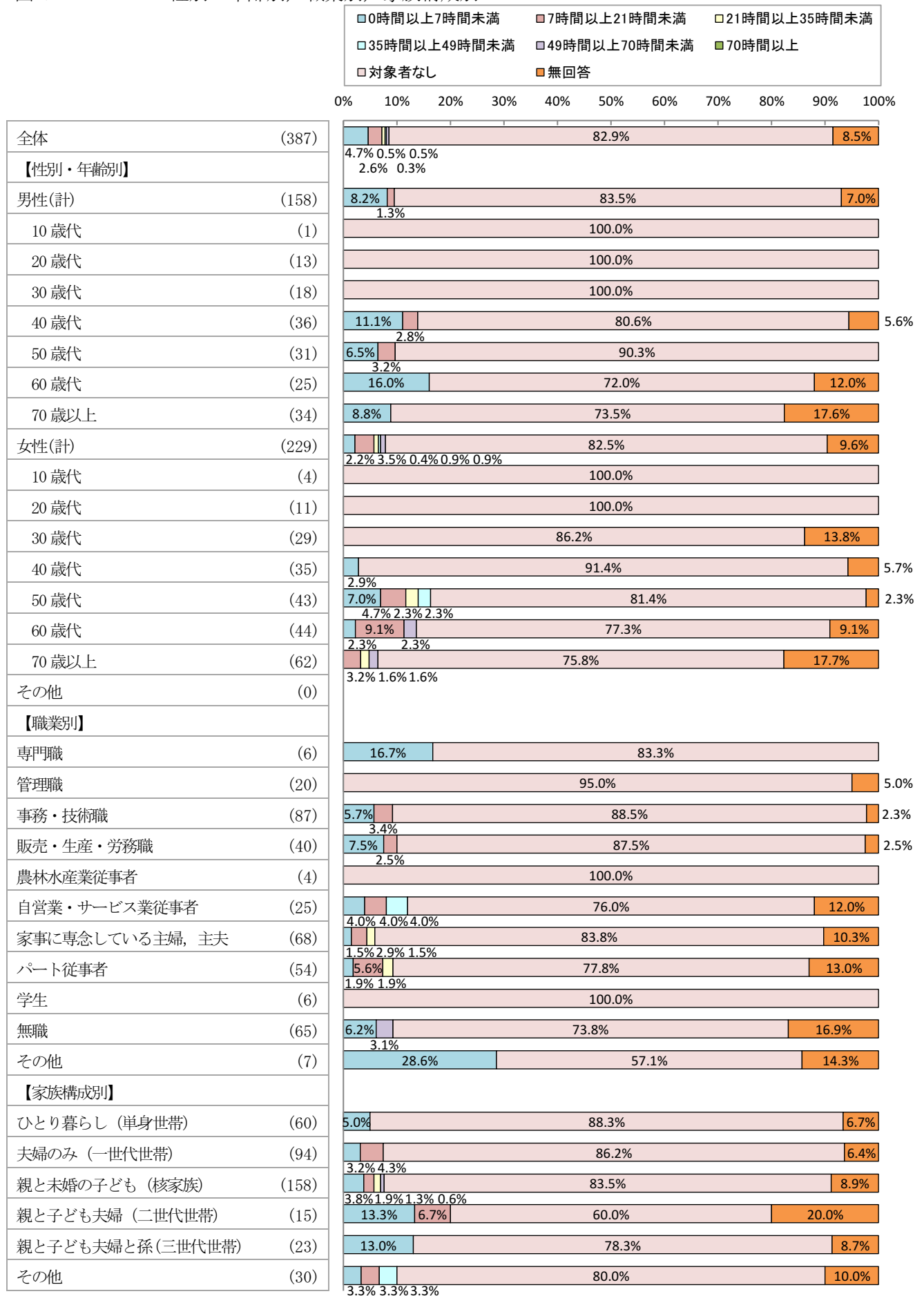
<参考>

性別・年齢別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<男性/60歳代>が16.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が11.1%と続いている。(図IV-22-6)

職業別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<その他>を除くと<専門職>が16.7%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が7.5%であった。(図IV-22-6)

家族構成別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が13.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が13.0%であった。(図IV-22-6)

<図IV-22-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

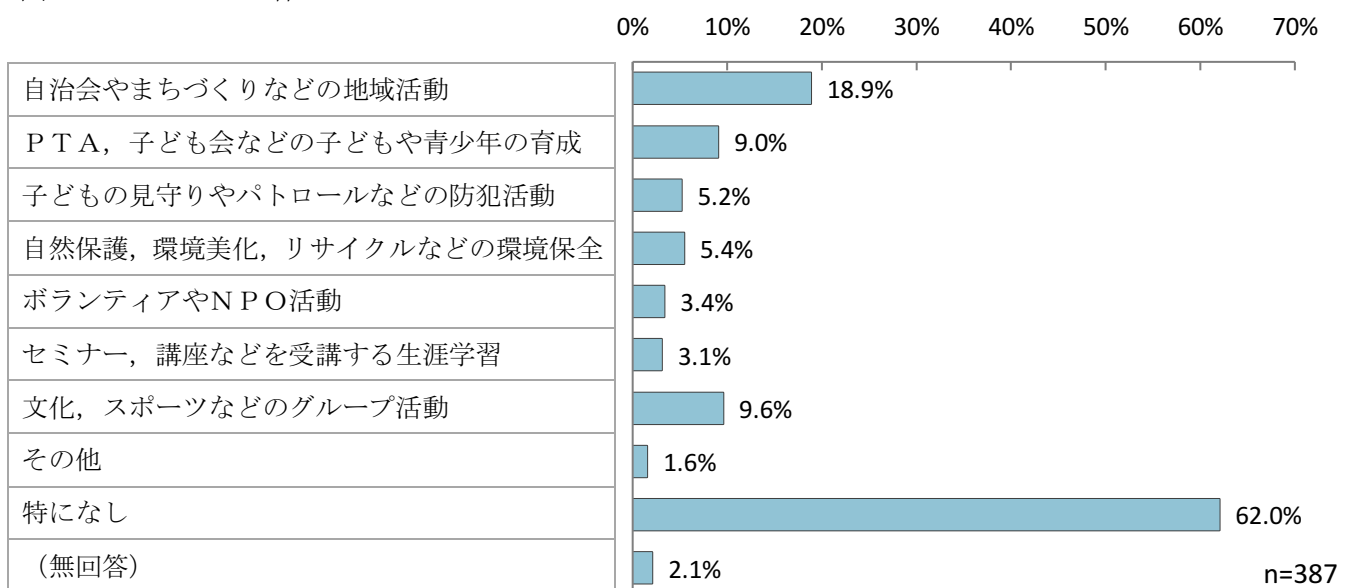


(2) 社会的な活動の実施状況

◇ 「特になし」が6割強

問79	現在、地域などでどのような社会的な活動を行っていますか。	(○はいくつでも)	n=387
1	自治会やまちづくりなどの地域活動		18.9%
2	P T A, 子ども会などの子どもや青少年の育成		9.0%
3	子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動		5.2%
4	自然保護, 環境美化, リサイクルなどの環境保全		5.4%
5	ボランティアやN P O活動		3.4%
6	セミナー, 講座などを受講する生涯学習		3.1%
7	文化, スポーツなどのグループ活動		9.6%
8	その他		1.6%
9	特になし		62.0%
	(無回答)		2.1%

<図IV-22-7>全体



社会的な活動の実施状況については、「特になし」が62.0%で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が18.9%、「文化, スポーツなどのグループ活動」が9.6%と続いている。(図IV-22-7)

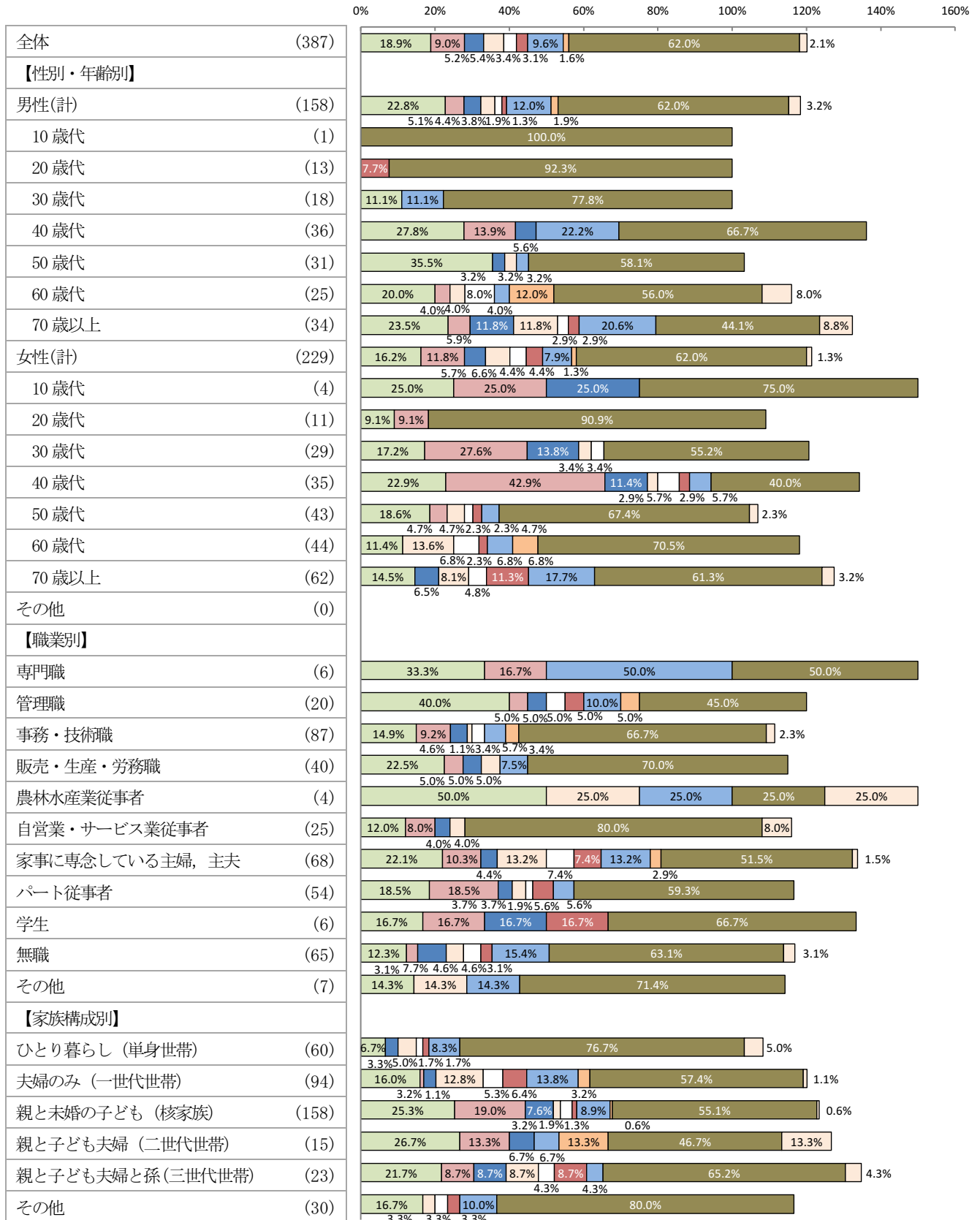
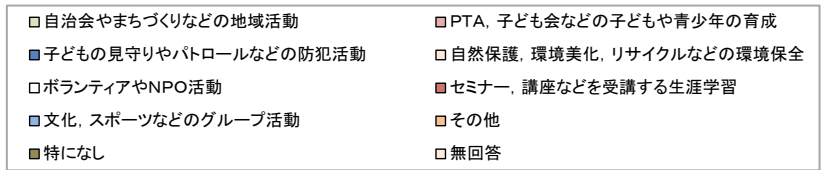
<参考>

性別・年齢別で見ると、「特になし」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が92.3%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<男性/50歳代>が35.5%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が27.8%であった。(図IV-22-8)

職業別で見ると、「特になし」は<自営業・サービス業従事者>が80.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<販売・生産・労務職>が70.0%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<管理職>が40.0%であった。(図IV-22-8)

家族構成別で見ると、「特になし」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が76.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が65.2%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が26.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が25.3%であった。(図IV-22-8)

<図IV-22-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



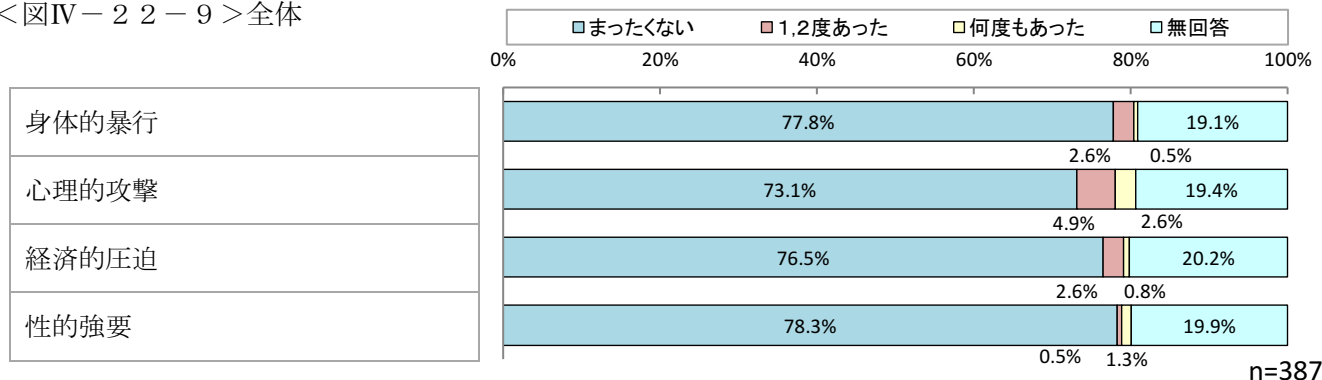
(3) 配偶者から暴力を受けた経験

◇ 「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が1割弱

問80 過去1年間に配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。
 (それぞれ項目ごとに○は1つ)
 n=387

	項目	まったく ない	1, 2度 あった	何度も あった	無回答
1	身体的暴行 (例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	77.8%	2.6%	0.5%	19.1%
2	心理的攻撃 (例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	73.1%	4.9%	2.6%	19.4%
3	経済的圧迫 (例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)	76.5%	2.6%	0.8%	20.2%
4	性的強要 (例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	78.3%	0.5%	1.3%	19.9%

<図IV-22-9>全体



配偶者から暴力を受けた経験については、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「心理的攻撃」が7.5%で最も高く、次いで「経済的圧迫」が3.4%、「身体的暴行」が3.1%、「性的強要」が1.8%であった。(図IV-22-9)

<参考>

さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別で見ると【経験あり(計)】が最も高かったのは、「身体的暴行」は<男性/30歳代>が11.1%、「心理的攻撃」は<女性/20歳代>が18.2%、「経済的圧迫」は<女性/20歳代>が9.1%、「性的強要」は<女性/20歳代>が9.1%であった。(図IV-22-10~図IV-22-13)

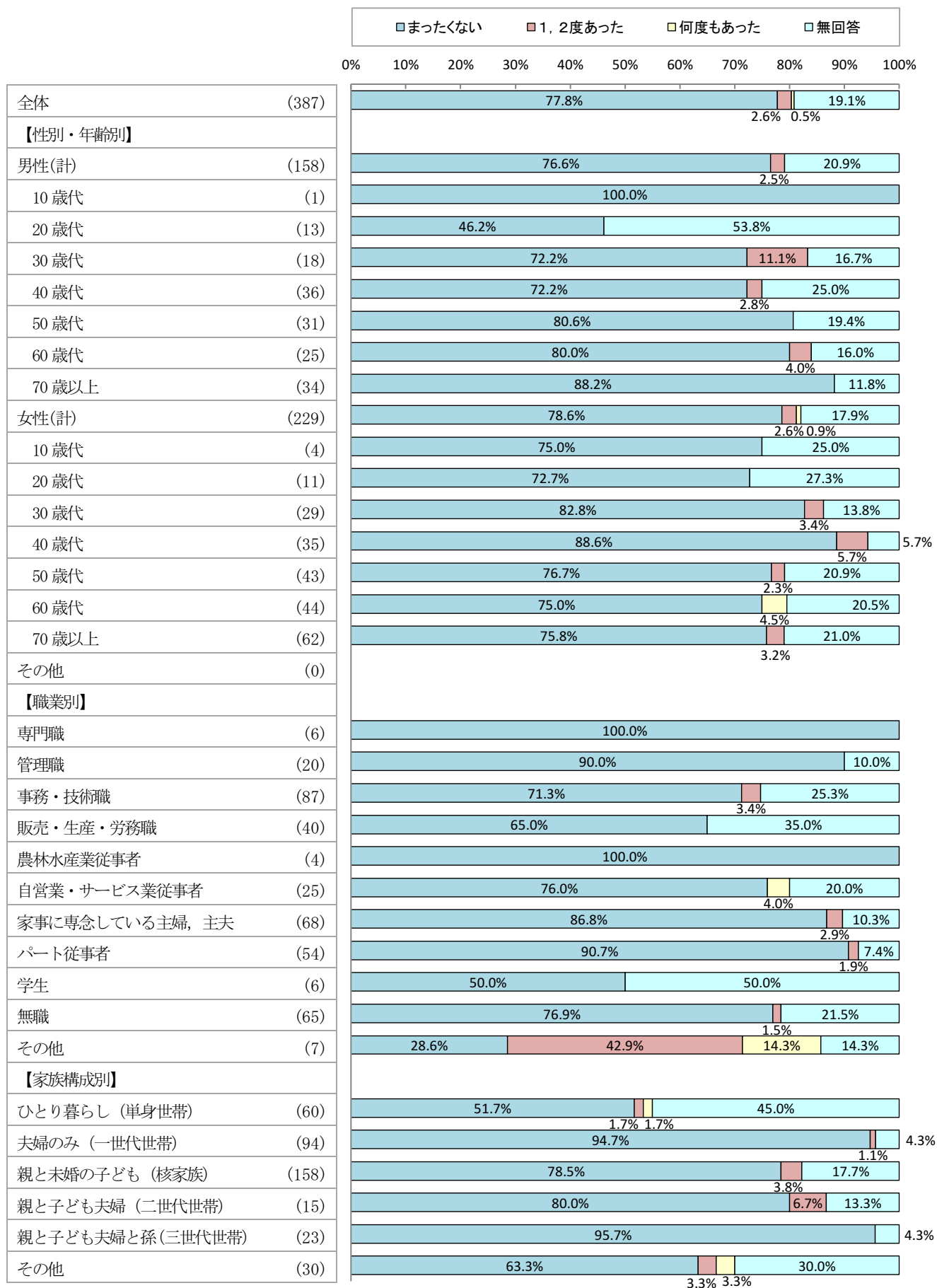
暴力を受けたことがある(総合)について性別で見ると、【経験あり(計)】は<男性>が2.4%、<女性>が5.0%で<女性>が高かった。性別・年齢別で見ると、【経験あり(計)】は<女性/20歳代>が9.0%で最も高かった。(図IV-22-14 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について職業別で見ると、【経験あり(計)】は<その他>を除くと<パート従事者>が5.1%で最も高かった。(図IV-22-14 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について家族構成別で見ると、【経験あり(計)】は<親と未婚の子ども(核家族)>が4.9%で最も高かった。(図IV-22-14 総合)

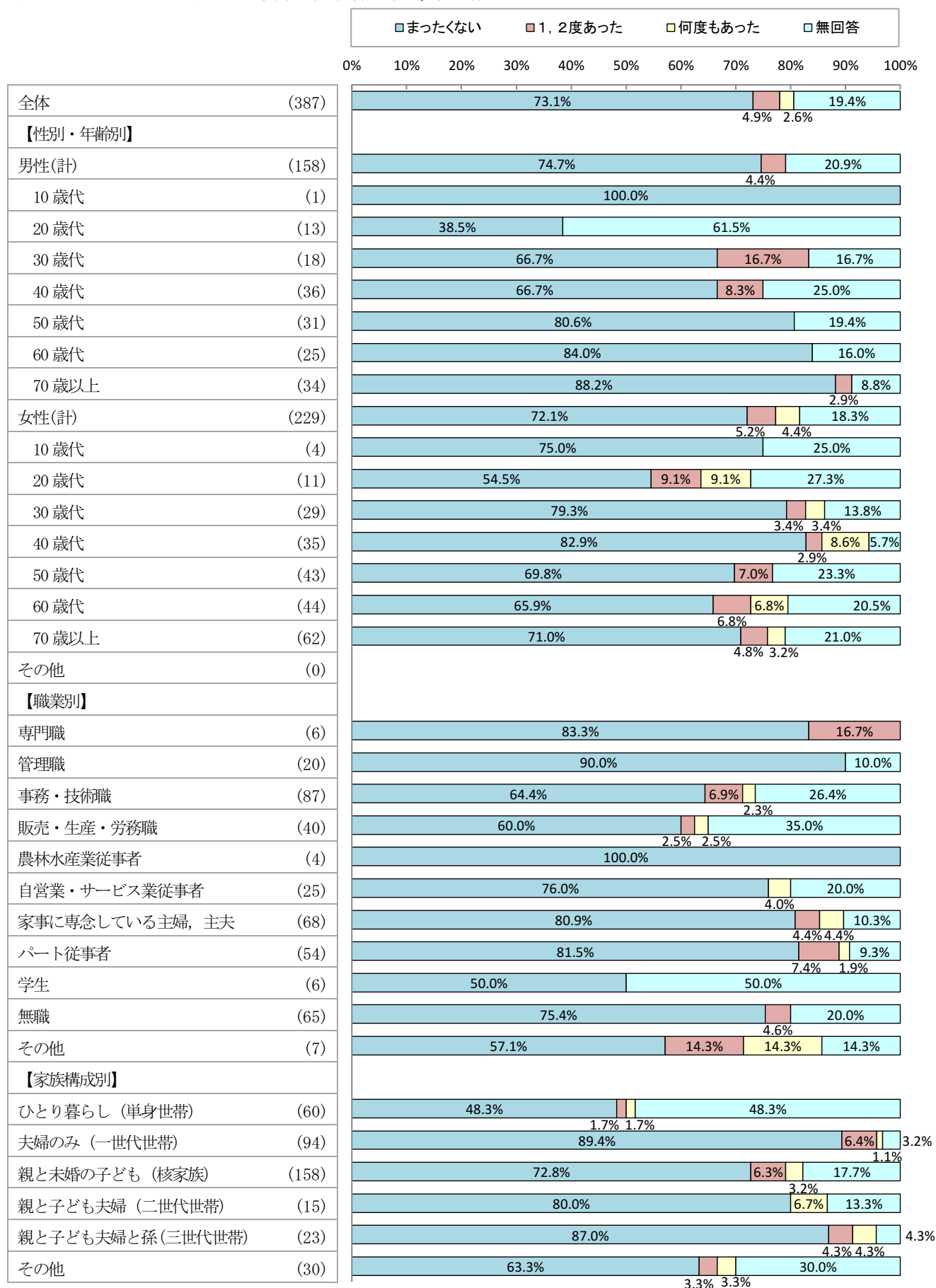
①身体的暴行

<図IV-22-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別



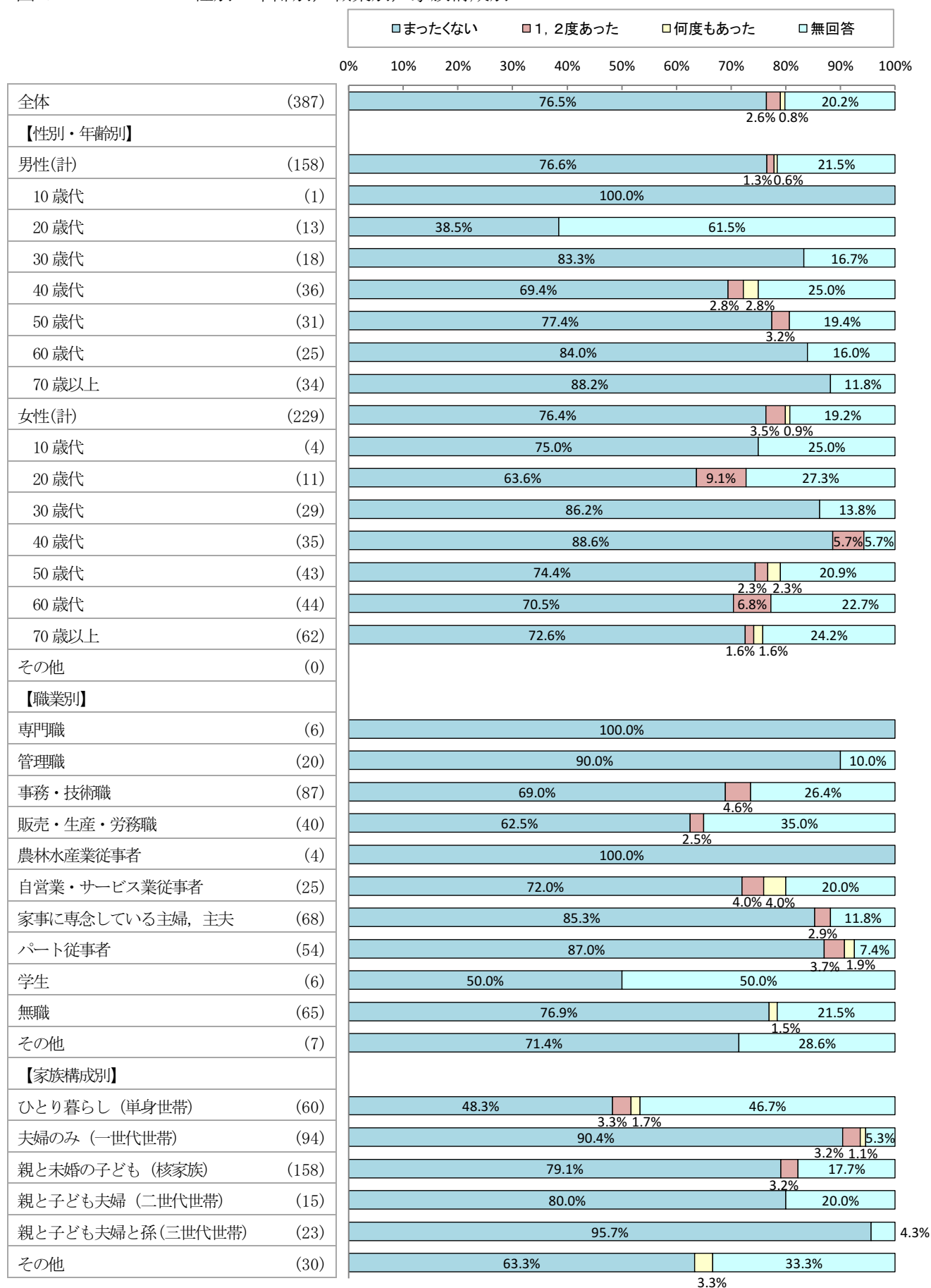
②心理的攻撃

<図IV-22-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別



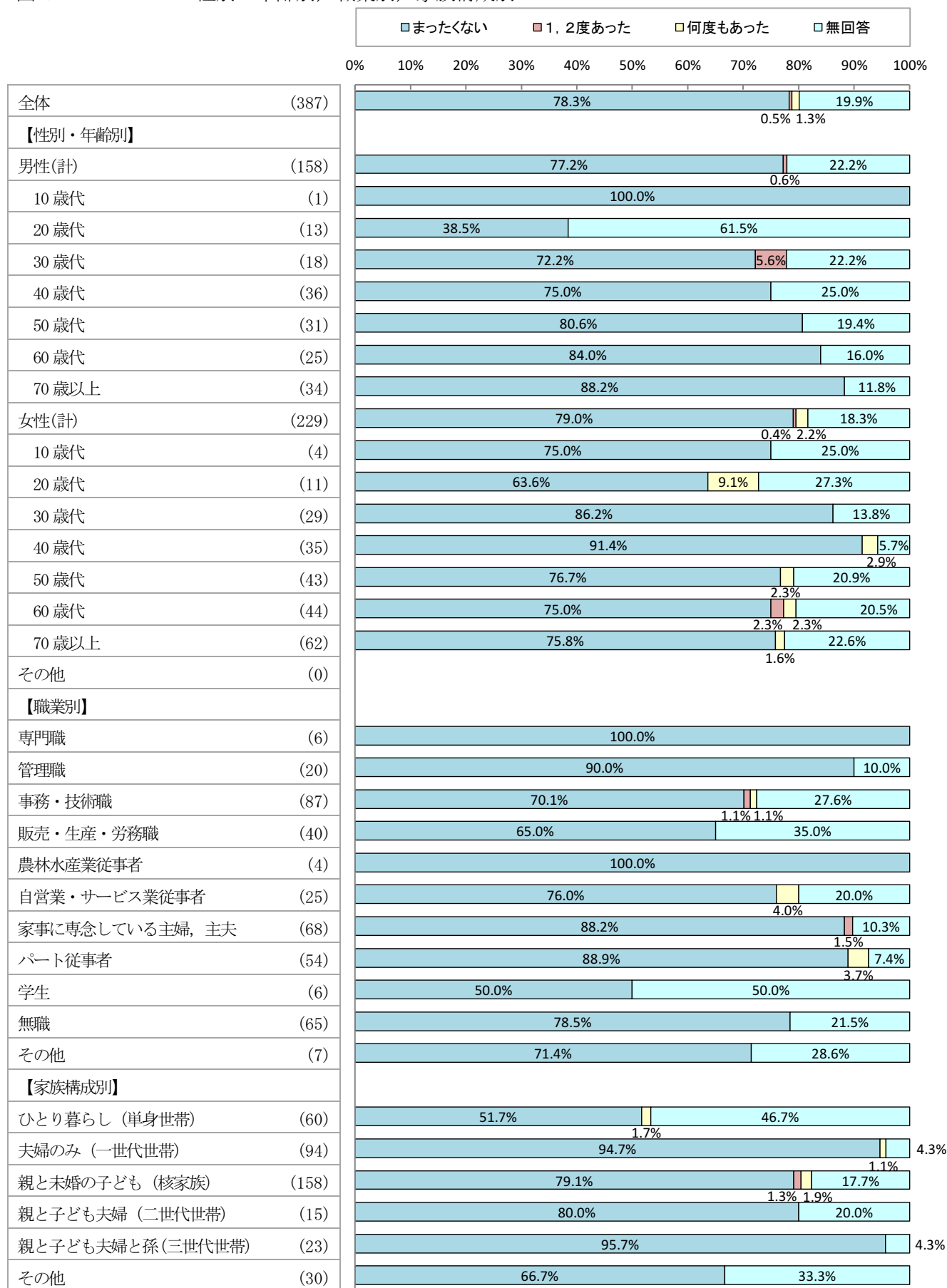
③経済的圧迫

<図IV-22-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別



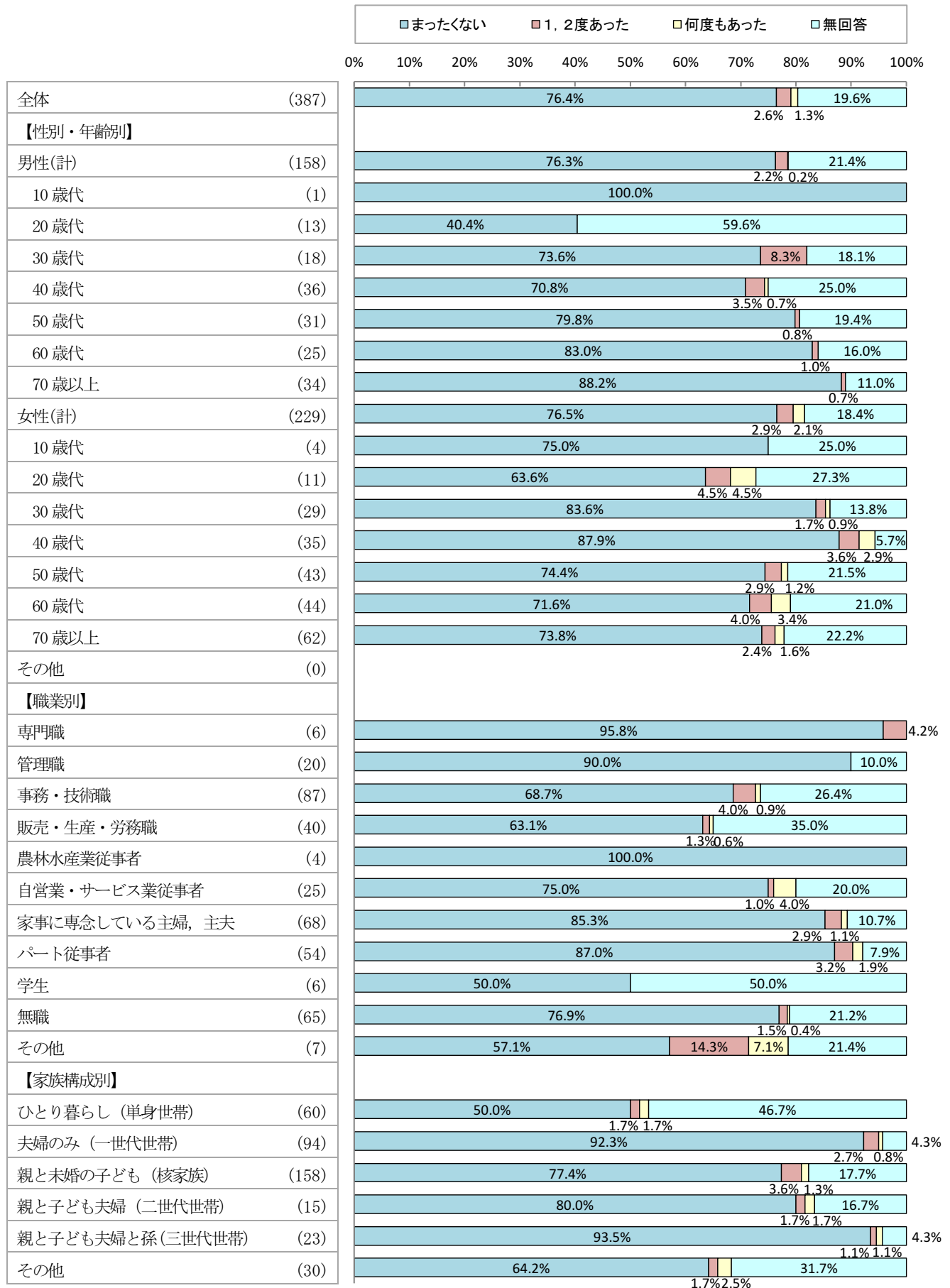
④性的強要

<図IV-22-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別



●暴力を受けたことがある（総合）

<図IV-22-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別

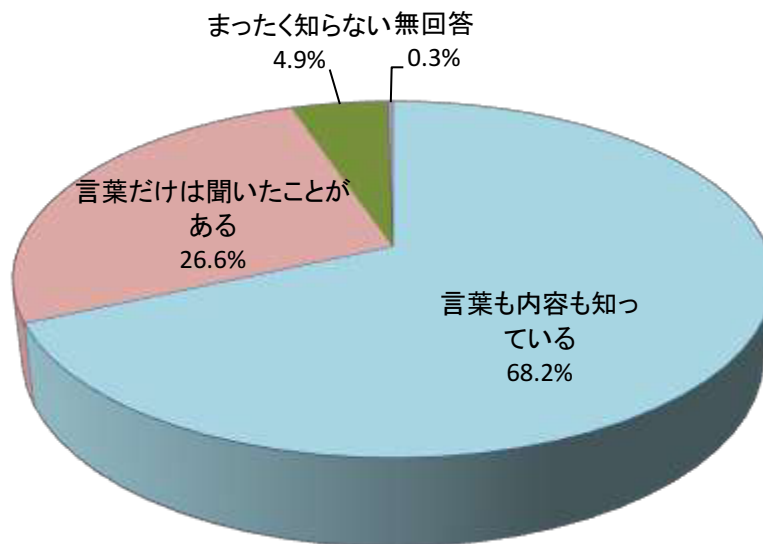


(4) LGBT (エルジービーティー) の認知度

◇ 「言葉も内容も知っている」が7割弱

問81	LGBT (エルジービーティー) ※という言葉について聞いたことがありますか。 ※L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者), T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人) の4つの単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ (○は1つ)	n=387
1	言葉も内容も知っている	68.2%
2	言葉だけは聞いたことがある	26.6%
3	まったく知らない	4.9%
	(無回答)	0.3%

<図IV-22-15>全体



n=387

LGBT (エルジービーティー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が68.2%で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が26.6%、「まったく知らない」が4.9%であった。(図IV-22-15)

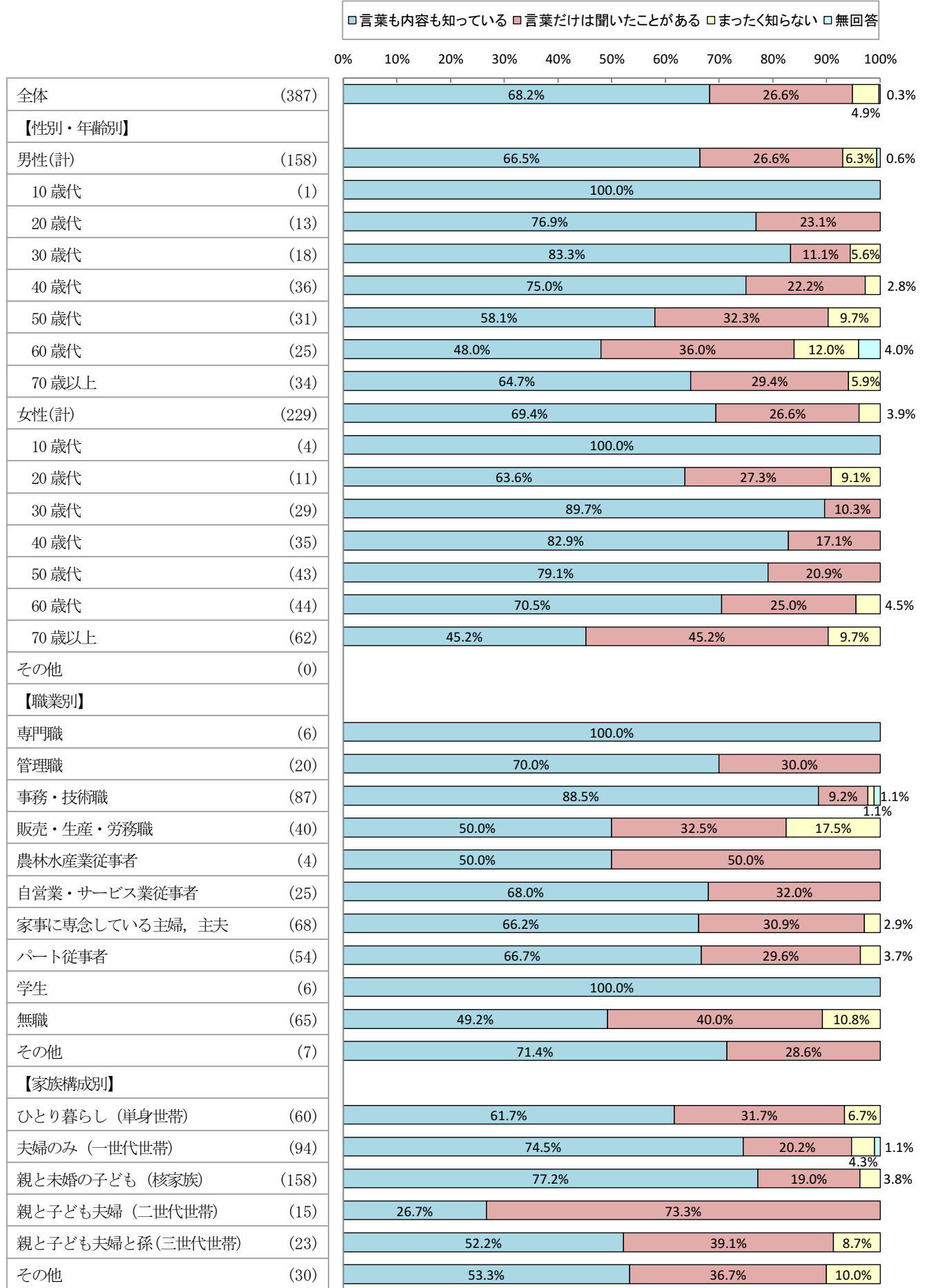
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。「言葉だけは聞いたことがある」は<女性/70歳以上>が45.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が36.0%であった。(図IV-22-16)

職業別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<専門職>と<学生>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が88.5%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<無職>が40.0%であった。(図IV-22-16)

家族構成別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<親と未婚の子ども(核家族)>が77.2%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が74.5%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が73.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が39.1%であった。(図IV-22-16)

<図IV-22-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別



23. 福祉のまちづくりについて

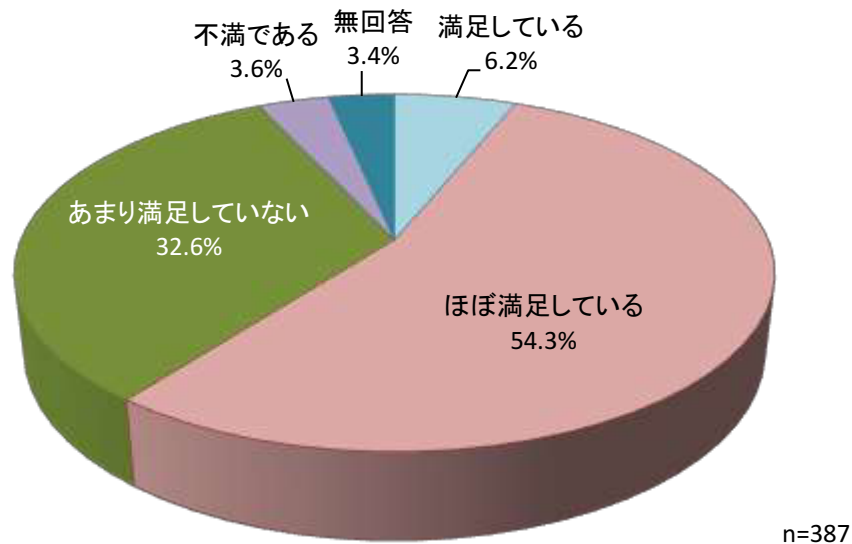
(1) 保健福祉サービスに関する情報提供の満足度

◇ 「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた【満足している（計）】が約6割

問82 宇都宮市の保健福祉サービスに関する情報提供（各課の窓口，広報紙やホームページの掲載，出前保健福祉講座など）についての満足度をお聞かせください。（○は1つ）

	n=387
1 満足している	6.2%
2 ほぼ満足している	54.3%
3 あまり満足していない	32.6%
4 不満である	3.6%
(無回答)	3.4%

<図IV-23-1>全体



保健福祉サービスに関する情報提供の満足度（各課の窓口，広報紙やホームページの掲載，出前保健福祉講座など）については、「満足している」が6.2%、「ほぼ満足している」が54.3%で，これらを合わせた【満足している（計）】は60.5%であった。一方、「あまり満足していない」が32.6%、「不満である」が3.6%で，これらを合わせた【不満である（計）】は36.2%であった。（図IV-23-1）

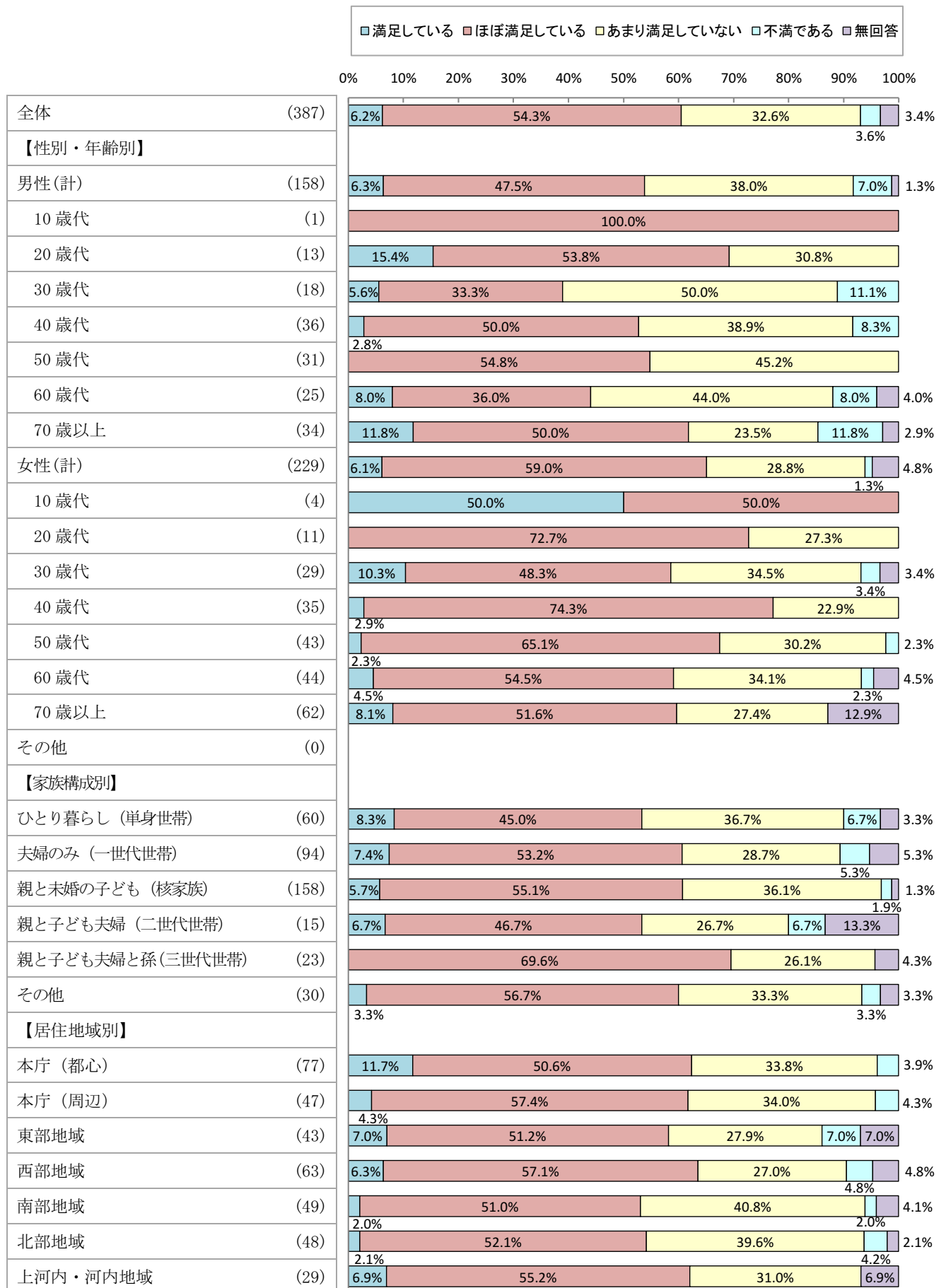
<参考>

性別・年齢別で見ると，【満足している（計）】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く，次いで<女性/40歳代>が77.2%であった。一方，【不満である（計）】は<男性/30歳代>が61.1%で最も高く，次いで<男性/60歳代>が52.0%であった。（図IV-23-2）

家族構成別で見ると，【満足している（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が69.6%で最も高く，次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が60.8%であった。一方，【不満である（計）】は<ひとり暮らし（単身世帯）>が43.4%で最も高く，次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が38.0%であった。（図IV-23-2）

居住地域別で見ると，【満足している（計）】は<西部地域>が63.4%で最も高かった。一方，【不満である（計）】は<北部地域>が43.8%で最も高かった。（図IV-23-2）

<図IV-23-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

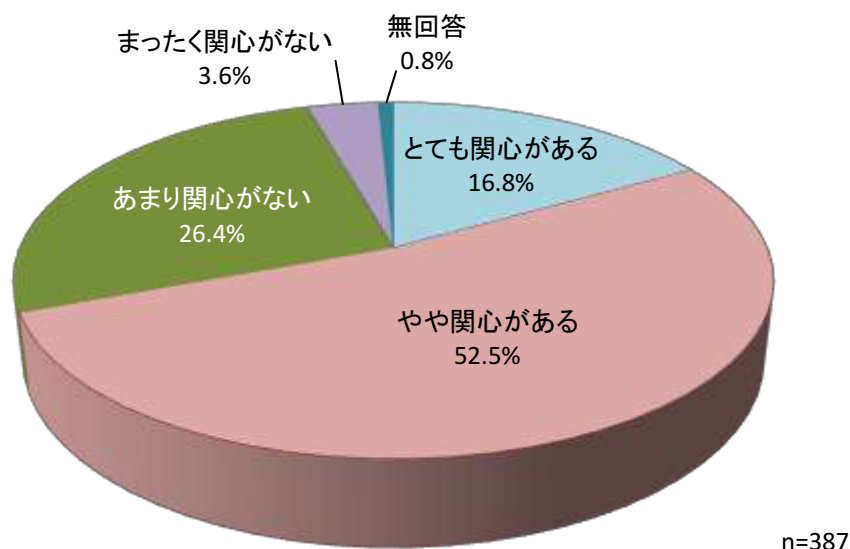


(2) 福祉のまちづくりについての関心

◇ 「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が約7割

問 8 3	福祉のまちづくりに関心はありますか。	(○は1つ)
		n=387
1	とても関心がある	16.8%
2	やや関心がある	52.5%
3	あまり関心がない	26.4%
4	まったく関心がない	3.6%
	(無回答)	0.8%

<図IV-23-3>全体



福祉のまちづくりについての関心があるかについては、「とても関心がある」が 16.8%、「やや関心がある」が 52.5%で、これらを合わせた【関心がある（計）】は 69.3%であった。一方、「あまり関心がない」が 26.4%、「まったく関心がない」が 3.6%で、これらを合わせた【関心がない（計）】は 30.0%であった。(図IV-23-3)

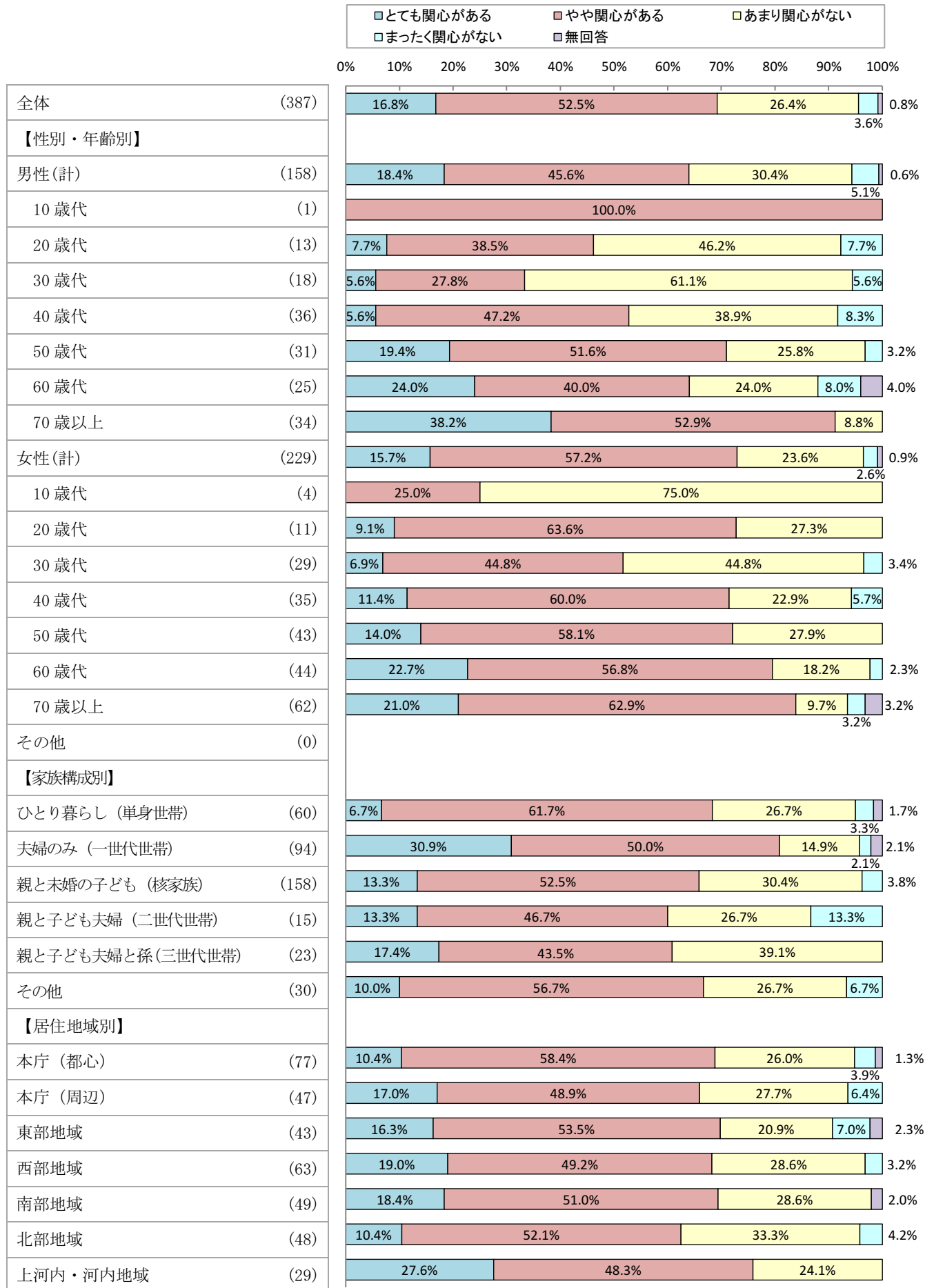
<参考>

性別・年齢別で見ると、【関心がある（計）】は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 91.1%であった。一方、【関心がない（計）】は<女性/10歳代>が 75.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が 66.7%であった。(図IV-23-4)

家族構成別で見ると、【関心がある（計）】は<夫婦のみ（一世代世帯）>が 80.9%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が 68.4%であった。一方、【関心がない（計）】は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 40.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 39.1%であった。(図IV-23-4)

居住地域別で見ると、【関心がある（計）】は<上河内・河内地域>が 75.9%で最も高く、次いで<東部地域>が 69.8%であった。一方、【関心がない（計）】は<北部地域>が 37.5%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が 34.1%であった。(図IV-23-4)

<図Ⅳ-23-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



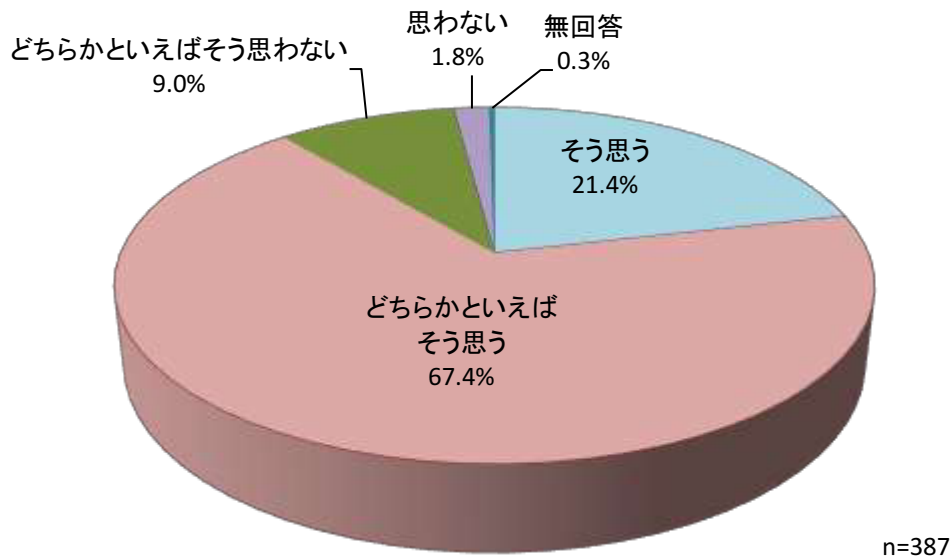
24. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

◇ 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割

問84 宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指した取組を推進していますが、あなたは普段、宇都宮市で生活する中で、安心して暮らすことができていると思いますか。(〇は1つ)		n=387
1	そう思う	21.4%
2	どちらかといえばそう思う	67.4%
3	どちらかといえばそう思わない	9.0%
4	思わない	1.8%
	(無回答)	0.3%

<図IV-24-1>全体



安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」が21.4%、「どちらかといえばそう思う」が67.4%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は88.8%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が9.0%、「思わない」が1.8%で、これらを合わせた【思わない(計)】は10.8%であった。(図IV-24-1)

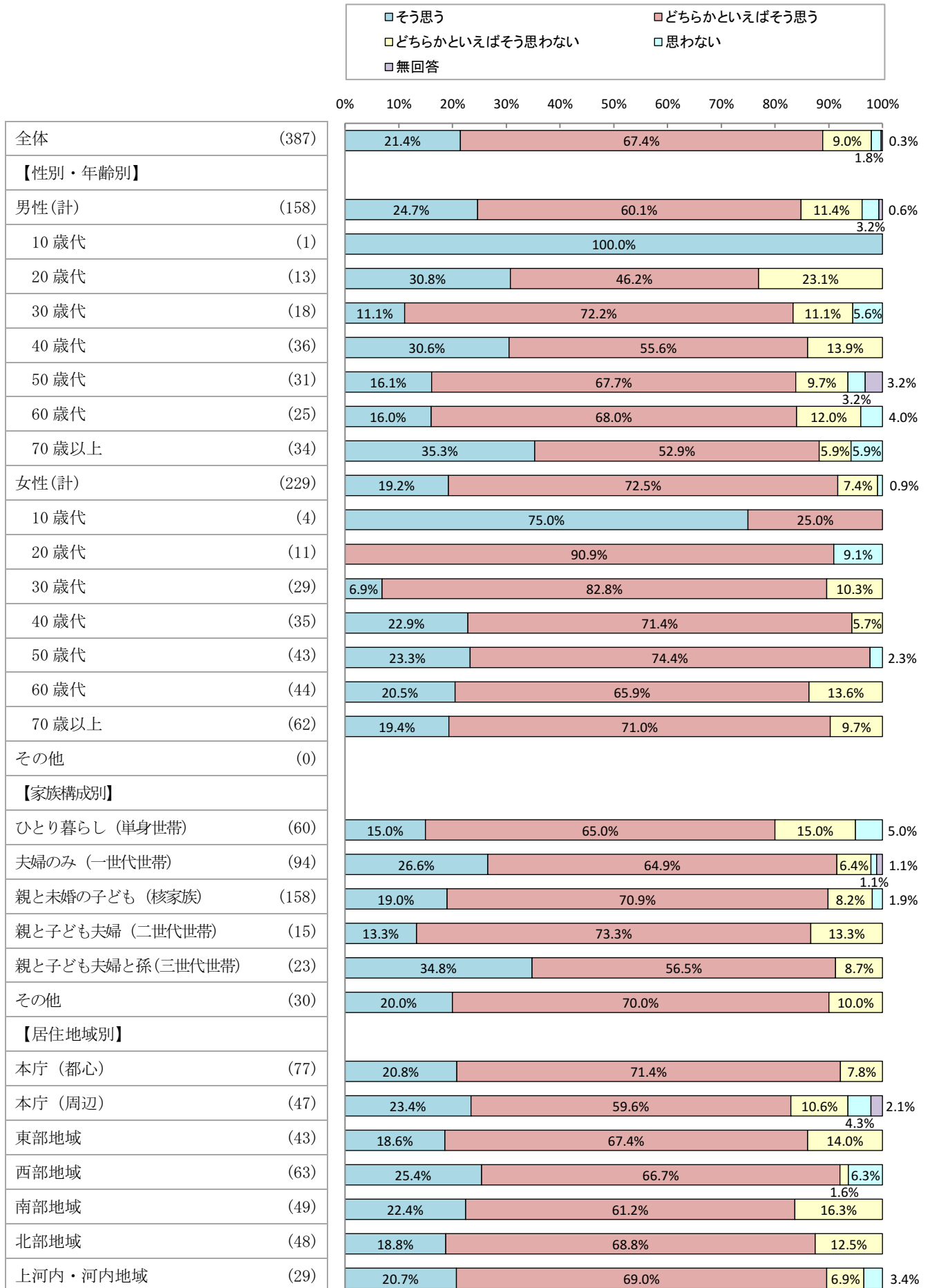
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が97.7%であった。一方、【思わない(計)】は<男性/20歳代>が23.1%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が16.7%であった。(図IV-24-2)

家族構成別で見ると、【そう思う(計)】は<夫婦のみ(一世代世帯)>が91.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が91.3%であった。一方、【思わない(計)】は<ひとり暮らし(単身世帯)>が20.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が13.3%であった。(図IV-24-2)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<本庁(都心)>が92.2%で最も高く、次いで<西部地域>が92.1%であった。一方、【思わない(計)】は<南部地域>が16.3%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が14.9%であった。(図IV-24-2)

<図IV-24-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

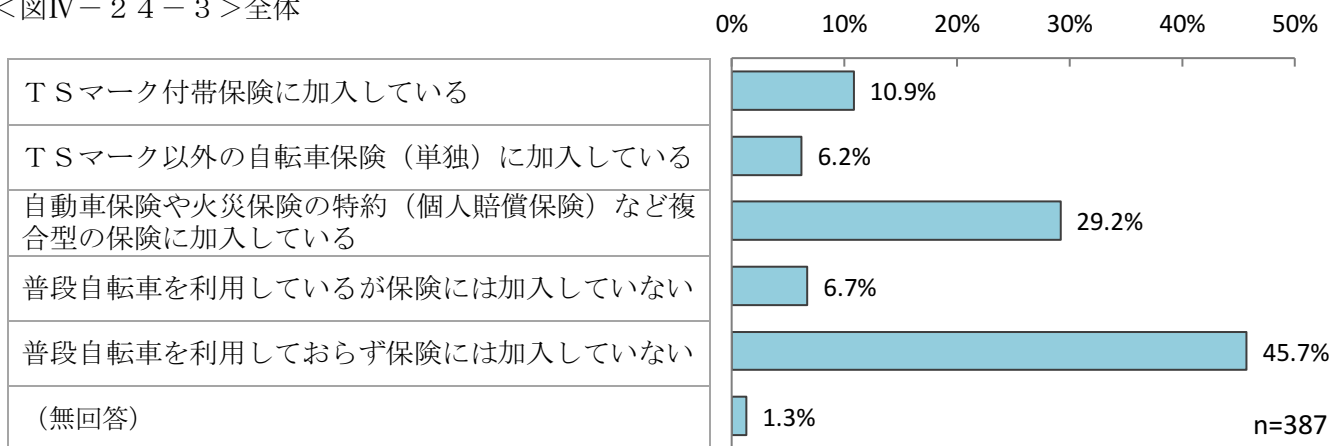


(2) 自転車保険の加入状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ば

問 8 5	宇都宮市では、「交通事故のない社会」を目指し、総合的な交通安全対策を推進していますが、あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。 (○はいくつでも)	n=387
1	TSマーク付帯保険に加入している	10.9%
2	TSマーク以外の自転車保険（単独）に加入している	6.2%
3	自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している	29.2%
4	普段自転車を利用しているが保険には加入していない	6.7%
5	普段自転車を利用しておらず保険には加入していない (無回答)	45.7% 1.3%

<図IV-24-3>全体



自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が45.7%で最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」が29.2%、「TSマーク付帯保険に加入している」が10.9%と続いている。（図IV-24-3）

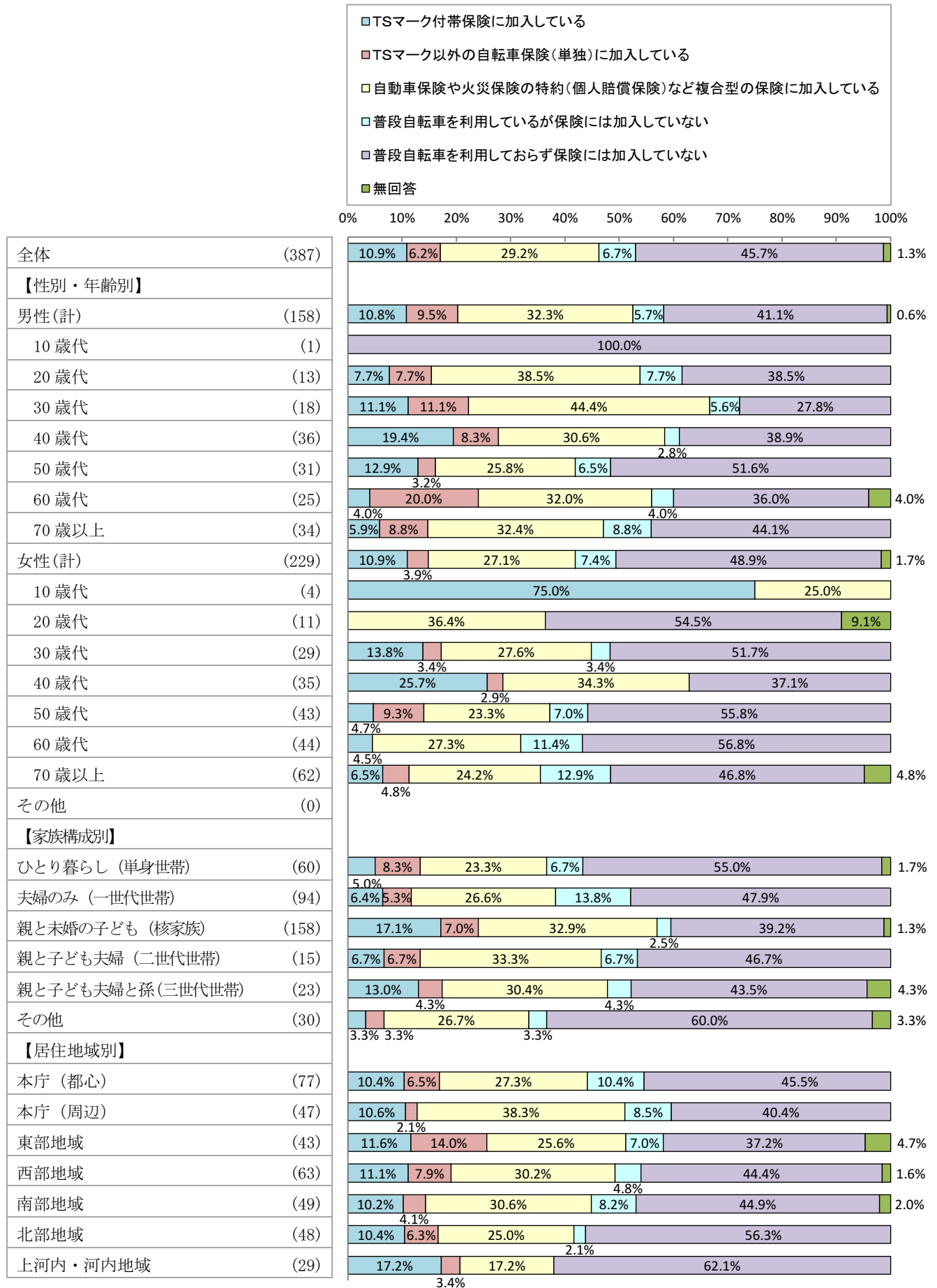
<参考>

性別・年齢別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が56.8%と続いている。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<男性/30歳代>が44.4%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が38.5%であった。（図IV-24-4）

家族構成別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は、<その他>を除くと<ひとり暮らし（単身世帯）>が55.0%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が33.3%で最も高かった。（図IV-24-4）

居住地域別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<上河内・河内地域>が62.1%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<本庁（周辺）>が38.3%で最も高かった。（図IV-24-4）

<図IV-24-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

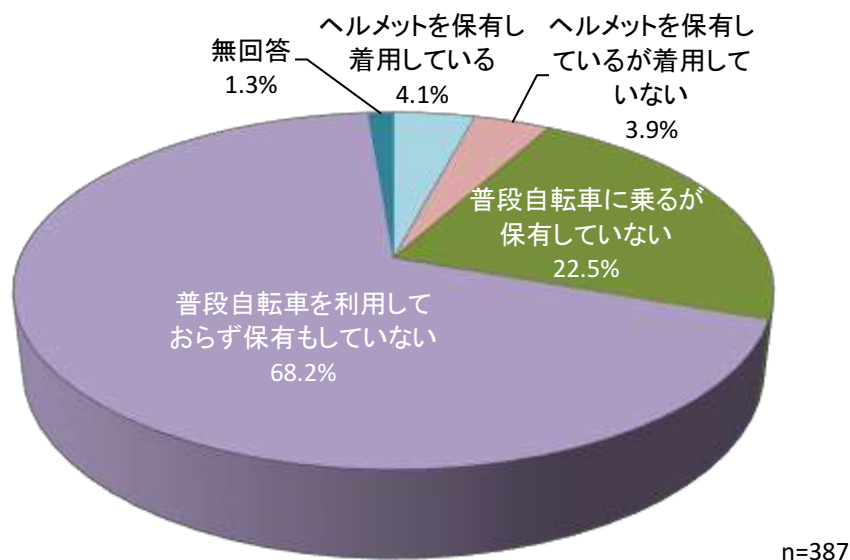


(3) 自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が7割弱

問 8 6	自転車事故において、死者の6割近くが頭部に損傷を負っていることなどから、本市では自転車利用者のヘルメット着用を推進しています。あなたは、自転車乗車用のヘルメットを持っていますか。また、自転車乗車中は着用していますか。	(○は1つ)
		n=387
1	ヘルメットを保有し着用している	4.1%
2	ヘルメットを保有しているが着用していない	3.9%
3	普段自転車に乗るが保有していない	22.5%
4	普段自転車を利用しておらず保有もしていない	68.2%
	(無回答)	1.3%

<図IV-24-5>全体



自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が68.2%で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が22.5%と続いている。(図IV-24-5)

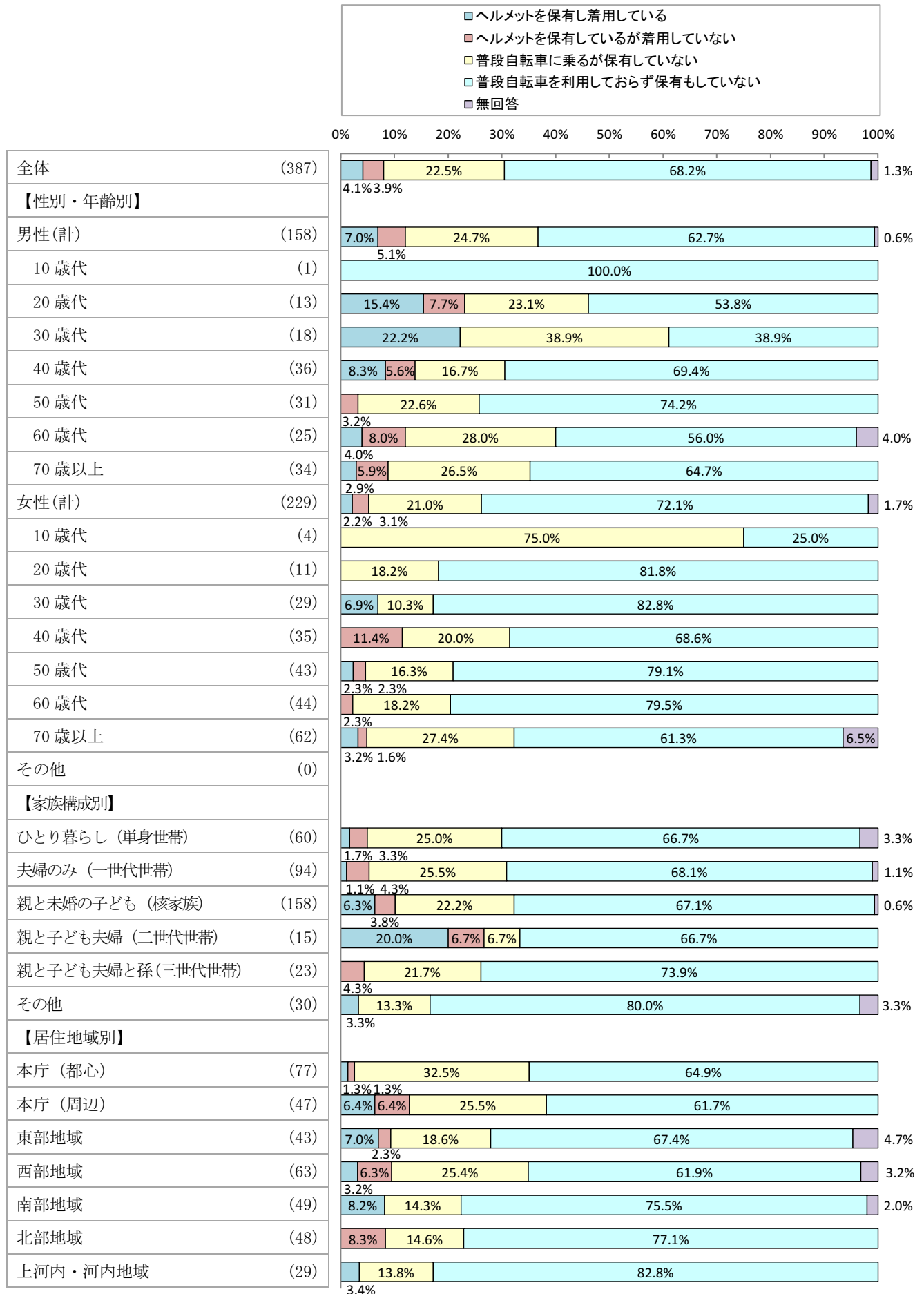
<参考>

性別・年齢別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が82.8%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<女性/10歳代>が75.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が38.9%であった。(図IV-24-6)

家族構成別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯)>が73.9%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯)>が68.1%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<夫婦のみ(一世帯)>が25.5%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が25.0%であった。(図IV-24-6)

居住地域別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<上河内・河内地域>が82.8%で最も高く、次いで<北部地域>が77.1%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<本庁(都心)>が32.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が25.5%であった。(図IV-24-6)

<図IV-24-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



<MEMO>

V 調査結果の考察

V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター企画運営アドバイザーや宇都宮市行政改革推進懇談会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著に、『スポーツの行政学』(成文堂、2006年)、『“とちぎ発” 地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書、2007年)、『スポーツと震災復興』(成文堂、2016年)、『政策を見抜く10のポイント』(同、2016年)、『危機と地方自治』(同、2016年)、『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(同、2018年)、『2020年東京オリンピックを問う—自治の終焉、統治の歪み—』(同、2020年)、『2020年東京オリンピックの変質—コロナ禍で露呈した誤謬—』(同、2021年)、『2020年東京オリンピックとは何だったのか—欺瞞の祭典が残したもの—』(同、2022年)。共著に、『日本の公共経営』(北樹出版、2014年)、『地方自治の基礎』(一藝社、2017年)など多数。

1. 宇都宮市に対する感じ方について

「どちらかといえば好き」を含め、9割以上(92.5%, 前年91.3%)が宇都宮市を「好き」と回答し、前年と比べて若干上昇した。内訳について見ると、「好き」(45.8%, 前年42.0%)が4ポイント近く上がったのが大きい。「どちらかといえば好き」(46.7%, 前年49.3%)は前年比で若干下がったことから、「どちらかといえば好き」から「好き」へシフトしたと推察される。確かに「純粋好き派」が増えた。

ただ、「どちらかといえば嫌い」(5.1%, 前年5.6%)はほぼ横ばいで、「嫌い」(1.1%, 前年1.5%)もほぼ横ばいの結果となった。「純粋嫌い派」は仕方がないとしても、「どちらかといえば嫌い」はあと数ポイント減る結果となれば、宇都宮市はほとんどの市民が好きな市となりそうである。次回調査で9割台後半に達するかどうか注目したい。

好きな理由としては、「自然災害の少なさ」(50.8%, 前年50.1%)、「買い物など日常生活の便利さ」(47.5%, 前年45.6%)、「自然環境の豊かさ」(34.0%, 前年35.3%)、「慣れ親しんだところ」(29.9%, 前年28.8%)が定着している。

「自然災害の少なさ」はともかく、「自然環境の豊かさ」もこれを維持する行政の努力は欠かせないし、「買

い物など日常生活の便利さ」は市の施策と直結する面がある。ただ、たとえば「病院などの医療機関が充実しているところ」(16.2%, 前年 14.8%) はもっと上位に入ってほしいし、「都心に行くのに便利なところ」(17.3%) と「子どもを育てる環境が整っているところ」(6.9%) が同程度の割合となってもいいと思う。その意味で好きな理由をめぐる各項目間の格差の広がり気になる。

一方で、嫌いな理由として「交通マナーの悪さ」(35.5%, 前年 37.0%) にほとんど変化が見られないのは残念である。横断歩道を渡る人優先の交通マナーは向上していると聞いたが、そのような効果が割合には反映されないのだろうか。「交通渋滞の多さ」(25.9%, 前年 24.8%) や「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」(24.5%, 前年 26.0%) についても変化はほとんど見られない。LRTの開通は果たしてこうした市の積年の課題を解決する切り札となるのだろうか。

「街に活気がないところ」(31.3%, 前年 32.1%) も嫌いな理由の上位である。オリオン通りなど中心街のにぎわいの復活を耳にするが、市民の受け止め方を変えるにはまだまだ時間が掛かるということだろうか。

2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、「よく見る(聞く)」でも「ときどき見る(聞く)」でも「広報うつのみや」の存在感が圧倒的に高い傾向が続いている(前者 41.6%。後者 41.0%。前年は前者が 35.8%、後者が 44.7%)。前年調査と比べて「よく見る(聞く)」が6ポイント上がった。

しかし、「よく見る(聞く)」に注目すると「広報うつのみや」以外では、「暮らしの便利帳」(10.8%, 前年 8.7%) が1割台に乗ったものの、それに続くのが「宇都宮市ホームページ」(8.1%), 携帯サイト(4.9%) となり、「広報うつのみや」との格差が大きい。

一方で「ときどき見る(聞く)」の場合、「暮らしの便利帳」(39.8%, 前年 45.3%) と前年比では低下したものの、ほぼ4割に達している。「宇都宮市ホームページ」(48.3%, 前年 46.3%) の場合、前年比では若干上昇し、5割近くに達している。「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」との境目は回答者の判断に寄るのだろうが、後者であっても、市民は積極的に行政に関する情報を取りに行っているといえるかもしれない。

「広報うつのみや」の入手方法では、「新聞折込で自宅に届いている」(60.8%, 前年 57.4%) が前年比で若干上昇し、6割に達した。紙媒体の新聞離れがいわれる中、「広報うつのみや」の奮闘ぶりが窺える。

一方で、「送付で自宅に届いている」(8.7%, 前年 6.8%) や「市の公共施設などで手に入れている」(3.5%, 前年 3.4%), さらに「市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している」(2.9%, 前年 1.8%) は依然として低率傾向にある。「広報うつのみや」の場合、一覧性など直接手に取ることで、紙媒体の強みが発揮できる類のものかもしれない。その意味では、市民への周知をさらに工夫すれば、「送付で自宅に届いている」とする割合はもっと上がるはずだ。

「手に入れていない」(20.3%, 前年 25.5%) の率は減少傾向にあるものの、5人に一人はまったく「広報うつのみや」に接していない点が気になる。「広報うつのみや」離れは市政情報の把握という面で、結局は市民に不利益を与えてしまう類のものではないだろうか。

「広報うつのみや」を「入手方法を知らないため」(40.0%, 前年 35.1%) 見ていない市民の割合が前年よりも5ポイント増加した。一方で「特に必要でないため」(50.0%, 前年 49.5%) は横ばい傾向にあるものの、その割合は「入手方法を知らないため」を10ポイントも上回っている。行政は「入手方法を知らない」市民にターゲットを絞って、周知戦略を徹底してはどうだろうか。

「広報うつのみや」で読んでいる記事について、「市政情報」(69.9%, 前年 64.5%), 「各施設の催し物」(49.8%, 前年 46.6%), 「特集」(48.0%, 前年 45.5%), 「情報カレンダー」(44.2%, 前年 40.5%) などの割合が高かった。いずれも若干ではあるが前年よりも増加傾向にある。

それ以外でも「政策特集」(29.4%, 前年 31.2%) など、行政が提供する生きた情報や魅力的な情報を求める市民は確実に存在する。

「LRT」についての記事を読んでいる割合は 26.4%と前年の 21.9%から上がったが、僅か 4.5 ポイントの上昇である。LRTの整備が目に見えるようになり、開通のイメージが具体化してきた割には上がり幅が小さい。

「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報について、市民の自由記載を読むと、「広報うつのみや」には実に多様な情報提供機能が期待されていると同時に行政に対する厳しい声も目立つ。

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」(40.1%, 前年 39.5%) が「パソコン」(23.5%, 前年 23.7%) を 15 ポイント以上上回る傾向が続いている。しかし、スマホの飽和状態がいわれる中で、今後は、次世代の電子媒体を睨んだ形での行政情報の提供が強く要請されるかもしれない。

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについて、「キーワード検索」(56.1%, 前年 60.1%) が最上位となり、前年から率を若干下げた。対照的に、暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランドといった「大分類」(47.3%, 前年 36.8%) は 10 ポイント以上も上昇した。「大分類」が有効に機能していることが明白となった。「大分類」にアクセスした方が、市民にとっては目当ての情報に行きつけるといふことなのだろう。

ところが、「ホームページで知りたい情報は探しやすいか」について、「探しやすい」(9.6%, 前年 13.4%) は下降し、「どちらかといえば探しやすい」(58.6%, 前年 49.4%) が 10 ポイント近く上昇した。『探しやすい』が合わせて 68.2%となり、前年 62.8%からかなり上昇した。DX (デジタルトランスフォーメーション) が国策として進められる中、今後はデジタル行政の視点からも、デジタル広報行政の中身がさらに重要になるだろう。

ホームページに関する感想や充実してほしい機能や情報について、市民からの率直の要請が記載されている。確かに対応の技術的ハードルは高いだろうが、行政には、市民の多種多様な声への応答とホームページの機能とを合わせる努力を継続してほしい。

市政情報をどんな手段で知りたいかについて、「広報うつのみや」(60.8%, 前年 56.1%) の割合が最も高く、率も上昇傾向にある。一方で「ホームページ」(36.6%, 前年 38.4%) は若干とはいえ、率を下げた。「新聞」(27.3%, 前年 25.0%) と「SNS」(15.1%, 前年 14.5%) は若干上昇した。「広報うつのみや」を軸として、ホームページとSNSの電子媒体ならではの相乗効果を発揮する形で、行政は複合的な市政情報の柔軟な提供を継続する必要があるだろう。

3. 健康づくりについて

健康面での自分の生活習慣について、「良いと思う」(11.0%, 前年 9.5%) が 1 割を超えた。「まあ良いと思う」(41.0%, 前年 36.1%) は前年比で 5 ポイント上昇し、4 割台にのせた。合わせると 52.0% (前年 45.6%) となり、「あまり良くないと思う」(15.7%, 前年 20.0%) と「どちらともいえない」(26.7%, 前年 29.7%) がともに減少傾向にあることと相まって、今後は、健康面での生活習慣を肯定的に捉える市民層の上昇傾向が続くかどうか鍵となるだろう。

歯と口の治療や相談ができるかかりつけの歯科医院について、「ある」(75.3%, 前年 74.7%) は横ばい傾向にあるものの、相当に高い割合といえ、かかりつけ歯科医院は市民の間に浸透しているといえる。

主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数について、「ほぼ毎日」(54.7%, 前年 52.1%) が若干上昇し、「週に4～5日」(22.4%, 前年 22.9%) と合わせると 77.1% (前年 75.0%) となり、8割近くの市民が、食べ物の中身のバランスに気を使い実践している。こうした市民が8割台を超えれば、食の健康志向とその実行力が高い市民が多い市と断言できるようになる。

4. 「カスタマーハラスメント」の認知度について

カスタマーハラスメントについて、「言葉も内容も知っている」(34.9%) と「言葉だけは聞いたことがある」(35.5%) がほぼ同率であった。「まったく知らない」(28.2%) も3割近くに達した。

とくに顧客等が主張する内容に正当性があるとしても、適切な主張の仕方をしなければ、カスタマーハラスメントに該当するといった理解は重要である。窓口などの行政職員の対応力や応答力と同時に、窓口に訪れる市民側の良識も問われるからである。行政と市民との間でも双方向性のあるコミュニケーションは日常的に展開されている。その意味で、カスタマーハラスメントの認知度を上げることは、円滑な市政運営にとって重要な要素なのである。

5. 福祉活動への参加について

参加してみたい福祉活動の上位は、「ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための『声かけ』」(23.8%), 「ゴミ出しなどの日常生活のちょっとした手伝い」(23.8%), 「子どもの通学時の『見守り活動』」(21.8%) がほぼ同率であった。市民にとっていずれもまずは行動してみようと踏み出せば、そんなに敷居が高いものではないと感じられるはずだ。こうした活動の有無は、地域福祉を支える基盤の有無でもある。

同時に参加しやすくなるための地域福祉環境の醸成も行政の重要な役割である。どのようなことが必要かとの設問に対して、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」(38.6%) や「地域での福祉活動の重要性の周知」(31.9%) が上位に並んだ。いずれも情報に関わるものである。参加を促す有用情報の提供がさらに求められる。

6. 生物多様性について

自然環境について関心がある（「非常に関心がある」19.9%と「どちらかといえば関心がある」60.4%を合わせて80.3%）が8割を超えた。前年調査では各々23.7%と59.2%（合わせて82.9%）だったので、若干減少したものの、自然環境関心派の市民の割合は高いといえよう。

生物多様性という言葉について、「言葉も意味も知っている」(44.6%, 前年 40.8%) が「聞いたことはあるが、意味は知らない」(35.5%, 前年 38.5%) を上回った点も大きい。意味を知っているかどうか、認知派の分かれ目であるように思われるからである。

外来種が及ぼす影響についても、「知っている」(85.8%, 前年 84.9%) の割合が高い。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」(11.4%, 前年 14.0%) は若干減った。外来種をめぐる報道に接する中で、市民はその脅威を他人事ではないと感じ始めているのかもしれない。

7. 宇都宮市の景観について

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについて、「どちらかといえば良くなった」(48.2%, 前年 45.0%) と「変わらない」(30.6%, 前年 37.2%) となった。「良くなった」が若干上昇し、「変わらない」は7ポイント以上も下がった。「非常に良くなった」(7.0%, 前年 4.7%) も若干上昇した。市の景観は確実に改善されつつあると受け止める市民が増えている。

一方で、「どちらかといえば悪くなった」(11.1%, 前年 10.1%) はほぼ横ばいで、この点は少し気になる。

「宇都宮らしい景観」とは何かについて、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」(43.8%, 前年 42.7%) がトップで、市の中心部における歴史的な景観が安定的に評価され続けているのがわかる。これに続いたのが、「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」(27.5%, 前年 27.7%) や「豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園」(23.6%, 前年 24.9%), 「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」(21.2%, 前年 24.9%) であった。

「二荒山神社周辺の景観」以外では、市の景観には決め手に欠くと捉えるのか、それとも魅力ある景観が一つに絞り切れず、豊富な景観が複数あると捉えるのかによって、見方が分かれるであろう。

「市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観」(18.1%, 前年 15.9%) などはLRTの整備と相まって、シンボリックな景観としてもっと上昇が期待されてもいいとも思うが、現時点では今後の有望株と見ておくにとどめたい。

良好な都市景観の形成に必要なことについて、「道路上の電柱・電線類の地中化」(50.3%, 前年 50.8%) の割合が最も高く、それに続いたのが「沿道や都心部の緑化の推進」(25.6%, 前年 28.5%) と「周辺景観に調和していない野外広告物(看板)の撤去や規制」(25.6%, 前年 21.2%) であった。若干ではあるが、野外広告物(看板)への厳しい視点が市民の間で強まっている。

バスや鉄道などのラッピング広告物についての印象は、全体としては好意的に受け止められているのではないだろうか(「良い」21.0%, 「どちらかといえば良い」42.0%)。とくに市民のほぼ5人に一人が「良い」印象を持っている意味は大きい。今後の工夫や仕掛けの余地がさらに広がっていくように思えるからである。

また、上記設問における回答(「良い」「どちらかといえば良い」「どちらかといえば悪い」「悪い」「わからない」)のいずれにもかかわらず、そのような印象を持った点についての設問では、「目立つ・目にとまる(50.0%)」が圧倒的に高い割合となった。「目立つ・目にとまる(50.0%)」ことに悪い印象を持っていない多くの市民が存在する。

8. うつのみや産の農産物について

「うつのみや産」の農産物の積極的購入について、「非常にそう思う」(27.2%, 前年 27.4%) と「そう思う」(57.5%, 前年 57.3%) が、前年調査とほぼ同率で、定着ぶりがはっきりした。市民は地産地消をかなりの程度、

実践していることになる。さらに、多くの市民は宇都宮の農業を大切にしたいと思っている（「非常にそう思う」39.1%、前年34.9%、「そう思う」53.6%、前年57.5%）。とくに「非常にそう思う」が前年比で4ポイント以上上昇した。

多くの市民は地元農業に対する愛着を持っている。「うつのみや産」農産物にさらに磨きをかけるための行政と関係者との協働事業を継続展開してほしい。

9. まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について

八幡山公園について、利用頻度は「年に数回程度」(29.0%)と「まったく利用しない」(68.6%)を合わせると97.6%と、100.0%に近い結果となった。ただ、近くに住む人々を除けば、この公園の性格上、頻繁な利用はなかなか難しいのであろう。たとえば駐車スペースが拡充されれば、結果は変わってくるのであろうか。

利用者の利用目的を見ると、上位には「花や緑、自然を楽しむ」(53.5%)、「子どもを遊ばせる」(40.2%)、「散歩」(37.8%)が並んだ。公園自体は大人も子どもも楽しめる魅力が備わっている。

魅力や利便性の向上に必要な施設について、最上位は「カフェやレストラン等の飲食販売施設」(40.1%)であった。運営の維持管理といった課題をクリアできれば、公園内のカフェやレストランは、来訪者にとって集い、憩い、団らんなどの魅力スポットとなる可能性が高い。

宇都宮城址公園についても八幡山公園と同様に、利用頻度は「年に数回程度」(25.5%)と「まったく利用しない」(72.0%)を合わせて97.5%となった。「まったく利用しない」を5割程度に下げる秘訣はどこにあるのだろうか。とにかく一度は利用してもらうことで、リピーターを少しずつ増やしてく工夫ができるはずだ。

利用者の利用目的を見ると、上位には「散歩」(44.2%)、「集会やイベントへの参加」(38.1%)、「花や緑、自然を楽しむ」(31.9%)が並んだ。八幡山公園とは対照的に、「子どもを遊ばせる」(8.0%)は低い割合であった。やはり公園は、万人受けする必要はなく、それが有する特色をさらに拡充していくべきなのだろう。

ところが、魅力や利便性の向上に必要な施設について、最上位は「カフェやレストラン等の飲食販売施設」(34.3%)であった。大きな公園の場合、カフェやレストランは必須アイテムなのかもしれない。

10. 救急車の利用について

救急受信アプリケーション「Q助」の認知度は、極めて低い（「知らない」90.3%）。また、「知っているが利用したことはない」も5.6%と低い。ところが救急電話相談となると、「知っているが利用したことはない」が2割に達し、その分、「Q助」と比べて「知らない」(75.7%)を押し下げる結果となった。そうはいっても救急電話相談の相談時間については、「知らない」(92.9%)が9割台を超え、少し踏み込んだ内容の認知度となると何とも心もとない。しかし、「Q助」にしても救急電話相談にしても、これから認知度を上げる余地が大きいことになる。

1 1. 上下水道事業について

上下水道サービスの満足度は、「満足している」(21.9%)と「どちらかという満足している」(42.6%)を合わせると6割台半ばに達し、市民は及第点を与えている。広報紙「私たちの暮らしと水」についても、新聞折込の影響力や工夫されたデザインが大きいのだろう。「いつも読んでいる」(13.4%)と「たまに読んでいる」(27.5%)を合わせると優に4割を超えた。

一方で「発行していることを知らない」市民がほぼ4人に一人(26.0%)に達していて、この層へ働きかけが課題である。

1 2. まちづくり活動への意識について

まちづくり活動の参加状況について、「現在、参加している」(23.8%)が2割を超えた。何かしらの活動機会は、意外にも目の前にある。また、注目したいのは「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」(1.2%)と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」(28.5%)との割合の大きな差である。「ぜひ」と「機会があれば」とでは、回答者は前者の確実性を回避して、どうしても後者に回答しがちになるのだろうか。「機会」を提供するのは誰なのだろうか。市民が自ら機会を創り出すと同時に、こうした市民の動きを行政が側面支援することが大切なのだろう。

まちづくり活動への参加の中身について、「地域の環境や自然等を守るための活動」(24.1%)、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」(22.4%)、「地域の安全・安心を守るための活動」(21.4%)が2割を超えた。このうち二つは「守る」活動だが、その内容は能動的・積極的なもので、受け身ではない価値がある。

まちづくり活動に「参加したいと思わない」「参加できない」と回答した理由について、「参加するチャンスきっかけがない」(28.7%)が最上位で、「参加する事に興味や関心がない」(25.0%)や「どのように参加すれば良いかわからない」(19.7%)が続いた。「興味や関心がない」については致し方ない面があるにしても、これ以外の上記二つの理由については、行政による支援や情報提供によって参加への敷居を低くすることが可能であろう。もう一押し何かしらの工夫や仕掛けを提供できないか。

1 3. 資源とごみの分別について

「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況について、「分別している」(82.6%)が8割を超え、市民の分別実施率は高いといえそうだ。ただ、「時々分別している」(10.9%)場合、分別を実施する割合と実施しない割合を知りたいところだ。実施割合が高ければ高いほど完全分別派への仲間入りの可能性が高くなると思えるからである。

「プラスチック製容器包装」を分別しない理由として、「手間がかかるため」(55.7%)が最上位であった。手間はかかるが精神衛生上良いとか、手間はかかるが気持ちがあすっきりするとか、手間がかかることに対して何らかの見返りがあれば、改善していくのではないだろうか。

紙の排出時の分別状況について、プラスチック製容器包装の場合と同様に、「分別している」(74.4%)が高い割合となった。分別意識の高さが実践に結びついている。また、紙を分別しない理由について、「手間がか

かるため」(40.8%)と「分別する量が少ない」(39.8%)が上位に並んだ。確かに分別量が少ないと分別する気持ちがなくなってしまうという理屈はわからなくもない。しかし、分別に慣れてくると、たとえ少量でも他の焼却ごみと一緒にしてしまうと何となく気持ちがすっきりしなくなる。まずは多少無理してでも分別に踏み出してもらうための、何かしらの後押しを行政は提供できないだろうか。

ごみと資源物の分別を推進するために必要なことについて、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」(72.1%)と「分別する必要性や効果などの情報発信」(54.7%)が高い割合となった。「周知の強化」はかなり浸透している印象があるが、「効果」の情報発信はもう一工夫必要かもしれない。さらに世代別のPRの中身について改善の余地があるかもしれない。

周知方法として有効な取組について、「自治会の回覧板」(48.8%)や「学校・職場での教育」(43.3%)が上位に並んだ。SNS時代といわれながらも、手渡しや直接会っての語りかけなどが効果を発揮すると見られているようだ。

14. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

住宅用火災警報器の設置率(61.7%, 前年 65.3%)が前年比で若干下がった。また、設置からの経過年数についても、「10年経過した」(31.1%, 前年 24.4%)が3割を超えた。「今まで点検を行ったことがない」(38.8%, 前年 45.7%)がほぼ7ポイント下がり、「定期的(半年に一度程度)に点検を行っている」(22.1%, 前年 20.3%)が若干増えたのは、経過年数との関連もあるかもしれない。「点検方法を知らない」(21.9%, 前年 24.2%)の割合も少し下がり、全体的に改善傾向が窺える。

15. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度について、「知っている」(41.8%, 前年 45.0%)が前年比で下がり、「知らない」(57.2%, 前年 55.0%)が増えてしまった。この種の認知度が上がることが大谷石の魅力さをさらに発信していくためには不可欠だ。しかし、時が経過する中でさらに認知度を上げていくのは意外に難しいかもしれない。

また、「大谷石文化」を誇りに感じるかについて、前年調査と比べて「やや感じる」(34.1%, 前年 36.2%)は若干下がった。しかし、「感じる」(33.1%, 前年 29.3%)は4ポイント近く上がった。僅かだが「やや感じる」から「感じる」への移行傾向が見て取れる。

16. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

「貯留タンク」や「浸透ます」の認知度(「知っている」(34.6%, 前年 40.6%)は若干下がった。しかし、3割台半ばは維持した。

雨水貯留・浸透施設の設置効果についても「知っている」(41.3%, 前年 40.1%)が上がった。線状降水帯による長時間に及ぶ豪雨などの情報に接した市民は多く、「浸水被害の軽減や適正な水環境の形成」の大切さを強く認識するようになっている。ただ、依然として6割近く(58.0%)はその設置効果の認識には至っていない

いのも事実であり、行政は引き続き周知に力を入れてほしい。

貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度は、「知っている」(29.1%)とこれも決して低くはない。ただ、これらを設置することで、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成」につながるこの認知度については、「知っている」(41.3%)となり、補助金制度の認知度よりも10ポイント以上も上回った。補助金制度と設置効果をセットにした形で市民が認識してくれればありがたいのだが。

「貯留タンク」や「浸透ます」の設置意向について、「設置したい」(22.4%, 前年22.8%)と「設置したくない」(17.7%, 前年18.0%)の割合は横ばいであった。設置意向は強まっていないが、だからといって「設置したくない」が増えているわけではない中途半端な結果となった。「わからない」(53.2%, 前年53.3%)についても同様で、ある種の膠着状態に陥っているようだ。

「設置したい」「既に設置してある」とした回答者にその理由を聞いたところ、「水の節約になるため」(55.8%, 前年59.6%)と「雨水を庭木の水やりに利用するため」(54.9%, 前年53.2%)が上位に並んだ。市民は節約と水やりという二重効果に関心を寄せている。

一方で「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」(47.8%, 前年35.8%)の割合が大幅に上がった。被害軽減や環境保全についての意識が大きく高まっているのがわかる。

「貯留タンク」や「浸透ます」を設置したくない理由として挙げられた最上位が、「敷地に設置できる場所がないため」(53.5%, 前年53.5%)と「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」(53.5%, 前年40.8%)であった。後者の割合の大幅な上昇が目立つ。実際にやってみれば意外と手間はかからないという点や、維持管理の作業上の秘訣など、行政から簡潔明瞭な説明を粘り強く発信し続ければ、設置者は着実に増えてくるはずだ。

17. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

栃木県で国体が開催されることを知っているかについて、「知っている」(90.2%, 前年82.8%)が前年比で8ポイント近く上昇した。「知らない」(9.0%, 前年16.7%)は8ポイント近く下がった。開催年には認知度が相当上がり、多くの市民に浸透したことがわかる。

「知っている」と回答した市民を対象にした国体開催情報の入手手段については、「広報紙(広報うつのみや)」(53.4%)の割合が最も高く、「屋外広告物(看板、懸垂幕)」(39.4%)、「新聞」(35.1%)が続いた。世代別で関心の度合いが違うのであろうが、「インターネット・SNS」(11.5%, 前年29.1%)が前年比で18ポイント近くも下降し、思いの外低い割合となってしまった。「広報うつのみや」も新聞も野外広告物も否応なしに目に入る機会が多いという点で共通している。年代層による関心の度合いの違いに加えて、その意味で市民への直接的な伝達媒体が威力を発揮したといえそうだ。

ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかとの問いには、「非常にそう思う」(2.6%, 前年2.4%)も「そう思う」(18.8%, 前年20.4%)もほぼ横ばいで、開催年にもかかわらず頭打ちの状態となってしまった。調査時点においては開催が目前に迫っていて、そのことが参加の心的ハードルを上げてしまったのだろうか。「あまりそう思わない」(49.5%, 前年55.8%)は前年比で6ポイント近く下がったものの、「まったく思わない」(28.6%, 前年20.6%)が8ポイントも上昇してしまった。とちぎ国体については、ボランティア活動をめぐる関心派よりも無関心派が大きく上回った事実が突き付けられた形となった。

国体を盛り上げるために重要だと思うことについて、「観光情報を発信する市の魅力紹介」(54.4%, 前年

48.7%),「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」(46.9%, 前年 42.1%),「会場周辺をきれいにする環境美化運動」(41.0%, 前年 36.2%) などが高い割合となった。注目したいのはいずれも前年比で数ポイント上昇したことである。重要な事項が前年よりもより明確になったともいえる。

ただ、「大会の運営をサポートするボランティア活動」(36.9%, 前年 28.8%) が大幅に上昇した。ボランティア活動の重要性は認めるものの、いざ自分が参加するとなると躊躇してしまった市民が予想外に多かったのかもしれない。

18. 多文化共生の認知度について

多文化共生の認知度について、「言葉も意味も知っている」(37.1%) は4割に届かなかった。「言葉も意味も知らない」(33.2%) とほぼ同じ割合で並んだ。後者の回答者が外国人には無関心だと言い切ることはできないであろう。しかし、「外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無」について、「どちらかといえばそう思う」(24.5%) と「どちらかといえばそう思わない」(24.7%) が拮抗し、「そう思わない」(21.6%) が「そう思う」(5.2%) の割合を大幅に上回った。この結果を見ると、多文化共生理解にはまだまだ課題が山積しているし、その解決も一筋縄ではいかないと考え込んでしまう。

多文化共生の推進にあたり大切なことについて、上位には「外国人住民の日本の生活ルール(ゴミ出し・交通ルールの理解など)」(55.7%) が最上位で、4番目に高い割合が「外国人住民向けの相談窓口(外国語で相談できる窓口など)」(40.2%) となった。もちろん、「日本人住民の外国文化の理解(外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」(49.7%) や「外国人住民の日本文化の理解(外国人住民に対する日本文化の紹介など)」(40.7%) は多文化共生理解のソフト面における必須の事項であろう。

しかし一方で、ごみ出しや相談窓口などは、日常生活を円滑に送るための、身近で実務的な側面が強いものであり、これも非常に重要な事項である。行政には緩急織り交ぜた側面支援が求められている。

19. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」(66.0%, 前年 64.6%) 以外で、現段階において「結婚していない」(結婚経験者と合わせて 31.7%, 前年 35.4%) とした回答者に対して、結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」(30.1%, 前年 29.1%),「結婚するつもりはない」(65.9%, 前年 61.9%) という結果となった。

前年比で「いずれ結婚するつもり」は1ポイント増だったのに対して、「結婚するつもりはない」は4ポイント増であった。結婚しようとする意思が弱くなっている市民が増える傾向が窺える。

結婚している場合に持ちたい子どもの数は、「2人」(58.6%, 前年 54.1%) が最も高く、大きく差が開く形で「3人」(18.0%, 前年 17.2%) と「1人」(12.5%, 前年 19.7%) となった。

興味深いのは、前年比で「1人」が7ポイント以上も減ったことで、「3人」の方が上回ったことである。「2人」についても4.5ポイントの上昇であり「1人」を回避したい市民が増えた。背景には国内外の世情への不安などがあるのだろうか。

ところが、「いずれ結婚するつもり」の回答者が子どもを何人望んでいるかについては、「2人」(43.2%, 前年 51.3%) が最も高い割合となったものの、前年比でほぼ8ポイントも下がった。また、「1人」(16.2%, 前年

17.9%)についてはほぼ横ばいであったものの、「3人」(18.9%, 前年7.7%)を希望する割合が10ポイント以上も増加した。

そうはいても「子どもはほしくない」(16.2%, 前年15.4%)市民層も一定割合存在している。結婚前の段階では相対的に子どもを望む率やその人数、そして子どもはほしくない層が、それぞれ枝分かれしているとも見て取れよう。

20. 「SDGs」について

SDGsについての認知度は、「まったく知らない」(14.7%, 前年32.8%)が大幅に減った。ただ、「内容を詳しく知っている」は15.7%(前年13.0%)で、そのうちの実践派は8.2%(前年6.9%)であった。ところが、「内容をある程度知っている」実践派は29.1%(前年11.4%)となり、前年比で2倍以上も上昇した。認知度と実践派が連動する形となった。

日頃の実践内容について、「買い物をするときはマイバッグを使っている」(72.7%),「水をだしっぱなしにしないようにしている」(67.8%),「電気を使わないときはこまめに消灯している」(66.5%)が上位に並んだ。いずれもちょっとした心掛けで行動に移しやすい類のものであり、このあたりの間口の広さがSDGs実践のハードルを低くしている。

SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野について、「すべての人に健康と福祉を」(48.7%, 前年43.1%)が最上位で、前年比でもこの項目の意識を持つ市民が増えているのがわかる。そのことは、「住み続けられるまちづくりを」(43.3%, 前年38.9%)や「貧困をなくそう」(40.2%, 前年38.1%)についてもいえる。

21. 「もったいない運動」について

「もったいない運動」について、「内容を知っており、実践している」(28.7%, 前半24.9%)と「内容を知っているが、実践はしていない」(20.2%, 前年18.5%)が、若干ではあるが上昇した。実践者も関心を持つ市民も漸増している。実践派がほぼ3人に一人というのが大きい。

「もったいない運動」を知った経緯について、「もったいない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ」(72.9%)と「もったいない運動のInstagram, Facebook, YouTube」(68.2%)が上位に並んだ。ネットやSNSの影響が大きかったと思われる。そのことが前年比で「今回の調査で初めて知った」(40.8%, 前年49.5%)の大幅な減少につながった。

ただ、上記ネット・SNS項目とは差があるものの、「広報紙(広報うつのみや)」(25.8%, 前年19.3%)についても上昇傾向にあり、紙媒体による周知提供も一定の役割を果たしている。

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動(マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)」(67.2%, 前年68.0%)がトップで、「節電・省エネルギー行動(電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)」(64.6%, 前年57.6%)や「食品ロスの削減に向けた行動(食材の10割食べきり, 使い切り, 賞味・消費期限をこまめにチェックする等)」(52.5%, 前年45.4%)が続いた。とくに後者二つの事項の前年と比べた場合の伸びに注目したい。市民は身近でできる運動の幅を確実に広げている。

2.2. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、家事の場合、「7 時間以上 21 時間未満」(43.9%, 前年 50.0%) の割合が高いものの、減少傾向にある。育児の場合、「7 時間以上 21 時間未満」(5.9%, 前年 10.9%) が最も高かったものの、同様に減少傾向が明らかとなった。介護の場合は、「7 時間以上 21 時間未満」(2.6%, 前年 2.8%) よりも「0 時間以上 7 時間未満」(4.7%, 前年 5.9%) の方が高い結果となった。

社会的活動の実施状況について、「自治会やまちづくりなどの地域活動」(18.9%, 前年 17.9%) が最上位で、「文化、スポーツなどのグループ活動」(9.6%, 前年 9.2%) や「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」(9.0%, 前年 9.8%) が続いた。「地域活動」が総論的な活動だとすると、後者二つの事項は各論的な活動である。いずれも地道な活動の積み重ねと継続が地域社会活動の重要な土台となる。

過去 1 年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」(「1, 2 度あった」と「何度もあった」の合計 (7.5%, 前年 4.2%) が、他の項目よりも比較的高い割合となり、また増加傾向を示している。また、「身体的暴行」(3.1%, 前年 1.4%), 「経済的圧迫」(3.4%, 前年 2.8%), 「性的強要」(1.8%, 前年 0.9%) についても同様な漸増傾向が明らかとなった。

いずれの項目でも「無回答」が、ほぼ 2 割となった(「身体的暴行」19.1%, 前年 19.0%。「心理的攻撃」19.4%, 前年 19.3%, 「経済的圧迫」(20.2%, 前年 19.3%) など。前年比で横ばい傾向にあるのが気になる。これが定着してしまうと状況の把握が困難になってしまう。なぜ無回答なのか問うてもいいかもしれない。

LGBT (エルジービーティー) の認知度について、「言葉も内容も知っている」(68.2%, 前年 66.5%) が前年とほぼ同じ割合であった。社会的関心が年々高まっているわりには、市民の間の認知は高止まったのだろうか。ただ、「まったく知らない」(4.9%) は僅かなので、今後の推移を見守っていきたい。

2.3. 福祉のまちづくりについて

保健福祉サービスに関する情報提供の満足度について、「満足している」(6.2%) と「ほぼ満足している」(54.3%) を合わせると 6 割に達した。両事項の関係(割合)に注目すると、「あまり満足していない」(32.6%) と「不満である」(3.6%) との関係と類似している。明白な満足派および不満派は割合が低く、市民の多くはほぼ満足派か穏やかな不満派であることがわかる。緩やかな不満派が段階を追って、満足派に移行していくことが望まれる。

福祉のまちづくりへの関心について、「やや関心がある」(52.5%) と「あまり関心がない」(26.4%) の不明確派が合わせて 8 割弱となった。前者の割合は後者の 2 倍であり、行政としては福祉のまちづくりを「やや関心がある」市民にターゲットを絞って PR してはどうだろうか。「とても関心がある」が 3 割に達すれば、市は「福祉のまちづくり」をもっと堂々と掲げることができるようになるはずだ。

24. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

安心して暮らすことができているかとの問いに対して、全体としては9割近くの市民が「そう思う」と回答した。ただその内訳は「そう思う」(21.4%)、「どちらかをいえばそう思う」(67.4%)となり、明確には安全だと断言できない市民の割合が最も高い結果となった。

自転車保険の加入状況について、「自動車保険や火災保険の特約(個人賠償保険)など複合型の保険に加入している」(29.2%)がほぼ3割となった。続いたのが「TSマーク付帯保険に加入している」(10.9%)であり、自転車に特化した単独の保険よりも、複合型保険への加入者が多いことがわかる。

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況について、着用派は僅か4.1%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」(22.5%)と2割以上が対応していない結果となった。「ヘルメットを保有しているが着用していない」(3.9%)も低い割合であり、保持・無着用の市民が着用派に転じたとして、8%止まりである。遠まわりになっても、まずは保持してもらうにはどうすればいいか知恵を出すべきだろう。その際には、自転車から降りた際などのヘルメットの保管の仕方についても、何か工夫した仕掛けをしたいところだ。

<MEMO>

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

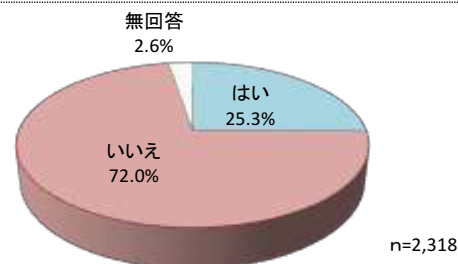
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

1. あなたのことについて

(1-1) 子育ての関わりについて

問 1-1-(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,318

	回答数	構成比
はい	587	25.3%
いいえ	1,670	72.0%
無回答	61	2.6%
計	2,318	100.0%

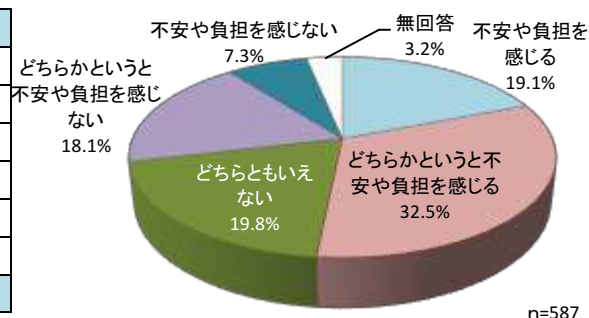


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「はい」は2割半ば、「いいえ」は7割強であった。

(1-2) 子育てに関しての不安感や負担感を感じるかについて

問 1-1-(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることがありますか。 n=587

	回答数	構成比
不安や負担を感じる	112	19.1%
どちらかという不安や負担を感じる	191	32.5%
どちらともいえない	116	19.8%
どちらかという不安や負担を感じない	106	18.1%
不安や負担を感じない	43	7.3%
無回答	19	3.2%
計	587	100.0%

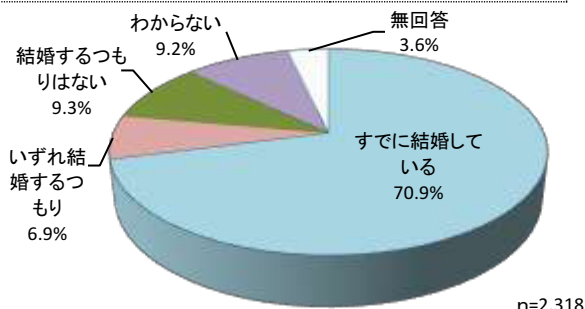


前問で「はい」と答えた人（587人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じることがあるか聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が32.5%で最も高く、「不安や負担を感じる」の19.1%を合わせると、不安や負担を感じている人は5割強であった。

(2) 結婚に対する考え方について

問 1-2 あなたの結婚に対するお考えを教えてください。 n=2,318

	回答数	構成比
すでに結婚している	1,644	70.9%
いずれ結婚するつもり	160	6.9%
結婚するつもりはない	216	9.3%
わからない	214	9.2%
無回答	84	3.6%
計	2,318	100.0%



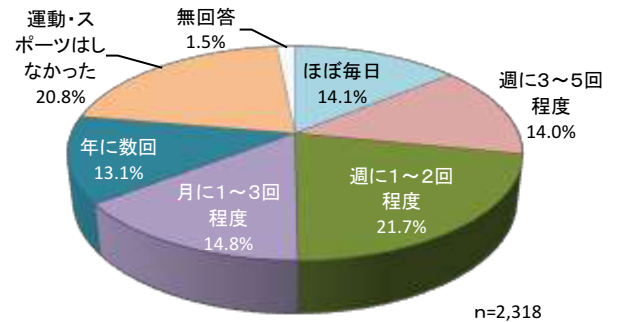
結婚に対する考えについて、「すでに結婚している」が70.9%で最も高く、「いずれ結婚するつもり」の6.9%を合わせると、結婚している・いずれ結婚するつもりという人は8割弱であった。一方、「結婚するつもりはない」は9.3%で約1割であった。

(3) 運動やスポーツの活動状況

問 1-3 あなたは、この1年間に運動やスポーツをどのくらい行いましたか。

n=2,318

	回答数	構成比
ほぼ毎日	327	14.1%
週に3～5回程度	324	14.0%
週に1～2回程度	504	21.7%
月に1～3回程度	342	14.8%
年に数回	304	13.1%
運動・スポーツはしなかった	482	20.8%
無回答	35	1.5%
計	2,318	100.0%



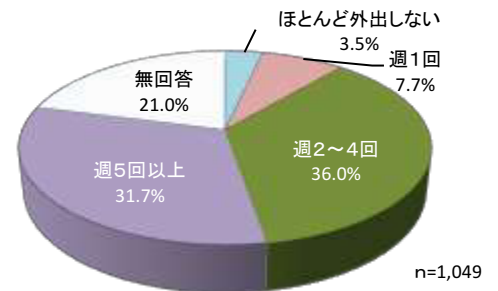
この1年間に運動やスポーツをどのくらい行ったかについては、「週に1～2回程度」が21.7%で最も高く、「ほぼ毎日」、「週に3～5回程度」とあわせると、運動やスポーツを週に1回以上している人は約5割で、運動やスポーツに対する意識は高い傾向にあると思われる。一方、「運動・スポーツはしなかった」は20.8%であった。

(4) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-4 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に1回以上外出していますか。

n=1,049

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	37	3.5%
週1回	81	7.7%
週2～4回	378	36.0%
週5回以上	333	31.7%
無回答	220	21.0%
計	1,049	100.0%



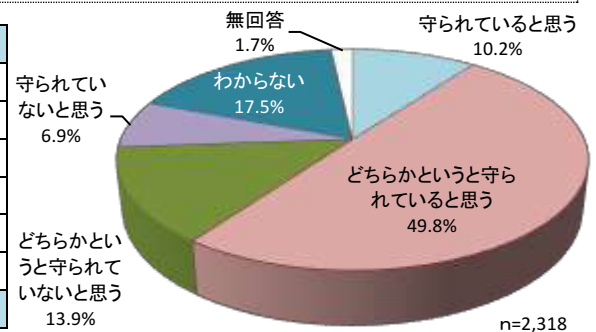
65歳以上の方に、週1回以上外出しているか聞いたところ、「週2～4回」が36.0%で最も高く、「週1回」、「週2～4回」、「週5回以上」を合わせると、週1回以上外出している人は7割半ばであった。一方、「ほとんど外出しない」は3.5%であった。

(5) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-5 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,318

	回答数	構成比
守られていると思う	236	10.2%
どちらかというを守られていると思う	1,154	49.8%
どちらかというと守られていないと思う	322	13.9%
守られていないと思う	161	6.9%
わからない	405	17.5%
無回答	40	1.7%
計	2,318	100.0%

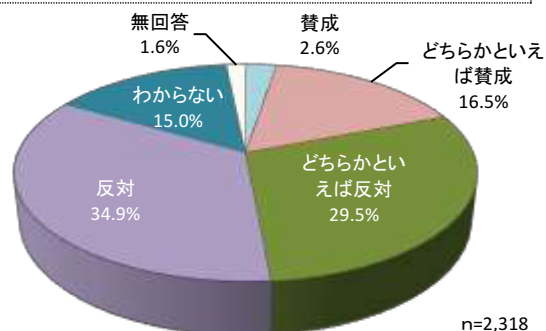


子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じるかについては、「どちらかというを守られていると思う」の49.8%と「守られていると思う」の10.2%を合わせると約6割であった。

(6-1) 男女共同参画に関する意識について

問 1-6- (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。 n=2,318

	回答数	構成比
賛成	60	2.6%
どちらかといえば賛成	382	16.5%
どちらかといえば反対	683	29.5%
反対	808	34.9%
わからない	348	15.0%
無回答	37	1.6%
計	2,318	100.0%

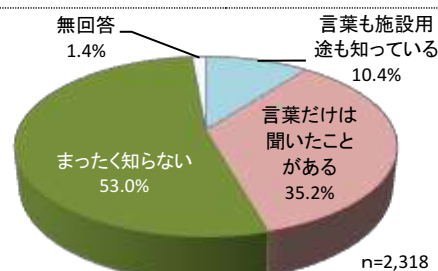


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」が 34.9%で最も高く、「どちらかといえば反対」の 29.5%と合わせると6割半ばであった。一方、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると約2割であった。

(6-2) 「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」の認知度について

問 1-6- (2) あなたは、「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っていますか。 n=2,318

	回答数	構成比
言葉も施設用途も知っている	240	10.4%
言葉だけは聞いたことがある	817	35.2%
まったく知らない	1,229	53.0%
無回答	32	1.4%
計	2,318	100.0%

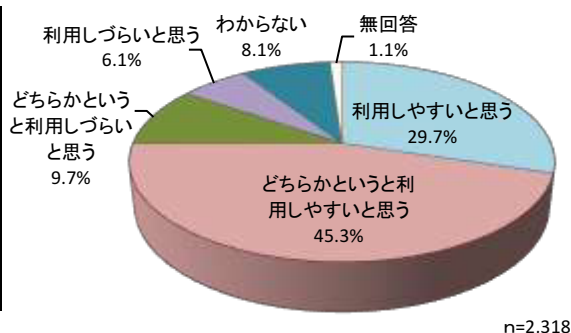


「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っているかについては、「まったく知らない」が 53.0%で知らない人は5割強であった。一方、「言葉だけは聞いたことがある」が 35.2%と2番目に高い結果で、「言葉も施設用途も知っている」は 10.4%であった。

(7) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-7 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。 n=2,318

	回答数	構成比
利用しやすいと思う	689	29.7%
どちらかという util しやすいと思う	1,049	45.3%
どちらかという util しやすいと思う	225	9.7%
利用しやすいと思う	142	6.1%
わからない	188	8.1%
無回答	25	1.1%
計	2,318	100.0%



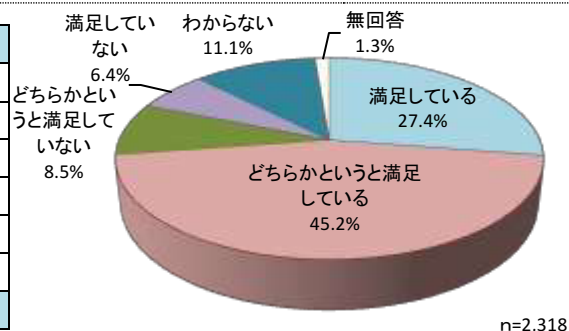
地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという util しやすいと思う」が 45.3%で最も高く、次いで「利用しやすいと思う」が 29.7%であった。これらを合わせた「利用しやすいと思う (計)」は7割半ばであった。一方、「利用しやすいと思う」と「どちらかという util しやすいと思う」を合わせると1割半ばであった。

(8-1) 上下水道サービスに満足しているかについて

問 1-8(1) あなたは、上下水道サービスに満足していますか。

n=2,318

	回答数	構成比
満足している	636	27.4%
どちらかという満足している	1,048	45.2%
どちらかという満足していない	197	8.5%
満足していない	149	6.4%
わからない	258	11.1%
無回答	30	1.3%
計	2,318	100.0%



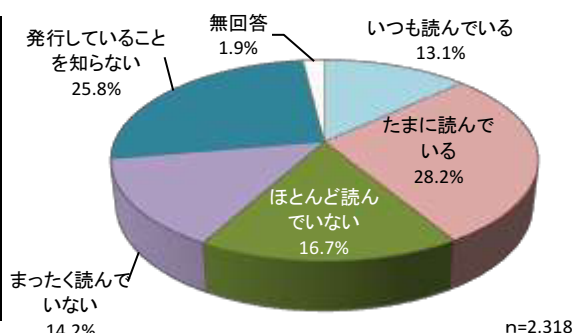
上下水道サービスに満足しているかについては、「どちらかという満足している」が45.2%で最も高く、次いで「満足している」が27.4%であった。これらを合わせた「満足している（計）」は7割強であった。一方、「満足していない」と「どちらかという満足していない」を合わせると1割半ばであった。

(8-2) 上下水道局発行の広報紙について

問 1-8(2) あなたは、上下水道局が年に4回（3，6，9，12月）発行している広報紙「私たちのくらしと水」を読んだことがありますか。

n=2,318

	回答数	構成比
いつも読んでいる	304	13.1%
たまに読んでいる	654	28.2%
ほとんど読んでいない	387	16.7%
まったく読んでいない	330	14.2%
発行していることを知らない	598	25.8%
無回答	45	1.9%
計	2,318	100.0%



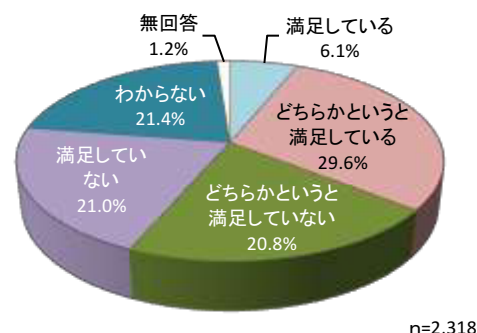
「私たちのくらしと水」を読んだことがあるかについては、「たまに読んでいる」が28.2%で最も高く、次いで「発行していることを知らない」が25.8%であった。

(9) 公共交通の充実にに向けた取組について

問 1-9 あなたは、本市の公共交通の充実にに向けた取組に満足していますか。

n=2,318

	回答数	構成比
満足している	142	6.1%
どちらかという満足している	685	29.6%
どちらかという満足していない	482	20.8%
満足していない	486	21.0%
わからない	496	21.4%
無回答	27	1.2%
計	2,318	100.0%



本市の公共交通の充実にに向けた取組に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が29.6%で最も高く、「満足している」の6.1%を合わせると、「満足している（計）」は3割半ばであった。一方、「どちらかという満足していない」と「満足していない」を合わせると4割強であった。

2. 現在の宇都宮市について

問2 宇都宮市がまちづくりとして実施している各種取組について、お聞きします。
あなたは、下記の取組の、「重要度」と「満足度」をどのように感じていますか。 (1つに○)

(1) 宇都宮市が実施している取組 (24 基本施策 85 施策) の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	75.9
	子ども・若者の健全育成環境の充実	81.4
	子どもを守り育てる支援の充実	83.2
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	58.7
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	80.8
	子育て支援の充実	77.6
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	70.4
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	81.7
	未来を生き抜く力の育成	78.8
	地域とともにある学校づくりの推進	68.0
	教育環境の充実	78.5
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	79.6
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	75.9
	幼児教育の推進	68.6
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	高校、高等教育の充実・支援	79.3
	生涯学習に関する分野	60.8
	自己を磨き社会を支える学習の推進	72.9
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	78.5
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	学んだ成果を生かした活動の推進	71.2
	スポーツ振興に関する分野	67.6
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	65.0
	スポーツ活動環境の充実	70.7
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	66.6

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	80.0
	健康づくりの推進	87.1
	地域医療体制の充実	88.3
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	73.1
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	80.0
	高齢者の生きがいづくりの推進	77.2
	地域包括ケアシステムの構築・推進	82.6
7. 障がいのある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	68.4
	障がい者の社会的自立の促進	78.2
	障がい者の地域生活支援の充実	76.4
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	67.1
	福祉のこころをはぐむ人づくりの推進	70.2
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	86.2
	共に支え合う地域社会づくりの推進	74.6

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	77.8
	危機に対する体制・都市基盤の強化	86.3
	総合的な治水・雨水対策の推進	89.8
	消防・救急体制の充実	88.8
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	74.2
	防犯対策の充実	88.4
	交通安全対策の充実	88.8
	消費生活の向上	84.7
	食品の安全性の向上	82.9
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	76.4
	市民主役のまちづくりに関する分野	61.0
	協働によるまちづくりの推進	67.2
	地域主体のまちづくりの促進	63.0
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の市政への参画促進	65.7
	市民の相互理解と共生に関する分野	53.6
	かけがえのない個人の尊重	72.2
	男女共同参画の推進	76.1
	多文化共生の推進	73.4

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	63.9
	都市ブランド戦略の推進	71.9
	移住・定住の促進	66.7
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	72.8
	観光地・大谷の地域活性化の推進	71.4
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	59.4
	戦略的観光の推進	72.9
	おもてなしの充実	77.6
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	59.2
	文化活動の充実	73.1
	文化の創造・継承, 保存・活用	72.6

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	66.8
	地域特性を活かした産業集積の促進	70.6
	新規開業・新事業創出の促進	68.1
	就労・雇用対策の充実	77.6
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	62.4
	魅力ある商業の振興	79.9
	安定した経営基盤の確立	74.3
	中小企業の経営・技術革新の促進	70.6
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	83.3
	農林業に関する分野	60.5
	農林業を支える担い手の確保・育成	72.6
	農林業経営を支える生産体制の強化	74.5
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	73.7
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	75.2
	環境にやさしい社会に関する分野	65.3
	環境保全行動の推進	88.1
	地球温暖化対策の推進	78.8
	ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進	88.9
	廃棄物の適正処理の推進	91.2
良好な生活環境の確保	84.8	
	生物多様性の保全	80.9

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	66.2
	地域特性に応じた土地利用の推進	73.4
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	66.7
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	75.7
	空き家・空き地対策の推進	81.9
	都市景観の保全・創出	65.3
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	65.6
	安心して快適な住まいづくりの促進	74.2
	水と緑の保全・創出	72.9
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	75.2
	公共交通ネットワークの充実	80.2
	道路ネットワークの充実	80.6
	自転車利用環境の充実	76.6
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	72.1
	安定した上下水道事業の推進	90.4
	顧客に信頼される経営の推進	77.5

■各施策の柱を支える行政経営基盤

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	59.5
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	69.6
	地区行政の推進	83.6
	行政の組織力の向上	79.8
	財政基盤の確立	81.1
	情報化の推進	77.9

(2) 宇都宮市が実施している取組 (24 基本施策 85 施策) の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	36.0
	子ども・若者の健全育成環境の充実	20.0
	子どもを守り育てる支援の充実	20.9
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	15.4
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	32.8
	子育て支援の充実	31.4
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	29.3
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	35.2
	未来を生き抜く力の育成	27.4
	地域とともにある学校づくりの推進	23.5
	教育環境の充実	33.2
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	19.2
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	20.0
	幼児教育の推進	23.2
	高校、高等教育の充実・支援	23.5
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	生涯学習に関する分野	18.0
	自己を磨き社会を支える学習の推進	34.3
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	26.7
	学んだ成果を生かした活動の推進	21.0
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	スポーツ振興に関する分野	28.3
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	26.1
	スポーツ活動環境の充実	33.5
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	22.8

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	42.2
	健康づくりの推進	58.0
	地域医療体制の充実	49.4
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	27.9
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	26.9
	高齢者の生きがいづくりの推進	28.8
	地域包括ケアシステムの構築・推進	30.3
7. 障がいのある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	16.4
	障がい者の社会的自立の促進	17.1
	障がい者の地域生活支援の充実	17.9
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	20.7
	福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	27.9
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	28.8
	共に支え合う地域社会づくりの推進	23.6

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	31.8
	危機に対する体制・都市基盤の強化	39.6
	総合的な治水・雨水対策の推進	38.7
	消防・救急体制の充実	49.6
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	43.0
	防犯対策の充実	41.6
	交通安全対策の充実	43.6
	消費生活の向上	40.1
	食品の安全性の向上	40.6
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	38.9
	市民主役のまちづくりに関する分野	25.8
	協働によるまちづくりの推進	32.8
	地域主体のまちづくりの促進	35.7
	市民の市政への参画促進	34.3
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の相互理解と共生に関する分野	21.4
	かけがえのない個人の尊重	27.3
	男女共同参画の推進	28.7
	多文化共生の推進	29.2

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	34.6
	都市ブランド戦略の推進	41.1
	移住・定住の促進	31.1
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	56.5
	観光地・大谷の地域活性化の推進	47.3
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	25.1
	戦略的観光の推進	30.6
	おもてなしの充実	28.8
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	25.6
	文化活動の充実	37.6
	文化の創造・継承, 保存・活用	34.6

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	20.9
	地域特性を活かした産業集積の促進	21.4
	新規開業・新事業創出の促進	17.8
	就労・雇用対策の充実	21.6
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	17.8
	魅力ある商業の振興	13.4
	安定した経営基盤の確立	12.1
	中小企業の経営・技術革新の促進	13.2
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	49.5
	農林業に関する分野	20.6
	農林業を支える担い手の確保・育成	14.2
	農林業経営を支える生産体制の強化	15.0
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	29.2
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	17.8
	環境にやさしい社会に関する分野	33.3
	環境保全行動の推進	53.5
	地球温暖化対策の推進	30.8
	ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進	50.2
	廃棄物の適正処理の推進	47.3
	良好な生活環境の確保	34.7
	生物多様性の保全	28.9

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	28.4
	地域特性に応じた土地利用の推進	25.8
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	26.3
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	34.4
	空き家・空き地対策の推進	19.6
	都市景観の保全・創出	36.7
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	35.2
	安心して快適な住まいづくりの促進	31.8
	水と緑の保全・創出	47.8
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	17.0
	公共交通ネットワークの充実	24.0
	道路ネットワークの充実	29.6
	自転車利用環境の充実	22.1
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	54.0
	安定した上下水道事業の推進	65.1
	顧客に信頼される経営の推進	39.8

■各施策の柱を支える行政経営基盤

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	20.2
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	26.6
	地区行政の推進	51.2
	行政の組織力の向上	30.1
	財政基盤の確立	23.9
	情報化の推進	41.0

3. 各施策についての重要度

(1) 宇都宮市が実施している取組 (24 基本施策 85 施策) の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	344	62.5	13.4	2.3	0.3	10.5	11.0
子ども・若者の健全育成環境の充実	344	59.9	21.5	2.9	0.0	13.4	2.3
子どもを守り育てる支援の充実	344	66.6	16.6	2.0	0.3	11.6	2.9
結婚の希望をかなえる支援の拡充	344	25.3	33.4	14.8	4.1	19.5	2.9
安心して妊娠・出産できる環境の充実	344	65.1	15.7	3.2	0.3	12.8	2.9
子育て支援の充実	344	60.8	16.8	1.6	1.3	13.4	6.1

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】(以下【重要(計)】とする)は「子どもを守り育てる支援の充実」が8割強と最も高く、次いで「子ども・若者の健全育成環境の充実」と「安心して妊娠・出産できる環境の充実」がいずれも約8割であった。

①-2 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
学校教育に関する分野	344	60.2	10.2	3.2	0.6	11.9	14.0
成長の基盤となる知・徳・体の育成	344	60.5	21.2	2.6	0.6	11.9	3.2
未来を生き抜く力の育成	344	56.4	22.4	4.1	1.7	11.6	3.8
地域とともにある学校づくりの推進	344	42.4	25.6	10.2	2.3	16.6	2.9
教育環境の充実	344	52.9	25.6	5.8	0.9	11.6	3.2
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	344	54.9	24.7	3.2	1.2	12.5	3.5
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	344	56.4	19.5	3.5	1.2	16.0	3.5
幼児教育の推進	344	41.9	26.7	9.0	2.3	16.9	3.2
高校、高等教育の充実・支援	344	52.6	26.7	4.4	0.3	12.8	3.2

確かな自信と志を育む学校教育を推進するについて、【重要(計)】は「成長の基盤となる知・徳・体の育成」が8割強と最も高く、次いで「未来を生き抜く力の育成」と「教育環境の充実」と「多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進」と「高校、高等教育の充実・支援」がいずれも約8割であった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	344	34.9	25.9	5.2	1.2	17.2	15.7
自己を磨き社会を支える学習の推進	344	36.3	36.6	8.4	1.7	13.7	3.2
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	344	49.7	28.8	3.8	2.0	12.8	2.9
学んだ成果を生かした活動の推進	344	34.6	36.6	7.0	1.5	16.9	3.5

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【重要(計)】は「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が約8割と最も高く、次いで「自己を磨き社会を支える学習の推進」が7割強であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	386	29.5	38.1	6.5	3.6	14.5	7.8
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	386	26.9	38.1	8.5	4.1	17.6	4.7
スポーツ活動環境の充実	386	33.4	37.3	7.5	2.6	14.8	4.4
スポーツを支える人材の育成，団体の活性化	386	34.5	32.1	6.7	3.6	18.7	4.4

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【重要(計)】は「スポーツ活動環境の充実」が約7割と最も高く、次いで「スポーツを支える人材の育成，団体の活性化」が7割弱であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	386	58.8	21.2	0.3	0.3	6.5	13.0
健康づくりの推進	386	65.3	21.8	1.0	0.3	7.3	4.4
地域医療体制の充実	386	76.4	11.9	0.5	0.3	4.9	6.0

健康づくりと地域医療を充実するについて、【重要(計)】は「健康づくりの推進」と「地域医療体制の充実」がいずれも9割弱であった。

②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	386	55.7	17.4	3.4	0.8	13.5	9.3
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	386	54.9	25.1	2.3	0.5	13.2	3.9
高齢者の生きがいくりの推進	386	48.4	28.8	4.1	1.6	13.7	3.4
地域包括ケアシステムの構築・推進	386	61.9	20.7	1.3	0.8	12.2	3.1

高齢期の生活を充実するについて、【重要(計)】は「地域包括ケアシステムの構築・推進」が8割強と最も高く、次いで「支え合いによる高齢者の日常生活の充実」が約8割であった。

②-7 障がいのある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	386	50.0	18.4	0.8	0.8	20.5	9.6
障がい者の社会的自立の促進	386	59.8	18.4	1.0	0.8	17.1	2.8
障がい者の地域生活支援の充実	386	58.8	17.6	1.3	0.5	18.1	3.6

障がいのある人の生活を充実するについて、【重要(計)】は「障がい者の社会的自立の促進」が8割弱と最も高く、次いで「障がい者の地域生活支援の充実」が7割半ばであった。

②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	386	48.7	18.4	1.8	0.5	19.2	11.4
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	386	42.2	28.0	7.5	1.0	17.6	3.6
安心して暮らせる福祉基盤の充実	386	63.7	22.5	1.0	0.0	9.6	3.1
共に支え合う地域社会づくりの推進	386	49.0	25.6	7.0	1.6	13.5	3.4

身近な地域の福祉力を高めるについて、【重要(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」が8割半ばで最も高く、次いで「共に支え合う地域社会づくりの推進」が7割半ばであった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	411	59.1	18.7	1.5	0.2	9.7	10.7
危機に対する体制・都市基盤の強化	411	62.5	23.8	1.7	0.5	8.0	3.4
総合的な治水・雨水対策の推進	411	74.2	15.6	0.2	0.5	6.3	3.2
消防・救急体制の充実	411	72.5	16.3	0.7	0.2	6.6	3.6

危機への備え・対応力を高めるについて、【重要(計)】は「総合的な治水・雨水対策の推進」と「消防・救急体制の充実」がいずれも約9割と最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」が8割半ばであった。

③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	411	55.2	19.0	2.4	0.5	8.5	14.4
防犯対策の充実	411	65.5	22.9	1.5	0.5	6.6	3.2
交通安全対策の充実	411	65.2	23.6	2.2	0.2	6.1	2.7
消費生活の向上	411	54.0	30.7	4.1	1.2	7.1	2.9
食品の安全性の向上	411	55.2	27.7	4.9	0.7	9.0	2.4
生活衛生環境の向上	411	43.3	33.1	9.0	1.5	10.2	2.9

日常生活の安心感を高めるについて、【重要(計)】は「交通安全対策の充実」が約9割と最も高く、次いで「防犯対策の充実」が9割弱であった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	411	31.1	29.9	6.6	1.5	16.1	14.8
協働によるまちづくりの推進	411	26.3	40.9	10.0	2.2	17.3	3.4
地域主体のまちづくりの促進	411	24.1	38.9	15.6	3.2	14.6	3.6
市民の市政への参画促進	411	25.8	39.9	11.9	1.5	17.3	3.6

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【重要(計)】は「協働によるまちづくりの推進」が7割弱で最も高く、次いで「市民の市政への参画促進」が6割半ばであった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	411	26.3	27.3	7.5	1.0	18.2	19.7
かけがえのない個人の尊重	411	42.3	29.9	9.7	2.2	12.7	3.2
男女共同参画の推進	411	47.9	28.2	7.1	1.5	11.7	3.6
多文化共生の推進	411	38.4	35.0	8.3	2.2	12.9	3.2

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【重要(計)】は「男女共同参画の推進」が7割半ばで最も高く、次いで「多文化共生の推進」が7割強であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	402	31.6	32.3	8.7	3.5	11.4	12.4
都市ブランド戦略の推進	402	35.1	36.8	10.4	4.5	9.2	4.0
移住・定住の促進	402	34.6	32.1	12.2	3.2	14.7	3.2
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	402	41.5	31.3	10.9	2.2	10.7	3.2
観光地・大谷の地域活性化の推進	402	34.3	37.1	12.7	3.2	10.2	2.5

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【重要(計)】は「都市ブランド戦略の推進」と「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」がいずれも7割強で最も高く、次いで「観光地・大谷の地域活性化の推進」が約7割であった。

④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	402	30.3	29.1	8.0	2.5	15.7	14.4
戦略的観光の推進	402	36.8	36.1	8.2	2.7	13.9	2.2
おもてなしの充実	402	43.0	34.6	4.5	2.0	13.7	2.2

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【重要(計)】は「おもてなしの充実」が8割弱で最も高く、次いで「戦略的観光の推進」が7割強であった。

④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
文化振興に関する分野	402	26.1	33.1	9.2	1.7	18.4	11.4
文化活動の充実	402	32.1	41.0	9.0	3.0	11.7	3.2
文化の創造・継承、保存・活用	402	35.3	37.3	9.5	3.2	11.4	3.2

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【重要(計)】は「文化活動の充実」と「文化の創造・継承、保存・活用」がいずれも7割強であった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業に関する分野	388	42.8	24.0	3.6	0.8	18.6	10.3
地域特性を活かした産業集積の促進	388	37.9	32.7	4.9	1.5	19.3	3.6
新規開業・新事業創出の促進	388	39.7	28.4	4.1	1.0	22.4	4.4
就労・雇用対策の充実	388	55.2	22.4	2.3	1.3	15.2	3.6

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【重要(計)】は「就労・雇用対策の充実」が8割弱で最も高く、次いで「地域特性を活かした産業集積の促進」が約7割であった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	388	39.2	23.2	2.6	1.3	18.6	15.2
魅力ある商業の振興	388	53.4	26.5	2.3	1.5	12.9	3.4
安定した経営基盤の確立	388	45.9	28.4	3.1	1.5	17.5	3.6
中小企業の経営・技術革新の促進	388	41.0	29.6	3.6	1.3	20.9	3.6
流通機能の充実	388	64.7	18.6	2.3	1.0	10.3	3.1

商工・サービス業の活力を高めるについて、【重要(計)】は「流通機能の充実」が8割強と最も高く、次いで「魅力ある商業の振興」が約8割であった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
農林業に関する分野	388	39.9	20.6	3.1	0.8	22.7	12.9
農林業を支える担い手の確保・育成	388	51.0	21.6	3.1	0.8	19.8	3.6
農林業経営を支える生産体制の強化	388	47.2	27.3	3.6	0.5	17.8	3.6
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	388	45.9	27.8	5.9	1.3	15.2	3.9
環境と調和した農林業の推進	388	47.9	27.3	2.6	0.8	17.3	4.1

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【重要(計)】は「農林業経営を支える生産体制の強化」と「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」と「環境と調和した農林業の推進」がいずれも7割半ばで最も高く、次いで「農林業を支える担い手の確保・育成」が7割強であった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	387	36.4	28.9	4.4	0.0	16.0	14.2
環境保全行動の推進	387	53.0	35.1	2.3	0.0	6.7	2.8
地球温暖化対策の推進	387	51.9	26.9	7.0	1.6	9.0	3.6
ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進	387	54.0	34.9	2.8	0.3	4.9	3.1
廃棄物の適正処理の推進	387	60.2	31.0	0.8	0.0	4.9	3.1
良好な生活環境の確保	387	56.6	28.2	2.6	0.0	10.3	2.3
生物多様性の保全	387	45.0	35.9	4.1	0.5	12.4	2.1

環境への負荷を低減するについて、【重要(計)】は「ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進」と「廃棄物の適正処理の推進」がいずれも約9割と最も高く、次いで「環境保全行動の推進」が9割弱であった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	387	35.7	30.5	4.7	0.5	11.9	16.8
地域特性に応じた土地利用の推進	387	36.7	36.7	6.5	1.0	15.8	3.4
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	387	27.9	38.8	9.0	1.6	18.1	4.7
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	387	41.1	34.6	5.2	0.3	14.2	4.7
空き家・空き地対策の推進	387	49.1	32.8	3.9	0.8	10.1	3.4
都市景観の保全・創出	387	27.1	38.2	14.2	2.6	14.0	3.9

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【重要(計)】は「空き家・空き地対策の推進」が8割強で最も高く、次いで「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」が7割半ばであった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	387	33.6	32.0	4.7	0.0	11.1	18.6
安心して快適な住まいづくりの促進	387	35.7	38.5	6.7	0.5	14.7	3.9
水と緑の保全・創出	387	33.1	39.8	12.1	1.6	9.8	3.6

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【重要(計)】は「安心して快適な住まいづくりの促進」が7割半ばで、「水と緑の保全・創出」が7割強であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
交通に関する分野	388	53.6	21.6	2.6	1.8	5.9	14.4
公共交通ネットワークの充実	388	54.9	25.3	6.7	4.4	5.4	3.4
道路ネットワークの充実	388	49.7	30.9	5.7	1.8	8.2	3.6
自転車利用環境の充実	388	44.1	32.5	8.5	3.4	8.2	3.4

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【重要(計)】は「公共交通ネットワークの充実」と「道路ネットワークの充実」がいずれも約8割と最も高く、次いで「自転車利用環境の充実」が8割弱であった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
上下水道に関する分野	387	54.8	17.3	1.8	0.5	7.8	17.8
安定した上下水道事業の推進	387	70.8	19.6	1.8	0.0	4.7	3.1
顧客に信頼される経営の推進	387	45.7	31.8	5.4	0.8	12.1	4.1

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【重要(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が約9割で、「顧客に信頼される経営の推進」が8割弱であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
行政経営に関する分野	402	40.8	18.7	2.7	2.0	22.1	13.7
効果的で効率的な行政経営システムの確立	402	40.5	29.1	2.7	2.2	20.9	4.5
地区行政の推進	402	54.5	29.1	1.7	0.7	10.7	3.2
行政の組織力の向上	402	51.2	28.6	3.2	1.0	12.2	3.7
財政基盤の確立	402	58.5	22.6	2.2	1.5	11.4	3.7
情報化の推進	402	49.8	28.1	5.5	1.5	12.2	3.0

強固な行政経営基盤を確立するについて、【重要(計)】は「地区行政の推進」が8割半ばで最も高く、次いで「行政の組織力の向上」と「財政基盤の確立」がいずれも約8割であった。

4. 各施策についての満足度

(1) 宇都宮市が実施している取組（24 基本施策 85 施策）の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	344	5.5	30.5	15.1	6.1	29.4	13.4
子ども・若者の健全育成環境の充実	344	2.6	17.4	17.4	7.3	50.9	4.4
子どもを守り育てる支援の充実	344	3.2	17.7	18.9	5.8	49.1	5.2
結婚の希望をかなえる支援の拡充	344	2.6	12.8	12.5	5.5	62.5	4.1
安心して妊娠・出産できる環境の充実	344	9.0	23.8	11.3	5.2	46.5	4.1
子育て支援の充実	344	6.1	25.3	14.2	3.8	46.2	4.4

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】(以下【満足(計)】とする)は「安心して妊娠・出産できる環境の充実」が3割強で最も高く、次いで「子育て支援の充実」が約3割であった。

①-2 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
学校教育に関する分野	344	5.8	23.5	12.8	6.1	34.6	17.2
成長の基盤となる知・徳・体の育成	344	9.6	25.6	11.9	3.8	45.1	4.1
未来を生き抜く力の育成	344	7.6	19.8	13.7	4.7	50.0	4.4
地域とともにある学校づくりの推進	344	7.8	15.7	13.7	4.7	53.2	4.9
教育環境の充実	344	10.8	22.4	10.2	4.9	48.3	3.5
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	344	5.2	14.0	11.9	4.4	60.5	4.1
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	344	5.8	14.2	11.6	7.6	56.1	4.7
幼児教育の推進	344	5.2	18.0	10.2	4.1	57.6	4.9
高校、高等教育の充実・支援	344	5.2	18.3	11.0	7.0	52.6	5.8

確かな自信と志を育む学校教育を推進するについて、【満足(計)】は「成長の基盤となる知・徳・体の育成」が3割半ばで最も高く、次いで「教育環境の充実」が3割強であった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	344	4.9	13.1	11.6	5.8	45.9	18.6
自己を磨き社会を支える学習の推進	344	8.4	25.9	12.2	2.3	46.2	4.9
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	344	6.4	20.3	12.8	4.4	51.5	4.7
学んだ成果を生かした活動の推進	344	4.4	16.6	12.2	4.1	58.4	4.4

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【満足(計)】は「自己を磨き社会を支える学習の推進」が3割半ばと最も高く、次いで「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が3割弱であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	386	6.0	22.3	18.1	9.1	34.5	10.1
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	386	4.9	21.2	16.8	9.1	42.5	5.4
スポーツ活動環境の充実	386	7.3	26.2	17.4	9.1	34.2	6.0
スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	386	5.2	17.6	18.1	7.3	46.4	5.4

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【満足(計)】は「スポーツ活動環境の充実」が3割半ばと最も高く、次いで「ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進」が2割半ばであった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	386	10.1	32.1	19.4	6.7	17.6	14.0
健康づくりの推進	386	17.6	40.4	15.5	4.4	16.3	5.7
地域医療体制の充実	386	15.5	33.9	20.7	8.8	14.2	6.7

健康づくりと地域医療を充実するについて、【満足(計)】は「健康づくりの推進」が6割弱で、「地域医療体制の充実」が約5割であった。

②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	386	4.1	23.8	15.0	8.0	38.3	10.6
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	386	4.9	22.0	18.4	7.0	43.3	4.4
高齢者の生きがいつくりの推進	386	5.2	23.6	15.5	6.2	44.8	4.7
地域包括ケアシステムの構築・推進	386	5.4	24.9	12.2	8.0	45.1	4.4

高齢期の生活を充実するについて、【満足(計)】は「高齢者の生きがいつくりの推進」と「地域包括ケアシステムの構築・推進」がいずれも約3割と最も高く、次いで「支え合いによる高齢者の日常生活の充実」が3割弱であった。

②-7 障がいのある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	386	3.4	13.0	11.4	7.0	53.1	12.2
障がい者の社会的自立の促進	386	3.6	13.5	15.0	6.5	56.5	4.9
障がい者の地域生活支援の充実	386	4.4	13.5	14.0	5.2	58.5	4.4

障がいのある人の生活を充実するについて、【満足(計)】は「障がい者の社会的自立の促進」と「障がい者の地域生活支援の充実」がいずれも2割弱であった。

②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	386	4.4	16.3	13.2	5.2	47.7	13.2
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	386	6.7	21.2	11.4	3.9	51.3	5.4
安心して暮らせる福祉基盤の充実	386	5.7	23.1	15.3	7.8	43.0	5.2
共に支え合う地域社会づくりの推進	386	6.0	17.6	14.0	7.0	50.8	4.7

身近な地域の福祉力を高めるについて、【満足(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」が約3割と最も高く、次いで「福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進」が3割弱であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	411	4.1	27.7	21.2	8.0	26.5	12.4
危機に対する体制・都市基盤の強化	411	5.1	34.5	19.7	6.8	28.0	5.8
総合的な治水・雨水対策の推進	411	5.6	33.1	20.4	9.0	28.2	3.6
消防・救急体制の充実	411	10.9	38.7	13.6	3.4	29.4	3.9

危機への備え・対応力を高めるについて、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」が約5割で最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」と「総合的な治水・雨水対策の推進」がいずれも約4割であった。

③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	411	6.3	36.7	16.1	4.6	19.0	17.3
防犯対策の充実	411	7.5	34.1	23.1	8.0	22.4	4.9
交通安全対策の充実	411	7.3	36.3	25.5	8.5	18.5	3.9
消費生活の向上	411	5.1	35.0	20.4	5.8	30.2	3.4
食品の安全性の向上	411	6.1	34.5	15.8	5.6	34.5	3.4
生活衛生環境の向上	411	9.0	29.9	16.3	7.3	33.8	3.6

日常生活の安心感を高めるについて、【満足(計)】は「交通安全対策の充実」が4割半ばで最も高く、次いで「防犯対策の充実」が4割強であった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	411	3.2	22.6	17.5	6.8	31.9	18.0
協働によるまちづくりの推進	411	4.6	28.2	17.3	3.4	42.3	4.1
地域主体のまちづくりの促進	411	4.6	31.1	17.3	7.1	36.0	3.9
市民の市政への参画促進	411	4.4	29.9	18.5	5.4	38.0	3.9

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【満足(計)】は「地域主体のまちづくりの促進」と「市民の市政への参画促進」がいずれも3割半ばで最も高く、次いで「協働によるまちづくりの推進」が3割強であった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	411	3.2	18.2	15.3	3.9	38.2	21.2
かけがえのない個人の尊重	411	5.4	21.9	20.4	8.8	38.4	5.1
男女共同参画の推進	411	4.9	23.8	18.2	10.9	37.7	4.4
多文化共生の推進	411	3.9	25.3	16.8	6.6	43.8	3.6

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【満足(計)】は「男女共同参画の推進」と「多文化共生の推進」がいずれも約3割で最も高く、次いで「かけがえのない個人の尊重」が3割弱であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	402	3.0	31.6	23.9	10.7	16.9	13.9
都市ブランド戦略の推進	402	6.0	35.1	25.1	10.0	19.7	4.2
移住・定住の促進	402	4.7	26.4	21.9	7.0	36.1	4.0
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	402	18.4	38.1	14.2	2.7	22.6	4.0
観光地・大谷の地域活性化の推進	402	11.2	36.1	17.9	5.5	25.6	3.7

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【満足(計)】は「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」が6割弱で最も高く、次いで「観光地・大谷の地域活性化の推進」が5割弱であった。

④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	402	3.2	21.9	22.9	9.5	26.9	15.7
戦略的観光の推進	402	5.5	25.1	27.4	6.5	31.8	3.7
おもてなしの充実	402	4.7	24.1	24.9	9.2	33.3	3.7

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【満足(計)】は「戦略的観光の推進」と「おもてなしの充実」がいずれも約3割であった。

④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
文化振興に関する分野	402	3.0	22.6	24.1	7.5	29.6	13.2
文化活動の充実	402	5.5	32.1	20.9	8.2	28.9	4.5
文化の創造・継承、保存・活用	402	6.0	28.6	21.4	7.2	32.6	4.2

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【満足(計)】は「文化活動の充実」が4割弱で、「文化の創造・継承、保存・活用」が3割半ばであった。

⑤政策の柱V：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業に関する分野	388	2.3	18.6	24.7	11.3	32.0	11.1
地域特性を活かした産業集積の促進	388	2.6	18.8	22.9	9.3	42.8	3.6
新規開業・新事業創出の促進	388	2.6	15.2	20.9	8.8	48.2	4.4
就労・雇用対策の充実	388	4.1	17.5	21.9	11.6	41.2	3.6

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【満足(計)】は「就労・雇用対策の充実」が2割強で最も高く、次いで「地域特性を活かした産業集積の促進」が約2割であった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	388	2.3	15.5	21.1	12.4	31.4	17.3
魅力ある商業の振興	388	2.6	10.8	26.5	28.1	28.9	3.1
安定した経営基盤の確立	388	2.3	9.8	25.3	10.6	48.7	3.4
中小企業の経営・技術革新の促進	388	2.1	11.1	21.9	10.3	50.8	3.9
流通機能の充実	388	11.9	37.6	18.6	5.9	23.2	2.8

商工・サービス業の活力を高めるについて、【満足(計)】は「流通機能の充実」が約5割で最も高く、次いで「魅力ある商業の振興」と「安定した経営基盤の確立」と「中小企業の経営・技術革新の促進」がいずれも1割強であった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
農林業に関する分野	388	2.6	18.0	17.8	6.4	42.0	13.1
農林業を支える担い手の確保・育成	388	2.1	12.1	17.0	11.3	53.6	3.9
農林業経営を支える生産体制の強化	388	2.6	12.4	16.8	10.1	54.1	4.1
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	388	3.9	25.3	19.8	7.0	39.7	4.4
環境と調和した農林業の推進	388	3.6	14.2	18.8	7.7	52.1	3.6

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【満足(計)】は「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」が約3割で最も高く、次いで「環境と調和した農林業の推進」が2割弱であった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	387	3.1	30.2	19.6	4.7	25.3	17.1
環境保全行動の推進	387	7.0	46.5	18.9	3.4	19.9	4.4
地球温暖化対策の推進	387	3.4	27.4	28.9	10.6	26.4	3.4
ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進	387	7.8	42.4	22.5	4.7	19.4	3.4
廃棄物の適正処理の推進	387	9.3	38.0	24.8	9.8	14.5	3.6
良好な生活環境の確保	387	5.2	29.5	18.1	4.7	38.8	3.9
生物多様性の保全	387	4.9	24.0	16.8	5.2	45.7	3.4

環境への負荷を低減するについて、【満足(計)】は「環境保全行動の推進」が5割半ばで最も高く、次いで「ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進」が約5割であった。

⑥政策の柱VI：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	387	3.6	24.8	23.8	9.8	20.2	17.8
地域特性に応じた土地利用の推進	387	3.6	22.2	20.9	10.6	38.2	4.4
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	387	2.3	24.0	21.2	10.6	36.7	5.2
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	387	4.9	29.5	23.3	9.8	27.4	5.2
空き家・空き地対策の推進	387	2.8	16.8	25.1	16.3	35.4	3.6
都市景観の保全・創出	387	4.1	32.6	15.8	8.8	34.1	4.7

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【満足(計)】は「都市景観の保全・創出」が4割弱で最も高く、次いで「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」が3割半ばであった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	387	5.2	30.0	15.0	7.8	22.5	19.6
安心で快適な住まいづくりの促進	387	4.4	27.4	15.8	5.7	42.1	4.7
水と緑の保全・創出	387	8.5	39.3	13.7	4.7	29.5	4.4

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【満足(計)】は「水と緑の保全・創出」が5割弱で、「安心で快適な住まいづくりの促進」が3割強であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
交通に関する分野	388	1.8	15.2	25.5	30.7	10.8	16.0
公共交通ネットワークの充実	388	3.9	20.1	27.8	32.7	11.9	3.6
道路ネットワークの充実	388	3.1	26.5	29.6	17.0	20.1	3.6
自転車利用環境の充実	388	4.1	18.0	29.6	23.2	21.6	3.4

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【満足(計)】は「道路ネットワークの充実」が約3割で最も高く、次いで「公共交通ネットワークの充実」が2割半ばであった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
上下水道に関する分野	387	18.9	35.1	11.4	4.1	12.4	18.1
安定した上下水道事業の推進	387	20.7	44.4	10.6	3.1	17.1	4.1
顧客に信頼される経営の推進	387	8.5	31.3	19.1	5.7	32.3	3.1

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【満足(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が6割半ばで、「顧客に信頼される経営の推進」が約4割であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
行政経営に関する分野	402	2.0	18.2	16.2	11.7	34.6	17.4
効果的で効率的な行政経営システムの確立	402	2.5	24.1	19.7	8.7	39.6	5.5
地区行政の推進	402	10.9	40.3	15.2	7.7	21.1	4.7
行政の組織力の向上	402	5.2	24.9	22.4	8.2	34.8	4.5
財政基盤の確立	402	3.5	20.4	25.6	12.9	33.3	4.2
情報化の推進	402	10.9	30.1	20.1	7.7	26.6	4.5

強固な行政経営基盤を確立するについて、【満足(計)】は「地区行政の推進」が約5割で最も高く、次いで「情報化の推進」が約4割であった。

市政に関する世論調査報告書

—第55回 令和4年度—

発行日／令和4年12月

発行／宇都宮市総合政策部広報広聴課

〒320-8540（宇都宮市役所専用番号）

宇都宮市旭1丁目1番5号

電話 028-632-2025